大 学 院 履 修 要 綱

２０１９年度

川村学園女子大学大学院

2019年度　大学院学事日程

	行　事	期　日・期　間
前期	学年開始	4月 1日(月)
	入学式	4月 1日(月)
	ガイダンス・成績発表	4月 3日(水)・4日(木)
	前期授業開始	4月 8日(月)
	「履修登録願」提出期間	4月 9日(火)・10日(水)
	◎ 学園創立記念日	4月12日(金)　＜前期金曜日の授業実施＞
	「履修登録確認票」配付・訂正期間	4月16日(火)・17日(水)
	「履修登録再確認票」配付期間	4月23日(火)・24日(水)
	◎ 授業実施	5月 6日(月)　振替休日＜前期月曜日の授業実施＞
	「修士論文題目」提出(修了年次生)	5月31日(金)
	○ 「修士論文」提出(前期修了生)	7月10日(水)
	◎ 授業実施	7月15日(月)　海の日＜前期月曜日の授業実施＞
	前期授業終了	7月26日(金)
	◆ 前期定期試験期間	7月29日(月)～ 8月 2日(金)
	夏期休業期間	8月 3日(土)～ 9月14日(土)
後期	前期成績発表	9月 3日(火)
	○ 前期修了・修了確定者発表	9月12日(木)
	後期授業開始	9月16日(月)
	◎ 授業実施	9月16日(月)　敬老の日＜後期月曜日の授業実施＞
	後期履修登録変更期間	9月17日(火)・18日(水)
	◎ 授業実施	9月23日(月)　秋分の日＜後期月曜日の授業実施＞
	「履修登録確認票」配付期間	9月24日(火)・25日(水)
	「修士論文題目変更届」提出(修了年次生)	9月30日(月)
	◎ 授業実施	10月14日(月)　体育の日＜後期月曜日の授業実施＞
	● 学園祭準備	10月18日(金)　＜休講＞
	学園祭	10月19日(土)・20日(日)
	● 学園祭振替休日	10月21日(月)　＜休講＞
	「修士論文概要」提出(修了年次生)	10月31日(木)
	「研究計画書」提出(1年次生)	10月31日(木)
	◎ 授業実施	11月 4日(月)　振替休日＜後期月曜日の授業実施＞
	年内授業終了	12月24日(火)
	冬期休業期間	12月25日(水)～ 1月 9日(木)
	授業再開	1月10日(金)
	「修士論文」提出期間(修了年次生)	1月15日(水)・16日(木)
	後期授業終了	1月20日(月)
	◆ 後期定期試験期間	1月22日(水)～28日(火)
	修了確定者発表・成績発表(修了年次生)	3月 5日(木)
	学位記授与式	3月20日(金)　春分の日
	学年終了	3月31日(火)

◎:祝日授業、◆:定期試験、●:休講、○:前期修了生

Ⅰ　川村学園の沿革と教育の理念

本学園は、創立者川村文子によって“人づくり”の根幹は母親教育であり、女子教育の振興によって、家庭を始めとした理想社会の実現が図られ、ひいては人類愛に結ばれた平和な世界の創造に寄与するものであるとの確固たる信念の具現を目的に、大正１３年「川村女学院」として創立された。

本学園は「感謝の心」を基盤とした「自覚ある女性」の育成による「社会への奉仕」を教育の理念として、幼稚園から大学までの一貫教育による徳育・知育・体育の調和のとれたゆとりある教育を施し、豊かな教養・人間性・品性を備えた卒業生を多く世に送り、社会の要請に応えるとともに建学の精神の顕現に邁進している。

Ⅱ　研究科及び課程等について

１．研究科及び課程

川村学園女子大学大学院に人文科学研究科（修士課程、博士前期課程及び博士後期課程）を設け、研究科に心理学専攻、教育学専攻及び比較文化専攻を置く。

博士前期課程を修士課程として取り扱う。

２．研究科の目的

川村学園創立の精神に則り、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、精深な学識と研究能力を養うことによって、広く文化の向上進展に寄与することを目的とする。

その要請に応えるべく幅広い視野と総合的な判断力・問題解決能力を備えた高度専門職業人の養成と社会人の再教育を行うプログラムが設定されている。

３．学位の種類

(1)修士課程

研究科	専　攻	学位の種類
人 文 科 学	心　理　学	修士（心理学）
	教　育　学	修士（教育学）
	比 較 文 化	修士（文　学）

(2)博士後期課程

研究科	専　攻	学位の種類
人 文 科 学	比 較 文 化	博士（文　学）

４．修了要件

(1)修士課程

①修了の要件は、修士課程に２年以上在学し、所定の学科目について３０単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。

②研究科において適当と認めたときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって前項の修士論文の審査に代えることができる。

③特に優れた研究業績を上げた者の在学期間は、前項①にかかわりなく修士課程に１年以上在学すれば足りるものとする。

(2)博士後期課程

①修了の要件は、博士後期課程に３年以上在学し、所定の学科目について１４単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。

②特に優れた研究業績を上げた者の在学期間は、前項①にかかわりなく博士後期課程に１年以上在学すれば足りるものとする。

５．履修方法

(1)修士課程

①指導教員及び科目の決定

・自己の研究科目、研究テーマの選定に合わせて、修士論文作成等の指導を受ける指導教員（専任）を決めなければならない。

・履修科目は、専攻の開講科目の中から３０単位以上を登録し、履修しなければならない。

・科目の選択にあたっては、指導教員の指導・助言を受け、研究テーマに関連の深い全科目にわたって履修すること。

②履修科目の登録（履修登録願）

・一度単位を修得した科目は、再度履修することは出来ない。

・履修登録願は、所定の期日までに指導教員の承認を得て、修学支援室に提出すること。
なお、提出後の変更は原則として認めない。

・４月下旬の所定の期間に、修学支援室で「履修登録確認票」を配布するので、必ず受け取り、各自の「履修登録願（本人控）」と内容を確認すること。

(2)博士後期課程

①指導教員及び科目の決定

・自己の研究科目、研究テーマの選定に合わせて、博士論文作成等の指導を受ける指導教員（専任）を決めなければならない。

・履修科目は、専攻の開講科目の中から１４単位以上を登録し、履修しなければならない。

・科目の選択にあたっては、指導教員の指導・助言を受け、研究テーマに関連の深い全科目にわたって履修すること。

②履修科目の登録（履修登録願）

・一度単位を修得した科目は、再度履修することは出来ない。

・履修登録願は、所定の期日までに指導教員の承認を得て、修学支援室に提出すること。
なお、提出後の変更は原則として認めない。

・４月下旬の所定の期間に、修学支援室で「履修登録確認票」を配布するので、必ず受け取り、各自の「履修登録願（本人控）」と内容を確認すること。

Ⅲ　学位論文について

１．修士論文について

(1)2019年度　修士論文審査等に関する日程

	区　分	期　日	備　考
1	論文題目届の提出締切	5月31日(金)	修了年次生は、「修士論文題目届」を作成し、修学支援室に提出する。
2	論文題目変更届の提出締切	9月30日(月)	修了年次生が論文題目を変更するときは、「修士論文題目変更届」を作成し、修学支援室に提出する。
3	研究計画書の提出締切	10月31日(木)	１年次生は「研究計画書」を作成し、修学支援室に提出する。
4	論文概要の提出締切	10月31日(木)	修了年次生は、「論文概要の提出について」を添えて「論文概要」２通（１通は写しでも可）を修学支援室に提出する。
5	論文の提出	1月15日(水)・16日(木)	修了年次生は「修士論文審査申請書」を添えて論文１篇、３通（正本１通、副本２通）を修学支援室に提出する。
6	論文発表会の開催	各専攻で定める	審査委員会は、論文発表会を開催する場合は、開催する場所、日時等をあらかじめ関係教員及び学生に周知させ、修学支援室に連絡する。
7	最終試験の実施	各専攻で定める	最終試験実施の場所及び時間等は各専攻で定める。 専攻長は、試験実施に必要な事項を、あらかじめ学生に周知させ、修学支援室に連絡する。
8	課程修了者の氏名発表	3月5日(木)	所定の場所に修了者を掲示する。
9	学位の授与 （学位記授与式）	3月20日(金)	

(2) 修士論文の作成について

修士論文は自己の研究テーマに沿って指導教員の指導を受け２年次で提出しなければならない。
ただし、研究科委員会が認めた場合は１年次で提出することができる。

①論文題目提出について

論文題目は５月末日までに、指導教員の承認を得て提出しなければならない。
提出された論文題目を変更するときは、指導教員と充分に相談したうえ、承認を得て「修士論文題目変更届」を提出すること。

②論文作成について

論文の作成にあたっては、指導教員の指導を受けること。
３部作成し，その内１部は必ず正本とする。
論文枚数・書式・サイズ等は、次のとおりとする。
ただし、論文用用紙・表紙（表紙用厚紙・表紙用シール等）は、指導教員の指導を受けること。

(3) 論文枚数等（枚数は４００字詰原稿用紙の場合）

専攻	枚数	書式	用紙サイズ	備考
心　理　学	５０枚以上	横書	Ａ４	
教　育　学	５０枚以上	横書	Ａ４	
比　較　文　化	５０枚以上	横書／縦書	Ａ４	

修 士 論 文 題 目 届

年　　月　　日

人文科学研究科長 殿

専攻	学生番号							
氏　　名	印							

研 究 題 目

研 究 目 的

研究計画と方法

指導教員名

専 攻 長 印		指導教員印	

修 士 論 文 題 目 変 更 届

年　　月　　日

人文科学研究科長 殿

専攻	学生番号							
氏　　名	印							

下記の理由により、修士論文題目の変更を許可願いたくお届け致します。

記

変 更 理 由

変更後の題目

指導教員名

専攻長印		指導教員印	

研 究 計 画 書

提 出 日	年　　月　　日							専　攻	
学生番号								氏　名	印

修学支援室受付	指導教員印

＜表紙の記入方法＞

○○○○年度　修士論文

論　　題

副　　題

川村学園女子大学大学院　人文科学研究科　○○専攻

学生番号　　氏名

指導教員名

※題目（副題）及び○印の欄をすべて記入してください。

論文概要の提出について

このたび、修士論文審査及び最終試験取扱内規第２条に基づき下記のとおり論文概要を提出いたします。

記

論文題目	
提出書類	論文概要　　２通

年　　月　　日

人文科学研究科長　　殿

専攻

学生番号

氏　　名　　印

指導教員印	
専攻長印	

論 文 概 要

提 出 日	年　　月　　日							専　攻	
学生番号								氏　名	

修学支援室受付	指導教員印

修士論文審査申請書

年　　月　　日

人文科学研究科長　殿

申請者
　　年度入学　　専攻
　学生番号
　氏　　名　　印

このたび、修士論文の審査を受けたく、下記のとおり論文を提出いたしますので、審査くださるよう申請いたします。

記

論文題目	
提出書類	修士論文　１篇　３通

指導教員氏名	印
専攻長氏名	印

２．博士論文について

博士論文審査等に関する日程

	区　分	期　日	備　考
1	研究主題届の提出締切	5月末	１年次生は、「研究主題届」３通を作成し、指導教員及び修学支援室へ各１通提出し、１通は学生が所持する。
2	研究主題変更届の提出締切	9月末	３年次生の９月末日までに所定の手続きをとらなければならない。 修学支援室は、提出された「研究主題変更届」をまとめ、研究科長に報告する。
3	論文の提出締切	1月中旬	「学位申請書」に学位論文・論文要旨・論文目録・履歴書を添えて修学支援室に提出する。課程を経ない者にあっては他に論文審査手数料を要する。
4	論文審査委員会の設置及び論文審査の開始	1月中旬	研究科委員会は審査委員会を設け、審査を開始する。 なお、審査の期間は課程修了予定者にあっては、学年度末までとし、課程を経ない者にあっては論文を受理した日から１年以内とする。 専攻長は、審査委員の氏名（博士論文審査委員名簿）を修学支援室へ報告する。
5	論文発表会の開催	1月下旬	審査委員会は、論文発表会を開催する場合は、開催場所・日時等をあらかじめ関係教員及び学生に周知させる。
6	最終試験の実施		審査委員会は、試験実施に必要な事項をあらかじめ学生に周知させる。
7	課程修了者の発表	3月上旬	所定の場所に修了者を掲示する。
8	学位の授与 （学位記授与式）	春分の日	
9	学位論文の要旨等の公表		学位を授与したときは、授与した日から３か月以内に論文内容の要旨及び審査結果の要旨を公表する。
10	学位論文の公表	3月	学位を授与された者は、授与された日から１年以内にその論文を印刷公表する。
11	学位授与の文部科学大臣への報告	6月	学長は、当該学位を授与された日から３か月以内に文部科学大臣に報告する。

研 究 主 題 届

年　　月　　日

人文科学研究科長 殿

専攻	学生番号							
氏　　名	印							

研 究 題 目

研 究 目 的

研究計画と方法

指導教員名

専 攻 長 印		指導教員印	

研 究 主 題 変 更 届

年　　月　　日

人文科学研究科長 殿

専攻	学生番号							
氏　　名	印							

下記の理由により、博士論文題目の変更を許可願いたくお届け致します。

記

変 更 理 由

変更後の題目

指導教員名

専攻長印		指導教員印	

＜表紙の記入方法＞

○○○○年度　博士論文

論　　題

副　題

川村学園女子大学大学院　人文科学研究科　○○専攻

学生番号　　氏名

指導教員名

学　位　申　請　書

年　　月　　日

川村学園女子大学長　殿

川村学園女子大学大学院
人文科学研究科　　専攻
　　年度入学
学生番号
氏　　名　　印

川村学園女子大学学位規程第〇条第〇項の規程により博士の学位論文に下記の書類を添えて提出しますので御審査くださるようお願いいたします。

記

１．論　文　要　旨　　３部

２．履　　歴　　書　　３部

３．論　文　目　録　　３部

研究科長印	専 攻 長 印	指導教員印

論　文　目　録

川村学園女子大学大学院

人文科学研究科 専攻	年度入学	学 生 番 号	氏　名　　印

学 位 論 文

１．題　　目

２．印刷公表の方法及び時期

３．冊　　数

参 考 論 文

履　　歴　　書

川村学園女子大学大学院

ふりがな 氏　名		生年 月日	年　　月　　日　満　　歳
本　籍		国籍	

学　　歴（高等学校卒業以後）
年　　月　　日 年　　月　　日 年　　月　　日 年　　月　　日
研　　究　　歴
年　　月　　日 年　　月　　日 年　　月　　日 年　　月　　日
職　　歴
年　　月　　日 年　　月　　日 年　　月　　日

上記のとおり相違ありません。

年　　月　　日

氏　　名　　印

学位論文の内容の要旨

学 位 申 請 者	
論　文　題　目	
審　査　委　員	

Ⅳ　試験及び成績評価について

１．試　験

学期末に試験（筆記試験、単位レポート、口頭試問等）を行うことがある。
試験時間割および方法は、７月上旬または１月上旬に掲示によって発表する。

２．成績評価・単位認定

本学における学力評価は担当教員の授業方針ならびに評価方針により、試験・レポート・授業中などにおける学生の学力表示の実績に基づき、次の基準で行われる。
合格した科目については、所定の単位を認定する。
ただし、学則第23条第2項に規定する授業科目については、適切な方法により学修の成果を評価して単位を与える。

（合格）
ＡＡ……特に優れた学力を示したもの　（100～90点）
Ａ……優れた学力を示したもの　（ 89～80点）
Ｂ……妥当と認められる学力を示したもの　（ 79～70点）
Ｃ……合格と認められるための最低限度の学力を示したもの（ 69～60点）
（不合格）
Ｄ……合格と認められるに足る学力を示さなかったもの　（ 59～ 0点）

※Ｎ（無評価）
授業料未納・出席日数不足・試験欠席・レポート未提出・履修辞退・休学等により、教員が評価を行い得ないもの。

３．成績表

⑴　「成績表」は、４月上旬（修了年次生は３月上旬）に配布する。前期科目は９月中旬に配布する。

⑵　「成績表」の配布を受ける際は、「学生証」を提示すること。

⑶　「成績表」の記載内容について質問がある場合は、配布日から３日以内に修学支援室に申し出ること。
評価については、直接担当教員に問い合わせること。

Ⅴ　学生番号・学生氏名について

１．学生番号

学生番号は７桁で構成され、その内訳は次のとおりである。学内での事務処理は、ほとんどこの学生番号で処理されるので、学生証携帯と併せて正確に覚えておくこと。

学生番号の見方

（例）人文科学研究科・心理学専攻・２０１９年度入学・１番

5	0	1	9	0	0	1
研究科 専攻		入学年度		連番		

研究科・専攻のコード

研究科	専　攻	課　程	コード
人文科学	心　理　学	修　　士	５０
	教　育　学	修　　士	５３
	比 較 文 化	修　　士	５２
	比 較 文 化	博 士 後 期	５５

２．学生氏名

学生氏名は、住民票または外国人登録済証明書に記載されたとおりとする。

外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。

通称名使用の許可を得た者は、本大学院在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学院発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。

Ⅵ　学籍異動について

１．休　学

(1) 休学の手続き

疾病その他やむを得ない理由により、２ヵ月以上修学することができない者は、「休学願」を修学支援室に保証人連署で提出しなければならない。疾病による休学の場合は、医師の診断書を添付すること。

(2) 休学の期間

休学の期間は１年以内とする。ただし、特別な理由がある場合は、１年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

休学期間は、通算２年を超えることができない。

休学は、在学年限に算入しない。

(3) 休学する場合の学費

休学期間中は、在籍料として授業料の半額を納付しなければならない。

学期の途中から休学を希望する場合は、在籍料は半額となりません。

２．復　学

休学中の者が復学をしようとするときは、「復学願」を修学支援室に保証人連署で提出しなければならない。

疾病による休学の場合は、医師の診断書を添付すること。

３．留　学

(1) 留学の手続き

外国の大学院で学修することを志願する者は、「留学願」を修学支援室に保証人連署で提出しなければならない。

(2) 修得単位

学生が留学先で履修した授業科目の修得単位は、研究科委員会の認定により、修了に必要な単位に算入することができる。

(3) 留学期間

留学期間は、在学年限に算入する。

４．退　学

(1) 退学を希望する者は、「退学願」を修学支援室に保証人連署で提出しなければならない。

(2) 「退学願」提出時に、学生証及び貸与品等を返還すること。

(3) 退学年月日については、原則として研究科委員会決議日とする。

５．除　籍

次の事項に該当する者は、これを除籍する。

(1) 授業料の納付を怠り、督促を受けてもなお納付しない者

(2) 学則第11条に定める在学年限を超えた者

(3) 学則第37条第2項に定める休学期間を超えてなお修学できない者

学籍異動の手続き前に、必ず指導教員の指導を受けること。

Ⅶ　事務取り扱い等について

１．授業時間

授業時間は、１時限を９０分として、１日５時限を次のように区分する。

１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
８：５０ ～ １０：２０	１０：３０ ～ １２：００	１２：５０ ～ １４：２０	１４：３０ ～ １６：００	１６：１０ ～ １７：４０

２．掲　示

学生への公示、連絡、呼び出し等は全て掲示をもって行う。登・下校の際には、必ず学内の掲示板を見る習慣をつけ、見落としのないようにすること。なお、掲示物は原則として１週間掲示するが、いったん掲示した内容については、周知徹底されたものとして取り扱うので十分に注意すること。

３．休　講

科目担当教員が、病気その他やむを得ない理由で授業を休講とする場合がある。休講の連絡は、事前に掲示板に掲示する。休講の掲示がなく、授業開始時間より30分を経過しても教員が教室に出講しない場合は、修学支援室に連絡して指示を受けること。

ＪＲ常磐線・ＪＲ成田線が非常事態によって不通になり、通学に支障を来した場合の休講措置は、次のとおりとする。

	Ａ．台風で千葉県北西部に気象警報（暴風・大雨・暴風雨のいずれか）が発令されJR常磐線･JR成田線が運行されない時	Ｂ．JR常磐線が台風以外の非常事態で運行されない時
平　常　授　業	午前５時の時点で電車が運行している場合	午前５時の時点で電車が運行している場合
３時限より授業	午前７時の時点で電車が運行している場合	午前７時の時点で電車が運行している場合
終　日　休　講	午前７時の時点で電車が運行していない場合	午前７時の時点で電車が運行していない場合

※Ａ　・ＪＲ常磐線・ＪＲ成田線の運行状況は、ＮＨＫニュースをもとに判断すること。
・ＪＲ常磐線は「北千住－土浦」、ＪＲ成田線は「我孫子－成田」の区間を判断の対象とする。
・居住地域に上記Ａの警報が発令され、利用する交通機関が運行を中止し出席できなかった場合は、修学支援室備え付けの所定用紙に記入し、各科目担当教員へ提出すること。

※Ｂ　・上記Ｂは、ＪＲ常磐線「北千住－天王台」の区間と「天王台－土浦」の区間がともに運行を中止した場合を判断の対象とする。
・ＪＲ常磐線の運転が開始された場合は、大手・中小私鉄や都市交通が運行を中止していても平常通り授業を行う。なお、ＪＲ常磐線以外の交通機関が運行を中止し出席できなかった場合は、修学支援室備え付けの所定用紙に記入し、各科目担当教員へ提出すること。

非常事態とは、暴風・大雨・暴風雨などの気象警報が発令され、電車が運行されない場合で、電車の事故・故障などにより、一時的に運行されない場合は除きます。
非常事態の際の休講連絡等は、大学ＨＰから見られるようなっているので、確認すること。

４．問い合わせ

事務室への電話による問い合わせ（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務にも支障が生じるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校の上、掲示板を見るか、窓口で問い合わせること。

Ⅷ　証明書について

各種証明書の取扱について

証明書の発行を希望する者は、学生証を持参し学生本人が、手数料分の証紙を貼付のうえ、取り扱い窓口に申し込むこと。

取扱窓口	証明書の種類	料金	交付日
修学支援室	在学証明書	４００円	原則として申込日の翌日
	成績証明書	４００円	
	修了見込証明書	４００円	
	修了証明書	４００円	
	単位修得証明書	４００円	
	教員免許状取得見込証明書	４００円	
	退学証明書	４００円	
	英文証明書	８００円	約２週間後
学生生活支援	健康診断証明書	４００円	原則として申込日の翌日
	学生証再交付	３，０００円	約４週間後
就職支援	各種推薦書（就職用に限る）		随時

※証明書等は、必ず本人が受領すること。
交付日が休日と重なった場合は、その翌日とする。
長期休業中の取り扱いについては、別途掲示連絡する。
交付日より１ヵ月を過ぎても受け取りに来ない場合は、その証明書を処分する。

Ⅸ　教職課程について

１．取得できる免許状の種類と教科

研究科	専 攻	免許状の種類と教科
人文科学	心　理　学	高等学校教諭専修免許状（公民）
	教　育　学	小学校教諭専修免許状
	比　較　文　化	中学校教諭専修免許状（英語）
		高等学校教諭専修免許状（英語）
		中学校教諭専修免許状（社会）
		高等学校教諭専修免許状（地理歴史）

※専修免許状取得を希望する者は、一種免許状取得済みであることが望ましい。
一種免許状を取得済みのものは、専修免許状取得に必要な科目を履修し、修士課程を修了し、免許状取得の申請手続きを行えば、専修免許状を取得できる。
ただし、その場合、取得済みの一種免許状と、取得を希望する専修免許状の教科および学校種が同一であることが条件となる。
修了時に専修免許状の取得を希望する者は、入学時に既取得免許状の写し（両面）を持参のうえ、修学支援室に申し出ること。

２．基礎資格と最低修得単位数

２０１９年度入学者

所要資格／免許状	基礎資格	大学が独自に設定する科目（大学院で修得すること）
小学校･中学校･高等学校教諭専修免許状	修士の学位を有すること	２４

２０１８年度入学者

所要資格／免許状	基礎資格	教科又は教職に関する科目（大学院で修得すること）
小学校･中学校･高等学校教諭専修免許状	修士の学位を有すること	２４

※上記単位を修得見込みの修了年次生のみ、修学支援室で教員免許状一括申請の受け付けをするが、詳細については掲示で指示する。
一括申請の手続きに間に合わない場合は、修了後個人で居住地の各都道府県教育委員会に申請しなければならない。この場合は、免許状の交付まで１～２カ月かかる。

３．教員免許状一括申請の手続・免許状の交付について（修了年次生）

前記の表に定められた所要資格を有する見込みの修了年次生は、教員免許状授与願を本学を通して千葉県教育委員会に提出することができる。免許状は、学位記授与式当日に交付される。
教員免許状一括申請説明会等の日程は次のとおりであるが、詳細はあらためて掲示する。
(1)教員免許状一括申請書類の配付とその説明（修了年次の１０月・１２月・２月）
(2)申請者の基礎資格および修得単位の審査（同２月）

４．教員免許状取得後について

教員免許状の授与権者は、各都道府県の教育委員会であり、免許状取得後における教員免許状授与証明書の作成・発行、免許状の書き換え、再交付等はすべて授与権者に対し、各人が行うことになる。

（千葉県の場合は、千葉県教育庁 教育振興部 教職員課 免許班
〒260-8662
千葉市中央区市場町1番1号　千葉県庁中庁舎8階
Tel 043-223-4046　　Fax 043-201-1766）

X　専攻の概要・開講科目について

人文科学研究科　心理学専攻

◎ディプロマ・ポリシー

【学位授与方針】
人文科学研究科心理学専攻では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与する。
人文科学研究科心理学専攻における体系的学習を通じて、心理学についての高度でかつ広範な専門的知識・技能を修得して、それらを現代社会の多様な問題の解決に応用し得る実践的スキルと論理的思考力・創造的思考力を身につけていること。
専門職・研究者として社会において求められる態度・責任感・倫理観を持ち、豊かな感性を持って、主体的かつ協同的に社会に奉仕する志を養っていること。

【学生が身に付けるべき資質・能力】
１．専門的知識　分析・表現・応用力
心理学全般に関する高度な知識や方法論、実践論等に精通し、専門領域において求められる分析力、表現力、応用力を充分に修得していること。

２．専門職・研究者としての態度（主体性　協同　社会規範）
時代に求められる、自覚ある専門職・研究者として、その責務を充分に理解し、適切な倫理観と豊かな感性とともに、常に科学的視座をもち、主体的かつ協同して社会諸課題解決に向け貢献する志を修得していること。

３．心理臨床専門職としての能力修得
心理臨床の場における多様な状況において、充分に対応できる実践力や、治療的理論、技法等に習熟し、かつ、人間に対する、深い洞察力、共感性を修得していること（臨床心理学領域）。

４．心理行動科学研究実践のための能力修得
専門的領域における最新の知識、研究等に精通し、更に、自らそれを分析、深化する能力を有し、各研究領域において、応用、探究できる能力を修得していること（心理行動科学領域）。

【学位授与の要件】
心理学専攻の教育目標を理解し、必修科目を含む設置された講義・演習・実習科目から３０単位を履修し、専門的知識、実践的スキル、専門職・研究者としての態度・能力を修得していること。

◎カリキュラム・ポリシー

【教育課程編成】

臨床心理学領域：

１．臨床心理学の基礎を必修とし、実習・スーパーヴィジョンにより心理臨床領域の実践力が身につくようカリキュラムを編成する。

２．臨床心理学の基礎と実習のみならず、認知、社会、発達など幅広い科目を設置し、心理学全般の高度な知識、理解力を養成する科目を設置する。

３．多様な現場に対応した即戦力・応用力を身につけられるよう、各種の治療的理論や技法、心理療法を修得するための科目を配置する。

心理行動科学領域：

１．最新の研究成果を示し、心理学の専門職に求められる高度な知識や分析力を修得できるようカリキュラムを編成する。

２．認知心理学分野と社会心理学分野を中心に、人間の知的機能や対人関係のメカニズムを深く探究し、主体的に研究を行い得る能力を養成する科目を配置する。

【学修方法・学修過程】

１．講義科目

臨床心理学領域では問題解決型学習、役割体験学習、課題学習を行う。心理行動科学領域では問題解決型学習、課題学習を行う。教員と院生だけでなく院生同士の討論を行うことによって、学習目的達成および学習内容の理解を深める。

２．演習科目

課題に取り組むために、文献講読・調査を主に行う。講読・調査内容はレジメを作成するだけでなく内容についてのプレゼンテーションを行う。院生間、院生と教員間で討論を行い、レポート作成によって課題の理解を深める。

３．実習科目

臨床心理学領域においては、学内の臨床心理相談センターおよび学外の医療・教育・福祉・司法・産業等の多領域にわたる実習協力機関で、実習を行う。事前指導における倫理的な教育はしっかり行う。実習に関するスーパーヴィジョンおよびケース・カンファレンスを通じた丁寧な指導を行うことにより、院生の理解を深める。

４．研究指導

実証的、論理的な研究を進めるため、テーマの選定や実証方法・分析方法の選択、論文構成や内容等に関して、指導教員が綿密な個別指導を行う。また、中間発表会・最終報告会等により集団指導を行う。両領域とも研究指導の中で研究倫理を丁寧に学ぶ。

５．特色ある教育
臨床心理学領域では、臨床心理学領域以外の多様なカリキュラムを設置し、心理学全般に関する幅広い視点での学修が可能である。また、多彩な実習先を設定しているため、心理臨床の実践力が身につく。心理行動科学領域では、認知心理学と社会心理学を中心とした高度な知識と分析力の修得が可能である。

６．キャリア教育
学内・学外の機関等で実習・調査を行う場合、事前に日本臨床心理士会の倫理綱領および日本心理学会倫理規程に基づく倫理や各機関の職務規程についてのガイダンスを実施する。大学院修了後も外部実習・調査についてのレポート作成・報告および研究論文作成などに際して、守秘義務と個人情報保護に関する指導を行う。
各種学会への入会と参加を推奨している。臨床心理学領域では日本心理臨床学会、心理行動科学領域では日本心理学会、への入会および学会活動を勧めている。
臨床心理学領域では、公認心理師および臨床心理士受験のサポートを行う。

７．学生への教育支援
研究・実習を円滑に行うために、情報・研究機器および心理検査器具を多数用意する。また体験・実践的な学びを深めることために、実習・演習科目ではグループ活動を含めたアクティブラーニングを積極的に取り入れる。また公認心理師・臨床心理士資格に関する情報提供をし、個別サポートや授業外講習会を行う。

【学修成果の評価の在り方】
受け身の学修ではない学生の主体的な課題解決への取り組みを重視する。取り組んだ課題について、テーマ選択から結果の分析・検証に関してのまとめ方を評価する。その際、レポートそのもの、およびプレゼンテーション・討論能力等を総合的に評価する。

◎アドミッション・ポリシー

【求める学生像】
１．心理学に関する基礎的知識を有し、科学的思考のできる人

２．具体的な現実認識のもとに、人間に対して、深く共感的理解のできる人

３．主体性を持ちつつ、様々な人々と協働研究・実践のできる人

４．心理臨床の実務体験を基礎とし、専門職・専門的研究に強い関心・意志を持つ人（臨床心理学領域）

５．人間の心的機能を科学的に分析し、そのメカニズムを探究する専門的研究に強い関心・意思を持つ人（心理行動科学領域）

【入学前に培うことを求める力】
１．研究および実践に必要な知識を培うこと。

２．論理的思考力、判断力および表現力を培うこと。

３．主体性を持ちつつ他者を尊重・共感する姿勢、および他者との協働できる力を培うこと。

【評価方法】
上記の人材を選抜するために３種類の入試制度を設けている。
全入試とも履歴書と研究計画書等の提出を求め、上記「入学前に培うことを求める力」の１．および２．を評価する。
全入試において実施する筆記試験において、上記「入学前に培うことを求める力」の１．を評価する。
全入試とも面接試験を実施し、上記「入学前に培うことを求める力」の３．を評価する。

【入学前に学習することを期待される内容】
心理学研究に必要な心理学および心理学関連領域の基礎的知識に加え、研究実施に不可欠な心理学研究法・心理統計法の学修を期待する。
多面的・学際的な知識修得に必要な基礎的英語力の学修を期待する。

人文科学研究科　教育学専攻

◎ディプロマ・ポリシー

【学位授与方針】
教育学専攻では、以下のような能力を身に付け、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与する。学校教育、とりわけ小学校教育に関する現状の理解、教育課程等の改善の方向や内容等、さらには学校と地域社会との連携、インクルーシブ教育システムの構築の推進の考え方や方向性を的確に理解し、その課題の解決やよりよい取組の在り方等について一定の知見と実践力を身に付けていること。

【学生が身に付けるべき資質・能力】
１．小学校教員としての教職専門性を持ち、教育改革の動向等を的確に踏まえつつ、教科指導、学級経営をリードできる、高度な教育実践力を身に付けていること。

２．学校、家庭、地域社会の連携によって、関連諸科学の成果を活用しつつ、児童一人一人の個性・能力の伸張を目指し、情熱を持って指導できる教育実践力を身に付けていること。

【学位授与の基準】
・小学校教師としての使命と責任を持ち、高度な教職専門性と教育実践力をしなえるという教育学専攻の教育目的を実現していること。

・教育課程を構成する科目群の中から自己の課題等に応じて選択履修した科目について所定の単位数を習得し、その後の研究や教育実践を推進できる資質・能力を身に付けていること。

◎カリキュラム・ポリシー

【教育課程の編成】
教育学専攻では、「学び続ける教員」の養成のために、カリキュラムを「理論と実践の往還型カリキュラムム」として編成するとともに、インクルーシブ教育システム構築指導法を実現できる専門的実践力の育成を図る。

【学修方法・学修過程】
・小学校教員としての使命感と責任感を持ち、教育実践を支える教育理念を確実にするため、教育思想、教育史に関する「特論」と「演習」の科目を配置する。

・国語教育、算数教育を中心とした教科教育、道徳教育、特別支援教育においては、「理論と方法」に関する科目を配置して、児童の認知発達や精神発達の視点から教育内容の分析を行い、理論と実践を架橋する手法を習得する。

・「学び続ける教員」としての資質能力の育成を目指して、「実践法」に関する演習科目「実践演習」を配置する。この科目では、実際の教育現場で実践的・実証的な研究を実施できるよう、地域の小学校、特別支援学校等との連携により教職実践交流を実施する。

・インクルーシブ教育の実現に向けて教育課程を構造的に編成する。すなわち、特別支援教育に関する「理路と方法」、「実践法」及び「実践法」をコアとして、その周囲に、教科教育、道徳教育、学校経営（学級経営）の各科目を位置付け、さらにその周囲に、教育思想、教育史、発達心理学、学校カウンセリングの各科目を位置付けることにより、各科目の包含関係と科目の特徴、役割等を明確にして、専攻といての教育課程全体を関連付けて構造化する。

・インクルーシブ教育の推進において養成される学校経営、学級経営、学習指導法等の教育実践力、教育専門性の一層の向上のために、地域の小学校及び特別支援学校等関係学校間の連携、特別支援学級指導者、通級指導者との連携、地域教育センター・教育委員会等との連携を通して、教職実践交流を図る「特別支援教育実践法」、「特別支援教育実践演習Ⅰ」、「同Ⅱ」を設置する。

特色ある教育
教育委員会の協力により、地域の小学校の通常学級、特別支援学級、特別支援学校との教職実践交流を実施する。
我孫子市特別支援教育ネットワークの利用を通して、子ども発達センター（幼稚園児等対象）、福祉・医療の専門機関等の多様な機関と連携して学修し包括的職能力を習得する。

【学修成果の評価の在り方】
GPA による成績評価を運用し、適切な評価を行う。
各学生の学修の展開と成果を学修ポートフォリオによって評価する。
実習の記録などを通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。
ルーブリックにより、基礎的な学力、思考力、主体的な協働を評価する。

◎アドミッション・ポリシー

【求める学生像】
１．「感謝の心」を土台として協調性と主体性を兼ね備え、自ら学び続ける女性教員を目指したい人

２．少人数教育を通して、インクルーシブ教育を含めた教員に必要な専門性、実践性と今日の社会に対応するための課題解決能力を身に付けたい人

３．児童に対する深い愛情を持ち、児童一人一人の課題に対応しつつ、児童の創造的な学習活動を支えていく能力を獲得し、教育に関連する分野で社会貢献をしたい人

【入学前に培うことを求める力】

１．知識・技能

教職の専門的知識・技能を身に付けるとともに、それらの知識・技能を活用して、思考、判断、表現の伴う学習活動を効果的に展開する学力を有している。

２．思考力・判断力・表現力等の能力

様々な課題に対して解決方法を探して計画的に実行したり、情報を基に自分の考えを形成したりする学習過程の中で思考力、判断力、表現力等を育てている。

３．主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な立場を理解し、地域学校協働活動等を通して互いに協力し合うために必要なコミュニケーションの基本的能力を身に付けている。また、ボランティアなど諸活動を積極的に取り組んでいく意思を持っている。

【評価方法】

上記の人材を選抜するため、次の入学試験を、それぞれの試験科目・内容で実施する。

１．一般入学試験（論述又は英語、小論文、面接）

２．社会人入学試験（論述、小論文、面接）

３．現職教員入学試験（論述、小論文、面接）

その際の評価の考え方と方法については、上記【入学前に培うことを求める力】に照らしつつ、書類審査（出願書類等）も加えて総合的に判断を行う。

人文科学研究科　比較文化専攻

◎ディプロマ・ポリシー

＜比較文化専攻 博士前期課程＞
【授与方針】
比較文化専攻博士前期課程では、研究者としての自覚を涵養し、専門分野における高度な知識を生かして社会に貢献できる人材を育成するため、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得し、修士論文を完成した学生に修士（文学）の学位を授与する。

【学生が身に付けるべき資質・能力】
１．人文社会諸科学に関する学識を有し、研究分野における高度な専門知識及び方法論に習熟している。

２．研究分野における課題探求力、分析力、考察力があり、自分の考えを論理的に展開でき、研究成果を発表し、ディスカッションができるコミュニケーション力がある。

３.主体性を持ち､研究に携わる他の人々と協力して問題の解決に取り組むことができる。

【学位授与の基準】
・人文社会諸科学の研究分野における高度な専門知識を身に付け、それを問題解決のために運用することができる力を有していること。

･社会における貢献を目指し､他者と交流して問題解決に取り組む姿勢を有していること。

＜比較文化専攻　博士後期課程＞
【授与方針】
比較文化専攻博士後期課程では、研究者としての自覚とふさわしい人格を有し、研究分野における学際的視野と知識を以て真摯に問題に取り組む人材を育成するため、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得し、博士論文を完成した学生に博士（文学）の学位を授与する。

【学生が身に付けるべき資質・能力】
１．人文社会諸科学に関する学際的な知識、研究分野における高度な学術的知見を有し、独自性のある視点から研究ができる。

２．研究分野における問題提起力、分析・考察力、論理的展開力があり、研究成果を発表し、ディスカッションができるコミュニケーション力がある。

３．主体的に研究に取り組み、他の研究者の意見を真摯に聞き、協力して問題解決に取り組むことができる。

【学位の授与の基準】
・人文社会諸科学の研究者としての自覚を持ち、専門分野の高度な知見を社会に生かそうとしていること。
・独自性のある研究業績を公表していること。
・社会における貢献を目指し、他の研究者と交流できること。

◎カリキュラム・ポリシー

＜比較文化専攻　博士前期課程＞
【教育課程の編成】
比較文化専攻は、地域文化研究、社会・文化コミュニケーション、女性学の３分野からなり、学際的知見を身につけ、修士論文を完成できるようカリキュラムを編成している。

１．地域文化研究分野では、日本、アジア、欧米等の諸地域に関する歴史・文化・地理等の高度な専門知識や方法論を習得するための科目を配置している。

２．社会・文化コミュニケーション分野では、宗教、言語、教育、民俗、地域活動に関する高度な専門知識や方法論を習得するための科目を配置している。

３．女性学分野では、ジェンダーにおける歴史、教育、批評に関する高度な専門知識や方法論を習得するための科目を配置している。

４．専門分野の資料の読み方、調査方法、論文の書き方等を習得できる基礎科目を配置している。

【学修方法・学修過程】
１．地域文化研究分野、社会・文化コミュニケーション分野、女性学分野から科目を横断的に履修できる。

２．基礎科目によって、専門分野の資料の読み方、調査方法、論文の書き方を習得する。

３．指導主任教員からの研究指導に加え、年に２回、研究発表会で研究成果を口頭で発表し、他の教員、学生から助言を得る。

４．学修の集大成として、専門的な視点から修士論文を完成させる。

【学修成果の評価】
GPA による成績評価を運用し、適切な評価を行う。また、論文作成、研究発表会での発表を通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。

＜比較文化専攻　博士後期課程＞
【教育課程の編成】
比較文化専攻は、地域文化研究、社会・文化コミュニケーション、女性学の 3 分野からなり、高度に学際的かつ独自性のある視点から研究を行い、博士論文を完成できるようカリキュラムを編成している。

【学修方法・学修過程】
１．地域文化研究分野、社会・文化コミュニケーション分野、女性学分野から科目を横断的に履修できる。

２．長期研究計画書作成し、指導主任教員及び他の教員からの指導・助言を得ながら、研究成果を年 2 回、研究成果発表会で口頭発表し、他の学生や教員から講評を得る。

３．研究成果を『川村学園女子大学大学院研究年報』に 1 編以上掲載する。さらに査読付の学術研究誌に 2 編以上論文を掲載する。

４．学修の集大成として博士論文を完成する。

【学修成果の評価】
GPA による成績評価を運用し、適切な評価を行う。また、論文作成、研究成果発表会での発表を通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。

◎アドミッション・ポリシー

＜比較文化専攻　博士前期課程＞
【求める学生像】
比較文化専攻では、諸地域の文化、地理、社会、宗教、教育、言語、民俗、地域活動、ジェンダー等に関する高度な知識を習得し、現代社会の諸問題に取り組み、解決しようという意欲のある人を求めている。

【入学前に培うことを求める力】
１．知識・技能
人文社会諸科学の研究に必要な基礎的教養を備えている。

２．思考力・判断力・表現力等の能力
人文社会諸科学の諸問題に関心を持ち、自ら課題を見つけ、それに対する自分の意見を論理的に表現することができる。

３．主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
異なる考えを持つ人々の意見を理解し、建設的に意見交換ができ、相互に協力して問題解決ができる。

【評価方法】
１．知識・技能
入学試験、調査書、卒業研究、面接によって評価する。

２．思考力・判断力・表現力等
入学試験、卒業研究、面接によって評価する。

３．主体性・協働力
調査書、面接によって評価する。

＜比較文化専攻　博士後期課程＞
【求める学生像】
修士課程を修了、あるいはこれと同等の学力を有し、日本・アジア・欧米諸地域の文化・社会、地理に関する高度に学際的、かつ独自性のある視点から研究しようという意欲のある人を求めている。

【入学前に培うことを求める力】
１．知識・技能
人文社会諸科学の研究に必要である高度な専門的知識を備えている。

２．思考力・判断力・表現力等の能力
人文社会諸科学において、問題提起ができ、高度に専門的・学際的な見地から独自の意見を論理的に展開できる。

３．主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
他者の意見を真摯に聞き、相互に協力して積極的に問題解決に取り組むことができる。

【評価方法】
１．知識・技能
入学試験、調査書、修士論文、面接によって評価する。

２．思考力・判断力・表現力等
入学試験、修士論文、面接によって評価する。

３．主体性・協働性
面接によって評価する。

１．心　理　学　専　攻

心理学専攻の概要

現代社会は大きな変動期を迎え、ますます複雑・多様化してきている。その現代社会との関わりの中で人間の心とその本質について、さまざまな科学的見地から正確にしてトータルな知識を持つとともに、具体的な現実認識のもとで、人間性の深淵をあきらかにすることが重要であり、人間社会の将来をいかに設定すべきかの切実な課題にとりくむことが求められている。心理学は、その目的達成に向かい重要な役割を担っており、科学的方法論をもって、人間活動の全般について充実した研究・実践を続けている。その内容は、理論と応用、あるいは個人と社会、基礎と臨床というような対称的な諸軸による領域に分類され、それらは互いに密接な関連をもって構成され、そこでは、人間同士の直接の接触を基底にして研究データや必要情報が収集され、分析・考究されるとともに、一方では最新の様々な電子機器による厳密な測定や、高度の統計的数学的分析を駆使した結果の解析が行われている。また、情報科学という関連分野を結ぶ学際的研究活動の一環として、理工学に関連してコンピューターを媒介とする人工知能の構築とも関わり、他方では医学・生理学に関連して大脳の機構と精神作用との対応の解明にも関与してきており、それらを通じて、人間の心のブラックボックスの解明に寄与している。

心理学専攻は、文学部心理学科を基礎とし、その教育・研究(教育課程及び教員構成)の特色をも配慮して、臨床心理学領域、心理行動科学領域の２領域から構成される。

これは学科の延長としてさらに高度の知識の修得を目指し、また独創性の豊かな研究を期待するものであり、広く社会における心理学関係の指導的役割を果たすことの可能な人材の育成を目標としている。また臨床心理学領域では、公認心理師および臨床心理士としての資質をはぐくむとともに、臨床現場でも充分に機能しうる人材の育成を目標としている。

「臨床心理学領域」においては、心の健康障害(適応障害や精神障害)や高齢者問題等の本質の探究及びそのために必要な測定・診断・治療・予後等の理論や技能の修得及びその実践を中心に、公認心理師・臨床心理士としての資質をはぐくむ。臨床現場でも臨床の専門家として充分に機能しうる資質を修得できるよう意図している。

「心理行動科学領域」においては、心理学をより専門的に学び、将来、心理学の専門的職業に就いたり、博士課程に進学することを目指している。知覚、記憶などの認知心理学分野と対人認知、文化などの社会心理学分野を中心に、各分野を専門とする教員から研究指導を受けながら、人間の知的機能や対人機能のメカニズムを科学的に探求することを意図している。

「臨床心理学領域」では、公認心理師必修１０科目が整備されている。そして臨床家としての知識や技能の充実を図るため、「臨床心理学特論」をはじめとする必修科目５科目１６単位を必修としている。さらに、臨床心理士取得のための選択必修科目５群も整備されている。また、指定病院等と連携して「臨床心理基礎実習」、「臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)」、「臨床心理実習Ⅱ」を実施しうる体制を整えており、臨床現場での実体験を通じて、理論や技術の検証と修得が充分に可能となるように配慮している。

「心理行動科学領域」では、専門的知識の充実ならびに研究法の修得を図るため、専攻した領域で開設される選択必修科目の中から１科目以上を必修とするとともに、これらに領域共通の科目群の中から選択された科目を加えた計２４単位以上を修得させる。

また、各領域とも１年次より自由にテーマを定めて充実した研究指導を行えるように配慮し、「特別研究」として６単位を定め、大学院学生の自主的・積極的な研究活動意識を高揚する。

心理学専攻修了後の進路等について

心理学専攻の修了生は、学術研究の高度化と優秀な研究者の養成を目指す博士課程にさらに進学する者のほかに、現代そして将来に求められる専門的知識及び実践技能を基礎として、人間性を尊重し広い視野をもって時代

の変化に対応しながら、様々な社会活動の場における指導者として活躍するものと期待される。特に、カウンセリングについては、心身の健康障害の増加を背景としてその需要が顕在化しており、各種医療施設・社会福祉施設・教育機関等の職域において、社会に貢献しうると考えられる。

また、予想される主な修了後の進路としては、以下のようなものが挙げられる。

・児童相談所、身体障害者更生相談所、精神薄弱者更生相談所、
婦人相談所等の福祉機関及び障害児(者)入所・通所施設等の専門職員
（臨床心理士・カウンセラー他）

・病院、クリニック、精神保健センター等の医療施設の専門職員
（臨床心理士・カウンセラー他）

・少年鑑別所、少年院、刑務所等の矯正保護機関および施設等の専門職員
（カウンセラー他）

・家庭裁判所等の調査官

・一般企業・事業所等に設置された保健センター、心理相談所等の専門職員
（産業カウンセラー他）

・教育行政機関、教育研究機関、社会施設等の専門職員

・その他各種社会福祉法人、財団法人、特殊法人等の専門職員

「公認心理師」
資格の概要　「公認心理師法」に書かれている心理職の国家資格。
取得の条件　大学・大学院の両方で、必要な科目を履修し修了する。もしくは大学で必要な科目を履修した後、一定期間、一定施設で実務に従事する。これらの条件を満たした後、国家試験に合格すると資格が得られる。

「臨床心理士」
資格の概要　文部科学省が認可した（財）日本臨床心理士資格認定協会が認定する資格。
資格取得後も５年毎に活動や研究の成果の確認があり、基準を満たしていれば継続される。
取得の条件　臨床心理学領域修了後に受験資格が得られ、資格認定協会の試験に合格すると資格が得られる。

「シニア産業カウンセラー」
資格の概要　（社）日本産業カウンセラー協会が認可する資格の一つである。
取得の条件　心理学又は心理学隣接諸科学を専攻し、心理学の授業科目より８単位以上修得し、修士の学位を得ると、受験申請資格が得られる。学科試験および実技試験合格者が資格を認定される。

＜２０１９・２０１８年度入学者対象＞

心理学専攻　臨床心理学領域　開講科目

授業科目名	学習方法	単位	期間	年次	必選	備考
臨床心理学特論	講義	4	通年	1・2	必修	
臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	講義	2	半期	1・2	必修	
臨床心理面接特論Ⅱ	講義	2	半期	1・2	必修	
臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	演習	2	半期	1・2	必修	
臨床心理査定演習Ⅱ	演習	2	半期	1・2	必修	
臨床心理基礎実習	実習	2	通年	1	必修	
臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)	実習	2	通年	1・2	必修	
臨床心理実習Ⅱ	実習	2	通年	2	必修	
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	講義	2	半期	1・2	選必	
心身医学(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	講義	2	半期	1・2	選必	
心理療法各論Ⅰ(認知行動療法)	講義	2	半期	1・2	選必	
心理療法各論Ⅱ(精神分析)	講義	2	半期	1・2	選必	
精神医学(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	講義	2	半期	1・2	選必	
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	講義	2	半期	1・2	選必	
福祉分野に関する理論と支援の展開	講義	2	半期	1・2	選必	
深層心理学概論(１)	講義	2	半期	1・2	選必	
深層心理学概論(２)	講義	2	半期	1・2	選必	
社会心理学特講(１)	講義	2	半期	1・2	選必	
社会心理学特講(２)	講義	2	半期	1・2	選必	
心理行動科学研究法(１)	講義	2	半期	1・2	選必	
心理行動科学研究法(２)	講義	2	半期	1・2	選必	
認知心理学特講(１)	講義	2	半期	1・2	選必	
認知心理学特講(２)	講義	2	半期	1・2	選必	
心理統計法特講(１)	講義	2	半期	1・2	選必	
心理統計法特講(２)	講義	2	半期	1・2	選必	
生理心理学特講(１)	講義	2	半期	1・2	選必	
生理心理学特講(２)	講義	2	半期	1・2	選必	
心の健康教育に関する理論と実践	講義	2	半期	1・2	選必	
学校心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開)	講義	2	半期	1・2	選必	
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	講義	2	半期	1・2	選必	
集団力学特講(１)	講義	2	半期	1・2	選必	
集団力学特講(２)	講義	2	半期	1・2	選必	

心理学特別研究	演習	6	通年	1～2	必修	

＜履修上の注意＞

・**上記科目から特別研究を含め、３０単位以上を修得しなければならない。**

・年次「１・２」は、１年次または２年次に履修することができる科目。
　年次「１～２」は、１年次及び２年次ともに履修しなければならない科目。

・必修科目及び選択必修科目は、臨床心理学領域以外の院生は履修することができない。

・選択必修科目は、原則として臨床心理学領域以外の院生は履修することができない。

・選択科目は、特定の分野に偏らず、幅広く履修すること。

＜２０１７・２０１６年度入学者対象＞

心理学専攻　臨床心理学領域　開講科目

		授業科目名	学習方法	単位	期間	年次	必選	備考
必修科目		臨床心理学特論	講義	4	通年	1･2	必修	
		臨床心理面接特論	講義	4	通年	1･2	必修	
		臨床心理査定演習	演習	4	通年	1･2	必修	
		臨床心理基礎実習	実習	2	通年	1	必修	
		臨床心理実習	実習	2	通年	2	必修	
選択必修科目	A	心理統計法特講(1)	講義	2	半期	1･2	選必	Ａ～Ｅの各群から１科目以上の５科目１０単位以上を修得すること 履修にあたっては、特定の科目群に偏ることなく幅広く修得すること
		心理統計法特講(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
		心理行動科学研究法(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
		心理行動科学研究法(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
		臨床心理学研究法	講義	2	半期	1･2	選必	
	B	発達臨床心理学研究法	講義	2	半期	1･2	選必	
		教育臨床心理学研究法	講義	2	半期	1･2	選必	
		発達・教育心理学特講(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
		発達・教育心理学特講(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
		認知心理学特講(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
		認知心理学特講(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
		生理心理学特講(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
		生理心理学特講(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
	C	☆社会心理学特講(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
		☆社会心理学特講(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
		☆集団力学特講(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
		☆集団力学特講(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
		☆社会病理学特講(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
		☆社会病理学特講(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
		犯罪心理学特講	講義	2	半期	1･2	選必	
	D	精神医学特講	講義	2	半期	1･2	選必	
		心身医学特論(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
		心身医学特論(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
		発達障害心理学特講(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
		発達障害心理学特講(2)	講義	2	半期	1･2	選必	

	E	投映法特講	講義	2	半期	1･2	選必	
		深層心理学概論(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
		深層心理学概論(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
		心理療法各論Ⅰ(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
		心理療法各論Ⅰ(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
		心理療法各論Ⅱ(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
		心理療法各論Ⅱ(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
		精神薬理学	講義	2	半期	1･2	選必	
		学校臨床心理学特講(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
		学校臨床心理学特講(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
心理学特別研究			演習	6	通年	1～2	必修	

＜履修上の注意＞

・上記科目から特別研究を含め、３０単位以上を修得しなければならない。

・☆印は、隔年開講

・年次「１・２」は、１年次または２年次に履修することができる科目。
　年次「１～２」は、１年次及び２年次ともに履修しなければならない科目。

・必修科目及び選択必修科目は、臨床心理学領域以外の院生は履修することができない。

・選択必修科目は、原則として臨床心理学領域以外の院生は履修することができない。

・選択必修科目は、特定の分野に偏らず、幅広く履修すること。

＜２０１９･２０１８年度入学者対象＞

心理学専攻　心理行動科学領域　開講科目

授業科目名	学習方法	単位	期間	年次	必選	備考
社会心理学研究	講義	4	通年	1・2	選必	
認知心理学研究	講義	4	通年	1・2	選必	
社会心理学特講（１）	講義	2	半期	1・2	選必	
社会心理学特講（２）	講義	2	半期	1・2	選必	
心理行動科学研究法（１）	講義	2	半期	1・2	選必	
心理行動科学研究法（２）	講義	2	半期	1・2	選必	
認知心理学特講（１）	講義	2	半期	1・2	選必	
認知心理学特講（２）	講義	2	半期	1・2	選必	
心理統計法特講（１）	講義	2	半期	1・2	選必	
心理統計法特講（２）	講義	2	半期	1・2	選必	
生理心理学特講（１）	講義	2	半期	1・2	選必	
生理心理学特講（２）	講義	2	半期	1・2	選必	
心の健康教育に関する理論と実践	講義	2	半期	1・2	選必	
学校心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開)	講義	2	半期	1・2	選必	
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	講義	2	半期	1・2	選必	
集団力学特講（１）	講義	2	半期	1・2	選必	
集団力学特講（２）	講義	2	半期	1・2	選必	
心理学特別研究	演習	6	通年	1～2	必修	

＜履修上の注意＞

・上記科目から特別研究を含め、３０単位以上を修得しなければならない。

・年次「１・２」は、１年次または２年次に履修することができる科目。
　年次「１～２」は、１年次及び２年次ともに履修しなければならない科目。

・心理行動科学領域以外の院生が、「社会心理学研究」「認知心理学研究」を履修することはできない。
　心理行動科学領域の院生は、「社会心理学研究」「認知心理学研究」のうち、１科目以上を履修すること。

＜２０１７・２０１６年度入学者対象＞

心理学専攻　心理行動科学領域　開講科目

授業科目名	学習方法	単位	期間	年次	必選	備考
社会心理学研究	講義	4	通年	1･2	選必	左記より１科目以上を修得すること
認知心理学研究	講義	4	通年	1･2	選必	
☆社会心理学特講(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
☆社会心理学特講(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
認知心理学特講(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
認知心理学特講(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
心理行動科学研究法(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
心理行動科学研究法(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
心理統計法特講(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
心理統計法特講(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
生理心理学特講(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
生理心理学特講(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
発達・教育心理学特講(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
発達・教育心理学特講(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
☆社会病理学特講(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
☆社会病理学特講(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
☆集団力学特講(1)	講義	2	半期	1･2	選必	
☆集団力学特講(2)	講義	2	半期	1･2	選必	
心理学特別研究	演習	6	通年	1～2	必修	

＜履修上の注意＞

・**上記科目から特別研究を含め、３０単位以上を修得しなければならない。**

・☆印は、隔年開講

・年次「１・２」は、１年次または２年次に履修することができる科目。
　年次「１～２」は、１年次及び２年次ともに履修しなければならない科目。

・心理行動科学領域以外の院生が、「社会心理学研究」「認知心理学研究」を履修することはできない。
　心理行動科学領域の院生は、「社会心理学研究」「認知心理学研究」のうち、１科目以上を履修すること。

＜２０１９・２０１８年度入学者対象＞

公認心理師に関する専門教育科目

授業科目名	学習方法	単位	期間	年次	必選	備考
精神医学(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	講義	2	半期	1・2	選必	左記より１科目以上修得すること
心身医学(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	講義	2	半期	1・2	選必	
福祉分野に関する理論と支援の展開	講義	2	半期	1・2	必修	
学校心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開)	講義	2	半期	1・2	必修	
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	講義	2	半期	1・2	必修	
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	講義	2	半期	1・2	必修	
臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	演習	2	半期	1・2	必修	
臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	講義	2	半期	1・2	必修	
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	講義	2	半期	1・2	必修	
心の健康教育に関する理論と実践	講義	2	半期	1・2	必修	
臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)	実習	2	半期	1・2	必修	

＜履修上の注意＞

・上記科目から、２０単位以上を修得しなければならない。

＜２０１９・２０１８年度入学者対象＞

臨床心理士に関する専門教育科目

授業科目名	学習方法	単位	期間	年次	必選	群	備考
臨床心理学特論	講義	4	通年	1・2	必修		
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	講義	2	半期	1・2	必修		
臨床心理面接特論Ⅱ	講義	2	半期	1・2	必修		
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	演習	2	半期	1・2	必修		
臨床心理査定演習Ⅱ	演習	2	半期	1・2	必修		
臨床心理基礎実習	実習	2	通年	1・2	必修		
臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）	実習	2	通年	1・2	必修		
臨床心理実習Ⅱ	実習	2	通年	1・2	必修		
心理統計法特講（１）	講義	2	半期	1・2	選必	A	Ａ～Ｅの各群から１科目以上の５科目１０単位以上を修得すること 履修にあたっては、特定の科目群に偏ることなく幅広く修得すること
心理統計法特講（２）	講義	2	半期	1・2	選必		
心理行動科学研究法（１）	講義	2	半期	1・2	選必		
心理行動科学研究法（２）	講義	2	半期	1・2	選必		
認知心理学特講（１）	講義	2	半期	1・2	選必	B	
認知心理学特講（２）	講義	2	半期	1・2	選必		
生理心理学特講（１）	講義	2	半期	1・2	選必		
生理心理学特講（２）	講義	2	半期	1・2	選必		
心の健康教育に関する理論と実践	講義	2	半期	1・2	選必		
学校心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開)	講義	2	半期	1・2	選必		
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	講義	2	半期	1・2	選必	C	
社会心理学特講（１）	講義	2	半期	1・2	選必		
社会心理学特講（２）	講義	2	半期	1・2	選必		
集団力学特講（１）							
集団力学特講（２）	講義	2	半期	1・2	選必		
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	講義	2	半期	1・2	選必		
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	講義	2	半期	1・2	選必		
精神医学(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	講義	2	半期	1・2	選必	D	
心身医学(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	講義	2	半期	1・2	選必		
福祉分野に関する理論と支援の展開	講義	2	半期	1・2	選必		
深層心理学概論（１）	講義	2	半期	1・2	選必	E	

深層心理学概論（２）	講義	２	半期	１・２	選必		
心理療法各論Ⅰ（認知行動療法）	講義	２	半期	１・２	選必		
心理療法各論Ⅱ（精神分析）	講義	２	半期	１・２	選必		

＜履修上の注意＞

・選択必修科目Ｅ群は臨床心理学領域以外の院生は履修することができない。

＜２０１９年度入学者対象＞

心理学専攻 専修免許科目対応表

免許状の種類	免許法施行規則に定める科目区分	必　要単位数	左記に対応する開設授業科目		備　　考
			授業科目名	単位	
高専免（公民）	大学が独自に設定する科目	２４	臨床心理学特論	4	２４単位以上修得すること
			臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2	
			臨床心理面接特論Ⅱ	2	
			家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2	
			深層心理学概論（１）	2	
			深層心理学概論（２）	2	
			社会心理学研究	4	
			認知心理学研究	4	
			社会心理学特講（１）	2	
			社会心理学特講（２）	2	
			心理行動科学研究法（１）	2	
			心理行動科学研究法（２）	2	
			認知心理学特講（１）	2	
			認知心理学特講（２）	2	
			心理統計法特講（１）	2	
			心理統計法特講（２）	2	
			生理心理学特講（１）	2	
			生理心理学特講（２）	2	
			集団力学特講（１）	2	
			集団力学特講（２）	2	
			計	４６	

＜２０１８年度入学者対象＞

心理学専攻 専修免許科目対応表

免許状の種類	免許法施行規則に定める科目区分	必　要単位数	左記に対応する開設授業科目		備　　考
			授業科目名	単位	
高専免（公民）	教科に関する科目	２４	臨床心理学特論	4	２４単位以上修得すること
			臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2	
			臨床心理面接特論Ⅱ	2	
			家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2	
			深層心理学概論（１）	2	
			深層心理学概論（２）	2	
			社会心理学研究	4	
			認知心理学研究	4	
			社会心理学特講（１）	2	
			社会心理学特講（２）	2	
			心理行動科学研究法（１）	2	
			心理行動科学研究法（２）	2	
			認知心理学特講（１）	2	
			認知心理学特講（２）	2	
			心理統計法特講（１）	2	
			心理統計法特講（２）	2	
			生理心理学特講（１）	2	
			生理心理学特講（２）	2	
			集団力学特講（１）	2	
			集団力学特講（２）	2	
			計	４６	

＜２０１７・２０１６年度入学者対象＞

心理学専攻 専修免許科目対応表

免許状の種類	免許法施行規則に定める科目区分	必　要単位数	左記に対応する開設授業科目		備　　考
			授業科目名	単位	
高専免（公民）	教科に関する科目	２４	臨床心理学特論	4	２４単位以上修得すること
			臨床心理面接特論	4	
			臨床心理査定演習	4	
			臨床心理基礎実習	2	
			臨床心理実習	2	
			臨床心理学研究法	2	
			犯罪心理学特講	2	
			心身医学特論(1)	2	
			心身医学特論(2)	2	
			心理療法各論Ⅰ(1)	2	
			心理療法各論Ⅰ(2)	2	
			心理療法各論Ⅱ(1)	2	
			心理療法各論Ⅱ(2)	2	
			精神医学特講	2	
			精神薬理学	2	
			投映法特講	2	
			学校臨床心理学特講(1)	2	
			学校臨床心理学特講(2)	2	
			教育臨床心理学研究法	2	
			発達臨床心理学研究法	2	
			発達障害心理学特講(1)	2	
			発達障害心理学特講(2)	2	
			深層心理学概論(1)	2	
			深層心理学概論(2)	2	
			社会心理学研究	4	
			認知心理学研究	4	
			社会心理学特講(1)	2	
			社会心理学特講(2)	2	
			認知心理学特講(1)	2	
			認知心理学特講(2)	2	
			心理行動科学研究法(1)	2	
			心理行動科学研究法(2)	2	

			心理統計法特講(1) 心理統計法特講(2) 生理心理学特講(1) 生理心理学特講(2) 発達・教育心理学特講(1) 発達・教育心理学特講(2) 社会病理学特講(1) 社会病理学特講(2) 集団力学特講(1) 集団力学特講(2)	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
			計	９４	

授業科目名： 心理統計法特講(1)	専攻･領域：心理・行動
担当教員名：鵜沼 秀行	501910／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
⑴推測統計と基礎的な多変量解析の理論を理解できる。
⑵研究をすすめる上で必要な統計計算ができる。
⑶統計的な問題解決の知識と技能を教育などの実践的な分野で活用できる。

【授業の概要(目的)】
心理学の研究をすすめるにあたって必要とされる統計的方法の理論を理解する。また実習によってコンピュータを使用して分析を実行するための技術、および情報リテラシーを修得する。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・２・４

【授業計画】

第1回	事前学修	講義要綱を読み、概要、目的を理解する。【1 時間】
	授業内容	オリエンテーション:講義のすすめかた、準備
	事後学修	指定された基礎統計、コンピュータの使い方を復習する。【3 時間】
第2回	事前学修	指定されたデータのファイルを作成する。【2 時間】
	授業内容	統計処理の基礎
	事後学修	指定課題を実施し提出する。【2 時間】
第3回	事前学修	事前課題をおこなう。【2 時間】
	授業内容	推測統計の理論(概要)
	事後学修	課題を提出する。【2 時間】
第4回	事前学修	テキストの例題の発表を用意する。【3 時間】
	授業内容	母集団と標本
	事後学修	課題を提出する。【1 時間】
第5回	事前学修	テキストの例題の発表を用意する。【3 時間】
	授業内容	標本抽出と確率分布
	事後学修	課題を提出する。【1 時間】
第6回	事前学修	テキストの例題の発表を用意する。【3 時間】
	授業内容	統計的仮説検定の論理
	事後学修	課題を提出する。【1 時間】
第7回	事前学修	テキストの例題の発表を用意する。【3 時間】
	授業内容	尺度水準と種々の検定
	事後学修	課題を提出する。【1 時間】
第8回	事前学修	テキストの例題の発表を用意する。【3 時間】
	授業内容	分散分析 (1) 被験者間計画 要因計画
	事後学修	課題を提出する。【1 時間】
第9回	事前学修	テキストの例題の発表を用意する。【3 時間】
	授業内容	分散分析 (2) 被験者内計画
	事後学修	課題を提出する。【1 時間】
第10回	事前学修	指定されたデータを分析し,発表を用意する。【3 時間】
	授業内容	多重比較
	事後学修	課題を提出する。【1 時間】
第11回	事前学修	指定されたデータを分析し,発表を用意する。【3 時間】
	授業内容	因子分析⑴ 相関行列から因子負荷量へ
	事後学修	課題を提出する。【1 時間】
第12回	事前学修	指定されたデータを分析し,発表を用意する。【3 時間】
	授業内容	因子分析⑵ 因子得点
	事後学修	課題を提出する。【1 時間】
第13回	事前学修	指定されたデータを分析し,発表を用意する。【3 時間】
	授業内容	構造方程式モデルリング⑴ AMOS の使い方
	事後学修	課題を提出する。【1 時間】
第14	事前学修	指定されたデータを分析し,発表を用意する。【3 時間】
	授業内容	構造方程式モデルリング⑵ 分析の手順と結果の解釈

回	事後学修	課題を提出する。【1 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定されたデータを分析し,発表を用意する。【3 時間】 構造方程式モデルリング(3)　モデルの修正 課題を提出する。【1 時間】

【成績評価の方法】
授業への参加(発表・課題の提出)の程度(50%)、およびレポート (50%)による総合評価。

【フィードバック】
HP において、実習およびレポートの結果についてのフィードバックを行う。
http://hideyukiunuma.wixsite.com/visualperception

【テキスト】
鵜沼秀行・長谷川桐 (2016). 改訂版 はじめての心理統計法 東京図書

【参考書】
長谷川桐・鵜沼秀行 (2017). テンプレートで学ぶはじめての心理学論文・レポート作成　東京図書
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』(教育出版)

【履修上の注意等】
以下の基礎統計の知識を受講の前提とする。代表値と散布度(分散、標準偏差など)、相関と回帰(積率相関係数など)、推測統計の基礎。

授業科目名： 心理統計法特講(2)	専攻･領域：心理・行動
担当教員名：鵜沼 秀行	501910／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
⑴最近の多変量解析の理論を理解できる。
⑵汎用的な統計計算の技法を使うことができる。
⑶統計的な問題解決の知識と技能を教育などの実践的な分野で活用できる。

【授業の概要(目的)】
心理学の研究をすすめるにあたって必要とされる統計的手法、特に多変量解析について理解する。また 実習によってコンピュータを使用して分析をおこなうための最近の方法および情報リテラシーを修得する。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・２・４

【授業計画】

第1回	事前学修	相関と回帰について復習をする。【1 時間】
	授業内容	重回帰分析⑴ 概要
	事後学修	事後課題をおこなう。【3 時間】
第2回	事前学修	指定された例題について,発表の準備をする。【3 時間】
	授業内容	重回帰分析⑵ モデルの選択
	事後学修	事後課題をおこなう。【1 時間】
第3回	事前学修	指定された例題について,発表の準備をする。【3 時間】
	授業内容	重回帰分析⑶ ダミー変数の利用
	事後学修	事後課題をおこなう。【1 時間】
第4回	事前学修	指定された例題について,発表の準備をする。【3 時間】
	授業内容	数量化Ⅰ類
	事後学修	事後課題をおこなう。【1 時間】
第5回	事前学修	事前課題をおこなう。【2 時間】
	授業内容	数量化Ⅱ類
	事後学修	事後課題をおこない提出する。【2 時間】
第6回	事前学修	指定された例題について,発表の準備をする。【3 時間】
	授業内容	判別分析
	事後学修	事後課題をおこなう。【1 時間】
第7回	事前学修	指定された例題について,発表の準備をする。【3 時間】
	授業内容	ｸﾗｽﾀｰ分析
	事後学修	事後課題をおこなう。【1 時間】
第8回	事前学修	事前課題をおこなう。【2 時間】
	授業内容	多次元尺度構成法
	事後学修	事後課題をおこない提出する。【2 時間】
第9回	事前学修	指定されたモデルを作成する。【2 時間】
	授業内容	構造方程式モデルリングの応用⑴ モデルの基礎と手続き
	事後学修	事後課題をおこない提出する。【2 時間】
第10回	事前学修	指定されたモデルを作成する。【2 時間】
	授業内容	構造方程式モデルリングの応用⑵ モデルの評価と修正
	事後学修	事後課題をおこない提出する。【2 時間】
第11回	事前学修	指定されたモデルを作成する。【2 時間】
	授業内容	構造方程式モデルリングの応用⑶ 様々なモデル
	事後学修	事後課題をおこない提出する。【2 時間】
第12回	事前学修	指定された文献を読む。【2 時間】
	授業内容	構造方程式モデルリングの応用⑷ 実際の研究における活用
	事後学修	事後課題をおこない提出する。【2 時間】
第13回	事前学修	指定された文献を読む。【2 時間】
	授業内容	構造方程式モデルリングの応用⑸ 研究展開とモデル構築
	事後学修	事後課題をおこない提出する。【2 時間】
第14	事前学修	指定されたモデルを作成する。【2 時間】
	授業内容	構造方程式モデルリングの実際⑴ データの準備とモデル構築

回	事後学修	事後課題をおこない提出する。【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定された分析を実施する。【2 時間】 構造方程式モデルリングの実際(2) 分析の進め方とまとめ 事後課題をおこないレポートを提出する。【2 時間】

【成績評価の方法】
授業への参加(発表・課題の提出)の程度(50%)、およびレポート (50%)による総合評価。

【フィードバック】
HP において、実習およびレポートの結果についてのフィードバックを行う。
http://hideyukiunuma.wixsite.com/visualperception

【テキスト】
鵜沼秀行・長谷川桐 (2016). 改訂版はじめての心理統計法 東京図書

【参考書】
長谷川桐・鵜沼秀行 (2017). テンプレートで学ぶはじめての心理学論文・レポート作成　東京図書
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』(教育出版)

【履修上の注意等】
心理統計法特講(１)の受講を前提とする。

授業科目名： 認知心理学研究	専攻・領域：心理・行動
担当教員名：鵜沼 秀行	501005／通年／選必／4 単位／講義

【到達目標】
1. 認知心理学の知覚・学習・感情・人格・発達についての最近の研究を理解できる。
2. 実験実習を通じ研究の実際的な問題を理解している。
3. 認知心理学の知識と技能を教育などの実践的な分野で活用できる。

【授業の概要(目的)】
研究をすすめるために必要な文献の検索、読解、実験の計画、結果の分析、論文の執筆という一連の過程を理解し、それらに必要な知識と技能を修得する。また年間を通じて実践的な情報リテラシーを高める。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・２・４

【授業計画】

第1回	事前学修	シラバスを読み,講義の概要,目的を理解する。【1 時間】
	授業内容	ガイダンス:文献の選択とすすめかたの説明
	事後学修	文献を検索し,概要をつかむ。【3 時間】
第2回	事前学修	アブストラクトを読み,発表の準備をする。【3 時間】
	授業内容	アブストラクト講読
	事後学修	アブストラクトの書き方を整理する。【1 時間】
第3回	事前学修	問題の部分を読み,発表の準備をする。【3 時間】
	授業内容	問題の整理
	事後学修	問題の書き方の要点を整理する。【1 時間】
第4回	事前学修	仮説の部分を読み,発表の準備をする。【3 時間】
	授業内容	仮説と予測
	事後学修	仮説,予測の要点を整理する。【1 時間】
第5回	事前学修	方法の部分を読み,実験計画を整理する。【3 時間】
	授業内容	実験計画
	事後学修	実験計画の要点を整理する。【1 時間】
第6回	事前学修	方法の部分を読み,変数の操作について整理する。【3 時間】
	授業内容	変数の操作と統制
	事後学修	変数の統制について整理する。【1 時間】
第7回	事前学修	方法の部分を読み,測度について整理する。【3 時間】
	授業内容	測度
	事後学修	測度を選択する際の要点を整理する。【1 時間】
第8回	事前学修	結果の部分を読み,結果の要点を整理する。【3 時間】
	授業内容	重要な事実とは
	事後学修	結果を記述するための要点を整理する。【1 時間】
第9回	事前学修	考察の部分を読み,考察の展開を理解する。【3 時間】
	授業内容	考察(1);構成と展開
	事後学修	考察の構成を整理する。【1 時間】
第10回	事前学修	考察の部分を読み,結果をどのように評価しているかを理解する。【3 時間】
	授業内容	結果の評価
	事後学修	実験結果の評価のしかたを整理する。【1 時間】
第11回	事前学修	考察の部分を読み,理論的な意義を理解する。【3 時間】
	授業内容	理論的意義
	事後学修	理論的な意義についての考え方を整理する。【1 時間】
第12回	事前学修	指定された文献を読み,研究の立案の過程を理解する。【3 時間】
	授業内容	研究の立案
	事後学修	研究の立案で留意すべきことを整理する。【1 時間】
第13回	事前学修	指定された文献を読み,実験計画の概要を理解する。【3 時間】
	授業内容	実験計画の要点
	事後学修	実験計画の具体的例を整理する。【1 時間】
第14回	事前学修	指定された文献を読み,論文投稿の過程を理解する。【3 時間】
	授業内容	論文の投稿と評価
	事後学修	論文の投稿,公開の意義について整理する。【1 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	前期に取り上げた文献を整理する。【1 時間】 総括と文献レポート提出 文献レポートをまとめる。【3 時間】
第 16 回	事前学修 授業内容 事後学修	あらかじめ指示された文献リストの概要を理解する。【3 時間】 文献の選択とすすめかた 選択した文献について,その構成を理解する。【1 時間】
第 17 回	事前学修 授業内容 事後学修	文献を読み,研究の動向を理解する。【3 時間】 問題の整理 研究の問題点を整理する。【1 時間】
第 18 回	事前学修 授業内容 事後学修	取り上げた問題について,関連する文献を検索する。【3 時間】 知覚学習の理論:解説 文献の内容を整理する。【1 時間】
第 19 回	事前学修 授業内容 事後学修	文献を読み,仮説を理解する。【3 時間】 文献講読(1) 仮説 仮説と具体的予測を整理する。【1 時間】
第 20 回	事前学修 授業内容 事後学修	文献を読み,方法を理解する。【3 時間】 文献講読(2) 方法 実験方法の特徴を整理する。【1 時間】
第 21 回	事前学修 授業内容 事後学修	文献を読み、結果の概要を理解する。【3 時間】 文献講読(3) 結果 結果から何が言えたのかを整理する。【1 時間】
第 22 回	事前学修 授業内容 事後学修	実験の準備をおこなう。【2 時間】 実験実習(1):実験 1 データの整理をおこなう。【2 時間】
第 23 回	事前学修 授業内容 事後学修	実験の準備をおこなう。【2 時間】 実験実習(2):実験 2 データの整理の準備をおこなう。【2 時間】
第 24 回	事前学修 授業内容 事後学修	データの分析の手順を整理する。【1 時間】 実験実習(3):データ分析 (1) 分析方針の検討 検討した方法でデータを分析する。【3 時間】
第 25 回	事前学修 授業内容 事後学修	分析の問題点を検討する。【3 時間】 実験実習(4):データ分析 (2) 分析結果の整理 追加のデータ分析をおこなう。【1 時間】
第 26 回	事前学修 授業内容 事後学修	目的,仮説に則して結果を整理する。【3 時間】 実験実習(5):データ分析 (3) 分析結果の評価 結果を評価する。【1 時間】
第 27 回	事前学修 授業内容 事後学修	結果から何か言えるのかを考察する。【3 時間】 実験結果についての考察 考察の要点を整理する。【1 時間】
第 28 回	事前学修 授業内容 事後学修	実験結果を図表にまとめる。【3 時間】 実験レポートの作成(1) 結果 方法と結果を文章化する。【1 時間】
第 29 回	事前学修 授業内容 事後学修	問題と考察の草稿を準備する。【3 時間】 実験レポートの作成(2) 考察 問題と考察を文章化する。【1 時間】
第 30 回	事前学修 授業内容 事後学修	レポート全体をまとめる。【3 時間】 後期の総括 指摘された点を修正してレポートを提出する。【1 時間】

【成績評価の方法】
文献の講読・発表(50%)と、レポート(50%)による総合評価をおこなう。

【フィードバック】
HP において、レポートの結果についてのフィードバックを行う。
http://hideyukiunuma.wixsite.com/visualperception

【テキスト】
前後期とも,公刊された学術論文を指定する。それぞれの初回に受講者と相談の上、決定する。

【参考書】
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』(教育出版)

【履修上の注意等】
前期は、知覚と感情についての研究を取り上げる。文献講読を中心にすすめる。
後期は、知覚と学習、意思決定、あるいは応用的な研究を取り上げる。実験実習を含める。

授業科目名： 認知心理学特講(1)	専攻･領域：心理・行動
担当教員名：鵜沼 秀行	501921／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
1. 感情と認知の関わりを中心に認知心理学の最近の研究を理解できる。
2. 専門的な研究方法について実践的に理解できる。
3. 認知心理学の知識と技能を教育などの実践的な分野で活用できる。

【授業の概要(目的)】
認知と感情をめぐる最近の研究について文献講読により理解する。特に、対人場面など社会的な文脈における知覚と感情の関係を取り上げる。また、研究方法について実習をおこなう。

【ディプロマ・ポリシー番号】２・４

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	シラバスを読み、講義の概要、目的を理解する。【1 時間】 ガイダンス:文献の選択とすすめかたの説明 文献を検索し概要をつかむ。【3 時間】
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	文献の構成を理解する【2 時間】。 文献講読(1)(論文の構成、発表の分担) 分担する文献の概要を理解する【2 時間】。
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	文献の要約(Abstract)を読む【2 時間】。 文献講読(2)(Abstract) Abstract の書き方を整理する【2 時間】。
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	論文の導入部分を読む【2 時間】。 文献講読(3)(導入部分) 導入部分の構成を整理する【2 時間】。
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	先行研究を整理する【2 時間】。 文献講読(4)(先行研究の整理) 先行研究の要点をまとめる【2 時間】。
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	検証される仮説は何かを理解する【2 時間】。 文献講読(5)(仮説) 仮説の立て方を具体的に整理する【2 時間】。
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	方法を理解する【2 時間】。 文献講読(6)(方法) 方法を記述する際の留意点をまとめる【2 時間】。
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	結果の概要を理解する【2 時間】。 文献講読(7)(結果の記述) 結果を記述する際の留意点をまとめる【2 時間】。
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	考察の部分を読み、内容を理解する【2 時間】。 文献講読(8)(考察の展開) 考察の展開のしかたを整理する【2 時間】。
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習の概要を理解する【2 時間】。 実験実習(1)(概要) 実習の計画を整理する【2 時間】。
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	データ収集の準備をする【2 時間】。 実験実習(2)(データ収集) データ収集の記録を整理する【2 時間】。
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	報告する文献を要約する【3 時間】。 文献報告(1)(概要) 文献の要点を整理する【1 時間】。
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	文献の問題点を整理する【2 時間】。 文献報告(2)(討論) 文献についての意見を整理する【2 時間】。
第 14	事前学修 授業内容	レポートの準備をする【1 時間】。 文献報告(3)(文献ﾚﾎﾟｰﾄ作成)

回	事後学修	レポートを作成する【3 時間】。
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	レポート提出の用意をする【2 時間】。 まとめと講評(フィードバック) レポートを自己添削する【2 時間】。

【成績評価の方法】
発表等への参加(50%)、実習への参加(10%)、文献ﾚﾎﾟｰﾄ(40%)による総合評価。

【フィードバック】
HP において、実習およびレポートの結果についてのフィードバックを行う。
http://hideyukiunuma.wixsite.com/visualperception

【テキスト】
以下の学術雑誌、あるいは同等のものから文献を選択する。
Emotion、Journal of Experimental Psychology: Human perception and performance 他

【参考書】
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』(教育出版)

【履修上の注意等】
実習の時期は、シラバスの記載から変更することがある。また、時間割外の時間、場所で実施することがある。なお、実習結果のデータ分析、実験レポートの提出などは求めない。

授業科目名： 認知心理学特講(2)	専攻･領域：心理・行動
担当教員名：鵜沼 秀行	501922／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
1. 知覚と学習を中心とする認知心理学の最近の研究を理解できる。
2. 専門的な研究方法について実践的に理解できる。
3. 認知心理学の知識と技能を教育などの実践的な分野で活用できる。

【授業の概要(目的)】
知覚と学習を中心に最近の認知心理学の研究を直接に文献にあたることにより理解する。特に、教育･産業など社会的な場面における経験による知覚･認知の変容を問題とする。また、研究方法について実習をおこなう。

【ディプロマ・ポリシー番号】２・４

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	シラバスを読み、講義の概要、目的を理解する。【1 時間】 ガイダンス:文献の選択とすすめかたの説明 文献を検索し概要をつかむ。【3 時間】
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	文献の構成を理解する【2 時間】。 文献講読(1)(論文の構成、発表の分担) 分担する文献の概要を理解する【2 時間】。
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	文献の要約(Abstract)を読む【2 時間】。 文献講読(2)(Abstract) Abstract の書き方を整理する【2 時間】。
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	論文の導入部分を読む【2 時間】。 文献講読(3)(導入部分) 導入部分の構成を整理する【2 時間】。
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	先行研究を整理する【2 時間】。 文献講読(4)(先行研究の整理) 先行研究の要点をまとめる【2 時間】。
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	検証される仮説は何かを理解する【2 時間】。 文献講読(5)(仮説) 仮説の立て方を具体的に整理する【2 時間】。
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	方法を理解する【2 時間】。 文献講読(6)(方法) 方法を記述する際の留意点をまとめる【2 時間】。
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	結果の概要を理解する【2 時間】。 文献講読(7)(結果の記述) 結果を記述する際の留意点をまとめる【2 時間】。
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	考察の部分を読み、内容を理解する【2 時間】。 文献講読(8)(考察の展開) 考察の展開のしかたを整理する【2 時間】。
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習の概要を理解する【2 時間】。 実験実習(1)(概要) 実習の計画を整理する【2 時間】。
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	データ収集の準備をする【2 時間】。 実験実習(2)(データ収集) データ収集の記録を整理する【2 時間】。
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	報告する文献を要約する【3 時間】。 文献報告(1)(概要) 文献の要点を整理する【1 時間】。
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	文献の問題点を整理する【2 時間】。 文献報告(2)(討論) 文献についての意見を整理する【2 時間】。
第 14	事前学修 授業内容	レポートの準備をする【1 時間】。 文献報告(3)(文献ﾚﾎﾟｰﾄ作成)

回	事後学修	レポートを作成する【3 時間】。
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	レポート提出の用意をする【2 時間】。 まとめと講評(フィードバック) レポートを自己添削する【2 時間】。

【成績評価の方法】
発表等への参加(50%)、実習への参加(10%)、文献ﾚﾎﾟｰﾄ(40%)による総合評価。

【フィードバック】
HP において、実習およびレポートの結果についてのフィードバックを行う。
http://hideyukiunuma.wixsite.com/visualperception

【テキスト】
以下の学術雑誌、あるいは同等のものから文献を選択する。
Cognitive Psychology、Journal of Experimental Psychology: Human perception and performance 他

【参考書】
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』(教育出版)

【履修上の注意等】
実習の時期は、シラバスの記載から変更することがある。また、時間割外の時間、場所で実施することがある。なお、実習結果のデータ分析、実験レポートの提出などは求めない。

授業科目名： 産業・労働分野に関する理論と支援の展開	専攻･領域：心理・臨床
担当教員名：生越 由夏	501701／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
（1）産業・労働分野におけるメンタルヘルスの現状及び対策の重要性を説明できる。
（2）メンタルヘルス対策における予防的支援（ストレスチェック後の相談対応、教育研修等）を実践できる。

【授業の概要(目的)】
産業構造、経済状況等のめまぐるしい変化に伴い、労働環境は厳しさを増している。そのため、労働者の心理的問題を、個人と組織、社会環境との関係性の中で理解する視点を学び、支援の実践的基礎を作る。

【ディプロマ・ポリシー番号】２

【授業計画】

第1回	事前学修	労働者の心理的問題に影響を与えている社会的背景を調べる【２時間】
	授業内容	産業・労働分野における心理臨床
	事後学修	講義内容をまとめる【２時間】
第2回	事前学修	労働者のメンタルヘルスの現状について調べる【２時間】
	授業内容	労働者のメンタルヘルスの現状と対策
	事後学修	メンタルヘルス対策の重要性を整理する【２時間】
第3回	事前学修	労働者が抱える職場ストレスを調べる【２時間】
	授業内容	産業・労働分野における心理支援のための理論（1）職業性ストレスモデル
	事後学修	職場ストレスによる健康への影響を整理する【２時間】
第4回	事前学修	キャリア発達の理論を予習する【２時間】
	授業内容	産業・労働分野における心理支援のための理論（2）キャリアの心理学
	事後学修	講義内容をまとめる【２時間】
第5回	事前学修	産業・組織心理学を予習する【２時間】
	授業内容	産業・労働分野における心理支援のための理論（3）産業・組織心理学
	事後学修	労働者個人のメンタルヘルスに影響を及ぼす組織の問題を整理する【２時間】
第6回	事前学修	労働安全衛生法（心の健康関連）について調べる【２時間】
	授業内容	産業・労働分野に関わる法令
	事後学修	法令を整理する【２時間】
第7回	事前学修	ストレスチェック制度がどのようなものか調べる【２時間】
	授業内容	ストレスチェック（1）ストレスチェック制度の概要
	事後学修	職業性ストレス簡易調査票の構成を復習する【２時間】
第8回	事前学修	ストレスチェックの結果の読み方を確認する【２時間】
	授業内容	ストレスチェック（2）実施後の相談対応
	事後学修	結果の読み方を説明できるよう復習する【２時間】
第9回	事前学修	個人及び職場が活性化する環境とはどのようなものか整理する【２時間】
	授業内容	ストレスチェック（3）職場環境の把握とコンサルテーション
	事後学修	職場環境改善が個人や職場全体に及ぼす影響を復習する【２時間】
第10回	事前学修	メンタルヘルスの教育研修にはどのようなものがあるか調べる【２時間】
	授業内容	メンタルヘルス教育研修（1）教育研修の重要性と進め方
	事後学修	セルフケアの教育研修の方法を復習する【２時間】
第11回	事前学修	管理監督者向けのメンタルヘルス教育研修の重要性を調べる【２時間】
	授業内容	メンタルヘルス教育研修（2）研修会の実施
	事後学修	実施した研修会の振り返りをして課題を整理する【２時間】
第12回	事前学修	事業場外資源とはどのようなものか調べる【２時間】
	授業内容	事業場内と事業場外資源の活用
	事後学修	事業場外資源との連携方法について整理する【２時間】
第13回	事前学修	職場復帰支援とはどのようなものか調べる【２時間】
	授業内容	職場復帰支援
	事後学修	職場復帰支援の基本的な流れを整理する【２時間】
第14回	事前学修	産業・労働分野における心理職のその他の活動を調べる【２時間】
	授業内容	産業・労働分野におけるその他の心理支援
	事後学修	講義内容をまとめる【２時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	心理職が職場のメンタルヘルスの専門家として活動していくための課題を整理する【２時間】 今後のメンタルヘルス対策に向けて 講義内容をまとめる【２時間】

【成績評価の方法】
発表 30%、課題 30%、平常点（出席状況・授業への積極的関与）40%として総合的に評価する。

【フィードバック】
課題についてはコメントを付けて返却する。

【テキスト】
金井篤子編『心の専門家養成講座第８巻　産業心理臨床実践 個(人)と職場・組織を支援する』ﾅｶﾆｼﾔ出版
この他、必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
特になし。必要に応じて紹介する。

【履修上の注意等】
産業領域の心理支援には、絶え間なく変化する産業構造等、労働者を取り巻く社会環境理解が不可欠です。そのため、授業では毎回、労働者に影響を及ぼすトピックを発表してもらい、皆で社会環境理解を深めます。
また、学部での集団・組織心理学についてのおおよその知識を前提に進めますので、各自で必要に応じて学習下さい。なお、授業の進捗状況により、授業内容や順序を相談の上変更する場合があります。

授業科目名：司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	専攻･領域：心理・臨床
担当教員名：小畠 秀吾	501705／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
犯罪の要因を個人（ミクロ）から社会（マクロ）までの種々のレベルで説明できる。
再犯予防のためにどのような対策が行われているかを説明できる。

【授業の概要(目的)】
各種精神障害と犯罪との関わりを、司法精神鑑定事例を通じて説明する。また、犯罪種別ごとにその心理学的特性や要因を説明する。

【ディプロマ・ポリシー番号】2・3

【授業計画】

第1回	事前学修	犯罪学諸理論（アノミー理論、分化接触理論、漂流理論、統制理論など）を調べる。【2 時間】
	授業内容	犯罪心理学概論
	事後学修	講義内容を整理する。授業内容の関連事項を自分で調べる。【２時間】
第2回	事前学修	精神鑑定と刑事責任能力について調べ、自分の考えをまとめる【2 時間】
	授業内容	精神障害と犯罪①　精神鑑定と刑事責任能力
	事後学修	講義内容を整理する。授業内容の関連事項を自分で調べる。【2 時間】
第3回	事前学修	触法精神障害と医療観察法について調べ、自分の考えをまとめる【2 時間】
	授業内容	精神障害と犯罪②　触法精神障害者の治療、医療観察法
	事後学修	講義内容を整理する。授業内容の関連事項を自分で調べる。【2 時間】
第4回	事前学修	性犯罪者の心理特性や犯罪に至るプロセスを調べる【2 時間】
	授業内容	性犯罪①　性犯罪の理論
	事後学修	講義内容を整理する。授業内容の関連事項を自分で調べる。【2 時間】
第5回	事前学修	性犯罪者の心理学的理解に基づき、どのような対策が行われているか調べる【2 時間】
	授業内容	性犯罪②　性犯罪者の治療と再犯予防
	事後学修	講義内容を整理する。授業内容の関連事項を自分で調べる。【2 時間】
第6回	事前学修	薬物乱用や中毒について調べ、自分の考えをまとめる【2 時間】
	授業内容	薬物犯罪　乱用・依存・中毒
	事後学修	講義内容を整理する。授業内容の関連事項を自分で調べる。【2 時間】
第7回	事前学修	女性の犯罪の現状と特徴について調べ、自分の考えをまとめる【2 時間】
	授業内容	ジェンダーと犯罪
	事後学修	講義内容を整理する。授業内容の関連事項を自分で調べる。【2 時間】
第8回	事前学修	発達障害と非行・犯罪との関係について文献などをもとに調べる【2 時間】
	授業内容	発達障害と非行・犯罪
	事後学修	講義内容を整理する。授業内容の関連事項を自分で調べる。【2 時間】
第9回	事前学修	詐病と拘禁反応について調べ、自分の考えをまとめる【2 時間】
	授業内容	詐病と拘禁反応
	事後学修	講義内容を整理する。授業内容の関連事項を自分で調べる。【2 時間】
第10回	事前学修	訴訟能力の概念とそれに関連する心理学的要素について調べる【2 時間】
	授業内容	訴訟能力とは何か
	事後学修	講義内容を整理する。授業内容の関連事項を自分で調べる。【2 時間】
第11回	事前学修	リスク・アセスメントについて調べる【2 時間】
	授業内容	リスク・アセスメントの考え方
	事後学修	講義内容を整理する。授業内容の関連事項を自分で調べる。【2 時間】
第12回	事前学修	第２回の内容を復習するとともに、心理検査について理解を深めておく【2 時間】
	授業内容	精神鑑定における心理検査
	事後学修	講義内容を整理する。授業内容の関連事項を自分で調べる。【2 時間】
第13回	事前学修	これまでの授業で扱った内容を復習し、理解を深める【2 時間】
	授業内容	事例討論
	事後学修	講義内容を整理する。授業内容の関連事項を自分で調べる。【2 時間】
第14回	事前学修	国内外において、加害者の更生のためにどのような対策が行なわれているか調べる【2 時間】
	授業内容	映画「ライファーズ」鑑賞
	事後学修	映画を見て新たに知ったことについて自分で調べる。【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまでの講義内容を整理する。 まとめと試験 試験結果を整理する。

【成績評価の方法】
試験 50%、レポート 50%

【フィードバック】
レポートへのコメントを返却する。

【テキスト】
特になし

【参考書】
安香宏：犯罪心理学への招待.サイエンス社, 2008.
小畠秀吾：犯罪精神医学拾遺. 時空出版, 2015.

【履修上の注意等】
特になし

授業科目名： 社会心理学研究	専攻・領域：心理・行動
担当教員名：桂　瑠以	501505／通年／選必／4 単位／講義

【到達目標】
社会心理学の研究を概観し、基礎的概念や研究方法などが理解できる。さらに現代社会において、人はどのように行動しているのか、個人が集団や社会とどのようにかかわっているのかなどを理解し、考察を深められるようになる。

【授業の概要(目的)】
社会心理学の実証的研究をとりあげ、その研究成果を整理するとともに、課題を検討する。また、社会心理学で用いられることが多い実験法や質問紙法などの研究法について概観し、理解する。

【ディプロマ・ポリシー番号】２・４

【授業計画】

第1回	事前学修	社会心理の位置づけに関する予習【2 時間】
	授業内容	初回ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ～社会心理学とは～
	事後学修	社会調査の目的・意義に関する復習【2 時間】
第2回	事前学修	社会心理学の研究法に関する予習【2 時間】
	授業内容	社会心理学の研究法
	事後学修	社会心理学の研究法に関する復習【2 時間】
第3回	事前学修	対人認知に関する予習【2 時間】
	授業内容	対人認知
	事後学修	対人認知に関する復習【2 時間】
第4回	事前学修	社会的認知に関する予習【2 時間】
	授業内容	社会的認知
	事後学修	社会的認知に関する復習【2 時間】
第5回	事前学修	帰属過程に関する予習【2 時間】
	授業内容	帰属過程(1)
	事後学修	帰属過程に関する復習【2 時間】
第6回	事前学修	帰属過程に関する予習【2 時間】
	授業内容	帰属過程(2)
	事後学修	帰属過程に関する復習【2 時間】
第7回	事前学修	態度に関する予習【2 時間】
	授業内容	態度(1) ～態度とは～
	事後学修	態度に関する復習【2 時間】
第8回	事前学修	態度に関する予習【2 時間】
	授業内容	態度(2) ～態度変容～
	事後学修	態度に関する復習【2 時間】
第9回	事前学修	感情に関する予習【2 時間】
	授業内容	感情(1) ～感情とは～
	事後学修	感情に関する復習【2 時間】
第10回	事前学修	感情に関する予習【2 時間】
	授業内容	感情(2) ～感情のもたらす影響～
	事後学修	感情に関する復習【2 時間】
第11回	事前学修	自己と他者に関する予習【2 時間】
	授業内容	自己と他者(1) ～自己を理解する～
	事後学修	自己と他者に関する復習【2 時間】
第12回	事前学修	自己と他者に関する予習【2 時間】
	授業内容	自己と他者(2) ～他者を理解する～
	事後学修	自己と他者に関する復習【2 時間】
第13回	事前学修	社会的適応に関する予習【2 時間】
	授業内容	社会的適応(1) ～ｽﾄﾚｽへの対処・適応～
	事後学修	社会的適応に関する復習【2 時間】
第14回	事前学修	社会的適応に関する予習【2 時間】
	授業内容	社会的適応(2) ～幸福・ﾎﾟｼﾞﾃｨﾌﾞな人間関係～
	事後学修	社会的適応に関する復習【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	前期のまとめに関する予習【2 時間】 まとめ(1) 前期のまとめに関する復習【2 時間】
第 16 回	事前学修 授業内容 事後学修	援助行動に関する予習【2 時間】 援助行動 援助行動に関する復習【2 時間】
第 17 回	事前学修 授業内容 事後学修	攻撃行動に関する予習【2 時間】 攻撃行動 攻撃行動に関する復習【2 時間】
第 18 回	事前学修 授業内容 事後学修	対人行動に関する予習【2 時間】 対人行動(1)　～対人魅力～ 対人行動に関する復習【2 時間】
第 19 回	事前学修 授業内容 事後学修	対人行動に関する予習【2 時間】 対人行動(2)　～対人葛藤～ 対人行動に関する復習【2 時間】
第 20 回	事前学修 授業内容 事後学修	集団の影響に関する予習【2 時間】 集団の影響(1)　～集団の特徴～ 集団の影響に関する復習【2 時間】
第 21 回	事前学修 授業内容 事後学修	集団の影響に関する予習【2 時間】 集団の影響(2)　～集団での相互作用～ 集団の影響に関する復習【2 時間】
第 22 回	事前学修 授業内容 事後学修	集団とﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟに関する予習【2 時間】 集団とﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ(1)　～ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟとは～ 集団とﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟに関する復習【2 時間】
第 23 回	事前学修 授業内容 事後学修	集団とﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟに関する予習【2 時間】 集団とﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ(2)　～ﾘｰﾀﾞｰとﾌｫﾛﾜｰ～ 集団とﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟに関する復習【2 時間】
第 24 回	事前学修 授業内容 事後学修	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと対人関係に関する予習【2 時間】 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと対人関係(1)　～ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの概念～ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと対人関係に関する復習【2 時間】
第 25 回	事前学修 授業内容 事後学修	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと対人関係に関する予習【2 時間】 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと対人関係(2)　～言語・非言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ～ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと対人関係に関する復習【2 時間】
第 26 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝに関する予習【2 時間】 ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝに関する復習【2 時間】
第 27 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾏｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝに関する予習【2 時間】 ﾏｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ ﾏｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝに関する復習【2 時間】
第 28 回	事前学修 授業内容 事後学修	社会的影響に関する予習【2 時間】 社会的影響 社会的影響に関する復習【2 時間】
第 29 回	事前学修 授業内容 事後学修	世論と社会過程に関する予習【2 時間】 世論と社会過程 世論と社会過程に関する復習【2 時間】
第 30 回	事前学修 授業内容 事後学修	後期のまとめに関する予習【2 時間】 まとめ(2) 後期のまとめに関する復習【2 時間】

【成績評価の方法】
講義中の発表(40%)、討論での発言(30%)、出席状況(30%)によって総合的に評価する。

【フィードバック】
レポートや発表にはコメント等のフィードバックを行う。

【テキスト】
特に指定しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　公民編』(教育出版)

【履修上の注意等】
授業計画の順序及び内容については履修者と相談の上、変更する場合がある。授業は発表・討論形式で進めることが多いため、遅刻・欠席は他の受講生に迷惑を及ぼすので避けてほしい。

授業科目名： 社会心理学特講(1)	専攻･領域：心理・行動
担当教員名：桂　瑠以	501919／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
社会心理学研究の概要を理解し、身の回りの事象を社会心理学の観点からとらえることができる。さらに他者と共に生きる自己を理解し、自己の在り方について考察を深められる。

【授業の概要(目的)】
私たちを取り巻く社会の現状や、こころの問題について、実証研究に基づいて検討する。そして人の生き方やこころに関する諸問題の原因を心理学的観点からとらえ、今後の課題を考察する。

【ディプロマ・ポリシー番号】2・4

【授業計画】

第1回	事前学修	社会心理学の位置づけに関する予習【2 時間】
	授業内容	初回ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ～社会心理学とは～
	事後学修	社会心理学の位置づけに関する復習【2 時間】
第2回	事前学修	社会心理学のｱﾌﾟﾛｰﾁに関する予習【2 時間】
	授業内容	社会心理学のｱﾌﾟﾛｰﾁ
	事後学修	社会心理学のｱﾌﾟﾛｰﾁに関する復習【2 時間】
第3回	事前学修	対人認知に関する予習【2 時間】
	授業内容	対人認知
	事後学修	対人認知に関する復習【2 時間】
第4回	事前学修	原因帰属に関する予習【2 時間】
	授業内容	原因帰属
	事後学修	原因帰属に関する復習【2 時間】
第5回	事前学修	態度に関する予習【2 時間】
	授業内容	態度
	事後学修	態度に関する復習【2 時間】
第6回	事前学修	感情に関する予習【2 時間】
	授業内容	感情
	事後学修	感情に関する復習【2 時間】
第7回	事前学修	自己呈示･自己開示に関する予習【2 時間】
	授業内容	自己と他者①　～自己呈示･自己開示～
	事後学修	自己呈示･自己開示に関する復習【2 時間】
第8回	事前学修	印象形成に関する予習【2 時間】
	授業内容	自己と他者②　～印象形成～
	事後学修	印象形成に関する復習【2 時間】
第9回	事前学修	援助行動に関する予習【2 時間】
	授業内容	対人行動①　～援助行動～
	事後学修	援助行動に関する復習【2 時間】
第10回	事前学修	攻撃行動に関する予習【2 時間】
	授業内容	対人行動②　～攻撃行動～
	事後学修	攻撃行動に関する復習【2 時間】
第11回	事前学修	集団行動に関する予習【2 時間】
	授業内容	集団とﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ①　～集団行動～
	事後学修	集団行動に関する復習【2 時間】
第12回	事前学修	ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ理論に関する予習【2 時間】
	授業内容	集団とﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ②　～ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ理論～
	事後学修	ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ理論に関する復習【2 時間】
第13回	事前学修	異文化理解に関する予習【2 時間】
	授業内容	文化と社会①　～異文化理解～
	事後学修	異文化理解に関する復習【2 時間】
第14回	事前学修	日本文化の特徴に関する予習【2 時間】
	授業内容	文化と社会②　～日本文化の特徴～
	事後学修	日本文化の特徴に関する復習【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	授業のまとめに関する予習【2 時間】 まとめ 授業のまとめに関する復習【2 時間】

【成績評価の方法】
講義中の発表(40%)、討論での発言(30%)、出席状況(30%)によって総合的に評価する。

【フィードバック】
レポートや発表にはコメント等のフィードバックを行う。

【テキスト】
特に指定しない。適宜ﾌﾟﾘﾝﾄを配布する。

【参考書】
堀洋道(監)、吉田富二雄・松井豊・宮本聡介(編)『新編 社会心理学』
池上知子・遠藤由美(著)『ｸﾞﾗﾌｨｯｸ社会心理学』

【履修上の注意等】
授業計画の順序及び内容については履修者と相談の上、変更する場合がある。基本的に、授業は発表・討論形式で行うため、遅刻・欠席は他の受講生に迷惑を及ぼすので避けてほしい。

授業科目名： 社会心理学特講(2)	専攻･領域：心理・行動
担当教員名：桂　瑠以	501920／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
対人関係やｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝに関する概念や理論を理解し、よりよい対人関係を築く方法やｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｽｷﾙを身につけられる。さらに他者と共に生きる自己を理解し、自己の在り方について考察を深められる。

【授業の概要(目的)】
社会心理学の中でも、対人関係やｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝに関する概念や理論を学び、これらに関わる問題を様々な事例と研究例に基づいて考察する。

【ディプロマ・ポリシー番号】2・4

【授業計画】

第1回	事前学修	人と人との関わりに関する予習【2 時間】
	授業内容	初回ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ－人と人との関わり－
	事後学修	人と人との関わりに関する復習【2 時間】
第2回	事前学修	対人距離に関する予習【2 時間】
	授業内容	対人距離
	事後学修	対人距離に関する復習【2 時間】
第3回	事前学修	対人魅力に関する予習【2 時間】
	授業内容	対人魅力
	事後学修	対人魅力に関する復習【2 時間】
第4回	事前学修	対人関係の発展に関する予習【2 時間】
	授業内容	対人関係の発展
	事後学修	対人関係の発展に関する復習【2 時間】
第5回	事前学修	対人葛藤に関する予習【2 時間】
	授業内容	対人葛藤
	事後学修	対人葛藤に関する復習【2 時間】
第6回	事前学修	人とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝに関する予習【2 時間】
	授業内容	人とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
	事後学修	人とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝに関する復習【2 時間】
第7回	事前学修	非言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝに関する予習【2 時間】
	授業内容	非言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
	事後学修	非言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝに関する復習【2 時間】
第8回	事前学修	言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝに関する予習【2 時間】
	授業内容	言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
	事後学修	言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝに関する復習【2 時間】
第9回	事前学修	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己に関する予習【2 時間】
	授業内容	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己
	事後学修	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと自己に関する復習【2 時間】
第10回	事前学修	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝとﾒﾃﾞｨｱに関する予習【2 時間】
	授業内容	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝとﾒﾃﾞｨｱ
	事後学修	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝとﾒﾃﾞｨｱに関する復習【2 時間】
第11回	事前学修	ﾏｽ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝに関する予習【2 時間】
	授業内容	ﾏｽ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
	事後学修	ﾏｽ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝに関する復習【2 時間】
第12回	事前学修	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの社会的影響に関する予習【2 時間】
	授業内容	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの社会的影響
	事後学修	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの社会的影響に関する復習【2 時間】
第13回	事前学修	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと組織集団に関する予習【2 時間】
	授業内容	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと組織集団
	事後学修	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと組織集団に関する復習【2 時間】
第14回	事前学修	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと社会に関する予習【2 時間】
	授業内容	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと社会
	事後学修	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと社会に関する復習【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	授業のまとめに関する予習【2 時間】 まとめ 授業のまとめに関する復習【2 時間】

【成績評価の方法】
講義中の発表(40%)、討論での発言(30%)、出席状況(30%)によって総合的に評価する。

【フィードバック】
レポートや発表にはコメント等のフィードバックを行う。

【テキスト】
特に指定しない。適宜ﾌﾟﾘﾝﾄを配布する。

【参考書】
『心理学研究法 社会』大山正(監)岡隆(編著) 誠信書房.
『展望 現代の社会心理学(2)ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと対人関係』相川充・高井次郎(編著) 誠信書房.
『ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの心理学』松尾太加志 ﾅｶﾆｼﾔ出版.

【履修上の注意等】
授業計画の順序及び内容については履修者と相談の上、変更する場合がある。基本的に、授業は発表・討論形式で行うため、遅刻・欠席は他の受講生に迷惑を及ぼすので避けてほしい。

授業科目名： 集団力学特講(1)	専攻･領域：心理・行動
担当教員名：桂　瑠以	501917／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
集団心理学の概要を学び、集団心理の理論や基礎的概念を理解できる。また集団や社会とのかかわりを通して自己の在り方を探求し、考察を深められる。

【授業の概要(目的)】
集団心理学の実証的研究をとりあげ､その研究成果を整理するとともに､課題を検討する。

【ディプロマ・ポリシー番号】2・4

【授業計画】

第1回	事前学修	集団心理の目的に関する予習【2時間】
	授業内容	初回オリエンテーション～集団心理とは～
	事後学修	集団心理の目的に関する復習【2時間】
第2回	事前学修	集団の枠組みに関する予習【2時間】
	授業内容	集団の枠組み(1)
	事後学修	集団の枠組みに関する復習【2時間】
第3回	事前学修	集団の枠組みに関する予習【2時間】
	授業内容	集団の枠組み(2)
	事後学修	集団の枠組みに関する復習【2時間】
第4回	事前学修	集団の機能に関する予習【2時間】
	授業内容	集団の機能(1)
	事後学修	集団の機能に関する復習【2時間】
第5回	事前学修	集団の機能に関する予習【2時間】
	授業内容	集団の機能(2)
	事後学修	集団の機能に関する復習【2時間】
第6回	事前学修	集団の形成と発達に関する予習【2時間】
	授業内容	集団の形成と発達(1)
	事後学修	集団の形成と発達に関する復習【2時間】
第7回	事前学修	集団の形成と発達に関する予習【2時間】
	授業内容	集団の形成と発達(2)
	事後学修	集団の形成と発達に関する復習【2時間】
第8回	事前学修	集団意思決定に関する予習【2時間】
	授業内容	集団意思決定
	事後学修	集団意思決定に関する復習【2時間】
第9回	事前学修	集団の生産性に関する予習【2時間】
	授業内容	集団の生産性
	事後学修	集団の生産性に関する復習【2時間】
第10回	事前学修	リーダーとフォロワーに関する予習【2時間】
	授業内容	リーダーとフォロワー
	事後学修	リーダーとフォロワーに関する復習【2時間】
第11回	事前学修	集団での相互作用に関する予習【2時間】
	授業内容	集団での相互作用(1)
	事後学修	集団での相互作用に関する復習【2時間】
第12回	事前学修	集団での相互作用に関する予習【2時間】
	授業内容	集団での相互作用(2)
	事後学修	集団での相互作用に関する復習【2時間】
第13回	事前学修	集団間葛藤とその解消に関する予習【2時間】
	授業内容	集団間葛藤とその解消(1)
	事後学修	集団間葛藤とその解消に関する復習【2時間】
第14回	事前学修	集団間葛藤とその解消に関する予習【2時間】
	授業内容	集団間葛藤とその解消(2)
	事後学修	集団間葛藤とその解消に関する復習【2時間】
第	事前学修	授業のまとめに関する予習【2時間】

15 回	授業内容 事後学修	まとめ 授業のまとめに関する復習【２時間】

【成績評価の方法】
講義中の発表(40%)、討論での発言(30%)、出席状況(30%)によって総合的に評価する。

【フィードバック】
レポートや発表にはコメント等のフィードバックを行う。

【テキスト】
特に指定しない。適宜ﾌﾟﾘﾝﾄを配布する。

【参考書】
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　公民編』(教育出版)

【履修上の注意等】
授業計画の順序及び内容については履修者と相談の上、変更する場合がある。授業は発表・討論形式で進めることが多いため、遅刻・欠席は他の受講生に迷惑を及ぼすので避けてほしい。

授業科目名： 集団力学特講(2)	専攻･領域：心理・行動
担当教員名：桂　瑠以	501918／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
集団心理学の概要を学び、集団心理の理論や基礎的概念を理解できる。また集団や社会とのかかわりを通して自己の在り方を探求し、考察を深められる。

【授業の概要(目的)】
集団心理学の実証的研究をとりあげ､その研究成果を整理するとともに､課題を検討する。

【ディプロマ・ポリシー番号】2・4

【授業計画】

第1回	事前学修	集団心理の目的・方法に関する予習【2時間】
	授業内容	初回オリエンテーション～集団の心理と行動～
	事後学修	集団心理の目的・方法に関する復習【2時間】
第2回	事前学修	グループ・ダイナミックスの基礎に関する予習【2時間】
	授業内容	グループ・ダイナミックスの基礎
	事後学修	グループ・ダイナミックスの基礎に関する復習【2時間】
第3回	事前学修	グループ・ダイナミックスの方法と理論に関する予習【2時間】
	授業内容	グループ・ダイナミックスの方法と理論(1)
	事後学修	グループ・ダイナミックスの方法と理論に関する復習【2時間】
第4回	事前学修	グループ・ダイナミックスの方法と理論に関する予習【2時間】
	授業内容	グループ・ダイナミックスの方法と理論(2)
	事後学修	グループ・ダイナミックスの方法と理論に関する復習【2時間】
第5回	事前学修	集合・群衆行動に関する予習【2時間】
	授業内容	集合・群衆行動(1)
	事後学修	集合・群衆行動に関する復習【2時間】
第6回	事前学修	集合・群衆行動に関する予習【2時間】
	授業内容	集合・群衆行動(2)
	事後学修	集合・群衆行動に関する復習【2時間】
第7回	事前学修	パニックに関する予習【2時間】
	授業内容	パニックの心理
	事後学修	パニックに関する復習【2時間】
第8回	事前学修	スケープゴートに関する予習【2時間】
	授業内容	スケープゴート
	事後学修	スケープゴートに関する復習【2時間】
第9回	事前学修	偏見とステレオタイプに関する予習【2時間】
	授業内容	偏見とステレオタイプ
	事後学修	偏見とステレオタイプに関する復習【2時間】
第10回	事前学修	チームワークの形成に関する予習【2時間】
	授業内容	チームワークの形成
	事後学修	チームワークの形成に関する復習【2時間】
第11回	事前学修	チームワークの効果に関する予習【2時間】
	授業内容	チームワークの効果
	事後学修	チームワークの効果に関する復習【2時間】
第12回	事前学修	チームビルディングに関する予習【2時間】
	授業内容	チームビルディング
	事後学修	チームビルディングに関する復習【2時間】
第13回	事前学修	集団とリーダーシップに関する予習【2時間】
	授業内容	集団とリーダーシップ
	事後学修	集団とリーダーシップに関する復習【2時間】
第14回	事前学修	社会的葛藤と解決に関する予習【2時間】
	授業内容	社会的葛藤と解決
	事後学修	社会的葛藤と解決に関する復習【2時間】
第	事前学修	授業のまとめに関する予習【2時間】

15 回	授業内容 事後学修	まとめ 授業のまとめに関する復習【２時間】

【成績評価の方法】
講義中の発表(40%)、討論での発言(30%)、出席状況(30%)によって総合的に評価する。

【フィードバック】
レポートや発表にはコメント等のフィードバックを行う。

【テキスト】
特に指定しない。適宜ﾌﾟﾘﾝﾄを配布する。

【参考書】
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　公民編』(教育出版)

【履修上の注意等】
授業計画の順序及び内容については履修者と相談の上、変更する場合がある。授業は発表・討論形式で進めることが多いため、遅刻・欠席は他の受講生に迷惑を及ぼすので避けてほしい。

授業科目名：　家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	専攻･領域：心理・臨床
担当教員名：北原 靖子	501710／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
家族・集団・地域社会における関係性の評価理、支援、および他機関との連携について理論及びアプローチを学び、心理支援の担い手として支援チームに参加する知識と技能を身につける。

【授業の概要(目的)
家族・集団組織・地域に関する心理学的支援の理論を学んだうえで、今日社会における家族や地域の課題をふまえ、公認心理師としての支援の専門性と職業倫理を培う。

【ディプロマ・ポリシー番号】2・3

【授業計画】

第1回	事前学修	家族の関係性に関する昨今の心理学研究を調べ、レジメを作成しておく【2 時間】
	授業内容	家族の関係性と関係性の把握に関する心理学理論・方法
	事後学修	レジメ発表をふまえて、今日社会の家族をめぐる課題について整理する【2 時間】
第2回	事前学修	家族の関係性支援に関する実践研究を調べ、レジメを作成しておく【2 時間】
	授業内容	家族における関係性支援と心理相談・助言・指導への適用
	事後学修	講義で学んだことからキーワードを抽出し、調べも加えて整理する【2 時間】
第3回	事前学修	集団のもつ特性、形成過程、影響力、リーダーシップについて調べておく【2 時間】
	授業内容	集団とその過程に関する心理学理論
	事後学修	講義で学んだことからキーワードを抽出し、調べも加えて整理する【2 時間】
第4回	事前学修	集団が個人に及ぼす影響について調べておく【2 時間】
	授業内容	集団が個人に及ぼす影響に関する心理学理論
	事後学修	講義で学んだことからキーワードを抽出し、調べも加えて整理する 2 時間】
第5回	事前学修	地域や集団組織に働きかける実践研究を調べ、レジメを作成しておく【2 時間】
	授業内容	地域や集団組織に働きかける心理学的援助
	事後学修	講義で学んだことからキーワードを抽出し、調べも加えて整理する【2 時間】
第6回	事前学修	地域社会・集団組織に関する昨今の心理学研究を調べ、レジメを作成しておく【2 時間】
	授業内容	今日社会における地域・集団組織の在り方と影響力
	事後学修	レジメ発表をふまえて、今日の地域や組織をめぐる課題について整理する【2 時間】
第7回	事前学修	学んだことをふまえて、実際の面接場面の進め方について考えておく【２時間】
	授業内容	家族における関係性の把握と支援に関する模擬面接①（把握）
	事後学修	体験をふまえ、自分が家族関係性支援を行う上での課題を意識化しておく【2 時間】
第8回	事前学修	模擬事例を元に支援計画を組み立て、発表準備をしておく【３時間】
	授業内容	家族における関係性の把握と支援に関する模擬面接②（支援計画）
	事後学修	体験をふまえ、自分が家族関係性支援を行う上での課題を意識化しておく【１時間】
第9回	事前学修	模擬事例を元に、連携の進め方を考え、発表準備をしておく【３時間】
	授業内容	家族における関係性の把握と支援に関する模擬面接③（連携実施とふりかえり）
	事後学修	体験をふまえ、自分が家族関係性支援を行う上での課¥¥題を意識化しておく【１時間】
第10回	事前学修	学んだことをふまえて、実際の連携の進め方について考えておく【2 時間】
	授業内容	多職種が関わる組織集団における心理師の働きかけ①（課題の見立て）
	事後学修	体験をふまえ、自分が地域や集団組織に働きかける上での課題を意識化しておく【2 時間】
第11回	事前学修	模擬事例をもとに、模擬事例での心理師の動き方を考え、発表準備をしておく【３時間】
	授業内容	多職種が関わる組織集団における心理師の働きかけ②（支援）
	事後学修	体験をふまえ、自分が地域や集団組織に働きかける上での課題を意識化しておく【１時間】
第12回	事前学修	模擬事例をもとに、模擬事例での評価と改善について考え、発表準備をしておく【3 時間】
	授業内容	多職種が関わる組織集団における心理師の働きかけ③（評価と改善）
	事後学修	体験をふまえ、自分が地域や集団組織に働きかける上での課題を意識化しておく【1 時間】
第13回	事前学修	家族・集団組織・地域対象と個人対象のアプローチの違いについて考える【2 時間】
	授業内容	家族・集団組織・地域に向けた公認心理師としてのアプローチと職業倫理
	事後学修	講義で学んだことをふまえて、職業倫理と法的義務への理解を深める【2 時間】
第14	事前学修	家族・集団組織・地域へのアプローチに対する自分の強み・弱みについて考える【2 時間】
	授業内容	多職種連携及び地域連携

回	事後学修	講義をふりかえって、支援において自分の弱みを補い強みを活かす工夫について考える【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	全体をふりかえってキーワードの一覧を作成し、疑問点を整理しておく。【1 時間】 全体総括、討議。 【3 時間】ノートを仕上げ、まとめる

【成績評価の方法】
課題 30%、発表 40%、討議参加 30%

【フィードバック】
課題として作成し発表に用いたしたレジメは、授業内でフィードバックを行う。

【テキスト】
特になし

【参考書】
シナリオで学ぶ心理専門職の連携・協働―領域別にみる多職種との業務の実際. 鶴光代・津川律子.
誠心書房.

【履修上の注意等】
地域支援の学修について情報提供も行うので、意欲ある者は機会を活用されたい。

授業科目名：福祉分野に関する理論と支援の展開	専攻・領域：心理・臨床
担当教員名：北原 靖子	501713／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
福祉分野に関する理論がわかり、必要な支援の展開ができる。障害者・障害児の言語やコミュニケーション能力に焦点を当て、その獲得の過程や問題を理解できる。

【授業の概要(目的)】
障害者・障害児支援、育児や介護をはじめとして、福祉分野における支援を行う際の背景となる理論を学び、関連する法令や文献を読み、社会福祉において心理師が参加する意義と可能性について理解する。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・３

【授業計画】

第1回	事前学修	福祉分野における支援は現在どう行われているのか調べておく【2 時間】
	授業内容	福祉分野に関する支援の現状（概要）
	事後学修	福祉分野に関する支援の展開の概要がわかる【2 時間】
第2回	事前学修	福祉分野における現場にはどのような人が関わるか調べておく【2 時間】
	授業内容	福祉現場の特徴
	事後学修	福祉分野に関わるさまざまな専門職について確認復習する【2 時間】
第3回	事前学修	福祉分野における心理職としてどのような人がいるか調べておく 【2 時間】
	授業内容	福祉分野に関する支援と心理職の現状
	事後学修	福祉分野における心理職の活動状況がわかる 【2 時間】
第4回	事前学修	児童福祉に関わる支援の歴史的変遷について調べる【2 時間】
	授業内容	福祉分野に関する理論と支援の歴史（児童福祉）
	事後学修	我が国における児童福祉の現状と課題をふりかえる 【2 時間】
第5回	事前学修	精神保健福祉に関わる支援の歴史的変遷について調べる【2 時間】
	授業内容	福祉分野に関する理論と支援の歴史（精神保健福祉）
	事後学修	我が国における精神保健福祉の現状と課題をふりかえる【2 時間】
第6回	事前学修	障害児・障害者に関わる支援の歴史的変遷について調べる【2 時間】
	授業内容	福祉分野に関する理論と支援の歴史（障害児・障害者福祉）
	事後学修	我が国における障害児（者）福祉の現状と課題をふりかえる【2 時間】
第7回	事前学修	高齢者福祉に関わる支援の歴史的変遷について調べる【2 時間】
	授業内容	福祉分野に関する理論と支援の歴史（高齢者福祉）
	事後学修	我が国における高齢者福祉の現状と課題をふりかえる【2 時間】
第8回	事前学修	地域福祉に関わる支援の歴史的変遷について調べる【2 時間】
	授業内容	祉分野に関する理論と支援の歴史（地域福祉）
	事後学修	我が国における地域福祉の現状と課題をふりかえる【2 時間】
第9回	事前学修	福祉分野における心理職の在り方についてコメント発表の準備をする【3 時間】
	授業内容	福祉分野における心理支援と心理職の在り方
	事後学修	福祉分野で心理職が参加する意義と可能性についてふりかえる【1 時間】
第10回	事前学修	福祉分野における心理的援助の種類について調べておく【2 時間】
	授業内容	福祉分野において心理的援助が必要とされる範囲とそのアプローチ
	事後学修	心理援助の種類と概要について学んだことを整理しておく【2 時間】
第11回	事前学修	今日の育児と社会的養護について調べておく【2 時間】
	授業内容	心理的援助が求められる福祉分野：子ども・子育て・社会的養護①（社会的現状の把握）
	事後学修	今日社会においてどのような課題があるかを確認する【2 時間】
第12回	事前学修	愛着とコミュニケーションの発達について復習しておく【2 時間】
	授業内容	心理的援助が求められる福祉分野：子ども・子育て・社会的養護②（理論の理解）
	事後学修	コミュニケーション能力の発達と愛着との関連性を把握する【2 時間】
第13回	事前学修	社会的養護に関わるアセスメントについて調べておく【2 時間】
	授業内容	心理的援助が求められる福祉分野：子ども・子育て・社会的養護③（見立て・評価）
	事後学修	授業内で話題に出たアセスメントツールについて復習確認しておく【2 時間】
第14回	事前学修	社会的養護における連携の在り方について調べておく【2 時間】
	授業内容	心理的援助が求められる福祉分野：子ども・子育て・社会的養護③（相談対応・連携）
	事後学修	授業内で話題に出た連携機関や連携対象について復習確認しておく【2 時間】
第	事前学修	全体をふりかえり、福祉分野における心理職の課題について自分の意見を準備する【3 時間】

15 回	授業内容 事後学修	全体復習・討議 全体復習・討議を参考に、自分のノートを整理する【2 時間】

【成績評価の方法】
課題 30%、発表 40%、討議参加 30%。

【フィードバック】
課題として作成し発表に用いたレジメに対して、授業内でフィードバックする。

【テキスト】
特になし

【参考書】
一般財団法人日本心理研修センター（監修）. 公認心理師現任者テキスト.
福島哲夫（編集責任）. 公認心理師必携テキスト. Gakken.

【履修上の注意等】
子ども・子育てに関わる現場への見学が予定される場合がある。その場合は事前の注意を聴いたうえで、適切な服装と態度で参加すること。

授業科目名：発達障害心理学特講（1）	専攻・領域：心理・臨床
担当教員名：北原 靖子	501339／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
福祉分野に関する理論がわかり、必要な支援の展開ができる。障害者・障害児の言語やコミュニケーション能力に焦点を当て、その獲得の過程や問題を理解できる。

【授業の概要(目的)】
障害者・障害児支援、育児や介護をはじめとして、福祉分野における支援を行う際の背景となる理論を学び、関連する法令や文献を読み、社会福祉において心理師が参加する意義と可能性について理解する。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・３

【授業計画】

第1回	事前学修	福祉分野における支援は現在どう行われているのか調べておく【2 時間】
	授業内容	福祉分野に関する支援の現状（概要）
	事後学修	福祉分野に関する支援の展開の概要がわかる【2 時間】
第2回	事前学修	福祉分野における現場にはどのような人が関わるか調べておく【2 時間】
	授業内容	福祉現場の特徴
	事後学修	福祉分野に関わるさまざまな専門職について確認復習する【2 時間】
第3回	事前学修	福祉分野における心理職としてどのような人がいるか調べておく【2 時間】
	授業内容	福祉分野に関する支援と心理職の現状
	事後学修	福祉分野における心理職の活動状況がわかる【2 時間】
第4回	事前学修	児童福祉に関わる支援の歴史的変遷について調べる【2 時間】
	授業内容	福祉分野に関する理論と支援の歴史（児童福祉）
	事後学修	我が国における児童福祉の現状と課題をふりかえる【2 時間】
第5回	事前学修	精神保健福祉に関わる支援の歴史的変遷について調べる【2 時間】
	授業内容	福祉分野に関する理論と支援の歴史（精神保健福祉）
	事後学修	我が国における精神保健福祉の現状と課題をふりかえる【2 時間】
第6回	事前学修	障害児・障害者に関わる支援の歴史的変遷について調べる【2 時間】
	授業内容	福祉分野に関する理論と支援の歴史（障害児・障害者福祉）
	事後学修	我が国における障害児（者）福祉の現状と課題をふりかえる【2 時間】
第7回	事前学修	高齢者福祉に関わる支援の歴史的変遷について調べる【2 時間】
	授業内容	福祉分野に関する理論と支援の歴史（高齢者福祉）
	事後学修	我が国における高齢者福祉の現状と課題をふりかえる【2 時間】
第8回	事前学修	地域福祉に関わる支援の歴史的変遷について調べる【2 時間】
	授業内容	祉分野に関する理論と支援の歴史（地域福祉）
	事後学修	我が国における地域福祉の現状と課題をふりかえる【2 時間】
第9回	事前学修	福祉分野における心理職の在り方についてコメント発表の準備をする【3 時間】
	授業内容	福祉分野における心理支援と心理職の在り方
	事後学修	福祉分野で心理職が参加する意義と可能性についてふりかえる【1 時間】
第10回	事前学修	福祉分野における心理的援助の種類について調べておく【2 時間】
	授業内容	福祉分野において心理的援助が必要とされる範囲とそのアプローチ
	事後学修	心理援助の種類と概要について学んだことを整理しておく【2 時間】
第11回	事前学修	今日の育児と社会的養護について調べておく【2 時間】
	授業内容	心理的援助が求められる福祉分野：子ども・子育て・社会的養護①（社会的現状の把握）
	事後学修	今日社会においてどのような課題があるかを確認する【2 時間】
第12回	事前学修	愛着とコミュニケーションの発達について復習しておく【2 時間】
	授業内容	心理的援助が求められる福祉分野：子ども・子育て・社会的養護②（理論の理解）
	事後学修	コミュニケーション能力の発達と愛着との関連性を把握する【2 時間】
第13回	事前学修	社会的養護に関わるアセスメントについて調べておく【2 時間】
	授業内容	心理的援助が求められる福祉分野：子ども・子育て・社会的養護③（見立て・評価）
	事後学修	授業内で話題に出たアセスメントツールについて復習確認しておく【2 時間】
第14回	事前学修	社会的養護における連携の在り方について調べておく【2 時間】
	授業内容	心理的援助が求められる福祉分野：子ども・子育て・社会的養護③（相談対応・連携）
	事後学修	授業内で話題に出た連携機関や連携対象について復習確認しておく【2 時間】
第	事前学修	全体をふりかえり、福祉分野における心理職の課題について自分の意見を準備する【3 時間】

15 回	授業内容 事後学修	全体復習・討議 全体復習・討議を参考に、自分のノートを整理する【2 時間】

【成績評価の方法】
課題 30%、発表 40%、討議参加 30%。

【フィードバック】
課題として作成し発表に用いたレジメに対して、授業内でフィードバックする。

【テキスト】
特になし

【参考書】
一般財団法人日本心理研修センター（監修）. 公認心理師現任者テキスト.
福島哲夫（編集責任）. 公認心理師必携テキスト. Gakken.

【履修上の注意等】
子ども・子育てに関わる現場への見学が予定される場合がある。その場合は事前の注意を聴いたうえで、適切な服装と態度で参加すること。

授業科目名： 心理療法各論Ⅰ(認知行動療法)	専攻･領域：心理・臨床
担当教員名：佐藤 哲康	501702／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
Rational Emotive Behavior Therapy（REBT：論理療法・合理情動行動療法）を基礎とする認知行動療法の理論と技法を理解して、臨床現場で活用することができる。

【授業の概要(目的)】
認知行動療法の理論と技法を実習形式で学習する。特にカウンセリングのデモンストレーションや学生同士のピアカウンセリング、ライブスーパービジョンを通して技法の習熟を目指す。

【ディプロマ・ポリシー番号】3

【授業計画】

第1回	事前学修	認知行動療法の治療機序を調べる【2 時間】。
	授業内容	認知行動療法の理論とモデル
	事後学修	認知行動療法の治療機序についてまとめる【2 時間】。
第2回	事前学修	導入面接で行う契約内容を整理する【2 時間】。
	授業内容	導入面接とカウンセリング契約
	事後学修	導入面接で行う契約内容についてまとめる【2 時間】。
第3回	事前学修	配布資料を熟読し、意見と疑問を整理する【2 時間】。
	授業内容	問題（主訴）のアセスメント
	事後学修	アセスメントの注意点についてまとめる【2 時間】。
第4回	事前学修	配布資料を熟読し、意見と疑問を整理する【2 時間】。
	授業内容	カウンセリングの目標設定
	事後学修	目標設定の注意点についてまとめる【2 時間】。
第5回	事前学修	ケースフォーミュレーションについて調べる【2 時間】。
	授業内容	認知と信念の評定（ケースフォーミュレーション）
	事後学修	講義で取り上げた事例のケースフォーミュレーションを行う【2 時間】。
第6回	事前学修	認知再構成法について調べる【2 時間】。
	授業内容	認知と信念の介入と修正１（認知再構成法）
	事後学修	認知再構成法についてまとめる【2 時間】。
第7回	事前学修	認知行動療法の介入技法を調べる【2 時間】。
	授業内容	認知と信念の介入と修正２（論駁技法）
	事後学修	認知行動療法の介入技法についてまとめる【2 時間】。
第8回	事前学修	認知行動療法の宿題について調べる【2 時間】。
	授業内容	認知の定着化（宿題とセルフヘルプの活用）
	事後学修	面接終結の注意点についてまとめる【2 時間】。
第9回	事前学修	認知行動療法の面接の終わり方について調べる【2 時間】。
	授業内容	面接の継続と終結
	事後学修	面接終結の注意点についてまとめる【2 時間】。
第10回	事前学修	配布したマニュアルを熟読する【2 時間】。
	授業内容	認知行動療法のステップ理解１（うつ病）
	事後学修	講義で取り上げた事例のケースフォーミュレーションを行う【2 時間】。
第11回	事前学修	配布したマニュアルを熟読する【2 時間】。
	授業内容	認知行動療法のステップ理解２（パニック障害・不安障害）
	事後学修	講義で取り上げた事例のケースフォーミュレーションを行う【2 時間】。
第12回	事前学修	配布したマニュアルを熟読する【2 時間】。
	授業内容	認知行動療法のステップ理解３（その他の疾患）
	事後学修	講義で取り上げた事例のケースフォーミュレーションを行う【2 時間】。
第13回	事前学修	集団認知行動療法の準備について調べる【2 時間】
	授業内容	集団を用いた認知行動療法１（場面設定とルール）
	事後学修	集団認知行動療法の準備についてまとめる【2 時間】
第14	事前学修	集団認知行動療法の実施法について調べる【2 時間】。
	授業内容	集団を用いた認知行動療法２（実施法）

回	事後学修	集団認知行動療法の実施法についてまとめる【2 時間】。
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	講義資料を見直し、意見と疑問を整理する【2 時間】。 講義のまとめ（認知行動療法の統合） 講義をまとめ、到達目標の達成度を自己評価する【2 時間】。

【成績評価の方法】
成績評価は授業時の発言や参加意欲（20%）、振り返りレポート（40%）と課題レポート（40%）を総合的に評価する。

【フィードバック】
提出された振り返りレポートは授業内で、課題レポートは終了後に内容のフィードバックを行う。

【テキスト】
授業中に参考資料を適宜指示、配布する。

【参考書】
P.トローワー・J.ジョーンズ（著）よくわかる認知行動カウンセリングの実際　金子書房
W.ドライデン・R.デジサッピ（著）実践論理療法入門　岩崎学術出版社

【履修上の注意等】
心理療法各論Ⅰ（1）を予め履修しておくことが望ましい。

授業科目名： 臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	専攻･領域：心理・臨床
担当教員名：簑下 成子 * 北原 靖子	501715／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
公認心理師または臨床心理士として臨床現場に活躍する実践家に必要な知識および資質を獲得する。
心理支援を必要とする者に対して、専門家として適切な支援を選択できる。特に心理面接を行う際の主要な心理療法の理論と方法、態度、枠組みについて身につける。

【授業の概要(目的)】
カウンセリングの誕生と歴史に沿って、古典的な理論から最近まで時系列に解説する。
臨床的感性と感覚を磨くことを目的にアクティブラーニングと体験を中心とする学習を導入する。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・３

【授業計画】

第1回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	臨床心理学とカウンセリング心理学の誕生
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第2回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	海外（欧米）の臨床心理学とカウンセリング心理学の歴史
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第3回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	日本における臨床心理学とカウンセリング心理学の歴史
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第4回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	心理支援の考え方
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第5回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	心理支援の実際
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第6回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	心理面接の構造①治療契約と治療同盟
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第7回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	心理面接の構造②個人情報と守秘義務
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第8回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	心理面接の構造③転移と逆転移
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第9回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	心理面接の構造④動機づけ面接
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第10回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	心理面接の構造⑤生物 - 心理 - 社会モデル（BPS）
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第11回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	心理面接記録の書き方
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第12回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	心理療法とカウンセリングの誕生と歴史
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第13回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	代表的な心理療法の理論①力動論に基づく心理アプローチ
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第14	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	代表的な心理療法の理論②自我心理学による心理アプローチ

回	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	講義内容の予習【2 時間】 講義のまとめ 講義内容の復習【2 時間】

【成績評価の方法】
成績評価は授業時の発言や参加意欲(20%)、振り返りレポート(40%)と課題レポート(40%)を総合的に評価する。

【フィードバック】
提出された振り返りレポートは授業内で、課題レポートは終了後に内容のフィードバックを行う。

【テキスト】
授業中に参考資料を適宜指示、配布する。

【参考書】
野島一彦・岡村達也（編）公認心理師の基礎と実践③ 臨床心理学概論　遠見書房

【履修上の注意等】
新しい教材や学生の希望により授業計画の順序や内容の一部が変更する場合がある。また学生一人ひとりが授業中の討論に積極的に参加することを期待する。

授業科目名： 臨床心理面接特論Ⅱ	専攻･領域：心理・臨床
担当教員名：簑下 成子*北原 靖子	501716／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
公認心理師または臨床心理士として臨床現場に活躍する実践家に必要な知識および資質を獲得する。
心理支援を必要とする者に対して、専門家として適切な支援を選択できる。特に心理面接を行う際の主要な心理療法の理論と方法、態度、枠組みについて身につける。

【授業の概要(目的)】
カウンセリングの誕生と歴史に沿って、古典的な理論から最近まで時系列に解説する。
臨床的感性と感覚を磨くことを目的にアクティブラーニングと体験を中心とする学習を導入する。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・３

【授業計画】

第1回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	代表的な心理療法の理論③分析心理学による心理アプローチ
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第2回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	代表的な心理療法の理論④学習理論に基づく心理アプローチ
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第3回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	代表的な心理療法の理論⑤認知・行動論に基づくアプローチ
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第4回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	代表的な心理療法の理論⑥人間性心理学によるアプローチ
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第5回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	代表的な心理療法の理論⑦システムズ・アプローチ
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第6回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	代表的な心理療法の理論⑧グループ・ダイナミクスによるアプローチ
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第7回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	代表的な心理療法の理論⑨ナラティヴ・アプローチ
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第8回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	代表的な心理療法の理論⑩リラクゼーションを用いた非言語的アプローチ
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第9回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	代表的な心理療法の理論⑪イメージを用いた非言語的アプローチ
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第10回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	心理療法の適用と限界① 統合的活用
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第11回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	心理療法の適用と限界② 危機介入
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第12回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	心理療法の適用と限界③ 被災者支援
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第13回	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	心理療法の適用と限界④ 効果研究とエビデンス
	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第14	事前学修	講義内容の予習【2 時間】
	授業内容	心理療法の適用と限界⑤ ケースカンファレンスとスーパービジョン

回	事後学修	講義内容の復習【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	講義内容の予習【2 時間】 講義のまとめ 講義内容の復習【2 時間】

【成績評価の方法】
成績評価は授業時の発言や参加意欲(20%)、振り返りレポート(40%)と課題レポート(40%)を総合的に評価する。

【フィードバック】
提出された振り返りレポートは授業内で、課題レポートは終了後に内容のフィードバックを行う。

【テキスト】
授業中に参考資料を適宜指示、配布する。

【参考書】
野島一彦・岡村達也（編）公認心理師の基礎と実践③ 臨床心理学概論　遠見書房

【履修上の注意等】
新しい教材や学生の希望により授業計画の順序や内容の一部が変更する場合がある。また学生一人ひとりが授業中の討論に積極的に参加することを期待する。

授業科目名： 心理行動科学研究法(1)	専攻・領域：心理・行動
担当教員名：田中　裕	501912／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
心理行動科学的な研究においては多様なﾃﾞｰﾀ測定と分析が求められる。本講義では実習も交えつつ、日常生活へも還元可能な心身の活動を測定分析する基礎的手法の修得ができる。

【授業の概要(目的)】
心理行動科学領域において使用される心身活動指標の概要について学ぶ。その際、実習を交えることでより実践的な知識・技能を修得する。その結果、身体と生命の関わりについての視点を深める。

【ディプロマ・ポリシー番号】2・4

【授業計画】

第1回	事前学修	心理行動科学領域で使用される心身活動指標について調べておく(120 分)。
	授業内容	ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ:心理行動科学分野における心身活動指標
	事後学修	特に脳活動の測定方法についてまとめておく(120 分)。
第2回	事前学修	脳も含めた身体構造について、既存の知識と資料を基に詳細にまとめておく(120 分)。
	授業内容	身体の構造と機能
	事後学修	感覚系の構造についてまとめておく(120 分)。
第3回	事前学修	生体電気信号の特徴について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	電気生理学の基礎(1):ｱﾅﾛｸﾞ電気信号
	事後学修	ｱｰﾁﾌｧｸﾄの特徴についてまとめておく(120 分)。
第4回	事前学修	AD 変換について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	電気生理学の基礎(2):ﾃﾞｼﾞﾀﾙ信号処理
	事後学修	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ周波数の特徴についてまとめておく(120 分)。
第5回	事前学修	これまで学んだ電気生理学の基礎知識をまとめておく(30 分)。
	授業内容	電気生理学実習:心的負荷条件における心電図測定
	事後学修	測定されたﾃﾞｰﾀについてまとめておく(210 分)。
第6回	事前学修	心臓血管系について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	心臓血管系活動測定の基礎(1):心電図変動
	事後学修	心電図変動の分析法についてまとめておく(120 分)。
第7回	事前学修	ｽﾄﾚｽと血圧の関連について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	心臓血管系活動測定の基礎(2):血圧変動
	事後学修	血圧変動へ影響を与える諸要因についてまとめておく(120 分)。
第8回	事前学修	免疫・内分泌系の機能について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	免疫・内分泌系指標測定の基礎
	事後学修	ｺﾙﾁｿﾞｰﾙの特性についてまとめておく(120 分)。
第9回	事前学修	眼球の機能について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	視覚運動系指標測定の基礎
	事後学修	瞬目活動の特性についてまとめておく(120 分)。
第10回	事前学修	脳機能の特性について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	脳活動測定の基礎(1):脳波
	事後学修	脳波の周波数特性についてまとめておく(120 分)。
第11回	事前学修	認知機能と脳活動の関連について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	脳活動測定の基礎(2):事象関連電位
	事後学修	平均加算法についてまとめておく(120 分)
第12回	事前学修	疲労の特性について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	疲労測定の基礎
	事後学修	ﾌﾘｯｶｰ値についてまとめておく(120 分)。
第13回	事前学修	筋肉の特徴について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	筋活動測定の基礎
	事後学修	表面筋電図と表情の関連についてまとめておく(120 分)。
第14回	事前学修	これまで習得した心身活動についてまとめておく(30 分)。
	授業内容	認知課題時の心身活動測定
	事後学修	測定ﾃﾞｰﾀを条件別にまとめておく(210 分)。

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	心理行動科学における心身活動測定の意義について、授業内容中心にまとめておく(60 分)。 まとめ:心身活動測定からみた心理行動科学 授業内容全体を心理行動科学の観点から詳細にまとめておく(180 分)。

【成績評価の方法】
平常点 50%、期末レポート 50%として評価する。

【フィードバック】
毎回の授業で小レポートを課し、次々週に返却する。

【テキスト】
特になし。

【参考書】
加藤象二郎・大久保堯夫編『初学者のための生体機能の測り方 第 2 版』(日本出版サービス)
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』(教育出版)

【履修上の注意等】
多くの指標を測定する手法を学ぶが、測定指標だけに注目するのではなく「心理行動科学」の視点を常に持ち続けて受講して欲しい。

授業科目名： 生理心理学特講(1)	専攻・領域：心理・臨床
担当教員名：田中　裕	501911／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
心身二元論という立場を脱却し、身体(脳や神経も含む)との関連で心を捉える視点は、心理学の全ての領域において今後ますます重要となる。本講では、講義・講読による知識習得からこの視点を体得することができる。

【授業の概要(目的)】
講読(和書と洋書)の手法も使いながら、全般的な知識習得に努める。特に、臨床心理学領域でも必要不可欠と思われる生理・生物学的な基礎知識に力点を置く。

【ディプロマ・ポリシー番号】2・4

【授業計画】

第1回	事前学修	人間の心的過程と身体活動の関わりについて、資料を中心にまとめておく(180 分)。
	授業内容	ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ:人間の意識と身体活動
	事後学修	進化の視点から、脳と心理過程についてまとめておく(60 分)。
第2回	事前学修	ﾆｭｰﾛﾝについて、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	ﾆｭｰﾛﾝ(1):ﾆｭｰﾛﾝ内の情報伝達
	事後学修	ﾆｭｰﾛﾝとｼﾅﾌﾟｽの構造についてまとめておく(120 分)。
第3回	事前学修	ｼﾅﾌﾟｽについて、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	ﾆｭｰﾛﾝ(2):ﾆｭｰﾛﾝ間の情報伝達
	事後学修	活動電位と化学情報伝達についてまとめておく(120 分)。
第4回	事前学修	神経の構造について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	神経系(1):中枢神経系
	事後学修	脳の構造についてまとめておく(120 分)。
第5回	事前学修	自律神経について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	神経系(2):末梢神経系
	事後学修	神経伝達物質についてまとめておく(120 分)。
第6回	事前学修	視覚系の構造について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	視覚系(1):網膜から一次視覚野まで
	事後学修	一次視覚野のﾓｼﾞｭｰﾙ構造について詳しくまとめておく(120 分)。
第7回	事前学修	脳の視覚野について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	視覚系(2):視覚連合野
	事後学修	視覚系と他感覚系との関連についてまとめておく(120 分)。
第8回	事前学修	聴覚系の構造について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	聴覚系:音の知覚過程
	事後学修	聴覚野と前庭系についてまとめておく(120 分)。
第9回	事前学修	体性感覚について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	体性感覚:受容器と感覚経路
	事後学修	受容器と感覚経路の観点から、味覚や嗅覚についてまとめておく(120 分)。
第10回	事前学修	運動系について、筋活動を中心に既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	運動制御:運動連合野の活動を中心として
	事後学修	運動の障害について、脳機能を中心にまとめておく(120 分)。
第11回	事前学修	学習について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	学習:条件づけの脳内過程
	事後学修	神経系結合の観点から、古典的・ｵﾍﾟﾗﾝﾄﾞ条件づけについてまとめておく(120 分)。
第12回	事前学修	記憶について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	記憶:海馬の活動を中心として
	事後学修	健忘について、脳機能を中心にまとめておく(120 分)。
第13回	事前学修	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝについて、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ:発話・書字・読字を中心として
	事後学修	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ障害について、失語を中心にまとめておく(120 分)
第14回	事前学修	摂食行動について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。
	授業内容	摂食行動:脳内機能と心的過程の関連
	事後学修	摂食障害について、脳機能と関連づけたまとめをしておく(120 分)。

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまでの授業で取り上げたテーマについて再確認しておく(60 分)。 まとめ:心的過程と脳機能 授業全般について詳しくまとめておく(180 分)。

【成績評価の方法】
平常点 30%、期末レポート 70%として評価する。

【フィードバック】
毎回授業で発表を課す。その際提出されたレジュメを次週返却する。

【テキスト】
特になし。

【参考書】
堀忠雄・尾崎久記編『生理心理学と精神生理学　全 3 巻』(北大路書房)
カンデルら編『カンデル神経科学』(メディカル・サイエンス・インターナショナル)

【履修上の注意等】
積極的な目的意識を持って受講されることを望む。また、最低限の生物・化学・物理等の知識が要求されるので、必要に応じて学部で使用した教科書等を見て復習しておくこと。

授業科目名： 生理心理学特講(2)	専攻・領域：心理・臨床
担当教員名：田中　裕	501912／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
本講では、特に情動・睡眠-覚醒、生体ﾘｽﾞﾑ、障害に関連したﾃｰﾏに特化して、心身の関連について理解することができる。

【授業の概要(目的)】
講読(和書と洋書)の手法も使いながら、全般的な知識習得に努める。特に、臨床心理学領域でも必要不可欠と思われる生理・生物学的な基礎知識に力点を置く。

【ディプロマ・ポリシー番号】2・4

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	日常生活で気づく「心と身体」が関連している事象について複数調べておく(60 分) ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ:日常も気づく心身の関連 心身二元論を再確認し、実際の心身関連の解釈を行ってみる(180 分)
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	情動の理論について、既存の知識と資料を基に詳細にまとめておく(120 分)。 情動(1):制御機能について 特にﾎﾙﾓﾝの活動と情動の関連についてまとめておく(120 分)。
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ場面での情動について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。 情動(2):神経基盤と表出過程の関連について 表情と情動の関連について、脳内活動と関連づけてまとめておく(120 分。)
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	睡眠過程について、既存の知識と資料を基に詳細にまとめておく(120 分)。 睡眠と覚醒(1):生理学的・行動的特徴 睡眠中の精神活動についてまとめておく(120 分)。
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾚﾑ睡眠について、既存の知識と最新の知見を基に詳細にまとめておく(120 分)。 睡眠と覚醒(2):睡眠の機能 睡眠中の学習過程についてまとめておく(120 分)。
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	睡眠段階について、既存の知識と資料を基に詳細にまとめておく(120 分)。 睡眠と覚醒(3):生理的機構 睡眠・覚醒の化学・神経機構について、詳細にまとめておく(120 分)。
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	ｻｰｶﾃﾞｨｱﾝﾘｽﾞﾑについて、既存の知識と資料を基に詳細にまとめておく(120 分)。 生物ﾘｽﾞﾑ(1):内的及び外的要因 内的脱同調について、詳細にまとめておく(120 分)
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	時差ﾎﾞｹが心身に与える影響について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。 生物ﾘｽﾞﾑ(2):生物時計 視交叉上核について、その機能と役割について詳細にまとめておく(120 分)。
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	ｽﾄﾚｽについて、既存の知識と資料を基に詳細にまとめておく(120 分)。 ｽﾄﾚｽと心身機能 免疫機能と自律神経系変動とｽﾄﾚｽの関連についてまとめておく(120 分)
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	神経疾患による心身活動の変化について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。 神経疾患と心身活動 ｱﾙﾂﾊｲﾏｰ病における脳の機能変性についてまとめておく(120 分)。
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	昼夜逆転生活が心身に与える影響について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。 ﾘｽﾞﾑ障害と心身活動 ﾘｽﾞﾑ障害を併発する疾患についてまとめておく(120 分)。
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	統合失調症について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。 統合失調症と心身活動 ﾄﾞｰﾊﾟﾐﾝ活動と統合失調症の関連についてまとめておく(120 分)
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	気分障害について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。 気分障害と心身活動 ｾﾛﾄﾆﾝﾄﾗﾝｽﾎﾟｰﾀｰと気分障害の関連についてまとめておく(120 分)。
第 14 回	事前学修 授業内容 事後学修	神経伝達物質について、既存の知識と資料を基にまとめておく(120 分)。 神経伝達物質と心身活動 神経伝達物質と薬物依存の関連についてまとめておく(120 分)。

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまでの授業で取り上げたﾃｰﾏについて再確認しておく(60 分)。 まとめ:心身機能関連の観点からみた人間の行動 授業全般について詳しくまとめておく(180 分)。

【成績評価の方法】
平常点 30%、期末レポート 70%として評価する。

【フィードバック】
毎回授業で発表を課す。その際提出されたレジュメを次週返却する。

【テキスト】
特になし。

【参考書】
堀忠雄・尾崎久記編『生理心理学と精神生理学　全 3 巻』(北大路書房)
ｶﾝﾃﾞﾙら編『ｶﾝﾃﾞﾙ神経科学』(ﾒﾃﾞｨｶﾙ・ｻｲｴﾝｽ・ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ)

【履修上の注意等】
積極的な目的意識を持って受講されることを望む。また、最低限の生物・化学・物理等の知識が要求されるので、必要に応じて学部で使用した教科書等を見て復習しておくこと。基本的な知識に関する確認をしながら進めて行く。

授業科目名：心理療法各論 II(精神分析)	専攻･領域：心理・臨床
担当教員名：鳥越 淳一	501343／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
・精神分析療法に関する理論、概念、及び治療機序を理解し、説明することができる。
・精神分析的／力動的視点でのインテーク面接の取り方（対人関係の在り方、防衛の役割、自尊心の動き、パーソナリティなどの把握の仕方）を身につけ、力動的ケースフォーミュレーションができるようになる。

【授業の概要(目的)】
ケースを見立てることは、治療関係を維持・発展させていくために非常に重要である。臨床現場の経験を踏まえ、インテーク面接を治療計画につなげていく視点を養いながら、精神分析療法の基本や力動的な聴き方を修得することを目指す。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・３

【授業計画】

第1回	事前学修	「精神力動的精神療法」（ギャバード著）の第１章をまとめ、疑問を出す。【3 時間】
	授業内容	精神分析療法とは何か。精神分析療法の特徴と意義について学ぶ。
	事後学修	精神分析とは何かを自らの言葉で表現する。【1 時間】
第2回	事前学修	「精神力動的精神療法」（ギャバード著）の第２章をまとめ、疑問を出す。【3 時間】
	授業内容	精神分析の定式化（ケースフォーミュレーション）を行なう上での概念を理解する。
	事後学修	ケースフォーミュレーションの流れやポイントを自分なりに整理する。【1 時間】
第3回	事前学修	「ケースの見方・考え方（マックウィリアムズ著）」の第１章をまとめ、疑問を出す。【3 時間】
	授業内容	再度、精神分析の定式化を行なう上での概念を異なる視点から理解し、定着を図る。
	事後学修	再度、ケースフォーミュレーションの流れやポイントを自分なりに整理する。【1 時間】
第4回	事前学修	「ケースの見方・考え方（マックウィリアムズ著）」の第２章をまとめ、疑問を出す。【3 時間】
	授業内容	インテーク面接の意義を理解し、心理面接の導入を学ぶ。
	事後学修	面接の導入で行なわれるインテーク面接の意味を自分なりに整理する。【1 時間】
第5回	事前学修	これまで学んだことを基に、ケースフォーミュレーションを行なう。【3 時間】
	授業内容	実践①：力動的見立てが実際にどのようなものかをロールプレイを交えて学ぶ。
	事後学修	クラスディスカッションを踏まえて、改善を図る。【1 時間】
第6回	事前学修	「ケースの見方・考え方（マックウィリアムズ著）」の第３章をまとめ、疑問を出す。【3 時間】
	授業内容	何を面接のターゲットにするのか、変えられるものと変えられないものを学ぶ。
	事後学修	変えられるものと変えられないものは何か。面接で扱う対象を自分なりに整理する。
第7回	事前学修	「ケースの見方・考え方（マックウィリアムズ著）」の第４章をまとめ、疑問を出す。【3 時間】
	授業内容	面接を行なうにあたり、理解すべき発達及び人格形成について学ぶ。
	事後学修	精神分析的発達論を自分なりの言葉で整理する。【1 時間】
第8回	事前学修	「ケースの見方・考え方（マックウィリアムズ著）」の第５章をまとめ、疑問を出す。【3 時間】
	授業内容	面接を安全に進めるため、クライエントの防衛機制のアセスメントについて学ぶ。
	事後学修	防衛機制を探索するためにどのような尋ね方ができるか自分なりの言葉で整理する。【1 時間】
第9回	事前学修	「ケースの見方・考え方（マックウィリアムズ著）」の第６章をまとめ、疑問を出す。【3 時間】
	授業内容	感情をアセスメントする。クライエントに特有の感情喚起のパターンについて学ぶ。
	事後学修	感情の役割を探索するためにどのような尋ね方ができるか自分なりの言葉で整理する。
第10回	事前学修	これまで学んだことを基に、ケースフォーミュレーションを行なう。【3 時間】
	授業内容	実践②：事例を通して、力動的見立てについて検討をする。
	事後学修	クラスディスカッションを踏まえて、改善を図る。【1 時間】
第11回	事前学修	「ケースの見方・考え方（マックウィリアムズ著）」の第７章をまとめ、疑問を出す。【3 時間】
	授業内容	同一化をアセスメントする。インテークで家族歴やモデルについて尋ねる重要性を学ぶ。
	事後学修	同一化をアセスメントするための尋ね方を自分の言葉で整理する。【1 時間】
第12回	事前学修	「ケースの見方・考え方（マックウィリアムズ著）」の第８章をまとめ、疑問を出す。【3 時間】
	授業内容	面接内外におけるクライエントの対人関係パターンについて学ぶ。
	事後学修	対人関係をアセスメントするための尋ね方を自分の言葉で整理する。【1 時間】
第13回	事前学修	「ケースの見方・考え方（マックウィリアムズ著）」の第９章をまとめ、疑問を出す。【3 時間】
	授業内容	セルフエスティームをアセスメントする臨床的意義について学ぶ。
	事後学修	自尊感情をアセスメントするための尋ね方を自分の言葉で整理する。【1 時間】
第	事前学修	「ケースの見方・考え方（マックウィリアムズ著）」の第 10 章をまとめ疑問を出す。【3 時間】

14 回	授業内容 事後学修	クライエントが抱く信念・ファンタジーをアセスメントする重要性を学ぶ。 病的信念をアセスメントするための尋ね方を自分の言葉で整理する。【1 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまで学んだことを基に、ケースフォーミュレーションを行なう。【3 時間】 実践③：DVD を視聴しながら、精神分析的やり取りを検討する。 クラスディスカッションを踏まえて、改善を図る。【1 時間】

【成績評価の方法】
課題レポート：60%、授業内発表及びディスカッションへの貢献 40%の総合評価

【フィードバック】
毎授業後に作成するログに対してフィードバックを行なう。ログとは、授業の予習及び講義・話し合いを踏まえた上で、教員とのコミュニケーションを取るものである。

【テキスト】
ケースの見方・考え方：精神分析的ケースフォーミュレーション」、ナンシー・マックウィリアムズ著（成田善弘監訳）、創元社

【参考書】
「精神力動的精神療法」、グレン・ギャバード著（狩野力八郎監訳）、岩崎学術出版社

【履修上の注意等】
面接経験がある方が望ましいが、未経験が履修を制限するものではない。

授業科目名： 心身医学(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	専攻・領域：心理・臨床
担当教員名：西川 將巳	501707／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
心身相関のﾒｶﾆｽﾞﾑ、その関連性について理解できる。また、実際の心身医学臨床における診断の進め方について理解し、診断的ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞに活かすことができる。

【授業の概要(目的)】
心と身体の関係を科学的に捉える学問が、心身医学である。現代はｽﾄﾚｽにあふれ心身症が増えている。その心身症の概略を学び、臨床や学校の場における心身症に対する対応やｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを行う上での素養を身につける。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・２

【授業計画】

第1回	事前学修	「心身医学」に関し調べ、どういった学問なのか、ｲﾒｰｼﾞを掴んでおくこと。【2 時間】
	授業内容	「心身医学」とは
	事後学修	講義内容に基づいて「心身医学」に関し、よく復習し、理解しておくこと。【2 時間】
第2回	事前学修	「ｽﾄﾚｽ」とはどういう状態をいうのか、予め調べておくこと。【2 時間】
	授業内容	「ｽﾄﾚｽ」とは
	事後学修	講義内容に基づいて「ｽﾄﾚｽ」に関し、その周辺領域の知識を整理し、理解しておくこと。【2 時間】
第3回	事前学修	「心身症」とは何か、予め調べておくこと。【2 時間】
	授業内容	「心身症」とは
	事後学修	講義内容に基づいて「心身相関」から生ずる「心身症」に関し、よく理解しておくこと。【2 時間】
第4回	事前学修	前回、配布した資料を予め読んで、概略を理解しておくこと。【2 時間】
	授業内容	心身相関の精神生理学的基礎(1)神経系
	事後学修	心身相関に関連する神経系のしくみに関して、よく理解しておくこと。【2 時間】
第5回	事前学修	前回、配布した資料を予め読んで、概略を理解しておくこと。【2 時間】
	授業内容	心身相関の精神生理学的基礎(2)内分泌系
	事後学修	心身相関に関連する内分泌系のしくみに関して、よく理解しておくこと。【2 時間】
第6回	事前学修	前回、配布した資料を予め読んで、概略を理解しておくこと。【2 時間】
	授業内容	心身相関の精神生理学的基礎(3)免疫系
	事後学修	心身相関に関連する免疫系のしくみに関して、よく理解しておくこと。【2 時間】
第7回	事前学修	前回、配布した資料を予め読んで、概略を理解しておくこと。【2 時間】
	授業内容	心身相関を説明する学説(1)自律神経-内分泌学説
	事後学修	自律神経―内分泌学説の理論に関して、よく理解しておくこと。【2 時間】
第8回	事前学修	前回、配布した資料を予め読んで、概略を理解しておくこと。【2 時間】
	授業内容	心身相関を説明する学説(2)ｽﾄﾚｽ学説
	事後学修	ｽﾄﾚｽ学説の理論に関して、よく理解しておくこと。【2 時間】
第9回	事前学修	前回、配布した資料を予め読んで、概略を理解しておくこと。【2 時間】
	授業内容	心身相関を説明する学説(3)条件反射学説
	事後学修	条件反射学説の理論に関して、よく理解しておくこと。【2 時間】
第10回	事前学修	前回、配布した資料を予め読んで、概略を理解しておくこと。【2 時間】
	授業内容	心身症の診断法(1)心理検査概論
	事後学修	様々な心理検査の特徴をまとめ、よく復習しておくこと。【2 時間】
第11回	事前学修	前回、学習した心理検査の特徴に関し、あらためて確認しておくこと。【2 時間】
	授業内容	心身症の診断法(2)心理検査実習
	事後学修	本日、行なった実習に関してよく復習し、自分が施行できるようにしておくこと。【2 時間】
第12回	事前学修	前回、配布した資料を予め読んで、概略を理解しておくこと。【2 時間】
	授業内容	心身症の診断法(3)心身医学的面接実習（グループワークを施行）
	事後学修	本日、講義で習った内容を、よくまとめ直し、面接を施行できるようにしておくこと。【2 時間】
第13回	事前学修	前回、配布した資料を予め読んで、概略を理解しておくこと。【2 時間】
	授業内容	心身症の診断法(4)自律神経機能検査法など
	事後学修	本日、講義で習った種々の検査法に関し、よく復習し、理解しておくこと。【2 時間】
第14回	事前学修	前回、配布した資料を予め読んで、概略を理解しておくこと。【2 時間】
	授業内容	心身症近縁疾患について
	事後学修	本日、講義で習った種々の疾患に関し、よく復習し、理解しておくこと。【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまでの講義で学んだことを、あらためて、よく復習しておくこと。【2 時間】 総括 ~臨床や学校の場における実践的対応とｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞへの応用~ これまでの講義内容を振り返り、様々な場で実際に応用できるように、まとめておくこと。【2 時間】

【成績評価の方法】
平常点30％、ﾚﾎﾟｰﾄ70％として評価する。

【フィードバック】
レポートのフィードバックに関しては、個別に応じる。

【テキスト】
必要に応じて、ﾌﾟﾘﾝﾄ・資料を配布する。

【参考書】
授業の中で、適宜紹介する。

【履修上の注意等】
積極的な態度で、授業に臨むこと。

授業科目名：学校心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開)	専攻･領域：心理・臨床
担当教員名：平間 さゆり	501704／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
⑴教育現場における様々な問題への理解を深めることができる。
⑵教育現場の諸問題について、臨床家として関わるスキルを得ることができる。

【授業の概要(目的)】
教育現場には、どのような制度や活動があるかを知り、生じている学習や神経発達障害の問題・環境や心理的な問題について理解する。また、教育現場における諸問題について査定し、具体的な支援が出来ることを目指す。

【ディプロマ・ポリシー番号】1・3

【授業計画】

第1回	事前学修	教育に関する制度や法律について調べておく【2 時間】
	授業内容	教育の制度や法律について、教育に関する権利と義務の視点から学ぶ
	事後学修	どのような制度や法律があるかについて整理する【2 時間】
第2回	事前学修	教育現場における倫理的な問題について調べておく【2 時間】
	授業内容	情報倫理・学級経営を含む教育活動の倫理について学ぶ
	事後学修	教育に関する倫理についてまとめる【2 時間】
第3回	事前学修	物事を認知することや言語が発達することについて調べておく【2 時間】
	授業内容	認知と言語の発達についての理解を深める
	事後学修	どのように認知と言語が発達するかを整理する【2 時間】
第4回	事前学修	感情・社会的行動の発達について調べておく【2 時間】
	授業内容	感情や社会行動の発達と教育についての理解を深める
	事後学修	感情や集団の対人関係などがどのように発達するかについて整理する【2 時間】
第5回	事前学修	物事の認知や学習することについて調べておく【2 時間】
	授業内容	学習・認知のメカニズムを学び、教育への応用を考える
	事後学修	講義で得た知識についてよく理解する【2 時間】
第6回	事前学修	集団行動や学習への意欲について調べておく【2 時間】
	授業内容	集団における学習や学習意欲に関する理論を学ぶ
	事後学修	学校での集団行動や意欲の向上などについてまとめる【2 時間】
第7回	事前学修	学級経営などの教育現場の活動について調べておく【2 時間】
	授業内容	学級経営・教授法の種類や特徴を知り、支援について考える
	事後学修	教育現場の活動や状況についての理解を深めてる【2 時間】
第8回	事前学修	知的能力の査定について調べておく【2 時間】
	授業内容	学力や知能のアセスメントの方法についての理解を深める
	事後学修	各個人の能力をどのように査定するかについて整理する【2 時間】
第9回	事前学修	学年ごとの到達目標や習熟度に関して調べておく【2 時間】
	授業内容	学習における達成度の評価方法を学び、具体的な支援を考える
	事後学修	達成度の評価をし、到達目標への支援についての理解を深める【2 時間】
第10回	事前学修	スクールカウンセリングについて調べておく【2 時間】
	授業内容	スクールカウンセリングにおける問題（不登校・いじめ・非行等）について理解する
	事後学修	学校現場で生じる様々な問題について整理する【2 時間】
第11回	事前学修	生徒や教員などの様々な対人関係や家庭などの環境の問題いついて調べておく【2 時間】
	授業内容	学校における対人関係や環境の問題についてのアセスメントを検討する
	事後学修	講義で得た知識について整理する【2 時間】
第12回	事前学修	スクールカウンセラーはどのような連携が必要か調べておく【2 時間】
	授業内容	教職員・保護者・地域社会などの周囲との連携について検討する
	事後学修	スクールカウンセラーの役割についてまとめる【2 時間】
第13回	事前学修	神経発達障害や特別支援教育について調べておく【2 時間】
	授業内容	神経発達障害の問題を概観し、特別支援教育に関する理解を深める
	事後学修	特別支援教育ではどのようなことが求められているかについてセイルする【2 時間】
第14回	事前学修	教育現場で提供する情報とは何かを考えておく【2 時間】
	授業内容	教育現場への心の健康に関する情報提供について、何が必要であるかなどを検討する

回	事後学修	実際に必要とされる心の健康に関する情報とは何かを理解する【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	教育現場での心理的支援について調べておく【2 時間】 教育現場における心理的な問題について、事例を用いて周囲との連携や支援を検討する 講義の事例を参考にして、心理的な問題への対応を考える【3 時間】

【成績評価の方法】
平常点 50%、レポート 50%

【フィードバック】
レポートについては授業内でフィードバックを行う

【テキスト】
特になし

【参考書】
特にないが、必要な場合は適宜紹介する

【履修上の注意等】
スクールカウンセラーとして、教育現場における諸問題に対応できるスキルを身に付ける事を目指している。
実際の教育現場において迅速な対応が出来るよう、問題意識をもって積極的な意見を述べることを期待する。

授業科目名： 心の健康教育に関する理論と実践	専攻･領域：心理・臨床
担当教員名：平間 さゆり	501703／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
⑴心の健康を害する要因やストレスへの対処法などの知識を得ることができる。
⑵心の健康状態の査定をし、支援の方法について検討できる。

【授業の概要(目的)】
心の健康にどのような問題があるかを知り、その対応法について学びながら検討する。日常生活を送るうえで誰もが感じるストレスについて理解し、カウンセリングなどの場面で行われている技法や療法などに触れながら、心の健康教育における支援の方法を学ぶ。

【ディプロマ・ポリシー番号】1 ・3

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	心の健康を害する問題について調べておく【2 時間】 心の健康を脅かす事象についての理解を深める どの様な事象が心の健康に影響を与えるかについてまとめる【2 時間】
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	ストレスに関する心理的な問題について参考図書・文献を調べておく【2 時間】 メンタルヘルスの低下やストレス等の心理的な問題について概観する 心理的な問題をストレスの関係についてまとめる【2 時間】
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	ストレスの身体反応について調べておく【2 時間】 ストレスがおよぼす生理的現象について学ぶ ストレスを受けるとどのような身体反応が生じるかについて整理しておく【2 時間】
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	転換性障害などのストレスに起因する疾病について調べておく【2 時間】 ストレスが関連する心身の疾病について学ぶ ストレスにより生じる疾病について整理する【2 時間】
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	ストレスなどに関する心理検査について調べておく【2 時間】 ストレスチェックの評価尺度についての知識を得る どの様な場面でどのような評価尺度が適切かを考える【2 時間】
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	ストレスなどに関する心理検査の査定について調べておく【2 時間】 ストレスチェックの評価尺度を用いて査定し、ストレス状態を検討する 査定から見えるストレス状態についてよく理解する【2 時間】
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	気分転換などのストレス・コーピングについて調べておく【2 時間】 ストレス等の緩和要因やコーピングなどのメンタルヘルスの支援について考える メンタルヘルスの支援について具体的に考えてまとめる【2 時間】
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	ストレスが生じた場合にどう対処したらいいかについて考えておく【2 時間】 ストレスへの対応について ⑴ストレスマネジメントについての知識を得る ストレスの発生から対応までの流れをまとめる【2 時間】
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	ストレス要因とコーピングについて復習しておく【2 時間】 ストレスへの対応について ⑵トランスアクショナル・モデルについて理解を深める 何故ストレスによる心理的な疾病が生じるかについて理解する【2 時間】
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	カウンセリングではどのような問題が扱われるかを調べておく【2 時間】 カウンセリング場面におけるストレス状態について事例を用いて査定する 実際の臨床場面におけるストレスへの対処を考えまとめる【2 時間】
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	マインドフルネスや認知行動療法などの両方について調べて置く【2 時間】 ストレスへの心理療法的な対応法について学ぶ 心理療法とストレスマッチングを検討する【2 時間】
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	ストレス状態の査定やコーピング・心理療法などについて復習しておく【2 時間】 カウンセリング場面におけるストレスへの対応について事例をもとに検討する 事例を通して査定や心理療法などの支援について考える【2 時間】
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	現代における各ハラスメントについて調べておく【2 時間】 ハラスメントの理解とその対応について学ぶ ハラスメントによるストレスの違いなどについて整理する【2 時間】
第 14	事前学修 授業内容	ポジティブ心理学について調べておく【2 時間】 セルフヘルプやポジティブ心理学についての知識を深める

回	事後学修	ストレスケアについての方法を整理する【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	心を健康に保つための工夫について考えておく【2 時間】 心の健康教育における支援の在り方について理解する ストレス等の心理的な問題に関する理解を深め、実践できるようまとめる【3 時間】

【成績評価の方法】
平常点 50%、レポート 50%

【フィードバック】
レポートに関するフィードバックは、授業内で行う

【テキスト】
特になし

【参考書】
特になし。必要な場合適宜紹介する。

【履修上の注意等】
医療・産業・学校現場などの実際の臨床場面において、ストレスへの対応が実践できることを目指すため、意欲をもって積極的な発表や討論を期待する。

授業科目名：発達・教育心理学特講(2)	専攻･領域：心理・臨床
担当教員名：平間 さゆり	501914／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
(1)教育現場における様々な問題への理解を深めることができる。
(2)教育現場の諸問題について、臨床家として関わるスキルを得ることができる。

【授業の概要(目的)】
教育現場には、どのような制度や活動があるかを知り、生じている学習や神経発達障害の問題・環境や心理的な問題について理解する。また、教育現場における諸問題について査定し、具体的な支援が出来ることを目指す。

【ディプロマ・ポリシー番号】1・3

【授業計画】

第1回	事前学修	教育に関する制度や法律について調べておく【2 時間】
	授業内容	教育の制度や法律について、教育に関する権利と義務の視点から学ぶ
	事後学修	どのような制度や法律があるかについて整理する【2 時間】
第2回	事前学修	教育現場における倫理的な問題について調べておく【2 時間】
	授業内容	情報倫理・学級経営を含む教育活動の倫理について学ぶ
	事後学修	教育に関する倫理についてまとめる【2 時間】
第3回	事前学修	物事を認知することや言語が発達することについて調べておく【2 時間】
	授業内容	認知と言語の発達についての理解を深める
	事後学修	どのように認知と言語が発達するかを整理する【2 時間】
第4回	事前学修	感情・社会的行動の発達について調べておく【2 時間】
	授業内容	感情や社会行動の発達と教育についての理解を深める
	事後学修	感情や集団の対人関係などがどのように発達するかについて整理する【2 時間】
第5回	事前学修	物事の認知や学習することについて調べておく【2 時間】
	授業内容	学習・認知のメカニズムを学び、教育への応用を考える
	事後学修	講義で得た知識についてよく理解する【2 時間】
第6回	事前学修	集団行動や学習への意欲について調べておく【2 時間】
	授業内容	集団における学習や学習意欲に関する理論を学ぶ
	事後学修	学校での集団行動や意欲の向上などについてまとめる【2 時間】
第7回	事前学修	学級経営などの教育現場の活動について調べておく【2 時間】
	授業内容	学級経営・教授法の種類や特徴を知り、支援について考える
	事後学修	教育現場の活動や状況についての理解を深めてる【2 時間】
第8回	事前学修	知的能力の査定について調べておく【2 時間】
	授業内容	学力や知能のアセスメントの方法についての理解を深める
	事後学修	各個人の能力をどのように査定するかについて整理する【2 時間】
第9回	事前学修	学年ごとの到達目標や習熟度に関して調べておく【2 時間】
	授業内容	学習における達成度の評価方法を学び、具体的な支援を考える
	事後学修	達成度の評価をし、到達目標への支援についての理解を深める【2 時間】
第10回	事前学修	スクールカウンセリングについて調べておく【2 時間】
	授業内容	スクールカウンセリングにおける問題（不登校・いじめ・非行等）について理解する
	事後学修	学校現場で生じる様々な問題について整理する【2 時間】
第11回	事前学修	生徒や教員などの様々な対人関係や家庭などの環境の問題いついて調べておく【2 時間】
	授業内容	学校における対人関係や環境の問題についてのアセスメントを検討する
	事後学修	講義で得た知識について整理する【2 時間】
第12回	事前学修	スクールカウンセラーはどのような連携が必要か調べておく【2 時間】
	授業内容	教職員・保護者・地域社会などの周囲との連携について検討する
	事後学修	スクールカウンセラーの役割についてまとめる【2 時間】
第13回	事前学修	神経発達障害や特別支援教育について調べておく【2 時間】
	授業内容	神経発達障害の問題を概観し、特別支援教育に関する理解を深める
	事後学修	特別支援教育ではどのようなことが求められているかについてセイルする【2 時間】
第14回	事前学修	教育現場で提供する情報とは何かを考えておく【2 時間】
	授業内容	教育現場への心の健康に関する情報提供について、何が必要であるかなどを検討する

回	事後学修	実際に必要とされる心の健康に関する情報とは何かを理解する【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	教育現場での心理的支援について調べておく【2 時間】 教育現場における心理的な問題について、事例を用いて周囲との連携や支援を検討する 講義の事例を参考にして、心理的な問題への対応を考える【3 時間】

【成績評価の方法】
平常点 50%、レポート 50%

【フィードバック】
レポートについては授業内でフィードバックを行う

【テキスト】
特になし

【参考書】
特にないが、必要な場合は適宜紹介する

【履修上の注意等】
スクールカウンセラーとして、教育現場における諸問題に対応できるスキルを身に付ける事を目指している。
実際の教育現場において迅速な対応が出来るよう、問題意識をもって積極的な意見を述べることを期待する。

授業科目名 ： 臨床心理実習Ⅱ	専攻･領域：心理･臨床
担当教員名 ： 松原 由枝*松岡 靖子*平間 さゆり *(西川 將巳)	501706／通年／選必／2 単位／実習

【到達目標】
⑴学内実習で事例の臨床的対応を学び事例報告を作成できる。
⑵学外実習現場から臨床家の姿勢や技法を学び報告できる。
⑶臨床的感性の向上、臨床心理士の対人ｽｷﾙを獲得する事ができる。

【授業の概要(目的)】
心理臨床家に必要なものは、臨床心理学的知識の習得と実践的臨床経験である。本実習科目では学部や大学院で培われた知識･技能を実際の臨床場面で実践し、臨床家としての資質の向上を目指す。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・２・３・４

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 実習のｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ並びに学外実習先の希望ｱﾝｹｰﾄ 復習(2 時間)。
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学内実習についての留意事項と注意点及び事例の取り扱い方① 復習(2 時間)。
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学外実習についての留意事項と注意点及び事例の取り扱い方② 復習(2 時間)。
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝについての個人発表+資格の動向 復習(2 時間)。
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝについての個人発表+質問紙法の活用の仕方
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝについての個人発表+実践質問紙法(TEG) 復習(2 時間)。
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝについての個人発表+TEG のﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法 復習(2 時間)。
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 TEG を用いたﾛｰﾙﾌﾟﾚｲで体験するｸﾗｲｴﾝﾄの気持ちとﾚﾎﾟｰﾄ作成 復習(2 時間)。
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 体験箱庭療法① 見守られる体験と見守る体験 復習(2 時間)。
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 体験箱庭療法② ｼﾝﾎﾞﾙと象徴 復習(2 時間)。
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 体験箱庭療法③ 空間象徴の理解 復習(2 時間)。
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 体験箱庭療法④ 質問紙の当時活用法 復習(2 時間)。
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 体験ｺﾗｰｼﾞｭ療法① 箱庭療法との相違点 復習(2 時間)。
第 14	事前学修 授業内容	実習内容の予習(2 時間)。 体験ｺﾗｰｼﾞｭ療法② 貼られたものと貼られなかったものの差異

回	事後学修	復習(2 時間)。
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 体験ｺﾗｰｼﾞｭ療法③ 同時作製法及びｼｪｱﾘﾝｸﾞとﾚﾎﾟｰﾄ作成 復習(2 時間)。
第 16 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学内実習の個人発表、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+2016 心理臨床学会の研究動向。事例検討① 復習(2 時間)。
第 17 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学内実習の個人発表、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+臨床心理学関係の求人状態。事例検討② 復習(2 時間)。
第 18 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学内実習の個人発表、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+臨床心理学者とその研究の関係性。事例検討③ 復習(2 時間)。
第 19 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学内実習の個人発表、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+心理療法の理解と実践。事例検討④ 復習(2 時間)。
第 20 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学外実習の個人発表、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+ｸﾗｲｴﾝﾄの生育歴と現在の臨床像との関連。事例検討⑤ 復習(2 時間)。
第 21 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学外実習の個人発表、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+ｸﾗｲｴﾝﾄの言語化の訴えの理解。事例検討⑥ 復習(2 時間)。
第 22 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学外実習の個人発表、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+ｸﾗｲｴﾝﾄの身体言語の理解。事例検討⑦ 復習(2 時間)。
第 23 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学外実習の個人発表、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+ｸﾗｲｴﾝﾄの改善の兆候の把握。事例検討⑧ 復習(2 時間)。
第 24 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 芸術療法におけるｼｪｱﾘﾝｸﾞの有効性。事例検討⑨ 復習(2 時間)。
第 25 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 事例の終結の方法。事例検討⑩ 復習(2 時間)。
第 26 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学内・学外実習の総括①、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+各々の臨床についての特色を考えてみる。事例検討⑪ 復習(2 時間)。
第 27 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学内・学外実習の総括②、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+各々の臨床ﾂｰﾙについて考えてみる。事例検討⑫ 復習(2 時間)。
第 28 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学内・学外実習の総括③、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+各々を支える背景理論について考えてみる。事例検討⑬ 復習(2 時間)。
第 29 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 臨床心理実習の総括① ｽｰﾊﾟｰﾊﾞｲｽﾞを受ける重要性について 復習(2 時間)。
第 30 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 臨床心理実習の総括② 全体の傾向と個人の傾向 復習(2 時間)。

【成績評価の方法】
平常点 40 点、提出物 30 点、ﾚﾎﾟｰﾄ 15 点、 課題 15 点
課題・試験の結果は面談で行う。

【ﾃｷｽﾄ】

特になし

【参考書】
特になし。必要の場合は適時紹介する

【履修上の注意等】
学内外の実習で知り得た個人のﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰについては守秘義務を全うする事。学内外の実習では欠席・遅刻・早退は必ず本人が事前に連絡を入れる事。また実習先は必ず希望通りにはならない場合もある(受け入れ人数の関係から)

授業科目名 ： 深層心理学概論(1)	専攻・領域：心理・臨床
担当教員名 ： 松原 由枝	501345／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
⑴深層心理学への新しい接近法の 1 つを説明できる。
⑵新しい投影法により、ｸﾗｲｴﾝﾄを時間系列的に理解できる。
⑶自分の深層心理の把握ができる。
⑷個人への家族的無意識の影響を説明できる。

【授業の概要(目的)】
深層心理学は無意識の心理学である。無意識の理解にはﾌﾛｲﾄやﾕﾝｸﾞの理論修得が必須である。本科目では前者をつなぐ理論として、L.ｿﾝﾃﾞｨの理論とﾃｽﾄについて学ぶ。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・３・４

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	深層心理学とはどのようなものか定義を調べる。【2 時間】 深層心理学の概念・定義について。 深層心理学の概念・定義についてまとめる。【2 時間】
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	深層心理学の探究方法について調べる。【2 時間】 深層心理学の探究方法について。 深層心理学の探究方法について分類する。【2 時間】
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾃｷｽﾄ 1 章を読む。【2 時間】 L.ｿﾝﾃﾞｨについて①生い立ちから研究のｽﾀｰﾄﾗｲﾝまで L.ｿﾝﾃﾞｨについて深層心理学での位置づけについてまとめる。【2 時間】
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	ｿﾝﾃﾞｨ、ﾌﾛｲﾄ、ﾕﾝｸﾞを年表としてまとめる。【2 時間】 L.ｿﾝﾃﾞｨについて②学説の概観を中心に 作成した年表を元に各研究者の学説の特色をまとめる。【2 時間】
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾃｷｽﾄの 2 章を読みｿﾝﾃﾞｨ・ﾃｽﾄ研究動向を概観してみる。【2 時間】 ｿﾝﾃﾞｨ・ﾃｽﾄのわが国における研究の歴史と変遷。 ｿﾝﾃﾞｨ・ﾃｽﾄの活用法の可能性についてまとめる。【2 時間】
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾃｷｽﾄの 3 章を読み他のﾃｽﾄとの相違点について比較してみる。【2 時間】 ｿﾝﾃﾞｨ・ﾃｽﾄ学の理論。 自分のﾃｽﾄを施行してみる。【2 時間】
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	自分でﾃｽﾄを施行した感想をまとめる。【2 時間】 ｿﾝﾃﾞｨ・ﾃｽﾄ学の方法。 自分のﾃｽﾄ結果の整理をしてﾌﾟﾛﾌｨｰﾙ化する。【2 時間】
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾃｽﾄの分析・解釈に必要な知識は何か調べてみる。【2 時間】 ｿﾝﾃﾞｨ・ﾃｽﾄの分析・解釈法。 自分のﾃｽﾄを分析・解釈してまとめる。【2 時間】
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	ｿﾝﾃﾞｨ・ﾃｽﾄとﾛｰﾙｼｬｯﾊﾃｽﾄを比較してまとめる。【2 時間】 ｿﾝﾃﾞｨ・ﾃｽﾄとﾛｰﾙｼｬｯﾊﾃｽﾄの比較。 ｿﾝﾃﾞｨ・ﾃｽﾄとﾛｰﾙｼｬｯﾊﾃｽﾄを比較一覧表を作成する。【2 時間】
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾃｷｽﾄにあるｿﾝﾃﾞｨ・ﾃｽﾄを用いた標準的事例研究を読む。【2 時間】 ｿﾝﾃﾞｨ・ﾃｽﾄを用いた標準的事例研究。 自分のﾃｽﾄ結果を元に標準的解釈に則り分析・解釈してみる。【2 時間】
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾃｷｽﾄの 5 章を読む。【2 時間】 ｿﾝﾃﾞｨ・ﾃｽﾄによる診断的活用−診断的個別研究 診断的個別研究はどのような研究に向くか見解をまとめる。【2 時間】
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾃｷｽﾄ 6 章を読む。【2 時間】 ｿﾝﾃﾞｨ・ﾃｽﾄを用いた診断的集団研究。 診断的集団研究はどのような研究に向くか見解をまとめる。【2 時間】
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾃｷｽﾄの 7 章を読む。【2 時間】 ｿﾝﾃﾞｨ・ﾃｽﾄを用いた治療的事例 1.−ﾃｽﾄの新しい活用法 治療的事例 1.に他の臨床的方法を用いるなら何か、見解をまとめる。【2 時間】
第 14	事前学修 授業内容	ﾃｷｽﾄの 8 章を読む。【2 時間】 ｿﾝﾃﾞｨ・ﾃｽﾄを用いた治療的事例 2.−ﾃｽﾄの重層式活用法

回	事後学修	治療的事例 2.における成功要因について見解をまとめる。【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	テキストの 9 章を読む。【2 時間】 ソンディ・テストを用いた治療的事例 3. 治療的事例 3.の中に他の可能性や役割があるか見解をまとめる。【2 時間】

【成績評価の方法】
平常点 30%　授業への積極的関与　40%　課題及びレポート　30%
課題・試験の結果のフィードバックは面談でおこなう。

【テキスト】
ソンディ・テスト 心理臨床に生かす活用法 松原由枝著 培風館 4700 円+税

【参考書】
ソンディ・テスト マニュアル(大学院図書として準備してあります) 松原由枝著 千葉テストセンター

【履修上の注意等】
授業への積極的関与を求める。
扱う内容が個人のプライバシーに関わる場合があるため、自他の心理テストの結果は大切に扱い、興味本位にはならない事。テスト結果の十分な管理に努める事。

授業科目名 ： 深層心理学概論(2)	専攻・領域：心理・臨床
担当教員名 ： 松原 由枝	501346／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
⑴深層心理が重層的・立体的に構成されていることを説明できる。
⑵深層心理の力動的把握法について説明できる。
⑶臨床場面でのソンディ・テストの有効的・実践的活用法を使うことができる。

【授業の概要(目的)】
前期で学んだソンディ・テストについて、具体的な分析・解釈法の理解を深め、最終的には臨床場面で如何に活用できるか、理論と実際を合わせた適用法や他の心理テストとの併用について学ぶ。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・３・４

【授業計画】

第1回	事前学修	マニュアル(大学院図書)のテスト分析の基礎、4 ベクターと 8 ベクターを読む。【2 時間】
	授業内容	ソンディ・テスト分析の基礎①,4 ベクターと 8 ファクターについて。
	事後学修	4 ベクターと 8 ファクターを復習しながら自分のテストを分析してみる。【2 時間】
第2回	事前学修	マニュアルのテストの分析・解釈の基本を読む。【2 時間】
	授業内容	ソンディ・テストの分析・解釈の基本。
	事後学修	テストの分析・解釈の基本を復習しながら自分のテストを整理する。【2 時間】
第3回	事前学修	マニュアルのその他の指標を読む。【2 時間】
	授業内容	ソンディ・テスト分析・解釈に用いるその他の指標。
	事後学修	その他の指標を用い自分のテスト結果に適用して分析してみる。【2 時間】
第4回	事前学修	マニュアルの S ベクターを読む。【2 時間】
	授業内容	S ベクターの構成と h ファクター、s ファクターについて。
	事後学修	自分のテスト結果から S ベクターの傾向を読み取りまとめる。【2 時間】
第5回	事前学修	マニュアルの P ベクターを読む。【2 時間】
	授業内容	P ベクターの構成と e ファクター、hy ファクターについて。
	事後学修	自分のテスト結果から P ベクターの傾向を読み取りまとめる。【2 時間】
第6回	事前学修	マニュアルの Sch ベクターを読む。【2 時間】
	授業内容	Sch ベクターの構成と k ファクターと p ファクターについて。
	事後学修	自分のテスト結果から Sch ベクターの傾向を読み取りまとめる。【2 時間】
第7回	事前学修	マニュアルの C ベクターを読む。【2 時間】
	授業内容	C ベクターの構成と d ファクター、m ファクターについて。
	事後学修	自分のテスト結果から C ベクターの傾向を読み取りまとめる。【2 時間】
第8回	事前学修	自分のテスト結果をもとに、テスト結果の全体像を導き出す。【2 時間】
	授業内容	テストを用いたクライエントの深層の全体的把握と、モザイク的解釈の危険性。
	事後学修	自分の分析・解釈はモザイク的解釈になっていないか検討する。【2 時間】
第9回	事前学修	テキストのソンディ・テストの施行方法 1.を読む。【2 時間】
	授業内容	ソンディ・テストの施行方法 1.－簡便なテスト施行とプロフィール化
	事後学修	ソンディ・テストの施行方法 1.を実際に体験してみる。【2 時間】
第10回	事前学修	テキストのソンディ・テストの施行方法 2.を読む。【2 時間】
	授業内容	ソンディ・テストの施行方法 2.－深層心理の縦断的把握と横断的把握
	事後学修	自分のテスト結果を縦断的・横断的に把握してまとめる。【2 時間】
第11回	事前学修	テキストの前景像と、背景像の理解を読む。【2 時間】
	授業内容	前景像(前景人格)と背景像(背景人格)の理解－人格の二元論的把握
	事後学修	自分のテスト結果をもとに、前景、背景人格について分析しまとめる。【2 時間】
第12回	事前学修	テキストのソンディ・テストの面接の前後施行法を読む。【2 時間】
	授業内容	ソンディ・テストの面接前後施行法－心理治療効果の測定から心理治療への発展
	事後学修	心理テストの担う責任と価値について見解をまとめる。【2 時間】
第13回	事前学修	テキストのフィードバックとクライエントの深層心理の変化を促すを読む。【2 時間】
	授業内容	フィードバックからクライエントの深層心理の変化を促す－洞察への援助法
	事後学修	フィードバックと洞察の関係性、重要性について見解をまとめる。【2 時間】
第14回	事前学修	テキストのソンディ・テストの限界とその克服を読む。【2 時間】
	授業内容	ソンディ・テストの限界とその克服－ソンディ・テストの新しい可能性ついて。
	事後学修	他の投影法を 1～2 つ挙げて、限界と可能性についてまとめる。【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	テキストの 10 章 ソンディ・テストと他の心理療法との併用を読む。【2 時間】 ソンディ・テストを用いた治療的事例 4.ーソンディ・テストの新しい可能性について。 ソンディ・テストとどのような心理的技術が併用可能か見解をまとめる。【2 時間】

【成績評価の方法】
平常点 30%　授業への積極的関与　40%　課題及びレポート　30%
課題・試験の結果のフィードバックは面談でおこなう。

【テキスト】
ソンディ・テスト 心理臨床に生かす活用法 松原由枝著 培風館 4700 円+税

【参考書】
ソンディ・テスト マニュアル(大学院図書として準備してあります) 松原由枝著 千葉テストセンター

【履修上の注意等】
授業への積極的関与を求める。
扱う内容が個人のプライバシーに関わる場合があるため、自他の心理テストの結果は大切に扱い、興味本位にはならない事。テスト結果の十分な管理に努める事。

授業科目名 ： 臨床心理学特論	専攻・領域：心理・臨床
担当教員名 ： 松原 由枝*西川 將巳	501301／通年／選必／4 単位／講義

【到達目標】
⑴臨床心理学とｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞの差異について説明する事ができる。
⑵臨床心理学の多面的研究方法を分類、説明する事ができる。
⑶臨床心理士の活動領域範囲、守秘義務を分類する事ができる。

【授業の概要(目的)】
臨床心理学の理論と技術を元に現場で実践的活動に必要な技法や理論・考え方や倫理等を教授する。加えて心理査定法・臨床心理面接法・臨床心理的援助法等の役割と位置づけや活用についても講義する。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・２・３・４

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	各自の研究歴と修論のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝの構想を自分なりにまとめる【2 時間】 本科目のｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ並びに個人発表の順番を決め発表ｽﾀｲﾙを統一化する 発表ｽﾀｲﾙに合わせ各自の研究歴と修論のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝを作成する【2 時間】
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	臨床心理学関係の学会誌を概観し研究項目をまとめる【2 時間】 現代臨床現場における研究動向について 授業をもとに現代臨床心理学の研究動向をまとめる【2 時間】
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾒﾃﾞｨｱから臨床心理学が関与すべき記事を拾いまとめる【2 時間】 現代社会とｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞの必要性 社会がなぜ臨床心理学を求めるのかﾚﾎﾟｰﾄにまとめる【2 時間】
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	各自、臨床心理学のどの領域に関心があるか検討する。【2 時間】 研究歴と修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ構想の発表・討論①+論文の作成方法 各自、修士論文の実現可能性について、長所と短所をまとめる。【2 時間】
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	各自、修士論文における研究対象に偏りがないか検討する。【2 時間】 研究歴と修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ構想の発表・討論②+研究対象の選別について 各自、修士論文における研究対象の明確化をまとめる。【2 時間】
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	各自、修士論文で扱う予定のﾃｰﾏについて中核部分の焦点化をしてまとめる。【2 時間】 研究歴と修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ構想の発表・討論③+修士論文における整合性 各自、修士論文で扱うﾃｰﾏについて、その焦点化に無理がないか検討しまとめる。【2 時間】
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	各自、修士論文における研究方法が妥当か検討し幾つかの可能性を絞りながらまとめる。【2 時間】 研究歴と修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ構想の発表・討論④+修士論文における研究方法 各自、修士論文の研究方法に不足する部分はどこか検討しまとめる。【2 時間】
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	各自、集団的あるいは個別的・事例研究方法の相違点や特徴について文献などをもとにまとめる。【2 時間】 研究歴と修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ構想の発表・討論⑤+集団的研究および個別的研究歴 各自、自分の研究が集団的か個別的かどちらに該当するのか検討してみる。【2 時間】
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	各自、修士論文における倫理について検討してみる。【2 時間】 研究歴と修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ構想の発表⑥+臨床心理学と倫理 各自、臨床心理学で倫理から逸脱しる場合はどのような時か検討してまとめる。【2 時間】
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	各自、心理ﾃｽﾄ(質問紙法)について分類してみる。【2 時間】 研究歴と修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ構想の発表・討論⑦+体験ｴｺﾞｸﾞﾗﾑ 各自、ｴｺﾞｸﾞﾗﾑの判定結果をﾏﾆｭｱﾙを参考に出してみる。【2 時間】
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	各自、ｴｺﾞｸﾞﾗﾑの判定結果と自分の臨床像を照合して自己像を検討してみる。【2 時間】 研究歴と修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ構想の発表・討論⑧+ｴｺﾞｸﾞﾗﾑの使い方 各自、ｴｺﾞｸﾞﾗﾑの判定結果をもとに自己像についてﾚﾎﾟｰﾄにまとめる。【2 時間】
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	各自、心理ﾃｽﾄ(投影法)について分類してみる。【2 時間】 研究歴と修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ構想の発表・討論⑨+投影法のねらい。 各自、代表的投影法１つを選択し考案者やﾃｽﾄの成立、活用領域等々をまとめる。【2 時間】
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	各自、投影法の特色について見解をまとめる。【2 時間】 研究歴と修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ構想の発表・討論⑩+投影法の役割 各自、質問紙と投影法の相違点や類似点についてまとめる。【2 時間】
第 14 回	事前学修 授業内容 事後学修	各自、芸術療法について種類や適応領域等、文献や辞典を参考に調べる。【2 時間】 研究歴と修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ構想の発表+討論 11 +芸術療法とは。 各自、芸術療法について効果と限界について一覧表を作る。【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	箱庭療法について文献を調べる。【2 時間】 学生の研究歴と修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ構想についての発表の総括 各自、修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ構想の修正及び展望についてまとめる。【2 時間】
第 16 回	事前学修 授業内容 事後学修	各自、箱庭療法の重要な解釈のｷｰﾎﾟｲﾝﾄはどこにあるのか自分の見解をまとめる。【2 時間】 体験 箱庭療法① 見守られる体験 各自、箱庭を作成した感想・所感をまとめる。【2 時間】
第 17 回	事前学修 授業内容 事後学修	各自、箱庭療法の 3 臨床例について文献などを参考に購読する。【2 時間】 体験 箱庭療法② 見守る体験 各自、他者の箱庭作品を見守り制作者の内的世界をいかに感じたか感想をまとめる。【2 時間】
第 18 回	事前学修 授業内容 事後学修	各自、ﾃｷｽﾄの第 2 章ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ理論と人間観を読んでおく。【2 時間】 発表① ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ理論と人間観 +討論 各自、重要な 5 つのｱﾌﾟﾛｰﾁの理論とその人間観について一覧表を作成する。【2 時間】
第 19 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾃｷｽﾄ第 3 章 ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞの諸技法を読んでおく。【2 時間】 発表②ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞの諸技法+討論 ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞの諸技法について効果と限界をまとめる。【2 時間】
第 20 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾃｷｽﾄ第 4 章 職場のﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽとｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを読んでおく。【2 時間】 発表③職場のﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽとｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ+討論 職場のﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽとｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを時事と照合しまとめる。【2 時間】
第 21 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾃｷｽﾄ第 5 章 ｽﾄﾚｽの心理とｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを読んでおく。【2 時間】 発表④ ｽﾄﾚｽの心理とｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ+討論 ｽﾄﾚｽの心理とｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞについて自己の生活等と照合してまとめる。【2 時間】
第 22 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾃｷｽﾄの第 6 章 ｶｳﾝｾﾗｰの資格を読んでおく。【2 時間】 発表⑤ ｶｳﾝｾﾗｰの資格+討論 ｶｳﾝｾﾗｰの資格について現場に即しまとめる。【2 時間】
第 23 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾃｷｽﾄの第 7 章 ｶｳﾝｾﾗｰの責任と倫理を読んでおく。【2 時間】 発表⑥ ｶｳﾝｾﾗｰの責任と倫理+討論 ｶｳﾝｾﾗｰの責任と倫理について自分の見解をまとめる。【2 時間】
第 24 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾃｷｽﾄの 第 8 章 ｶｳﾝｾﾗｰの限界を読んでおく。【2 時間】 発表⑦ ｶｳﾝｾﾗｰの限界+討論 ｶｳﾝｾﾗｰの限界について自分の見解をまとめる。【2 時間】
第 25 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾃｷｽﾄの第 9 章 ｶｳﾝｾﾗｰの仕事と職域を読んでおく。【2 時間】 発表⑧ ｶｳﾝｾﾗｰの仕事と職域+討論 ｶｳﾝｾﾗｰの仕事と職域をまとめｶｳﾝｾﾗｰの展望についてまとめる。【2 時間】
第 26 回	事前学修 授業内容 事後学修	芸術療法の中のｺﾗｰｼﾞｭ療法について文献や辞典をもとに調べる。【2 時間】 体験 ｺﾗｰｼﾞｭ療法①ﾏｶﾞｼﾞﾝ・ﾋﾟｸﾁｬｰ法+ｼｪｱﾘﾝｸﾞ ｺﾗｰｼﾞｭ作成とｼｪｱﾘﾝｸﾞによる体験からの所感をまとめる。【2 時間】
第 27 回	事前学修 授業内容 事後学修	ｼｪｱﾘﾝｸﾞの臨床心理学的意義について各自が個人的見解をまとめる。 体験ｺﾗｰｼﾞｭ療法②ﾏｶﾞｼﾞﾝ・ﾎﾞｯｸｽ法+ｼｪｱﾘﾝｸﾞ ｺﾗｰｼﾞｭ作成のｼｪｱﾘﾝｸﾞから何を感じたのか、各自の心の動きを記録する。【2 時間】
第 28 回	事前学修 授業内容 事後学修	投影法の中でのｺﾗｰｼﾞｭの意義について文献を参考にまとめる。【2 時間】 体験ｺﾗｰｼﾞｭ療法③同時制作法+ｼｪｱﾘﾝｸﾞ 各自、自分のｺﾗｰｼﾞｭの流れとその意義について所感をまとめる。【2 時間】
第 29 回	事前学修 授業内容 事後学修	ｸﾗｲｴﾝﾄに心理ﾃｽﾄは何を貢献することが可能か、各自見解をまとめる。【2 時間】 臨床心理学の今後と展望 未来の臨床心理士としてどのようなものを修学するべきか、各自計画を立ててみる。【2 時間】
第 30 回	事前学修 授業内容 事後学修	各自のﾊﾞｯｸｸﾞﾗｳﾝﾄﾞとなる理論、先達、技法は何か考える。【2 時間】 臨床心理学特論 総括及び討論 各自が今後修得したいものをﾘｽﾄ化し自己の未来像をさらに明確化する。【2 時間】

【成績評価の方法】
発表 40%　　積極的討論参加　30%　平常点　15%　課題・提出物　15%
課題・試験のﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸは面談で行う。

【ﾃｷｽﾄ】
松原達哉・松原由枝・宮崎圭子 共著「ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ 心理学」培風館

【参考書】
特になし 必要な場合はその都度紹介する。

【履修上の注意等】
授業中の積極的討論は歓迎する。
発表ﾚｼﾞｭﾒは当日授業前に整えること。
授業中で扱った事例などは、ﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰ保護につとめ授業以外では他言無用の事。

授業科目名 ： 臨床心理実習	専攻･領域：心理･臨床
担当教員名 ： 松原 由枝*松岡 靖子*平間 さゆり* *(西川 將巳)	501304／通年／選必／2 単位／実習

【到達目標】
⑴学内実習で事例の臨床的対応を学び事例報告を作成できる。
⑵学外実習現場から臨床家の姿勢や技法を学び報告できる。
⑶臨床的感性の向上、臨床心理士の対人ｽｷﾙを獲得する事ができる。

【授業の概要(目的)】
心理臨床家に必要なものは、臨床心理学的知識の習得と実践的臨床経験である。本実習科目では学部や大学院で培われた知識･技能を実際の臨床場面で実践し、臨床家としての資質の向上を目指す。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・２・３・４

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 実習のｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ並びに学外実習先の希望ｱﾝｹｰﾄ 復習(2 時間)。
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学内実習についての留意事項と注意点及び事例の取り扱い方① 復習(2 時間)。
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学外実習についての留意事項と注意点及び事例の取り扱い方② 復習(2 時間)。
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝについての個人発表+資格の動向 復習(2 時間)。
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝについての個人発表+質問紙法の活用の仕方 復習(2 時間)。
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝについての個人発表+実践質問紙法(TEG) 復習(2 時間)。
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 修士論文のｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝについての個人発表+TEG のﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法 復習(2 時間)。
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 TEG を用いたﾛｰﾙﾌﾟﾚｲで体験するｸﾗｲｴﾝﾄの気持ちとﾚﾎﾟｰﾄ作成 復習(2 時間)。
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 体験箱庭療法① 見守られる体験と見守る体験 復習(2 時間)。
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 体験箱庭療法② ｼﾝﾎﾞﾙと象徴 復習(2 時間)。
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 体験箱庭療法③ 空間象徴の理解 復習(2 時間)。
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 体験箱庭療法④ 質問紙の当時活用法 復習(2 時間)。
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 体験ｺﾗｰｼﾞｭ療法① 箱庭療法との相違点 復習(2 時間)。
第 14	事前学修 授業内容	実習内容の予習(2 時間)。 体験ｺﾗｰｼﾞｭ療法② 貼られたものと貼られなかったものの差異

回	事後学修	復習(2 時間)。
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 体験ｺﾗｰｼﾞｭ療法③ 同時作製法及びｼｪｱﾘﾝｸﾞとﾚﾎﾟｰﾄ作成 復習(2 時間)。
第 16 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学内実習の個人発表、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+2016 心理臨床学会の研究動向。事例検討① 復習(2 時間)。
第 17 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学内実習の個人発表、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+臨床心理学関係の求人状態。事例検討② 復習(2 時間)。
第 18 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学内実習の個人発表、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+臨床心理学者とその研究の関係性。事例検討③ 復習(2 時間)。
第 19 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学内実習の個人発表、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+心理療法の理解と実践。事例検討④ 復習(2 時間)。
第 20 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学外実習の個人発表、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+ｸﾗｲｴﾝﾄの生育歴と現在の臨床像との関連。事例検討⑤ 復習(2 時間)。
第 21 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学外実習の個人発表、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+ｸﾗｲｴﾝﾄの言語化の訴えの理解。事例検討⑥ 復習(2 時間)。
第 22 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学外実習の個人発表、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+ｸﾗｲｴﾝﾄの身体言語の理解。事例検討⑦ 復習(2 時間)。
第 23 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学外実習の個人発表、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+ｸﾗｲｴﾝﾄの改善の兆候の把握。事例検討⑧ 復習(2 時間)。
第 24 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 芸術療法におけるｼｪｱﾘﾝｸﾞの有効性。事例検討⑨ 復習(2 時間)。
第 25 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 事例の終結の方法。事例検討⑩ 復習(2 時間)。
第 26 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学内・学外実習の総括①、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+各々の臨床についての特色を考えてみる。事例検討⑪ 復習(2 時間)。
第 27 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学内・学外実習の総括②、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+各々の臨床ﾂｰﾙについて考えてみる。事例検討⑫ 復習(2 時間)。
第 28 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 学内・学外実習の総括③、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ+各々を支える背景理論について考えてみる。事例検討⑬ 復習(2 時間)。
第 29 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 臨床心理実習の総括① ｽｰﾊﾟｰﾊﾞｲｽﾞを受ける重要性について 復習(2 時間)。
第 30 回	事前学修 授業内容 事後学修	実習内容の予習(2 時間)。 臨床心理実習の総括② 全体の傾向と個人の傾向 復習(2 時間)。

【成績評価の方法】
平常点 40 点、提出物 30 点、ﾚﾎﾟｰﾄ 15 点、 課題 15 点
課題・試験の結果は面談で行う。

【ﾃｷｽﾄ】

特になし

【参考書】
特になし。必要の場合は適時紹介する

【履修上の注意等】
学内外の実習で知り得た個人のﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰについては守秘義務を全うする事。学内外の実習では欠席・遅刻・早退は必ず本人が事前に連絡を入れる事。また実習先は必ず希望通りにはならない場合もある(受け入れ人数の関係から)

授業科目名： 臨床心理基礎実習	専攻･領域：心理・臨床
担当教員名：簑下 成子*佐藤 哲康*松原 由枝*松岡 靖子	501310／通年／選必／2 単位／実習

【到達目標】
心理臨床のあらゆる現場にある程度対応できる基礎力を修得することができる。心理療法の基礎となる来談者中心療法を習得し、認知行動療法の基礎を理解することができる。

【授業の概要(目的)】
心理臨床の専門家になるために必要な知識と技術の習得を目指す。傾聴技法、応答技法、関わり技法についてﾃｷｽﾄ学習とﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ体験を通じて学び、心理面接に必要な援助者としての基本姿勢を身につける実習を行う。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・３

【授業計画】

第1回	事前学修	面接技法の予習(1 時間)
	授業内容	面接技法の演習 1
	事後学修	復習(3 時間)
第2回	事前学修	面接技法の予習(1 時間)
	授業内容	面接技法の演習 2
	事後学修	復習(3 時間)
第3回	事前学修	面接技法の予習(1 時間)
	授業内容	面接技法の演習 3
	事後学修	復習(3 時間)
第4回	事前学修	面接技法の予習(1 時間)
	授業内容	面接技法の演習 4
	事後学修	復習(3 時間)
第5回	事前学修	面接技法の予習(1 時間)
	授業内容	面接技法の演習 5
	事後学修	復習(3 時間)
第6回	事前学修	インテーク面接の予習(1 時間)
	授業内容	ｲﾝﾃｰｸ面接のﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ 1
	事後学修	復習(3 時間)
第7回	事前学修	インテーク面接の予習(1 時間)
	授業内容	ｲﾝﾃｰｸ面接のﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ 2
	事後学修	復習(3 時間)
第8回	事前学修	インテーク面接の予習(1 時間)
	授業内容	ｲﾝﾃｰｸ面接のﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ 3
	事後学修	復習(3 時間)
第9回	事前学修	インテーク面接の予習(1 時間)
	授業内容	ｲﾝﾃｰｸ面接のﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ 4
	事後学修	復習(3 時間)
第10回	事前学修	インテーク面接の予習(1 時間)
	授業内容	ｲﾝﾃｰｸ面接のﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ 5
	事後学修	復習(3 時間)
第11回	事前学修	インテーク面接の予習(1 時間)
	授業内容	ｲﾝﾃｰｸ面接のﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ 6
	事後学修	復習(3 時間)
第12回	事前学修	ケースフォーミュレーションの予習(1 時間)
	授業内容	ｹｰｽﾌｫｰﾐｭﾚｰｼｮﾝ(事例の見立て)1
	事後学修	復習(3 時間)
第13回	事前学修	ケースフォーミュレーションの予習(1 時間)
	授業内容	ｹｰｽﾌｫｰﾐｭﾚｰｼｮﾝ(事例の見立て)2
	事後学修	復習(3 時間)
第14回	事前学修	振り返り自習(1 時間)
	授業内容	前期の振り返りとまとめ
	事後学修	復習(3 時間)

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	面接技法の予習(1 時間) 面接技法の演習 1 復習(3 時間)
第 16 回	事前学修 授業内容 事後学修	医療領域の予習(1 時間) 医療領域で生じる困難事例の対応ロールプレイ 1 復習(3 時間)
第 17 回	事前学修 授業内容 事後学修	医療領域の予習(1 時間) 医療領域で生じる困難事例の対応ロールプレイ 2 復習(3 時間)
第 18 回	事前学修 授業内容 事後学修	教育領域の予習(1 時間) 教育領域で生じる困難事例の対応ロールプレイ 1 復習(3 時間)
第 19 回	事前学修 授業内容 事後学修	教育領域の予習(1 時間) 教育領域で生じる困難事例の対応ロールプレイ 2 復習(3 時間)
第 20 回	事前学修 授業内容 事後学修	福祉領域の予習(1 時間) 福祉領域で生じる困難事例の対応ロールプレイ 1 復習(3 時間)
第 21 回	事前学修 授業内容 事後学修	福祉領域の予習(1 時間) 福祉領域で生じる困難事例の対応ロールプレイ 2 復習(3 時間)
第 22 回	事前学修 授業内容 事後学修	産業領域の予習(1 時間) 産業領域で生じる困難事例の対応ロールプレイ 1 復習(3 時間)
第 23 回	事前学修 授業内容 事後学修	産業領域の予習(1 時間) 産業領域で生じる困難事例の対応ロールプレイ 2 復習(3 時間)
第 24 回	事前学修 授業内容 事後学修	カンファレンスの予習(1 時間) 個別ケースのカンファランス 1 復習(3 時間)
第 25 回	事前学修 授業内容 事後学修	カンファレンスの予習(1 時間) 個別ケースのカンファランス 2 復習(3 時間)
第 26 回	事前学修 授業内容 事後学修	カンファレンスの予習(1 時間) 個別ケースのカンファランス 3 復習(3 時間)
第 27 回	事前学修 授業内容 事後学修	カンファレンスの予習(1 時間) 個別ケースのカンファランス 4 復習(3 時間)
第 28 回	事前学修 授業内容 事後学修	カンファレンスの予習(1 時間) 高齢者施設の見学 復習(3 時間)
第 29 回	事前学修 授業内容 事後学修	カンファレンスの予習(1 時間) 高齢者施設における集団音楽療法の実践 復習(3 時間)
第 30 回	事前学修 授業内容 事後学修	カンファレンスの予習(1 時間) 全体の振り返りとまとめ 復習(3 時間)

【成績評価の方法】
ケース検討会における発言 40%、実習中の姿勢 50%、レポート 10%

【フィードバック】
講義内でその都度口頭にてコメント・フィードバックする。

【テキスト】
特になし

【参考書】
都度紹介する。

【履修上の注意等】
授業内での態度はもちろんのこと、実習中は社会人としての立ち居振る舞いに気を付け、利用者の邪魔にならないように注意すること。

授業科目名： 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)	専攻･領域：心理・臨床
担当教員名：簑下 成子*北原 靖子*佐藤 哲康*(渡邉 昭彦)	501706／通年／選必／2 単位／実習

【到達目標】
臨床心理学の基礎知識と技能を実践 に結びつけ、現場で活用し、公認心理師・臨床心理士をはじめ医師・看護師等医療職、 教員等、多様な専門職との連携力を習得することができる。

【授業の概要(目的)】
臨床心理の現場で多職種と連携し、利用者にとって真に有益な支援をできるような実習を行う。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・３

【授業計画】

第1回	事前学修	産業領域の事例について調べる（1 時間）
	授業内容	産業領域のケース検討会１
	事後学修	復習（3 時間）
第2回	事前学修	産業領域の実習施設について調べる（1 時間）
	授業内容	産業領域における実習１
	事後学修	復習（3 時間）
第3回	事前学修	産業領域の実習施設について調べる（1 時間）
	授業内容	産業領域における実習２
	事後学修	復習（3 時間）
第4回	事前学修	産業領域の実習施設について調べる（1 時間）
	授業内容	産業領域における実習３
	事後学修	復習（3 時間）
第5回	事前学修	産業領域の事例について調べる（1 時間）
	授業内容	産業領域における実習４
	事後学修	復習（3 時間）
第6回	事前学修	産業領域の事例について調べる（1 時間）
	授業内容	産業領域のケース検討会２
	事後学修	復習（3 時間）
第7回	事前学修	教育領域の実習施設について調べる（1 時間）
	授業内容	教育領域のケース検討会１
	事後学修	復習（3 時間）
第8回	事前学修	教育領域の実習施設について調べる（1 時間）
	授業内容	教育領域における実習１
	事後学修	復（3 時間）習
第9回	事前学修	教育領域の実習施設について調べる（1 時間）
	授業内容	教育領域における実習２
	事後学修	復習（3 時間）
第10回	事前学修	教育領域の実習施設について調べる（1 時間）
	授業内容	教育領域のケース検討会２
	事後学修	復習（3 時間）
第11回	事前学修	福祉領域の実習施設について調べる（1 時間）
	授業内容	福祉領域のケース検討会１
	事後学修	復習（3 時間）
第12回	事前学修	福祉領域の実習施設について調べる（1 時間）
	授業内容	福祉領域における実習１
	事後学修	復習（3 時間）
第13回	事前学修	福祉領域の実習施設について調べる（1 時間）
	授業内容	福祉領域における実習２
	事後学修	復習（3 時間）
第14回	事前学修	福祉領域の実習施設について調べる（1 時間）
	授業内容	福祉領域のケース検討会２
	事後学修	復習（3 時間）

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	産業・教育・福祉における困難事例について調べる（1 時間） 前期のまとめと産業・教育・福祉における困難事例のケース検討会 復習（3 時間）
第 16 回	事前学修 授業内容 事後学修	医療・保健施設における個人セラピーについて調べる（1 時間） 医療・保健施設における個人セラピーのケース検討会 1 復習（3 時間）
第 17 回	事前学修 授業内容 事後学修	医療・保健施設における個人セラピーについて調べる（1 時間） 医療・保健施設における個人セラピーの実習 1 復習（3 時間）
第 18 回	事前学修 授業内容 事後学修	医療・保健施設における個人セラピーについて調べる（1 時間） 医療・保健施設における個人セラピーの実習 2 復習（3 時間）
第 19 回	事前学修 授業内容 事後学修	医療・保健施設における個人セラピーについて調べる（1 時間） 医療・保健施設における個人セラピーの実習 3 復習（3 時間）
第 20 回	事前学修 授業内容 事後学修	医療・保健施設における個人セラピーについて調べる（1 時間） 医療・保健施設における個人セラピーの実習 4 復習（3 時間）
第 21 回	事前学修 授業内容 事後学修	医療・保健施設における個人セラピーについて調べる（1 時間） 医療・保健施設における個人セラピーのケース検討会 2 復習（3 時間）
第 22 回	事前学修 授業内容 事後学修	医療・保健施設における個人セラピーについて調べる（1 時間） 医療・保健施設における個人セラピーのケース検討会 3 復習（3 時間）
第 23 回	事前学修 授業内容 事後学修	医療・保健施設における個人セラピーについて調べる（1 時間） 医療・保健施設における個人セラピーのケース検討会 4 復習
第 24 回	事前学修 授業内容 事後学修	医療・保健施設における個人セラピーについて調べる（1 時間） 医療・保健施設における個人セラピーのケース検討会 5 復習（3 時間）
第 25 回	事前学修 授業内容 事後学修	医療・保健施設におけるデイケア・ショートケアについて調べる（1 時間） 医療・保健施設におけるデイケア・ショートケアのケース検討会 1 復習（3 時間）
第 26 回	事前学修 授業内容 事後学修	医療・保健施設におけるデイケア・ショートケアについて調べる（1 時間） 医療・保健施設におけるデイケア・ショートケアの実習 1 復習
第 27 回	事前学修 授業内容 事後学修	医療・保健施設におけるデイケア・ショートケアについて調べる（1 時間） 医療・保健施設におけるデイケア・ショートケアの実習 2 復習（3 時間）
第 28 回	事前学修 授業内容 事後学修	医療・保健施設におけるデイケア・ショートケアについて調べる（1 時間） 医療・保健施設におけるデイケア・ショートケアのケース検討会 2 復習（3 時間）
第 29 回	事前学修 授業内容 事後学修	医療・保健施設における困難事例について調べる（1 時間） 医療・保健施設における困難事例のケース検討会 復習（3 時間）
第 30 回	事前学修 授業内容 事後学修	多職種連携について調べる（1 時間） 多職種連携のケース検討会 復習（3 時間）

【成績評価の方法】
実習施設における態度 80%、レポート 10%、講義における積極的態度 10%

【フィードバック】
実習レポートのチェックを行い、実習ノートにフィードバック。
実習施設においてはその都度担当教員や実習施設の実習担当者が注意・指導する。

【テキスト】
特になし

【参考書】
その都度紹介

【履修上の注意等】
講義での姿勢以上に実習施設における利用者やスタッフへの配慮を心がけること。

授業科目名： 臨床心理査定演習Ⅰ(心理的ｱｾｽﾒﾝﾄに関する理論と実践)	専攻・領域：心理・臨床
担当教員名：簑下 成子	501711／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
心理査定法についての知識の習得し、相談者に応じて適切な検査を選択できる。臨床心理士・公認心理師として適切な心理検査を施行でき、検査結果をまとめ、専門家としての所見を報告できる。

【授業の概要(目的)】
本講義では臨床現場で用いられることが多い各種の心理検査を取り上げる。各々の査定法の意義とあり方を論ずるとともに、臨床現場を想定した実践的学習により心理検査施行の習熟度を高める。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・３

【授業計画】

第1回	事前学修	臨床現場で心理査定を行う際の留意点について調べる【2 時間】
	授業内容	臨床心理査定法の概説とｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ
	事後学修	心理査定を行う際の受検者への配慮についてまとめる【2 時間】
第2回	事前学修	知能とは何かについて文献を調べ、定義する【2 時間】
	授業内容	個別式知能検査の理論と背景
	事後学修	一般知能の構造についてまとめる【2 時間】
第3回	事前学修	実施手引きの施行法を熟読する【2 時間】
	授業内容	田中ﾋﾞﾈｰ知能検査の施行法
	事後学修	受講者同士で検査を施行する【2 時間】
第4回	事前学修	実施手引きの採点法を熟読する【2 時間】
	授業内容	田中ﾋﾞﾈｰ知能検査の採点法
	事後学修	施行した検査結果を採点する【2 時間】
第5回	事前学修	実施手引きの解釈法を熟読する【2 時間】
	授業内容	田中ﾋﾞﾈｰ知能検査の解釈法
	事後学修	施行した検査結果を解釈し、ﾚﾎﾟｰﾄを作成する【2 時間】
第6回	事前学修	実施手引きの施行法を熟読する【2 時間】
	授業内容	Wechsler 知能検査(1)WISC の施行法
	事後学修	受講者同士で検査を施行する【2 時間】
第7回	事前学修	実施手引きの採点法を熟読する【2 時間】
	授業内容	Wechsler 知能検査(2)WISC の採点法
	事後学修	施行した検査結果を採点する【2 時間】
第8回	事前学修	実施手引きの解釈法を熟読する【2 時間】
	授業内容	Wechsler 知能検査(3)WISC の解釈法
	事後学修	施行した検査結果を解釈し、ﾚﾎﾟｰﾄを作成する【2 時間】
第9回	事前学修	投影法人格検査の特徴を調べる【2 時間】
	授業内容	投影法人格検査の理論と背景
	事後学修	投影法人格検査を実施する際の注意点についてまとめる【2 時間】
第10回	事前学修	検査の施行法を文献で調べる【2 時間】
	授業内容	ﾛｰﾙｼｬｯﾊ・ﾃｽﾄの施行法
	事後学修	片口式と包括ｼｽﾃﾑ、2 種類の施行法ついて差異をまとめる【2 時間】】
第11回	事前学修	受講者同士で検査を施行する【3 時間】
	授業内容	ﾛｰﾙｼｬｯﾊ・ﾃｽﾄ図版の特徴
	事後学修	図版の反応領域についてまとめる【1 時間】
第12回	事前学修	反応の記号化について調べ、覚える【2 時間】
	授業内容	ﾛｰﾙｼｬｯﾊ・ﾃｽﾄの記号化と結果の整理
	事後学修	実施した検査結果を記号化し、整理する【2 時間】
第13回	事前学修	検査結果の量的特徴について文献で調べる【2 時間】
	授業内容	ﾛｰﾙｼｬｯﾊ・ﾃｽﾄの解釈法(1)量的分析
	事後学修	検査結果の量的分析についてまとめる【2 時間】
第14回	事前学修	検査で得られた内容について文献で調べる【2 時間】
	授業内容	ﾛｰﾙｼｬｯﾊ・ﾃｽﾄの解釈法(2)内容分析
	事後学修	検査結果の内容分析についてまとめる【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	図版の特徴を踏まえ、検査結果を文献で調べる【2 時間】 ロールシャッハ・テストの解釈法(3)継列分析 検査結果の継列分析についてまとめる【2 時間】

【成績評価の方法】
『平常点 30%』、『レポート 50%』、『小テスト 20%』

【フィードバック】
単元ごとにまとめるレポートに対してコメントを書いて、フィードバックする。

【テキスト】
授業中に参考資料を適宜指示、配布する。

【参考書】
施行する心理検査の実施マニュアル等

【履修上の注意等】
心理検査の演習終了時に検査レポートを毎回提出してもらう。授業以外でもマニュアルと用具に触れて、検査実施の習熟度を高めるように努めること。

授業科目名： 臨床心理査定演習Ⅱ	専攻・領域：心理・臨床
担当教員名：簑下 成子	501712／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
心理査定法についての知識を習得し、適切な検査を選択できる。公認心理師・臨床心理士として実際に施行できる。また検査結果を分析解釈して、専門家としての所見を報告書にまとめることができる。

【授業の概要(目的)】
本講義では臨床現場で用いられることが多い各種の心理検査を取り上げる。各々の査定法の意義とあり方を論ずるとともに、臨床現場を想定した実践的学習により心理検査施行の習熟度を高める。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・３

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	検査の総合的な解釈について文献を調べる【2 時間】 ロールシャッハ・テストの解釈法(4)総合的分析 検査結果の知的・情緒的特徴についてまとめ、レポートを作成する【2 時間】
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	文献を読み、検査結果のまとめかたについて調べる【2 時間】 ロールシャッハ・テストの解釈法(5)事例の理解 事例に表れる精神疾患の特徴をまとめる【2 時間】
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	乳幼児の発達について文献を調べる【2 時間】 発達検査の理論と背景 発達検査を実施する際の注意点についてまとめる【2 時間】
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	実施手引きの施行法を熟読する【2 時間】 新版 K 式発達検査の施行法 受講者同士で検査を施行する【2 時間】
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	実施手引きの採点法を熟読する【2 時間】 新版 K 式発達検査の採点法 検査事例の結果を採点し、レポートを作成する【2 時間】
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	実施手引きの施行法を熟読する【2 時間】 K-ABC の理論と施行法 受講者同士で検査を施行する【2 時間】】
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	実施手引きの採点法と解釈法を熟読する【2 時間】 K-ABC の採点法と解釈法 検査事例の結果を採点し、レポートを作成する【2 時間】
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	実施手引きの施行法を熟読する【2 時間】 作業法検査の施行法と採点法・解釈法 実施手引きの採点法と解釈法を熟読し、レポートを作成する【2 時間】
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	実施手引きを熟読する【2 時間】 Wechsler 知能検査(4)WAIS の施行法と採点法・解釈法 受講者同士で検査を施行する【2 時間】
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	投影法 人格検査の特徴を調べる【2 時間】 投影法 人格検査の施行法と結果の整理 投影法 人格検査を実施する際の注意点についてまとめる【2 時間】
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	実施手引きの解釈法を熟読する【2 時間】 投影法 人格検査の解釈法 解釈法について文献を調べて、レポートを作成する【2 時間】
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	質問紙法 人格検査の特徴を調べる【2 時間】 質問紙法 人格検査の施行法と採点法 質問紙法 人格検査を実施する際の注意点についてまとめる【2 時間】
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	実施手引きの解釈法を熟読する【2 時間】 質問紙法 人格検査の解釈法 複数の検査結果をまとめ、レポートを作成する【2 時間】
第 14 回	事前学修 授業内容 事後学修	実施手引きの施行法を熟読する【2 時間】 描画法 人格検査の施行法と解釈法 解釈を行い、検査結果のレポートを作成する【2 時間】
第	事前学修	実施手引きの施行法を熟読する【2 時間】

15 回	授業内容 事後学修	神経心理学的心理検査の施行法と採点法・解釈法(WMS-R と HDS-R) 採点と解釈を行い、検査結果のレポートを作成する【2 時間】

【成績評価の方法】
『平常点 30%』、『レポート 50%』、『小テスト 20%』

【フィードバック】
単元ごとに提出するレポートに対してコメントを書いて、フィードバックする。

【テキスト】
授業中に参考資料を適宜指示、配布する。

【参考書】
施行する心理検査の実施マニュアル等

【履修上の注意等】
心理検査の演習終了時に検査レポートを毎回提出してもらう。授業以外でもマニュアルと用具に触れて、検査実施の習熟度を高めるように努めること。

授業科目名： 精神医学特講（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	専攻・領域：心理・臨床
担当教員名：渡邉 昭彦	501709／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
発達障害を中心に、児童精神医学について理解を深め、問題点の所在を理解することができる。

【授業の概要(目的)】
総論では DSM-5 に沿って児童の精神障害について概観する。各論では障害の歴史・概要を踏まえて最新の知見を紹介する。

【ディプロマ・ポリシー番号】 1・3

【授業計画】

第1回	事前学修	関連する内容を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	精神医学総論
	事後学修	講義内容をまとめる【2 時間】
第2回	事前学修	関連する内容を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	児童精神医学総論 1:診断体系
	事後学修	講義内容をまとめる【2 時間】
第3回	事前学修	関連する内容を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	児童精神医学総論 2:統合失調症と気分障害
	事後学修	講義内容をまとめる【2 時間】
第4回	事前学修	関連する内容を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	知的能力障害 1:症状と疫学
	事後学修	講義内容をまとめる【2 時間】
第5回	事前学修	関連する内容を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	知的能力障害 2:原因と分類
	事後学修	講義内容をまとめる【2 時間】
第6回	事前学修	関連する内容を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	知的能力障害 3:生活支援と対応
	事後学修	講義内容をまとめる【2 時間】
第7回	事前学修	関連する内容を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	自閉スペクトラム症 1:症状と疫学
	事後学修	講義内容をまとめる【2 時間】
第8回	事前学修	関連する内容を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	自閉スペクトラム症 3:生物学的背景（心の理論とミラーニューロン）
	事後学修	講義内容をまとめる【2 時間】
第9回	事前学修	関連する内容を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	自閉スペクトラム症 3:治療と対処
	事後学修	講義内容をまとめる【2 時間】
第10回	事前学修	関連する内容を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	ADHD1:症状と疫学
	事後学修	講義内容をまとめる【2 時間】
第11回	事前学修	関連する内容を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	ADHD2:生物学的背景（実行機能と報酬系）
	事後学修	講義内容をまとめる【2 時間】
第12回	事前学修	関連する内容を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	ADHD3:薬物療法と行動修正
	事後学修	講義内容をまとめる【2 時間】
第13回	事前学修	関連する内容を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	発達障害の併存障害
	事後学修	講義内容をまとめる【2 時間】
第14	事前学修	関連する内容を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	発達障害と統合失調症

回	事後学修	講義内容をまとめる【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	関連する内容を事前に調べておく【2 時間】 総括 講義内容をまとめる【2 時間】

【成績評価の方法】

『試験 40%』『レポート 20%』『提出物 20%』『平常点 20%』

【フィードバック】
評価終了時に返却し、その際に事後指導を行う

【テキスト】
特に指定しない

【参考書】
適宜紹介する

【履修上の注意等】
学部段階で『精神医学』（もしくは同等の科目）を履修していることが望ましい

２．教　育　学　専　攻

教育学専攻の概要

教育学専攻の教育目的

グローバル化、少子高齢化、情報通信技術の高度化など、社会の急激な変化にともない、今日の小学校教師には新たな資質・能力が期待されている。児童の基礎学力を確実に育成することができる学習指導力、課題探究型の学習や協働的な学習のような新しい学習方法をデザインできる学習計画力、いじめなどの生徒指導上の問題や不登校などの特別な配慮を必要とする児童への指導などに対して迅速に解決できる問題解決力、保護者や地域住民の要望に対応し援助や協力によって学校教育を推進する地域連携能力などが指摘されている。

このような学校を取巻く現状をふまえ、教育学専攻は、今日の多様な教育課題に対応できるとともに、小学校教師としての使命と責任をもち、愛情をもって児童を理解し、学習意欲や豊かな人間性を引き出し、21世紀を生き抜く力を育てる高度な教職専門性と教育実践力を備えた小学校教員の養成を教育目的として、専修免許課程を設置している。

教員養成の目標

この教育目的を達成するために、教育学専攻では、次の2つの目標によって教員養成を行う。

第一の目標は、生涯を通じて高度な教職専門性と教育実践力を刷新していく人材の育成である。これからの教員は、社会の変化や科学技術の進展をふまえ、一人一人の児童・生徒に対応した教育実践を行うために、常に自己の資質能力の向上を目指し、新しい知識･技能を絶え間なく刷新して、教職生活全体を通じて「学び続ける教員」でなければならない。

この「学び続ける教員」は、高度な専門性（理論）を身につけることだけなく、それを授業実践、学級経営等の実践に生かすことができる資質・能力が必要である。また「学び続ける教員」は、この積極的な実践力とともに、自己の実践を振り返える「自己省察」の態度が要求される。このような「理論と実践の往還」によって、教師は、身につけた理論を確かめ、実践の中に新たな知識（実践における知）を生み出すことによって、教職専門性を向上することができる。

第二の目標は、インクルーシブ教育の実践のできる人材の育成である。これは、世界的な教育の動向であるインクルーシブ教育の実現とわが国のインクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育の体制づくりに対応できる人材の育成である。

この人材育成には、2つの資質・能力が要求される。第一は、特別な教育的なニーズを必要とする児童を含む通常学級の指導法及びそのような特別な配慮を必要とする児童の指導法を実現できる専門的実践力である。第二は、インクルーシブ教育の推進に要請される学校経営、学級経営、教育課程の編成、学習指導法等の実践的指導力と、学校間の連携、地域教育センターとの連携、特別支援学級指導者及び通級指導者との連携など、多くの教育関係者・機関と連携して教育活動を進めることのできる連携的・包括的な職務遂行能力である。

教育課程編成の方針

上述した２つの教員養成の目標を実現するために、教育学専攻では以下の方針によって教育課程を編成している。

第一の教員養成の目標である「学び続ける教員」の養成のために、次の方針から教育課程(「理論と実践の往還型カリキュラム」)を編成している。

（１）小学校教師としての使命と責任をもち、情熱をもって取り組む教育実践を支える教育理念を確実にするために、教育思想、教育史についての「特論」と「演習」の科目を設置している。

（２）教科の基幹科目である国語教育･算数教育を中心とした教科教育、道徳教育、特別支援教育の各領域では、「理論と方法」に関する科目を設置し、「理論」をどのように「実践」に移すかについて、児童の認知発達や精神発達の視点から教育内容の分析を行い、理論と実践を架橋する手法を習得できるようにしている。

（３）「学び続ける教員」の資質･能力の育成を目指して、さらに各領域では「実践法」についての演習科目「実践演習」を設定している。この「実践演習」は、院生が実際の教育現場で実践的・実証的研究を実施できるように、地域の小･中学校および特別支援学校との連携によって「教職実践交流」を行う。

第二の教員養成の目標であるインクルーシブ教育システムの構築に対応した通常学級の指導法及び特別な教育的ニーズをもつ児童の指導法を実現できる専門的実践力の育成に対しては、次の方針から教育課程（特別支援教育科目をコアとしたカリキュラム）を編成している。

（１）特別支援教育の「理論と方法」と「実践法」および「実践演習」の科目をコアとし、その周辺に教科教育、道徳教育、学校経営(学級経営)の各科目を位置づけ、さらにその周辺に教育思想、教育史、発達心理学、学校カウンセリングの科目を配置することによって、各科目の包含関係と周辺科目の特徴・役割を明確にして、インクルーシブ教育の実現に向けた教職専門性の向上をねらっている。

（２）インクルーシブ教育の推進に要請される学校経営、学級経営、学習指導法等の教育実践力を育成するとともに、学校間の連携、特別支援学級指導者及び通級指導者との連携など、教育関係者・機関と連携できる連携的･包括的な職務遂行能力の育成のためには、地域の小学校、特別支援学校、地域教育センター、市教育委員会との協力・連携による「教職実践交流」を実践できる3つの科目「特別支援教育実践法」「特別支援教育実践演習Ⅰ」「特別支援教育実践演習Ⅱ」の科目を設置して、インクルーシブ教育の教職専門性の向上をねらっている。

教育実践力の育成のための教育研究組織

（１）地域の小･中学校および特別支援学校における教職実践交流の実施

本大学の所在地である千葉県我孫子市は、全県的・全国的に見て特別支援教育の推進に先進的役割を果たしてきた。本専攻と我孫子市教育委員会との連携により、院生は、市内小学校･中学校の通常学級での「教職実践交流」を実践できるだけでなく、特別支援学級および特別支援学校においても同様に実践できる。このことは、一方の通常学級での教育実践によって得た研究成果を他方(特別支援学級)での教育実践に活かすことができるため(その逆も可能である)、院生はインクルーシブ教育の実践力を飛躍させることができる。

（２）我孫子市特別支援教育ネットワークの利用による連携的・包括的職務能力の習得

我孫子市では、我孫子市教育委員会(教育研究所)を中心として特別支援教育ネットワークが構築されており、この組織には、子ども発達センター(保育児・幼稚園児を対象)、福祉・医療の専門機関、障害児保育園、小・中学校(特別支援学級を含む)、高校学校、特別支援学校等が含まれている。院生は、本専攻と我孫子市教育委員会との連携によって、特別な教育的ニーズを必要とする児童の個別教育支援ネットワーク・システムについて実践的に学ぶことができる。この個別教育支援ネットワーク・システムは、インクルーシブ教育を推進する諸機関が連携して進める教育システムであり、この教育研究環境の利用によって、院生は直接的にインクルーシブ教育の推進に当たって要求される連携的・包括的職務能力を身につけることができる。

教育学専攻修了後の進路等について

本専攻の修了者は、小学校教諭専修免許を取得するとともに、高度な教職専門性と教育実践力を備え、小学校、教育委員会、教育系施設等で活躍できる。

予想される修了後の進路は、以下のとおりである。

・小学校教員
・特別支援学校教員
・教育研究機関
・教育産業および一般企業における教育関係職員、ほか

教育学専攻 開講科目

授業科目名	学習方法	単位	期間	年次	必選	備考
教育思想特論	講義	2	半期	1・2	選必	
教育思想演習	演習	2	半期	1・2	選必	
教育史特論	講義	2	半期	1・2	選必	
教育史演習	演習	2	半期	1・2	選必	
特別支援教育の理論と方法	講義	2	半期	1・2	選必	
特別支援教育実践法	演習	2	半期	1・2	選必	
特別支援教育実践演習Ⅰ	演習	2	半期	1・2	選必	
特別支援教育実践演習Ⅱ	演習	2	半期	1・2	選必	
学校経営特論	講義	2	半期	1・2	選必	
道徳教育の理論と方法	講義	2	半期	1・2	選必	
道徳教育実践演習	演習	2	半期	1・2	選必	
国語科教育の理論と方法	講義	2	半期	1・2	選必	
国語科教育実践演習	演習	2	半期	1・2	選必	
算数科教育の理論と方法	講義	2	半期	1・2	選必	
算数科教育実践演習	演習	2	半期	1・2	選必	
生活科教育の理論と方法	講義	2	半期	1・2	選必	
理科教育の理論と方法	講義	2	半期	1・2	選必	
理科教育実践演習	演習	2	半期	1・2	選必	
保健科教育の理論と方法	講義	2	半期	1・2	選必	
保健科教育実践演習	演習	2	半期	1・2	選必	
体育科教育の理論と方法	講義	2	半期	1・2	選必	
体育科教育実践演習	演習	2	半期	1・2	選必	
音楽科教育の理論と方法	講義	2	半期	1・2	選必	
音楽科教育実践演習	演習	2	半期	1・2	選必	
発達心理学特論	講義	2	半期	1・2	選必	
学校カウンセリング	講義	2	半期	1・2	選必	
教育学特別研究	演習	6	通年	1～2	必修	

＜履修上の注意＞

・**上記科目から特別研究を含め、３０単位以上を修得しなければならない。**

・年次「１・２」は、１年次または２年次に履修することができる科目。
　年次「１～２」は、１年次及び２年次ともに履修しなければならない科目。

＜２０１９年度入学者対象＞

教育学専攻 専修免許科目対応表

免許状の種類	免許法施行規則に定める科目区分	必　要単位数	左記に対応する開設授業科目		備　　考
			授業科目名	単位	
小専免	大学が独自に設定する科目	２４	教育思想特論	2	２４単位以上修得すること
			教育思想演習	2	
			教育史特論	2	
			教育史演習	2	
			特別支援教育実践演習Ⅰ	2	
			特別支援教育実践演習Ⅱ	2	
			学校経営特論	2	
			道徳教育の理論と方法	2	
			道徳教育実践演習	2	
			国語科教育の理論と方法	2	
			国語科教育実践演習	2	
			算数科教育の理論と方法	2	
			算数科教育実践演習	2	
			発達心理学特論	2	
			学校カウンセリング	2	
			計	３０	

＜２０１８年度入学者対象＞

教育学専攻 専修免許科目対応表

免許状の種類	免許法施行規則に定める科目区分	必　要単位数	左記に対応する開設授業科目		備　　考
			授業科目名	単位	
小専免	教職に関する科目	２４	教育思想特論	2	２４単位以上修得すること
			教育思想演習	2	
			教育史特論	2	
			教育史演習	2	
			特別支援教育実践演習Ⅰ	2	
			特別支援教育実践演習Ⅱ	2	
			学校経営特論	2	
			道徳教育の理論と方法	2	
			道徳教育実践演習	2	
			国語科教育の理論と方法	2	
			国語科教育実践演習	2	
			算数科教育の理論と方法	2	
			算数科教育実践演習	2	
			発達心理学特論	2	
			学校カウンセリング	2	
			計	３０	

授業科目名： 道徳教育の理論と方法	専攻･領域：教育学
担当教員名：内海﨑 貴子	534110／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
歴史的及び道徳性の発達的視点から道徳教育の諸理論とそれに基づく道徳教育の方法を理解し、適切な授業方法を選択することができる。

【授業の概要(目的)】
教育法規と学習指導要領を踏まえながら現在の道徳教育の課題を整理し、日本の道徳教育の歴史と道徳性の発達理論を理解した上で、道徳の授業方法の理論と実践例を学習する。

【ディプロマ・ポリシー番号】1

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	シラバスを確認し、参考文献リストを作成する（2時間） オリエンテーション（本授業の目的・概要の説明、学校教育における道徳教育の現状について） 小中学校の道徳の授業内容を思い出し、整理しておく。（2時間）
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	教育関連法規を確認し、学習指導要領の構造を整理する（2 時間） 教育関連法規、学習指導要領と道徳教育 学習指導要領における道徳教育とその他の教育活動についてまとめる（2 時間）
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	参考書の関連個所を読んでおく（2 時間） 道徳教育の歴史（1）修身教育と教育勅語 教育勅語を英訳版と比較し、内容を精査する（2 時間）
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	参考書の関連個所を読んでおく（2 時間） 道徳教育の歴史（2）戦後教育改革から「道徳の時間」設置・「期待される人間像」へ 授業内容を振り返り、内容を整理する（2 時間）
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	参考書の関連個所を読んでおく（2 時間） 道徳教育の歴史（3）教育基本法の改訂と道徳の教科化 授業内容を振り返り、内容を整理する（2 時間）
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	参考書の関連個所を読んでおく（2 時間） 道徳性の発達理論（1）精神分析理論 授業内容を振り返り、内容を整理する（2 時間）
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	道徳参考書の関連個所を読んでおく（2 時間） 性の発達理論（2）社会的学習理論 授業内容を振り返り、内容を整理する（2時間）
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	参考書の関連個所を読んでおく（2 時間） 道徳性の発達理論（3）認知発達理論 授業内容を振り返り、内容を整理する（2 時間）
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	参考書の関連個所を読んでおく（2 時間） 道徳性の発達理論（4）ケアリング理論 課題レポートを作成する（6 時間）
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	参考書の関連個所を読んでおく（2 時間） 道徳教育の方法（1）「読み物資料」を用いた授業の理論と実践例 授業内容を振り返り、内容を整理する（2 時間）
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	参考書の関連個所を読んでおく（2 時間） 道徳教育の方法（2）「参加体験型」授業の理論と実践例 授業内容を振り返り、内容を整理する（2 時間）
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	参考書の関連個所を読んでおく（2 時間） 道徳教育の方法（3）モラルジレンマ授業の理論と実践例 授業内容を振り返り、内容を整理する（2 時間）
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	参考書の関連個所を読んでおく（2 時間） 道徳教育の方法（4）「問題解決型」授業の理論と実践例 授業内容を振り返り、内容を整理する（2 時間）
第	事前学修	参考書の関連個所を読んでおく（2 時間）

14回	授業内容 事後学修	道徳教育の方法（5）ケアリング・アプローチ授業の理論と実践例 課題レポートを作成する（6時間）
第15回	事前学修 授業内容 事後学修	課題レポート報告の準備をする（2時間） 全体の振り返りとまとめ これまでの学習を振り返り、確認する（2時間）

【成績評価の方法】
道徳性の発達理論に関するレポート（50%）、授業実践例に関するレポート（50%）

【フィードバック】
レポートのコメントを記述して返却する。

【テキスト】
指定しない。毎回、資料を配布するのでファイリングすること。

【参考書】
文部科学省『小学校学習指導要領解説道徳編』東洋館出版社、2008年　文部科学省『わたしたちの道徳』（3冊）2014年　貝塚茂樹著『道徳教育の教科書』学術出版会、2009年　ローレンス・コールバーグ著岩佐信道訳『道徳性の発達と道徳教育』麗澤大学出版会、1987年　キャロル・ギリガン著岩男寿美子監訳『もうひとつの声－男女の道徳観の違いと女性のアイデンティティー』川島書店、1986年　ネル・ノディングズ著立山善康他訳『ケアリング－倫理と道徳の教育－女性の観点から』晃洋書房、2002年

【履修上の注意等】
各回の授業内容に関する文献を熟読すること。

授業科目名： 道徳教育実践演習	専攻・領域：教育学
担当教員名：内海﨑 貴子	534111／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
適切な教材収集と教材研究の方法を獲得し、道徳の内容に即した授業を組み立て、実践することができる。

【授業の概要(目的)】
学習指導要領の内容に沿った学年ごとの教材収集および資料の分析、各領域に適切な資料と指導法の選択による学習指導案の作成と模擬授業の実施、より良い授業実践に向けて全体を総括する。

【ディプロマ・ポリシー番号】1

【授業計画】

第1回	事前学修	ｼﾗﾊﾞｽを確認し、履修計画作成の準備をする。【1時間】
	授業内容	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ：本授業の目的・概要の説明、履修者各自の履修計画作成
	事後学修	作成した履修計画に従って、教材を準備する。【3 時間】
第2回	事前学修	学習指導要領を読み、重点項目を整理する。【1時間】
	授業内容	学習指導要領内容項目の確認、教材研究方法の説明、授業研究（模擬授業を含む）計画の作成
	事後学修	授業研究計画に従って、教材研究を開始する。【3 時間】
第3回	事前学修	学習指導要領の当該箇所を読み、教材研究の準備をする。【1時間】
	授業内容	教材研究：主として自分自身に関すること・主として人とのかかわりに関すること（1）小学校1・2年生
	事後学修	授業内容を復習し、教材研究を仕上げる。【3 時間】
第4回	事前学修	学習指導要領の当該箇所を読み、教材研究の準備をする。【1時間】
	授業内容	教材研究：主として自分自身に関すること・主として人とのかかわりに関すること（2）小学校3・4年生
	事後学修	授業内容を復習し、教材研究を仕上げる。【3 時間】
第5回	事前学修	学習指導要領の当該箇所を読み、教材研究の準備をする。【1時間】
	授業内容	教材研究：主として自分自身に関すること・主として人とのかかわりに関すること（3）小学校5・6年生
	事後学修	授業内容を復習し、教材研究を仕上げる。【3 時間】
第6回	事前学修	学習指導要領の当該箇所を読み、授業研究の準備をする。【1時間】
	授業内容	授業研究：主として自分自身に関すること・主として人とのかかわりに関すること（1）小学校1・2年生
	事後学修	授業内容を復習し、学習指導案を仕上げる。【3 時間】
第7回	事前学修	学習指導要領の当該箇所を読み、授業研究の準備をする。【1時間】
	授業内容	授業研究：主として自分自身に関すること・主として人とのかかわりに関すること（2）小学校3・4年生
	事後学修	授業内容を復習し、学習指導案を仕上げる。【3 時間】
第8回	事前学修	学習指導要領の当該箇所を読み、授業研究の準備をする。【1時間】
	授業内容	授業研究：主として自分自身に関すること・主として人とのかかわりに関すること（3）小学校5・6年生
	事後学修	授業内容を復習し、学習指導案を仕上げる。【3 時間】
第9回	事前学修	学習指導要領の当該箇所を読み、教材研究の準備をする。【1時間】
	授業内容	教材研究:主として集団や社会とのかかわりに関すること・主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関すること(1)小学校 1・2 年生
	事後学修	授業内容を復習し、教材研究を仕上げる。【3 時間】
第10回	事前学修	学習指導要領の当該箇所を読み、教材研究の準備をする。【1時間】
	授業内容	教材研究:主として集団や社会とのかかわりに関すること・主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関すること(2)小学校 3・4 年生
	事後学修	授業内容を復習し、教材研究を仕上げる。【3 時間】
第11回	事前学修	学習指導要領の当該箇所を読み、教材研究の準備をする。【1時間】
	授業内容	教材研究:主として集団や社会とのかかわりに関すること・主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関すること(3)小学校 5・6 年生
	事後学修	授業内容を復習し、教材研究を仕上げる。【3 時間】

第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	学習指導要領の当該箇所を読み、授業研究の準備をする。【1時間】 授業研究:主として集団や社会とのかかわりに関すること・主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関すること⑴小学校 1・2 年生 授業内容を復習し、学習指導案を仕上げる。【3 時間】
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	学習指導要領の当該箇所を読み、授業研究の準備をする。【1時間】 授業研究:主として集団や社会とのかかわりに関すること・主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関すること⑵小学校 3・4 年生 授業内容を復習し、学習指導案を仕上げる。【3 時間】
第 14 回	事前学修 授業内容 事後学修	学習指導要領の当該箇所を読み、授業研究の準備をする。【1時間】 授業研究:主として集団や社会とのかかわりに関すること・主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関すること⑶小学校 5・6 年生 授業内容を復習し、学習指導案を仕上げる。【3 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまでの教材研究、学習指導案を整理しておく。【2時間】 全体の振り返り、履修計画・授業計画の相互確認と課題の抽出 授業内容から、今後の課題について研究を進める。【2 時間】

【成績評価の方法】
履修者の学習計画および教材研究記録(30%) 授業研究参加記録(30%) 模擬授業のための学習指導案(40%)による総合評価

【フィードバック】
教材研究記録、授業参観記録、学習指導案はすべてコメントして返却する。

【テキスト】
文部科学省『小学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編』文部科学省『小学校道徳読み物資料集』2011年 文部科学省『わたしたちの道徳1・2年生』『わたしたちの道徳3・4年生』『わたしたちの道徳5・6年生』2014年

【参考書】
文部科学省『こころのノート小学校1・2年』『心のノート小学校3・4年』『心のノート小学校5・6年』『心のノート中学校』『私たちの道徳中学校』 貝塚茂樹著『道徳教育の教科書』学術出版会、2009年 地域資料:例;我孫子市教育委員会『あびこの先人たち』

【履修上の注意等】
教材研究、授業研究を主とすることから、事前・事後学修の時間を十分に確保すること。

授業科目名：音楽科教育の理論と方法	専攻･領域：教育学
担当教員名：尾見 敦子	534124／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】

教科としての音楽に関する国内外の研究・実践の歩みを横断的・横断的に概観し、特に諸外国との比較教育の視点から、我が国の小学校における音楽科教育の課題と展望を明確にすることをめざす。

【授業の概要（目的）】

文献講読と映像資料の視聴をとおして、１．諸外国と日本の公教育における音楽科教育の成立から今日に至る歴史的な変遷、２．音楽教育に関する哲学の変遷、３．世界の音楽教育思潮と実践の体系、４．音楽の教授・学習に関する研究動向に学び、自らの音楽教育実践の理論的基盤を形成する。

【ディプロマ・ポリシー番号】１，２

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	シラバスを読み、履修の目標を立てる。【2 時間】 オリエンテーション　（授業の趣旨、内容、方法、評価等） オリエンテーションをもとに本授業の履修に必要な事柄について整理し、履修計画を立てる。【2 時間】
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	事前講読資料を読んで要点をまとめる。【2 時間】 音楽科教育研究を構成する学問領域 音楽科教育の研究領域ごとに課題を整理する。【2 時間】
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	事前講読資料を読んで要点をまとめる。【2 時間】 我が国の音楽科教育の歴史的変遷（1）明治期 明治期の音楽教育について整理する。【2 時間】
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	事前講読資料を読んで要点をまとめる。【2 時間】 我が国の音楽科教育の歴史的変遷（2）大正期～昭和（戦前）期 大正期～昭和（戦前）期の音楽教育について整理する。【2 時間】
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	事前講読資料を読んで要点をまとめる。【2 時間】 我が国の音楽科教育の歴史的変遷（3）昭和（戦後）期～平成期 昭和（戦後）期～平成期の音楽教育について整理する。【2 時間】
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	事前講読資料を読んで要点をまとめる。【2 時間】 諸外国の音楽科教育の歴史的変遷（1）ドイツ・フランス・スイス・アメリカ ドイツ・フランス・スイス・アメリカの音楽科教育の歴史的変遷について整理し、まとめる。【2 時間】
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	事前講読資料を読んで要点をまとめる。【2 時間】 諸外国の音楽科教育の歴史的変遷（2）ハンガリーとフィンランド ハンガリーとフィンランドの音楽科教育の歴史的変遷について整理し、まとめる。【2 時間】
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	事前講読資料を読んで要点をまとめる。【2 時間】 音楽教育に関する哲学的研究の理論と方法 哲学的研究が音楽教育実践にどのような意義があるかについて考察し、まとめる。【2 時間】
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	事前講読資料を読んで要点をまとめる。【2 時間】 音楽教育に関する音楽学的研究の理論と方法 音楽学的研究が音楽教育実践にどのような意義があるかについて考察し、まとめる。【2 時間】
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	事前講読資料を読んで要点をまとめる。【2 時間】 音楽教育に関する心理学的研究の理論と方法 心理学的研究が音楽教育実践にどのような意義があるかについて考察し、まとめる。【2 時間】
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	事前講読資料を読んで要点をまとめる。【2 時間】 音楽教育に関する教授学的研究の理論と方法 教授学的研究が音楽教育実践にどのような意義があるかについて考察し、まとめる。【2 時間】
第	事前学修	事前講読資料を読んで要点をまとめる。【2 時間】

12 回	授業内容 事後学修	現行教育課程における音楽科カリキュラムと構造 音楽科の現行教育課程について諸外国との比較において考察し、まとめる。【2 時間】
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	事前講読資料を読んで要点をまとめる。【2 時間】 現行教育課程における音楽科教育の学習指導法と評価法 音楽科固有の学習指導法と評価法について考察し、まとめる。【2 時間】
第 14 回	事前学修 授業内容 事後学修	事前講読資料を読んで要点をまとめる。【2 時間】 音楽科教育における「幼小接続」と「小中接続」のための理論と方法 諸外国との比較において音楽科教育における「幼小接続」と「小中接続」についてまとめる。【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	事前講読資料を読んで要点をまとめる。【2 時間】 学校音楽科の学習指導の開発と研究法（まとめ） 15 回の学修をふりかえり、要点と課題を整理する。【2 時間】

【成績評価の方法】
音楽科教育に関する概念と知識を習得したか、授業に積極的に取り組んだか、総合レポートに独創性があるか等の観点から総合的に評価する。

【フィードバック】
課題やレポートは添削して返却する。

【テキスト】
特に使用しない。

【参考書】
『初等科音楽科教育法』音楽之友社，2011 年
『音楽教育メソードの比較　コダーイ、ダルクローズ、オルフ、CM』全音楽譜出版社，1994 年
『コダーイ・システムとは何か』全音楽譜出版社，1974 年

【履修上の注意等】
特になし

授業科目名：音楽科教育実践演習	専攻･領域：教育学
担当教員名：尾見 敦子	534124／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
児童の音楽的発達、小学校の音楽科教育を支える音楽の知識と技能、教授法を習得し、授業の実践的総合力を高める。

【授業の概要（目的）】
小学校における音楽科教育の内容の各領域に必要な知識と技能の向上をはかり、教材分析に繋げるとともに、児童の興味と音楽的発達を促す教授法を研究する。〔共通事項〕と日本の伝統音楽の指導法について重点的に扱う。模擬授業の構想、模擬実践、相互評価を通して総合的な実践力を高める。

【ディプロマ・ポリシー番号】１，２

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	シラバスを読み、履修の目標を立てる。【2 時間】 オリエンテーション（授業の目的と進め方、評価等） 本授業の履修に必要な事柄について整理し、履修計画を立てる。【2 時間】
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	前時に示す予習課題を行う。【2 時間】 音楽科教育の今日的課題と意義 本時のテーマについて整理を行う。【2 時間】
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	前時に示す予習課題を行う。【2 時間】 ソルフェージュ教育の意義と方法 本時のテーマについて整理を行う。【2 時間】
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	前時に示す予習課題を行う。【2 時間】 音楽的発達と教材・教授法 本時のテーマについて整理を行う。【2 時間】
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	前時に示す予習課題を行う。【2 時間】 歌唱の技能の基礎演習と教授法の研究 本時のテーマについて整理を行う。【2 時間】
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	前時に示す予習課題を行う。【2 時間】 器楽の技能の基礎演習と教授法の研究 本時のテーマについて整理を行う。【2 時間】
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	前時に示す予習課題を行う。【2 時間】 音楽づくりの基礎演習と教授法の研究 本時のテーマについて整理を行う。【2 時間】
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	前時に示す予習課題を行う。【2 時間】 鑑賞の技能の基礎演習と教授法の研究 本時のテーマについて整理を行う。【2 時間】
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	前時に示す予習課題を行う。【2 時間】 表現と鑑賞における〔共通事項〕の指導法 本時のテーマについて整理を行う。【2 時間】
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	前時に示す予習課題を行う。【2 時間】 日本の伝統音楽（歌唱）の指導法 本時のテーマについて整理を行う。【2 時間】
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	前時に示す予習課題を行う。【2 時間】 日本の伝統音楽（楽器）の指導法 本時のテーマについて整理を行う。【2 時間】
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	前時に示す予習課題を行う。【2 時間】 演奏と鑑賞の評価方法 本時のテーマについて整理を行う。【2 時間】
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	前時に示す予習課題を行う。【2 時間】 模擬授業の演習（1）構想 本時のテーマについて整理を行う。【2 時間】
第 14	事前学修 授業内容	前時に示す予習課題を行う。【2 時間】 模擬授業の演習（2）実践と評価

回	事後学修	本時のテーマについて整理を行う。【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	前時に示す予習課題を行う。【2 時間】 まとめ 15 回の学修をふりかえり、要点と課題を整理する。【2 時間】

【成績評価の方法】
音楽科教育の内容の各領域に必要な知識と技能を向上させ、教材分析に繋げることができたか、児童の音楽的発達を理解し、発達をふまえた教授法を理解し、習得できたか、など、各回の学習の達成度に基づく評価を行う。

【フィードバック】
課題やレポートは添削して返却する。

【テキスト】
特に使用しない。

【参考書】
『初等科音楽科教育法』音楽之友社，2011 年
『音楽教育メソードの比較　コダーイ、ダルクローズ、オルフ、CM』全音楽譜出版社，1994 年
『コダーイ・システムとは何か』全音楽譜出版社，1974 年

【履修上の注意等】
特になし

授業科目名： 発達心理学特論	専攻･領域：教育学
担当教員名： 佐藤 哲康	534125／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
生涯発達の観点で胎生期から老年期に至る各発達段階における発達課題を説明できる。 支援や教育などに発達心理学的観点を応用でき、かつ問題に対処できる。

【授業の概要(目的)】
発達心理学の考え方・研究法、学校教育の基盤としての発達心理学、ヒトの生涯の発達の過程における児童期の重要性などを理解し、学校現場での教育実践において、適切な理論的背景を持つ。

【ディプロマ・ポリシー番号】DP：1,2

【授業計画】

第1回	事前学修	授業内容について問題意識を持ち、回答を準備しておく【2 時間】。
	授業内容	発達とは何か（発達心理学の考え方・研究法）
	事後学修	レジュメや関連する書籍などを読みなおし、内容を整理する【2 時間】。
第2回	事前学修	授業内容について問題意識を持ち、回答を準備しておく【2 時間】。
	授業内容	学校教育の基盤としての発達心理学
	事後学修	レジュメや関連する書籍などを読みなおし、内容を整理する【2 時間】。
第3回	事前学修	授業内容について問題意識を持ち、回答を準備しておく【2 時間】。
	授業内容	生涯発達心理学の全体像
	事後学修	レジュメや関連する書籍などを読みなおし、内容を整理する【2 時間】。
第4回	事前学修	授業内容について問題意識を持ち、回答を準備しておく【2 時間】。
	授業内容	成熟と発達と学習の関係
	事後学修	レジュメや関連する書籍などを読みなおし、内容を整理する【2 時間】。
第5回	事前学修	授業内容について問題意識を持ち、回答を準備しておく【2 時間】。
	授業内容	乳児の知覚・認知機能の発達
	事後学修	レジュメや関連する書籍などを読みなおし、内容を整理する【2 時間】。
第6回	事前学修	授業内容について問題意識を持ち、回答を準備しておく【2 時間】。
	授業内容	認知・思考の発達（認知発達理論と情報処理発達論）
	事後学修	レジュメや関連する書籍などを読みなおし、内容を整理する【2 時間】。
第7回	事前学修	授業内容について問題意識を持ち、回答を準備しておく【2 時間】。
	授業内容	知能に関する理論（流動性知能と結晶性知能を含む多重知能理論）
	事後学修	レジュメや関連する書籍などを読みなおし、内容を整理する【2 時間】。
第8回	事前学修	授業内容について問題意識を持ち、回答を準備しておく【2 時間】。
	授業内容	乳児の社会的微笑、愛着と親子関係、幼児の対人関係の広がりと問題
	事後学修	レジュメや関連する書籍などを読みなおし、内容を整理する【2 時間】。
第9回	事前学修	授業内容について問題意識を持ち、回答を準備しておく【2 時間】。
	授業内容	言語の発達（語彙獲得・文法獲得をはじめとする言葉の獲得）
	事後学修	レジュメや関連する書籍などを読みなおし、内容を整理する【2 時間】。
第10回	事前学修	授業内容について問題意識を持ち、回答を準備しておく【2 時間】。
	授業内容	こころの理論とメタ認知の発達
	事後学修	レジュメや関連する書籍などを読みなおし、内容を整理する【2 時間】。
第11回	事前学修	授業内容について問題意識を持ち、回答を準備しておく【2 時間】。
	授業内容	自己概念の形成と自我の芽生え
	事後学修	レジュメや関連する書籍などを読みなおし、内容を整理する【2 時間】。
第12回	事前学修	授業内容について問題意識を持ち、回答を準備しておく【2 時間】。
	授業内容	社会性の発達（反抗期、遊びの発達、仲間関係、道徳心と向社会的行動、ギャングエイジ）
	事後学修	レジュメや関連する書籍などを読みなおし、内容を整理する【2 時間】。
第13回	事前学修	授業内容について問題意識を持ち、回答を準備しておく【2 時間】
	授業内容	学校の中でのまなびと発達、その問題
	事後学修	レジュメや関連する書籍などを読みなおし、内容を整理する【2 時間】
第14	事前学修	授業内容について問題意識を持ち、回答を準備しておく【2 時間】。
	授業内容	職業選択、職業人としての発達、親としての発達

回	事後学修	レジュメや関連する書籍などを読みなおし、内容を整理する【2 時間】。
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	授業内容について問題意識を持ち、回答を準備しておく【2 時間】。 老年期の発達課題と問題点 レジュメや関連する書籍などを読みなおし、内容を整理する【2 時間】。

【成績評価の方法】
成績評価は授業時の発言や参加意欲（20%）、振り返りレポート（40%）と課題レポート（40%）を総合的に評価する。

【フィードバック】
提出された振り返りレポートは授業内で、課題レポートは終了後に内容のフィードバックを行う。

【テキスト】
授業中に参考資料を適宜指示、配布する。

【参考書】
授業中に指示する。

【履修上の注意等】
特になし。

授業科目名 ： 国語科教育の理論と方法	教育学・教職
担当教員名 ： 田中 孝一	534112／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】

(1) 国語科教育に関して学問的・理論的な整理を行い,その体系を理解することができる。

(2) 国語科の授業の在り方・方法等について多面的・実践的に理解することができる。

【授業の概要(目的)】

小学校における国語科教育について,学問的な整理を行うとともに,授業展開のための理論と方法を習得し,実践的な資質と能力を確実に育てる。

【ディプロマ・ポリシー番号】 1

【授業計画】

第1回	事前学修	授業の概要をつかみ,自分の受けた国語科の授業を振り返る。【2 時間】
	授業内容	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ及び国語科授業に関する自分の体験の振り返り
	事後学修	自分受けた国語科の授業の成果と課題を整理する。【2 時間】
第2回	事前学修	学習指導要領等により,教育課程における国語科の位置を理解する。【2 時間】
	授業内容	学校教育における国語科の位置付けと役割
	事後学修	全教育課程における国語科の授業時数の割合等を整理する。【2 時間】
第3回	事前学修	学習指導要領解説総則編等により,戦後の国語科の位置付けを整理する。【2 時間】
	授業内容	戦後の国語科教育の制度的仕組み(学習指導要領等から)
	事後学修	国語科の目標,内容等の変遷を整理する。【2 時間】
第4回	事前学修	指導論に関する国語科の理論を調べ,整理する。【2 時間】
	授業内容	国語科教育の主な理論(学習者論,目標論,指導論等)
	事後学修	学習者論,目標論を整理する。【2 時間】
第5回	事前学修	教材論に関する国語科の理論を調べ,整理する。【2 時間】
	授業内容	国語科教育の主な理論(教材論,評価論等)
	事後学修	評価論を整理する。【2 時間】
第6回	事前学修	学習者論に関する国語科の理論を調べ,整理する。【2 時間】
	授業内容	国語科教育の学習者論と目標論(児童の発達段階に応じて,国語科で育成する能力など)
	事後学修	目標と児童の発達段階との関連を整理する。【2 時間】
第7回	事前学修	年間指導計画の例を探し,その特徴をまとめる。【2 時間】
	授業内容	国語科教育の指導論(1)単元の構成,指導過程の構成
	事後学修	単元の指導計画のﾎﾟｲﾝﾄを実例に即してまとめる。【2 時間】
第8回	事前学修	国語科の言語活動例をまとめる。【2 時間】
	授業内容	国語科教育の指導論(2)育成する能力と言語活動の設定
	事後学修	指導事項と言語活動例の関係を指導事項に即して具体的にまとめる。【2 時間】
第9回	事前学修	読むことの領域の教材の種類をまとめる。【2 時間】
	授業内容	国語科教育の方法(1)文章の種類等に応じた読むことの指導(説明的文章,文学的文章等)
	事後学修	文章の種類に応じた指導事項ごとの内容をまとめる。【2 時間】
第10回	事前学修	書くことの領域の指導事項の特色をまとめる。【2 時間】
	授業内容	国語科教育の方法(2)文章表現指導
	事後学修	書くことの指導の簡単な指導案を作成する。【2 時間】
第11回	事前学修	話すこと・聞くことの指導事項の特色をまとめる。【2 時間】
	授業内容	国語科教育の方法(3)音声言語指導
	事後学修	書くことの指導の簡単な指導案を作成する。【2 時間】
第12回	事前学修	常用漢字表の特色,字数等をまとめる。【2 時間】
	授業内容	国語科教育の方法(4)漢字の指導及び書写の指導
	事後学修	漢字の指導法,書写の指導法の簡単な指導案を作成する。【2 時間】
第13回	事前学修	すべての検定教科書の目次等を整理する。【2 時間】
	授業内容	国語科教育の教材論(教科書,教材開発,教材研究)
	事後学修	教材を１つ選択し,教材としての価値等を考察する。【2 時間】
第14	事前学修	学習評価の考え方,方法等について,国研の参考資料等を参照してまとめる。【2 時間】
	授業内容	国語科教育の評価論(目標に準拠した評価)

回	事後学修	国語科の指導と評価の簡単な計画を作成する。【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	カリキュラム・マネジメントについて調べてまとめる。【2 時間】 カリキュラム・マネジメントの視点に立つ国語科の創造(年間指導計画,他教科との関連等) 他教科等も意識した年間指導計画を作成する。【2 時間】

【成績評価の方法】
○ 授業への取組状況(関心・意欲・態度)20% ○ 授業における課題レポート(事前学習,事後学修等)30%
○ 授業における発表 30% ○ 期末におけるレポート 20%

【フィードバック】
○ 授業における配付資料，作成資料等の演習資料をファイルに整理する。それにより，学習の過程と取組がすべて「見える」ようにし，各段階で自己評価を的確に行う。そこで得られた課題については新たに学習の機会を持つ。

【テキスト】
森田信義他『新訂国語科教育学の基礎』渓水社，平成 25 年

【参考書】
①全国大学国語教育学会『国語科教育学研究の成果と展望』明治図書，平成 14 年
②浜本純逸『国語科教育総論』渓水社，平成 23 年
③『国語教育史資料』全 6 巻 東京法令，昭和 56 年
④国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価規準の作成のための参考資料(小学校)』，平成 22 年
⑤国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価方法等の工夫改善のための参考資料(小学校)，平成 23 年
⑥文部科学省・国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」問題及び関連資料，平成 19~27 年
(④,⑤,⑥については各ホームページで検索可能)

【履修上の注意等】
特になし。

授業科目名 ： 国語科教育実践演習	教育学・教職
担当教員名 ： 田中 孝一	534113／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
(1) 国語科教育に関して,実際の授業展開のための実践的な資質と能力を確実に高める。
(2) 指導と評価の計画を作成しそれに基づく 1 単元の授業を行うことができる。
(3)

【授業の概要(目的)】
小学校における国語科を１教師として担当することを想定して,教科の構造,教材,指導と評価,評価問題の作成等の視点に立って課題設定を行い,その実践演習を通して,実践的な資質と能力を高める。

【ディプロマ・ポリシー】 1

【授業計画】

第	事前学修	授業の概要をつかみ,国語科授業の課題等について整理する。【2 時間】
1	授業内容	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ及び国語科授業の在り方のまとめ
回	事後学修	国語科授業の課題の解決のために必要な事柄をまとめる。【2 時間】
第	事前学修	現代の教育課題を挙げ,その要因等について整理する。【2 時間】
2	授業内容	現代の教育課題と国語科教育の役割(基礎的・汎用的能力,ｷｰ・ｺﾝﾋﾟﾃﾝｼｰ,言語活動の充実)
回	事後学修	国語科教育がこれから求められる資質能力の向上にいかに貢献すべきかまとめる。【2 時間】
第	事前学修	全国の取組の中から 1 つ選び,紹介する資料を作成する。【2 時間】
3	授業内容	国語科教育の現状(全国の取組における成果と課題)
回	事後学修	全国の取組の中から成果の大きい取組について考察する。【2 時間】
第	事前学修	学習指導要領国語科の趣旨,内容等についてまとめる。【2 時間】
4	授業内容	現行教育課程国語科の構造(1)学習指導要領が示す国語科の目標,内容等と仕組み
回	事後学修	国語科の授業の課題について,学習指導要領の趣旨から整理する。【2 時間】
第	事前学修	言語活動例を生かした授業の事例をまとめる。【2 時間】
5	授業内容	現行教育課程国語科の構造(2)指導事項と言語活動例の関連
回	事後学修	指導目標と言語活動例との関係を整理する。【2 時間】
第	事前学修	教科書の教材から同じ領域の教材をまとめる。【2 時間】
6	授業内容	国語科の教材の特質(教材開発,教材化,教科書教材)
回	事後学修	新聞記事から教材として使用できる資料を選定し,育成する能力を設定する。【2 時間】
第	事前学修	指導目標と評価規準との関係を整理する。【2 時間】
7	授業内容	国語科の授業研究(1)指導と評価の一体化と評価の観点
回	事後学修	評価の観点に基づく指導目標を設定する。【2 時間】
第	事前学修	国研の参考資料から国語科の指導計画のﾎﾟｲﾝﾄをまとめる。【2 時間】
8	授業内容	国語科の授業研究(2)指導と評価の計画の考え方
回	事後学修	具体的な指導計画における評価の方法等の適切さ等をまとめる。【2 時間】
第	事前学修	実際の小学校の指導計画の例に基づき,その特徴等をまとめる。【2 時間】
9	授業内容	国語科の授業研究(3)指導と評価の計画の実例の検討(以下,ｸﾞﾙｰﾌﾟ活動)
回	事後学修	実際の授業をｲﾒｰｼﾞして,指導計画の効果を確かめる。【2 時間】
第	事前学修	授業の基になった指導計画のﾎﾟｲﾝﾄをまとめる。【2 時間】
10	授業内容	国語科の授業研究(4)指導と評価の計画に基づく実践授業例の検討
回	事後学修	実践授業例のいい点と改善点をまとめる。【2 時間】
第	事前学修	授業を行う領域等を学習指導要領を基に決める。【2 時間】
11	授業内容	国語科の授業研究(5)単元又は 1 時間の指導と評価の計画の作成
回	事後学修	作成した指導計画を再検討し修正する。【2 時間】
第	事前学修	授業の流れ,板書計画等を確認し,ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝを行う。【2 時間】
12	授業内容	国語科の授業展開の実際(1)指導と評価の計画に基づく授業実践(模擬授業)
回	事後学修	行った授業のよかった点,改善点をまとめる。【2 時間】
第	事前学修	行った授業の修正案を作成する。【2 時間】
13	授業内容	国語科の授業展開の実際(2)指導と評価の計画に基づく授業実践の検討
回	事後学修	授業の修正案を完成させ,そのﾎﾟｲﾝﾄをまとめる。【2 時間】
第	事前学修	全国学力・学習状況調査の概要をまとめる。【2 時間】

14 回	授業内容 事後学修	評価問題の作成の技術と実際(1)テストと学習評価(全国学力・学習状況調査の問題の検討) 評価問題作成のポイントをまとめる。【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	行った授業に基づく評価問題を作成する。【2 時間】 評価問題の作成の技術と実際(2)テスト作成の実際 作成した評価問題と指導計画と一体性を点検する。【2 時間】

【成績評価の方法】

○ 授業への取組状況20% ○ 授業における課題レポート(事前学習,事後学修等)30%

○ 授業における発表30% ○ 期末におけるレポート20%

【フィードバック】

○ 授業における配付資料，作成資料等の演習資料をファイルに整理する。それにより，学習の過程と取組がすべて「見える」ようにし，各段階で自己評価を的確に行う。そこで得られた課題については新たに学習の機会を持つ。

【テキスト】

森田信義他『新訂国語科教育学の基礎』渓水社，平成 25

【参考書】

①全国大学国語教育学会『国語科教育学研究の成果と展望』明治図書，平成 14
②浜本純逸『国語科教育総論』渓水社，平成 23
③『国語教育史資料』全 6 巻 東京法令，昭和 56
④国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価規準の作成のための参考資料(小学校)』，平成 22
⑤国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価方法等の工夫改善のための参考資料(小学校)』 平成 23
⑥文部科学省・国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」問題及び関連資料，平成 19~27
(④,⑤,⑥については各ホームページで検索可能)

【履修上の注意等】

特になし。

授業科目名 ： 算数科教育の理論と方法	専攻・領域:教育学
担当教員名 ： 原田 耕平	534114／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】・算数学習における子どもの認識の特徴とそれにともなう学習の困難性を理論的に説明できる。
・子どもの認識の発展を支援する多様な算数学習の理論と指導法を理解し、具体的な指導事例を構築できる。

【授業の概要(目的)】算数学習における子どもの認識の特徴と学習の困難性を明確にするために、ﾋﾟｱｼﾞｪの認知心理学をﾍﾞｰｽにした分析を行うとともに、算数学習での子どもの認識の発展を支援する学習指導法の理論と指導法を探究する。

【ディプロマ・ポリシー番号】1

【授業計画】

第1回	事前学修	ｼﾗﾊﾞｽによって授業内容を理解し、子どもの認知発達について調べる。[2 時間]
	授業内容	子どもの認知発達と算数学習の課題
	事後学修	他の書籍によって子どもの認知発達と算数学習の課題を整理する。[2 時間]
第2回	事前学修	子どもの認知発達段階と思考の特徴について調べる。[2 時間]
	授業内容	子どもの認知発達段階と思考の特徴(1) 感覚・運動的知能段階
	事後学修	他の書籍によって感覚・運動的知能段階の思考の特徴を整理する。[2 時間]
第3回	事前学修	子どもの認知発達段階と思考の特徴について調べる。[2 時間]
	授業内容	子どもの認知発達段階と思考の特徴(2) 前操作的知能段階
	事後学修	他の書籍によって前操作的知能段階の思考の特徴を整理する。[2 時間]
第4回	事前学修	子どもの認知発達段階と思考の特徴について調べる。[2 時間]
	授業内容	子どもの認知発達段階と思考の特徴(3) 具体的操作思考段階
	事後学修	他の書籍によって具体的操作思考段階の思考の特徴を整理する。[2 時間]
第5回	事前学修	子どもの認知発達段階と思考の特徴について調べる。[2 時間]
	授業内容	子どもの認知発達段階と思考の特徴(4) 形式的操作思考段階
	事後学修	他の書籍によって形式的操作思考段階の思考の特徴を整理する。[2 時間]
第6回	事前学修	算数学習における子どもの困難性について数と計算の領域で調べる。[2 時間]
	授業内容	算数学習における子どもの困難性(1) 数と計算の領域
	事後学修	算数学習における子どもの困難性について数と計算の領域で整理する。[2 時間]
第7回	事前学修	算数学習における子どもの困難性について量と測定の領域で調べる。[2 時間]
	授業内容	算数学習における子どもの困難性(2) 量と測定の領域
	事後学修	算数学習における子どもの困難性について量と測定の領域で整理する。[2 時間]
第8回	事前学修	算数学習における子どもの困難性について図形の領域で調べる。[2 時間]
	授業内容	算数学習における子どもの困難性(3) 図形の領域
	事後学修	算数学習における子どもの困難性について図形の領域で整理する。[2 時間]
第9回	事前学修	算数学習における子どもの困難性について数量関係の領域で調べる。[2 時間]
	授業内容	算数学習における子どもの困難性(4) 数量関係の領域
	事後学修	算数学習における子どもの困難性について数量関係の領域で整理する。[2 時間]
第10回	事前学修	子どもの認識を支援する算数学習の理論としてﾋﾟｱｼﾞｪの均衡化理論を調べる。[2 時間]
	授業内容	子どもの認識を支援する算数学習の理論と指導法(1)ﾋﾟｱｼﾞｪの均衡化理論
	事後学修	算数学習の理論と指導法としてﾋﾟｱｼﾞｪの均衡化理論を整理する。[2 時間]
第11回	事前学修	子どもの認識を支援する算数学習の理論としてﾋﾟｱｼﾞｪ学派の学習理論を調べる。[2 時間]
	授業内容	子どもの認識を支援する算数学習の理論と指導法(2)ﾋﾟｱｼﾞｪ学派の学習理論
	事後学修	算数学習の理論と指導法してﾋﾟｱｼﾞｪ学派の学習理論を整理する。[2 時間]
第12回	事前学修	子どもの認識を支援する算数学習の理論として新ﾋﾟｱｼﾞｪ学派の理論を調べる。[2 時間]
	授業内容	子どもの認識を支援する算数学習の理論と指導法(3)新ﾋﾟｱｼﾞｪ学派の学習理論
	事後学修	算数学習の理論と指導法として新ﾋﾟｱｼﾞｪ学派の学習理論を整理する。[2 時間]
第13回	事前学修	子どもの認識を支援する算数学習の理論として社会的構成主義の理論を調べる。[2 時間]
	授業内容	子どもの認識を支援する算数学習の理論と指導法(4)社会的構成主義の学習理論
	事後学修	算数学習の理論と指導法として社会的構成主義の学習理論を整理する。[2 時間]
第14回	事前学修	子どもの認識を支援する算数学習の理論として学習障害児の学習理論を調べる。[2 時間]
	授業内容	子どもの認識を支援する算数学習の理論と指導法(5)学習障害児を支援する学習理論
	事後学修	算数学習の理論と指導法として学習障害児を支援する学習理論を整理する。[2 時間]
第15	事前学修	子どもの認識の発展を支援する算数学習の理論と指導法を整理する。[2 時間]
	授業内容	子どもの認識の発展を支援する算数指導法の開発(まとめ)

回	事後学修	子どもの認識の発展を支援する算数指導法の開発を整理する。[2 時間]

【成績評価の方法】
授業準備 20%、発表 20%、小レポート 20%、総合レポート 40%

【フィードバック】
レポートは評価、コメントをつけて返却し学習を発展させる。

【テキスト】
特に使用しない。

【参考書】
C.カミイ・C.クラーク『子どもと新しい算数』北大路書房, 1987
小高俊夫『算数・数学学習に認知科学は役立つか』東洋館, 1992
Hansen,A.: *Children's Errors in Mathematics*, Learning Matters,2005, 他

【履修上の注意等】
英文資料の講読を含める。

授業科目名 ： 算数科教育実践演習	専攻・領域:教育学
担当教員名 ： 原田 耕平	534115 ／半期／選必／ 2 単位／演習

【到達目標】・戦後のわが国の算数教育ｶﾘｷｭﾗﾑの諸改訂における教育目標・内容とその指導法の特徴を説明できる。・近年の代表的な算数指導法の特徴と意義を理解し、演習・模擬授業を通じて多様な実践法を身につける。

【授業の概要(目的)】戦後のわが国の算数教育ｶﾘｷｭﾗﾑの諸改訂における教育目標・内容とその指導法の特徴を明確にした上で、近年における代表的な算数指導法の特徴と意義について理解し、演習・模擬授業を通じて、多様な実践法を探究する。

【ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ番号】 1

【授業計画】

第1回	事前学修	ｼﾗﾊﾞｽで授業内容を理解し、算数教育におけるｶﾘｷｭﾗﾑ構成の特徴を調べる。[2 時間]
	授業内容	算数教育におけるｶﾘｷｭﾗﾑ構成と学習指導法
	事後学修	算数教育におけるｶﾘｷｭﾗﾑ構成と学習指導法の特徴を整理する。[2 時間]
第2回	事前学修	経験主義ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法の特徴を調べる。[2 時間]
	授業内容	経験主義ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法(昭和 20 年代)
	事後学修	経験主義ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法の特徴を整理する。[2 時間]
第3回	事前学修	系統主義ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法の特徴を調べる。[2 時間]
	授業内容	系統主義ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法(昭和 30 年代)
	事後学修	系統主義ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法の特徴を整理する。[2 時間]
第4回	事前学修	科学主義ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法の特徴を調べる。[2 時間]
	授業内容	科学主義ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法(昭和 40 年代)
	事後学修	科学主義ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法の特徴を整理する。[2 時間]
第5回	事前学修	基礎・基本重視ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法の特徴を調べる。[2 時間]
	授業内容	基礎・基本重視ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法(昭和 50 年代)
	事後学修	基礎・基本重視ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法の特徴を整理する。[2 時間]
第6回	事前学修	個性重視ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法の特徴を調べる。[2 時間]
	授業内容	個性重視ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法(平成元年代)
	事後学修	個性重視ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法の特徴を整理する。[2 時間]
第7回	事前学修	ゆとり重視ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法の特徴を調べる。[2 時間]
	授業内容	ゆとり重視ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法(平成 10 年代)
	事後学修	ゆとり重視ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法の特徴を整理する。[2 時間]
第8回	事前学修	確かな学力(算数的活動)重視ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法の特徴を調べる。[2 時間]
	授業内容	確かな学力(算数的活動)重視ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法(平成 20 年代)
	事後学修	確かな学力(算数的活動)重視ｶﾘｷｭﾗﾑにおける算数指導法の特徴を整理する。[2 時間]
第9回	事前学修	子どものﾐｽｺﾝｾﾌﾟｼｮﾝを活かした算数指導法の特徴を調べる。[2 時間]
	授業内容	子どものﾐｽｺﾝｾﾌﾟｼｮﾝを活かした算数指導法(診断的教授法)
	事後学修	ﾐｽｺﾝｾﾌﾟｼｮﾝを活かした算数指導法の特徴を整理する。[2 時間]
第10回	事前学修	子どもの多様な考えを活かした算数指導法の特徴を調べる。[2 時間]
	授業内容	子どもの多様な考えを活かした算数指導法(ｵｰﾌﾟﾝｱﾌﾟﾛｰﾁによる学習指導法)
	事後学修	子どもの多様な考えを活かした算数指導法の特徴を整理する。[2 時間]
第11回	事前学修	実験・観察を取り入れた算数指導法の特徴を調べる。[2 時間]
	授業内容	実験・観察を取り入れた算数指導法
	事後学修	実験・観察を取り入れた算数指導法の特徴を整理する。[2 時間]
第12回	事前学修	話し合い・練り上げを活かした算数指導法の特徴を調べる。[2 時間]
	授業内容	話し合い・練り上げを活かした算数指導法
	事後学修	話し合い・練り上げを活かした算数指導法の特徴を整理する。[2 時間]
第13回	事前学修	子どもの推論的活動を支援する算数指導法の特徴を調べる。[2 時間]
	授業内容	子どもの推論的活動を支援する算数指導法
	事後学修	子どもの推論的活動を支援する算数指導法の特徴を整理する。[2 時間]
第14回	事前学修	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ利用による算数指導法の特徴を調べる。[2 時間]
	授業内容	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ利用による算数指導法(ICT 活用による学習指導法)
	事後学修	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ利用による算数指導法の特徴を整理する。[2 時間]
第15回	事前学修	多様な算数指導法の特徴と意義を整理する。[2 時間]
	授業内容	学習指導法の開発と研究法(まとめ)

回	事後学修	独創的な教材研究と学習指導法を開発する。[2 時間]

【成績評価の方法】

授業準備 20%、発表 20%、小レポート 20%、総合レポート 40%

【フィードバック】

レポートは、評価、コメントをつけて返却し学習を発展させる。

【テキスト】

特に使用しない。

【参考書】

吉川成夫『小学校算数科基礎・基本と学習指導の実際』東洋館出版, 2002

Bell,A.: *Diagnostic Teaching in Mathematics.* Shell Centre, University of Nottingham, 1981.

Ryan,J. and Williams,J.: *Children's Mathematics 4-14 Learning from errors and misconceptions.* Open University Press, 2007. 他

【履修上の注意等】

英文資料の講読を含める。

授業科目名： 体育科教育の理論と方法	専攻・領域：教育学
担当教員名： 松本 祐介	534121／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
・体育科教育学の基礎的知識を身につけることができる。
・体育科教育学における研究方法論を理解することができる。

【授業の概要(目的)】
体育科教育学の基礎的知識を、大きくｶﾘｷｭﾗﾑ論と学習指導論に分けて学習し理解を深めるとともに、体育授業を客観的に反省し、授業の質と能力の向上を目指していくため、体育科教育学における研究方法論を学ぶ。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・２・５

【授業計画】

第1回	事前学修	当該箇所のﾃｷｽﾄの予習【2 時間】
	授業内容	体育科教育学とは
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【2 時間】
第2回	事前学修	当該箇所のﾃｷｽﾄの予習【2 時間】
	授業内容	体育のｶﾘｷｭﾗﾑ論(1)体育領域の位置と役割
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【2 時間】
第3回	事前学修	当該箇所のﾃｷｽﾄの予習【2 時間】
	授業内容	体育のｶﾘｷｭﾗﾑ論(2)制度的条件
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【2 時間】
第4回	事前学修	当該箇所のﾃｷｽﾄの予習【2 時間】
	授業内容	体育のｶﾘｷｭﾗﾑ論(3)体育のｶﾘｷｭﾗﾑ構成
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【2 時間】
第5回	事前学修	当該箇所のﾃｷｽﾄの予習【2 時間】
	授業内容	体育のｶﾘｷｭﾗﾑ論(4)体育ｶﾘｷｭﾗﾑﾓﾃﾞﾙとｶﾘｷｭﾗﾑ評価
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【2 時間】
第6回	事前学修	当該箇所のﾃｷｽﾄの予習【2 時間】
	授業内容	体育の学習指導論(1)よい体育授業の条件
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【2 時間】
第7回	事前学修	当該箇所のﾃｷｽﾄの予習【2 時間】
	授業内容	体育の学習指導論(2)英語圏にみる学習指導論
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【2 時間】
第8回	事前学修	当該箇所のﾃｷｽﾄの予習【2 時間】
	授業内容	体育の学習指導論(3)日本にみる学習指導論
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【2 時間】
第9回	事前学修	当該箇所のﾃｷｽﾄの予習【2 時間】
	授業内容	体育の学習指導論(4)体育の教材・教具論
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【2 時間】
第10回	事前学修	当該箇所のﾃｷｽﾄの予習【2 時間】
	授業内容	体育の学習指導論(5)体育の教師行動論
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【2 時間】
第11回	事前学修	当該箇所のﾃｷｽﾄの予習【2 時間】
	授業内容	体育の学習指導論(6)体育の学習者論(特別支援教育を含む)
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【2 時間】
第12回	事前学修	研究方法論とは、を調べておく【2 時間】
	授業内容	体育科教育学の研究方法論(1)経験的研究の成果と課題
	事後学修	興味のある研究を探す【2 時間】
第13回	事前学修	論文のﾚﾋﾞｭｰ【2 時間】
	授業内容	体育科教育学の研究方法論(2)質的研究の成果と課題
	事後学修	興味のある研究を探す【2 時間】
第14回	事前学修	論文のﾚﾋﾞｭｰ【2 時間】
	授業内容	体育科教育学の研究方法論(3)教師による実践研究
	事後学修	興味のある研究を探す【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	教員になってから取り組みたいテーマを具体的に考える【2 時間】 現職教師が行えること、研究の限界(理論の活用と実践) 期末レポート【2 時間】

【成績評価の方法】
期末テスト 40%、課題レポート 40%、講義内発表 20%

【フィードバック】
テストは次回フィードバック、レポートは採点後返却

【テキスト】
適宜プリントを配布する。

【参考書】
岩田靖ほか編著『初等体育授業づくり入門』大修館書店, 2018

【履修上の注意等】
特になし

授業科目名： 体育科教育実践演習	専攻・領域：教育学
担当教員名：松本 祐介	534122／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
・より良い体育授業を設計・実践し、自己評価する力を身につけることができる。
・現場で即戦力となる実践的指導力を身につけることができる。

【授業の概要(目的)】
実際の小学校体育授業の映像などの具体的な例を用いながら、学習指導法を学んでいくとともに、実際に授業設計、実践、省察を経験し、実践的指導力を高める。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・２・５

【授業計画】

第1回	事前学修	小学校学習指導要領解説体育編の復習【3 時間】
	授業内容	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ(授業の趣旨,内容,方法,評価等)
	事後学修	ﾃｷｽﾄ「体育の教材を創る」のはじめにを読んでおく【1 時間】
第2回	事前学修	該当箇所のﾃｷｽﾄ予習【1 時間】
	授業内容	教科内容の構造
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【3 時間】
第3回	事前学修	該当箇所のﾃｷｽﾄ予習【1 時間】
	授業内容	運動学習・認識学習・社会的学習・情意的学習について
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【3 時間】
第4回	事前学修	該当箇所のﾃｷｽﾄ予習【1 時間】
	授業内容	効果的教授についての知見(効果的な教授ﾊﾟﾀｰﾝ)
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【3 時間】
第5回	事前学修	該当箇所のﾃｷｽﾄ予習【1 時間】
	授業内容	授業のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ(効果的なﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ、技術、具体的事例)
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【3 時間】
第6回	事前学修	該当箇所のﾃｷｽﾄ予習【1 時間】
	授業内容	学習指導の実践のﾎﾟｲﾝﾄ(特別支援教育を含む)
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【3 時間】
第7回	事前学修	該当箇所のﾃｷｽﾄ予習【1 時間】
	授業内容	体育授業で求められる教師の能力
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【3 時間】
第8回	事前学修	該当箇所のﾃｷｽﾄ予習【1 時間】
	授業内容	指導と評価の一体化
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【3 時間】
第9回	事前学修	該当箇所のﾃｷｽﾄ予習【1 時間】
	授業内容	授業計画(長期的計画と毎日の授業計画)
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【3 時間】
第10回	事前学修	該当箇所のﾃｷｽﾄ予習【1 時間】
	授業内容	教材づくり論
	事後学修	ﾁｪｯｸﾃｽﾄﾚﾎﾟｰﾄの作成【3 時間】
第11回	事前学修	指導案作成の手順(ﾌﾟﾘﾝﾄ)の予習【1 時間】
	授業内容	授業計画(単元計画)の作成
	事後学修	単元計画の作成【3 時間】
第12回	事前学修	指導案作成の手順(ﾌﾟﾘﾝﾄ)の予習【1 時間】
	授業内容	授業計画(1 単位時間の指導案)の作成
	事後学修	本時案の作成【3 時間】
第13回	事前学修	模擬授業準備【3 時間】
	授業内容	授業計画に基づく授業実践(模擬授業)
	事後学修	省察ｼｰﾄの記入【1 時間】
第14回	事前学修	省察ｼｰﾄの記入【2 時間】
	授業内容	授業計画に基づく授業実践の検討(省察):映像で振り返る、話し合い
	事後学修	講評を踏まえた省察【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	良い体育授業を考え直す【2 時間】 優れた実践に学ぶ(体育研究校における体育授業の見学 or 映像) 自身の実践と比較し、省察【2 時間】

【成績評価の方法】
レポート 20%、指導案 30%、模擬授業 30%、省察 20%

【フィードバック】
テストは次回フィードバック、レポートは採点後返却

【テキスト】
適宜プリントを配布する。

【参考書】
岩田靖ほか編著『初等体育授業づくり入門』大修館書店, 2018

【履修上の注意等】
特になし

授業科目名： 学校経営特論	専攻・領域：教育学
担当教員名： 向野　光	534109／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
(1)障害児教育の黎明期、振興期の状況を明らかにする。
(2)1960 年代以前の障害者処遇の歴史を把握する。
(3)「権利としての障害児教育」の登場等 1970 年代の歴史的転換点を理解できるようにする。
(4)1990 年代以降の障害児主体の「特別ﾆｰｽﾞ教育」への質的転換を検証できるようにする。
(5)現在のｲﾝｸﾙｰｼﾞﾌﾞ教育への歴史の推移を明らかにする。

【授業の概要(目的)】
この授業では、まず戦後教育改革期~高度経済成長期である 1960 年代までの「特殊教育」の発展と戦前の障害者処遇と障害児教育について検討し、「就学猶予・免除」という名の下に、「排除」されていた子どもたちへの教育に関する戦前と戦後の連続・非連続について考える。その上で、1970 年代以降の「権利としての障害児教育」から 1990 年代以降の「特別ﾆｰｽﾞ教育」への流れを概観し、今日までの到達点(ｲﾝｸﾙｰｼﾞﾌﾞ教育)と課題を明らかにする。

【ディプロマ・ポリシー番号】DP：１：2

【授業計画】

第1回	事前学修	戦後史(1946~1951 年)を整理しておく(2 時間)
	授業内容	戦後新教育の理念・制度と「特殊教育」制度の発足（1946~1951 年)
	事後学修	制度としての「特殊教育」を確認する(2 時間)
第2回	事前学修	戦後史(1952~1958 年) を整理しておく(2 時間)
	授業内容	「冷戦」体制の成立と「特殊教育振興」を求める運動（1952~1958 年)
	事後学修	特殊学級の計画設置をまとめておく(2 時間)
第3回	事前学修	戦後史(1959~1966 年) を整理しておく(2 時間)
	授業内容	能力主義教育政策の登場とその下での「特殊教育振興」（1959~1966 年)
	事後学修	学習指導要領の改訂等をまとめておく(3 時間)
第4回	事前学修	戦前史、幕末から明治初期の歴史を整理しておく(2 時間)
	授業内容	近代日本における障害者処遇の歴史
	事後学修	障害児教育の黎明期前期をまとめておく(2 時間)
第5回	事前学修	戦前史、明治末期の歴史を整理しておく(2 時間)
	授業内容	明治末期の特別教育(1)(「劣等児」教育に関する宮城県の事例)
	事後学修	障害児教育の黎明期後期をまとめておく(2 時間)
第6回	事前学修	戦前史、明治末期の歴史を整理しておく(2 時間)
	授業内容	同 上 (2)(「劣等児」教育に関する長野県の事例)
	事後学修	障害児教育の黎明期後期をまとめておく(2 時間)
第7回	事前学修	戦前史、大正末期の歴史を整理しておく(2 時間)
	授業内容	大正期末の特別学級の実態(文部省『特別学級編制に関する調査』/『全国特殊教育状況』)
	事後学修	障害児教育の振興期をまとめておく(2 時間)
第8回	事前学修	戦前史、大正末期の歴史と教育を整理しておく(2 時間)
	授業内容	大正自由教育と「劣等児」教育(1)(岡山県倉敷の事例)
	事後学修	障害児教育の振興期の実践例をまとめておく(2 時間)
第9回	事前学修	戦前史、大正末期の歴史と教育を整理しておく(2 時間)
	授業内容	同 上 (2)(奈良女高師附小の事例)
	事後学修	障害児教育の振興期の実践例をまとめておく(2 時間)
第10回	事前学修	戦中史、整理しておく(2 時間)
	授業内容	戦時下の障害者処遇と教育
	事後学修	戦争と障害者の関係性を明らかにする(2 時間)
第11回	事前学修	戦後史、高度成長期(前期)の歴史を整理しておく(2 時間)
	授業内容	「差別としての特殊教育から権利としての障害児教育へ」（1967~1972 年)
	事後学修	医療中心の時代から教育の時代への転換点であることをまとめておく(2 時間)
第12回	事前学修	戦後史、高度成長期(中期)の歴史を整理しておく(2 時間)
	授業内容	養護学校義務制予告制令と義務制完全実施をめざすとりくみ(1973~1978 年)
	事後学修	障害児全員就学の意義を確認する(3 時間)

第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	戦後史、高度成長期(中期)の歴史を整理しておく(2 時間) 養護学校義務制の施行と国際障害者年の下での教育権保障の深化・拡大(1979~1980 年代) これ以後、養護学校教育が発展充実していったことを確認する(2 時間)
第 14 回	事前学修 授業内容 事後学修	戦後史、高度成長期(後期)の歴史を整理しておく(2 時間) 「特殊教育」への批判と「特別ﾆｰｽﾞ教育」の国際的承認(1990 年代~) 「場の教育」から「ﾆｰｽﾞによる教育」の質的転換を理解する(2 時間)
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	「特殊教育」と「特別支援教育」の相違について調べておく(２時間) 特別支援教育を取り巻く現状と地域の直面する課題 特別支援教育の推進がｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞ教育ｼｽﾃﾑの構築に繋がることをまとめる(２時間)

【成績評価の方法】
課題ﾚﾎﾟｰﾄ(期末)50%、小ﾚﾎﾟｰﾄ(中間)30%、平常点 20%
授業への参加度、授業に関する小ﾚﾎﾟｰﾄおよび期末ﾚﾎﾟｰﾄ等によって総合的に評価する。

【フィードバック】
レポートは評価、コメントを付して返却し、学修の発展に資する。

【テキスト】
特に使用しない。資料を配付する

【参考書】
特になし

【履修上の注意等】
障害者教育史観を身につけ、理論と実践の往還教育をまなび、共生社会をめざすｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞ教育が実践できるような学生が受講すること。

授業科目名： 特別支援教育の理論と方法	専攻・領域：教育学
担当教員名： 向野　光	534105／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
(1)特殊教育から特別支援教育への歴史的変革の過程と意義、その背景を理解することができる。
(2)ﾉｰﾏﾗｲｾﾞｰｼｮﾝからｲﾝｸﾙｰｼﾞﾌﾞ教育システムの構築へのﾌﾟﾛｾｽを明らかにすることができる。
(3)特別支援教育について理論と実践の両面から追究することができる。

【授業の概要(目的)】
従来の特殊教育から特別支援教育への歴史的変革の意義と、ﾉｰﾏﾗｲｾﾞｰｼｮﾝの精神の基づいた特別支援教育の理念の把握、特別支援教育の内容及び方法の研究、理論と実践の両面から追究する。

【ディプロマ・ポリシー番号】DP:1

【授業計画】

第1回	事前学修	従来の「障害観」について調べてくる。【２時間】
	授業内容	特別支援教育の理念(1) 「新しい人間観、教育観、障害観」
	事後学修	「障害者の権利条約」ついても整理しておく。【２時間】
第2回	事前学修	「障害者の権利条約」の批准から現在に至るまでを調べてくる。【2 時間】
	授業内容	特別支援教育の理念(2) 「教育の基礎構造改革」研究
	事後学修	基本となった法例についてまとめておく。【２時間】
第3回	事前学修	学習指導要領 小・中学部編を読んでおく。【２時間】
	授業内容	特別支援教育の教育課程(1) 「特別支援学校学習指導要領 小・中学部編」研究
	事後学修	学習指導要領と現場の実践の往還教育について考える。【２時間】
第4回	事前学修	学習指導要領 高等部編を読んでおく。【1 時間】
	授業内容	特別支援教育の教育課程(2) 「特別支援学校学習指導要領 高等部編」研究
	事後学修	学習指導要領と現場の実践の往還教育について考える。【3 時間】
第5回	事前学修	世界史の概要を調べておく。【2 時間】
	授業内容	特別支援教育の歴史(1) 「世界の特別支援教育の歴史的変遷」研究
	事後学修	一般世界史と特別支援教育の歴史が対比できるようにする。【２時間】
第6回	事前学修	日本の教育史の概要を調べておく。【2 時間】
	授業内容	特別支援教育の歴史(2) 「日本の特別支援教育の歴史的変遷」研究
	事後学修	一般日本史と特別支援教育の歴史が対比できるようにする。【２時間】
第7回	事前学修	自己の研究課題と対比しながら授業に臨むようにする。【1 時間】
	授業内容	特別支援教育研究法(1) 「調査研究・文献研究・実験研究」等
	事後学修	「調査研究・文献研究・実験研究」等の先行研究を調べ直す。【3 時間】
第8回	事前学修	自己の研究課題と対比しながら授業に臨むようにする。【1 時間】
	授業内容	特別支援教育研究法(2)　実践研究法①「事例研究」等
	事後学修	「事例研究」等の先行研究を調べ直す。【3 時間】
第9回	事前学修	自己の研究課題と対比しながら授業に臨むようにする。【1 時間】
	授業内容	特別支援教育研究法(3)　実践研究法②「指導・支援法研究」等
	事後学修	「指導・支援法研究」等の先行研究を調べ直す。【3 時間】
第10回	事前学修	自己の研究課題と対比しながら授業に臨むようにする。【1 時間】
	授業内容	特別支援教育研究法(4)　実践研究法③「授業研究」等
	事後学修	「授業研究」等の先行研究を調べ直す。【3 時間】
第11回	事前学修	ﾊﾝﾃﾞｨｷｬｯﾌﾟのある子のﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞについて考えてくる。【2 時間】
	授業内容	学習指導・支援計画(1) 「ｷｬﾘｱ教育」・「個別移行支援計画」等研究
	事後学修	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞ全般とその繋ぎ目に当たるものであることを理解する。【２時間】
第12回	事前学修	前時の計画との関連について調べてくる。【2 時間】
	授業内容	学習指導・支援計画(2) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」等研究
	事後学修	この計画をもとにどのような実践がなされているか整理する。【２時間】
第13回	事前学修	自分の地域社会(市町村)の現状を調べてくる。【2 時間】
	授業内容	特別支援教育と地域社会 「ｽｸｰﾙ・ｸﾗｽﾀｰ、ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、地域連携」研究
	事後学修	地域社会どのような実践がなされているか整理する。【２時間】
第14回	事前学修	ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝとはどのようなものか調べてくる。【2 時間】
	授業内容	特別支援教育と地域社会 「ｲﾝｸﾙｰｼﾞﾌﾞ教育とﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ」研究
	事後学修	各学校でどのような実践がなされているか整理する。【２時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	自己の研究課題を整理して授業に臨むようにする。【1 時間】 まとめと今後の課題 「ﾉｰﾏﾗｲｾﾞｰｼｮﾝの精神からｲﾝｸﾙｰｼﾞﾌﾞ教育へ」 研究課題が修論に結び付けられるようにする。【3 時間】

【成績評価の方法】
平常点(授業の準備、学習態度)30%、課題ﾚﾎﾟｰﾄ 50%、発表力 20%等総合的に見て評価する。

【フィードバック】
レポートは評価、コメントを付して返却し、学修の発展に資する。

【テキスト】
必要に応じﾌﾟﾘﾝﾄや資料を配布する

【参考書】
その都度紹介する

【履修上の注意等】
ﾉｰﾏﾗｲｾﾞｰｼｮﾝの精神やｲﾝｸﾙｰｼﾞﾌﾞ教育の理念を理解し、ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝの研究と実践を積極的に実行できる学生が受講すること。

授業科目名： 特別支援教育実践演習Ⅰ	専攻･領域：教育学
担当教員名： 向野　光	534107／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】ｷｬﾘｱ発達を促す視点から、特別な教育的ﾆｰｽﾞのある児童に対する指導内容方法を学ぶことによって、一人ひとりの教育的ﾆｰｽﾞに応じた授業づくりの力量を高め、実践的指導力を身につけることができる。

【授業の概要(目的)】特別支援教育における指導の工夫、ｷｬﾘｱ教育の意義と視点を確認しながら、学校現場での体験等によって特別な教育的ﾆｰｽﾞのある児童生徒の指導に関する知識と方法を習得する。本演習Ⅰはｷｬﾘｱ発達的視点で課題追求を行う。

【ディプロマ・ポリシー番号】DP:1

【授業計画】

第1回	事前学修	特別支援教育、ｷｬﾘｱ教育について調べておく。【3 時間 】
	授業内容	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ:「特別支援教育実践演習Ⅰ」の位置づけ、意義
	事後学修	授業内容を整理する。【1 時間 】
第2回	事前学修	演習における自分の課題を整理しておく。【3 時間 】
	授業内容	自己教育課題の設定と課題検討のｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ
	事後学修	授業内容を整理する。【1 時間 】
第3回	事前学修	小学校における特別支援教育の現状を調べておく。【2 時間 】
	授業内容	現場視察(小学校 教育活動の把握)
	事後学修	視察内容を整理する。【2 時間 】
第4回	事前学修	発達障害について整理しておく。【2 時間 】
	授業内容	課題研究「通常学級における発達障害児の学習活動」
	事後学修	授業内容を整理する。【2 時間 】
第5回	事前学修	特別支援学級、通級指導教室における学習について整理しておく。【2 時間 】
	授業内容	課題研究「特別支援学級、通級指導教室における学習活動」
	事後学修	授業内容を整理する。【2 時間 】
第6回	事前学修	特別支援学校 の教育課程について調べておく。【2 時間 】
	授業内容	現場視察(特別支援学校 教育活動の把握)
	事後学修	視察内容を整理する。【2 時間 】
第7回	事前学修	特別支援学校における障害の特徴や学習上の特性について調べておく。【2 時間 】
	授業内容	課題研究「特別支援学校における学習活動」
	事後学修	授業内容を整理する。【2 時間 】
第8回	事前学修	ｷｬﾘｱ教育の現状と課題を調べておく。【2 時間 】
	授業内容	課題研究「ｷｬﾘｱ発達と教育支援計画」
	事後学修	授業内容を整理する。【2 時間 】
第9回	事前学修	課題を整理し、発表ﾚｼﾞﾒを作成する。【2 時間 】
	授業内容	課題解決のための方策の立案(小学校)、ｸﾞﾙｰﾌﾟ 討議、発表
	事後学修	授業内容を整理する。【2 時間 】
第10回	事前学修	自分の課題に応じた体験の視点を考える。【2 時間 】
	授業内容	現場体験(小学校通常学級･小学校特別支援学級･通級指導教室)
	事後学修	体験内容を整理する。【2 時間 】
第11回	事前学修	体験内容を整理し、報告ﾚｼﾞﾒを作成する。【2 時間 】
	授業内容	現場体験報告会(小学校 教育課題省察と課題追求のｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ)
	事後学修	授業内容を整理する。【2 時間 】
第12回	事前学修	課題を整理し、ﾚｼﾞﾒを作成する。【2 時間 】
	授業内容	課題解決のための方策の立案(特別支援学校)、ｸﾞﾙｰﾌﾟ 討議、発表
	事後学修	授業内容を整理する。【2 時間 】
第13回	事前学修	ｷｬﾘｱ教育の視点を踏えて、特別支援学校での学習活動を考える。【2 時間 】
	授業内容	現場体験(特別支援学校)
	事後学修	1.　体験内容を整理する。【2 時間 】
第14回	事前学修	体験内容を整理し、報告ﾚｼﾞﾒを作成する。【2 時間 】
	授業内容	現場体験報告会(特別支援学校 教育課題省察と課題追求のｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ)
	事後学修	授業内容を整理する。【2 時間 】
第	事前学修	ｷｬﾘｱ教育の視点で学んだことを整理し、ﾚﾎﾟｰﾄを作成する。【2 時間 】

15 回	授業内容 事後学修	まとめと反省 授業内容を踏まえ、演習のまとめをする。【2 時間 】

【成績評価の方法】
平常点 30%、演習への取組 40%、ﾚﾎﾟｰﾄ 30%等により、総合的に評価する。

【フィードバック】
レポートは評価、コメントを付して返却し、学修の発展に資する。

【テキスト】
その都度プリントで配付する

【参考書】
文部科学省『小学校 ｷｬﾘｱ教育の手引き』改訂版, 教育出版, 2011.6. 他

【履修上の注意等】
学校現場の視察を行う
(社会人として、挨拶、服装、言葉遣い、連絡、報告、時間厳守、健康管理が求められる)

授業科目名： 特別支援教育実践演習Ⅱ	専攻・領域：教育学
担当教員名： 向野　光	534108／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】　ｷｬﾘｱ発達を促す視点から、特別な教育的ﾆｰｽﾞのある児童に対する指導内容方法を学ぶことによって、一人ひとりが活躍する学級集団づくりの力量を高め、実践的指導力を身につけることができる。

【授業の概要(目的)】特別支援教育、ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ、ｷｬﾘｱ教育等の視点を確認し、学校現場での体験等によって特別な教育的ﾆｰｽﾞのある児童の指導に関する知識と方法を習得する。演習Ⅱは個を生かした集団づくりの視点で課題追求を行う。

【ディプロマ・ポリシー番号】DP:1

【授業計画】

第1回	事前学修	特別支援教育、ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ等の視点で集団づくりの課題を整理する。【3 時間 】
	授業内容	「特別支援教育実践演習Ⅱ」の位置づけ、意義
	事後学修	授業内容を整理する。【1 時間 】
第2回	事前学修	演習における自分の課題を整理しておく。【3 時間 】
	授業内容	自己教育課題の設定と課題検討のｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
	事後学修	授業内容を整理する。【2 時間 】
第3回	事前学修	小学校における特別支援教育の課題を調べておく。【2 時間 】
	授業内容	現場視察(小学校 の特別支援教育の把握)
	事後学修	視察内容を整理する。【2 時間 】
第4回	事前学修	ｷｬﾘｱ発達とﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝの授業づくりについて整理しておく。【2 時間 】
	授業内容	課題研究「ｷｬﾘｱ発達とﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ(教科、特別活動等)」
	事後学修	授業内容を整理する。【2 時間 】
第5回	事前学修	発達障害の特性に応じた学級集団づくりについて整理しておく。【2 時間 】
	授業内容	課題研究「発達障害児理解と学級集団作り」
	事後学修	授業内容を整理する。【2 時間 】
第6回	事前学修	特別支援教育における発達的視点と指導方法について調べておく。【2 時間 】
	授業内容	現場視察(特別支援学校 教育活動の把握)
	事後学修	視察内容を整理する。【2 時間 】
第7回	事前学修	特別支援教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰの役割と教育支援計画の作成について整理しておく。【2 時間 】
	授業内容	課題研究「特別支援教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰと教育支援計画」
	事後学修	授業内容を整理する。【2 時間 】
第8回	事前学修	発達段階に応じたｸﾞﾙｰﾌﾟ学習について調べておく。【2 時間 】
	授業内容	課題研究「個別対応の発達的視点とｸﾞﾙｰﾌﾟ化」
	事後学修	授業内容を整理する。【2 時間 】
第9回	事前学修	課題を整理し、発表ﾚｼﾞﾒを作成する。【2 時間 】
	授業内容	課題解決のための方策立案(小学校)、ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議、発表
	事後学修	授業内容を整理する。【2 時間 】
第10回	事前学修	自分の課題に応じた体験の視点を考える。【2 時間 】
	授業内容	現場体験(小学校通常学級・小学校特別支援学級・通級指導教室)
	事後学修	体験内容を整理する。【2 時間 】
第11回	事前学修	体験内容を整理し、報告ﾚｼﾞﾒを作成する。【2 時間 】
	授業内容	現場体験~~報告~~検討会(小学校 教育課題省察と課題追求のｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ)
	事後学修	授業内容を整理する。【2 時間 】
第12回	事前学修	課題を整理し、ﾚｼﾞﾒを作成する。【2 時間 】
	授業内容	課題解決のための方策立案(特別支援学校)、ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議、発表
	事後学修	授業内容を整理する。【2 時間 】
第13回	事前学修	自立活動と集団指導の視点を踏まえて、特別支援学校での学習活動を考える。【2 時間 】
	授業内容	現場体験(特別支援学校)
	事後学修	体験内容を整理する。【2 時間 】
第14回	事前学修	体験内容を整理し、報告ﾚｼﾞﾒを作成する。【2 時間 】
	授業内容	現場体験報告会(特別支援学校 教育課題省察と課題追求のｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ)
	事後学修	授業内容を整理する。【2 時間 】
第	事前学修	演習で学んだことを整理し、ﾚﾎﾟｰﾄを作成する。【2 時間 】

15 回	授業内容 事後学修	まとめと反省 授業内容を踏まえ、演習全体のまとめをする。【2 時間 】

【成績評価の方法】
平常点 30%、演習への取組 40%、ﾚﾎﾟｰﾄ 30%等により、総合的に評価する。

【フィードバック】
レポートは評価、コメントを付して返却し、学修の発展に資する。

【テキスト】
その都度資料を配付する

【参考書】
文部科学省『小学校 ｷｬﾘｱ教育の手引き』改訂版, 教育出版, 2011.6. 他

【履修上の注意等】
学校現場の視察がある
(社会人として、挨拶、服装、言葉遣い、連絡、報告、時間厳守、健康管理が求められる)

授業科目名： 特別支援教育実践法	専攻・領域：教育学
担当教員名： 向野　光	534106／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
(1)特別支援教育の専門的理論を教育現場に実践的に応用できるようにする。
(2)現場で体験した実践を理論的にまとめることができるようにする。
(3)関係教育機関と共同して、理論と実践の往還教育ができるような力を養う。

【授業の概要(目的)】
前期「特別支援教育の理論と方法」を受け、特別支援教育の内容及び方法について、実践面の研究について実例を通してさらに深く追究していく。関係教育機関と共同して実践研究等を実施する。

【ディプロマ・ポリシー番号】DP:1

【授業計画】

第1回	事前学修	新しい障害観」について調べてくる。【1 時間】
	授業内容	ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ:「新しい人間観、教育観、障害観等 」研究再考
	事後学修	「障害者差別解消法」についても調べておく。【3 時間】
第2回	事前学修	小・中・高等学校の特別支援教育の現状と課題について調べてくる。【2 時間】
	授業内容	小・中・高等学校の特別支援教育(1) 現状と課題
	事後学修	小・中・高等学校の現状と課題と特別支援教育の共通課題をまとめる。【3 時間】
第3回	事前学修	「ﾀﾞｳﾝ症、自閉症等」について再考してくる。【2 時間】
	授業内容	小・中・高等学校の特別支援教育(2) 発達障害研究①「ﾀﾞｳﾝ症、自閉症等」
	事後学修	「ﾀﾞｳﾝ症、自閉症等」の実践例を整理しておく。【２ 時間】
第4回	事前学修	「ADHD、ｱｽﾍﾟﾙｶﾞｰ症候群等」について再考してくる。【2 時間】
	授業内容	小・中・高等学校の特別支援教育(3)発達障害研究② 「ADHD、ｱｽﾍﾟﾙｶﾞｰ症候群等」
	事後学修	「ADHD、ｱｽﾍﾟﾙｶﾞｰ症候群等」の実践例を整理しておく。【3２時間】
第5回	事前学修	教育現場で行う研究計画を予め立てておく。【2 時間】
	授業内容	実践研究(1)「教科別の指導・支援」研究① 特別支援学校
	事後学修	実践可能な計画であるか検証する。【2 時間】
第6回	事前学修	教育現場での研究内容・方法を事前に調べておく。【2 時間】
	授業内容	実践研究(2)「教科別の指導・支援」研究② 特別支援学級
	事後学修	実践可能な研究内容・方法であるか検証する。【2 時間】
第7回	事前学修	教育現場で事前に児童生徒の情報の収集を行う。【2 時間】
	授業内容	実践研究(3)「領域・教科を合わせた指導」(生活単元学習・小・中学部)研究①
	事後学修	生活単元学習・小・中学部)研究の事例を整理する。【2 時間】
第8回	事前学修	教育現場で事前に児童生徒の情報の収集を行う。【2 時間】
	授業内容	実践研究(4)「領域・教科を合わせた指導」(生活単元学習・高等部)研究②
	事後学修	生活単元学習・高等部研究の事例を整理する。【2 時間】
第9回	事前学修	教育現場で事前に児童生徒の情報の収集を行う。【2 時間】
	授業内容	実践研究(5)「領域・教科を合わせた指導」(作業学習等)研究
	事後学修	作業学習等研究の事例を整理する。【2 時間】
第10回	事前学修	教育現場で事前に児童生徒の情報の収集を行う。【2 時間】
	授業内容	実践研究(6)「領域・教科を合わせた指導」(遊びの指導)研究
	事後学修	遊びの指導研究の事例を整理する。【2 時間】
第11回	事前学修	教育現場で事前に児童生徒の情報の収集を行う。【2 時間】
	授業内容	実践研究(7)「自立活動」研究
	事後学修	自立活動研究の事例を整理する。【2 時間】
第12回	事前学修	教育現場で事前に授業研究の情報の収集を行う。【2 時間】
	授業内容	実践研究(8) 授業研究
	事後学修	授業研究の事例を整理する。【3２時間】
第13回	事前学修	教育現場で事前の学校経営と特別支援教育の情報の収集を行う。【2 時間】
	授業内容	実践研究(9)「学校経営と特別支援教育」研究
	事後学修	学校経営と特別支援教育の事例を整理する。【3 時間】
第	事前学修	これまでの情報収集を基に「学級経営 12 ヶ月」を考える。【2 時間】

14 回	授業内容 事後学修	実践研究(10)「学級経営 12 か月」研究 学校経営から学級経営が導き出せるようにする。【２時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	全 14 回の事例を整理して授業に臨むようにする。【2 時間】 まとめと今後の課題「特別支援教育実践法」 理論と実践の往還教育ができるように授業のまとめをする。【２ 時間】

【成績評価の方法】
平常点(授業の準備、学習態度)30%、課題ﾚﾎﾟｰﾄ 50%、発表力 20%等総合的に見て評価する。

【フィードバック】
レポートは評価、コメントを付して返却し、学修の発展に資する。

【テキスト】
必要に応じﾌﾟﾘﾝﾄや資料を配布する。

【参考書】
・小出進 『生活中心教育の理念と方法』 ｹｲｱﾝﾄﾞｴｲﾁ,2010 年２ 月
・広瀬由美子編著『通常の学級担任が見つける資源・つくるﾈｯﾄﾜｰｸ』東洋館出版社, 2007 年 9 月

【履修上の注意等】
ｲﾝｸﾙｰｼﾞﾌﾞ教育の理念を理解し、ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝの研究と実践に真面目に取り組み、理論と実践の往還教育について学び続けることができる学生が受講すること。

授業科目名： 教育史演習	専攻･領域：教育学
担当教員名：矢田 訓子	534104／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
近代の主体概念の変遷が説明できる。
近代の主体概念が近代の学校教育の理念や制度に与えた影響を分析できるようになる。
学校における教師と児童の関係について主体概念を踏まえて考察しその課題を検討することができる。

【授業の概要(目的)】
「主体的な学び」とは何かを考察するために、C.テイラーの「真正性(authenticity)」の観点を導きの糸として近代の主体概念の変遷を追う。近代の主体概念の持つ課題を明らかにし、学校教育への影響を考える。

【ディプロマ・ポリシー番号】1・2

【授業計画】

第1回	事前学修	指定された範囲の精読と論点の整理〔2 時間〕
	授業内容	オリエンテーション
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第2回	事前学修	指定された範囲の精読と論点の整理〔2 時間〕
	授業内容	三つの不安：個人主義、道具的理性、穏やかな専制
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第3回	事前学修	指定された範囲の精読と論点の整理〔2 時間〕
	授業内容	かみ合わない論争
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第4回	事前学修	指定された範囲の精読と論点の整理〔2 時間〕
	授業内容	ほんものという理想の源泉
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第5回	事前学修	指定された範囲の精読と論点の整理〔2 時間〕
	授業内容	逃れられない地平
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第6回	事前学修	指定された範囲の精読と論点の整理〔2 時間〕
	授業内容	承認のニード
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第7回	事前学修	指定された著作の精読と論点の整理〔2 時間〕
	授業内容	社会的自我について
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第8回	事前学修	指定された範囲の精読と論点の整理〔2 時間〕
	授業内容	主観主義のすべり坂
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第9回	事前学修	指定された範囲の精読と論点の整理〔2 時間〕
	授業内容	闘争は続く
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第10回	事前学修	指定された範囲の精読と論点の整理〔2 時間〕
	授業内容	もっと微妙な言語
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第11回	事前学修	指定された範囲の精読と論点の整理〔2 時間〕
	授業内容	鉄の檻？
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第12回	事前学修	指定された範囲の精読と論点の整理〔2 時間〕
	授業内容	断片化に抗して
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第13回	事前学修	指定された範囲の精読と論点の整理〔2 時間〕
	授業内容	承認の政治
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第14	事前学修	指定された著作の精読と論点の整理〔2 時間〕
	授業内容	多文化社会ケベックの挑戦：ブシャール＝テイラー報告

回	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまでの授業内容の整理〔2 時間〕 まとめ 収集した資料の整理、今後の論文執筆計画の作成〔2 時間〕

【成績評価の方法】
授業への貢献度 20%　学期内のレポート 30 パーセント　学期末のレポート 50 パーセント

【フィードバック】
学期内のレポートは提出後、授業中にその内容を検討する。その検討を踏まえて書き直したものを学期末レポートとして提出する。

【テキスト】
C.テイラー『〈ほんもの〉という倫理－近代とその不安』産業図書、2001.
(Charles Taylor, *The Ethics of Authenticity*, Harvard University Press, 1992)

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【履修上の注意等】
授業の進度や内容は学生の興味や状況に応じて変更する場合がある。

授業科目名： 教育史特論	専攻･領域：教育学
担当教員名：矢田 訓子	534103／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
戦後教育史における論点と議論の変遷を把握できるようになる。
歴史的・理論的に今日の学校教育の課題を検討し論じられるようになる。

【授業の概要(目的)】
戦後教育史に関する諸論文を精読し、戦後教育史に通底する分析枠を明らかにする。今日の学校教育の諸課題の背景を歴史的・理論的に検討し、それを踏まえて新しい論点の提示を試みる。授業ではディスカッションによってこれらの作業を進めていく。

【ディプロマ・ポリシー番号】1・2

【授業計画】

第1回	事前学修	配布した資料を要約する。〔2 時間〕
	授業内容	オリエンテーション
	事後学修	戦後の学校教育改革の変遷を整理する。〔2 時間〕
第2回	事前学修	配布した論文を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	戦後教育言説の成立
	事後学修	追加資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第3回	事前学修	配布した論文を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	戦後教育学における国民の教育権論
	事後学修	追加資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第4回	事前学修	配布した論文を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	戦後教育における教師の権力性批判の系譜
	事後学修	追加資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第5回	事前学修	配布した論文を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	戦後保育・幼児政策の歩みの再検討
	事後学修	追加資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第6回	事前学修	配布した論文を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	楽しい授業・学校論の系譜
	事後学修	追加資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第7回	事前学修	配布した論文を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	戦後日本における少女という主体
	事後学修	追加資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第8回	事前学修	配布した論文を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	記憶空間の戦後と教育
	事後学修	追加資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第9回	事前学修	配布した論文を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	日本における脱学校論の受容
	事後学修	追加資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第10回	事前学修	配布した論文を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	基礎付主義的教育論の再検討
	事後学修	追加資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第11回	事前学修	配布した論文を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	教育目的論の再構築
	事後学修	追加資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第12回	事前学修	配布した論文を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	教育財の分配をめぐる議論
	事後学修	追加資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第13回	事前学修	配布した論文を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	教育における他者性の問題
	事後学修	追加資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第14	事前学修	配布した論文を精読し、論点を整理する。〔2 時間
	授業内容	教育における多元性の問題

回	事後学修	追加資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	配布した論文を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕 まとめ これまでの資料の整理し、論文作成の計画を立てる。〔2 時間〕

【成績評価の方法】
授業への貢献度 20%　学期内のレポート 40 パーセント　学期末のレポート 40 パーセント

【フィードバック】
学期内のレポートは提出後、授業中にその内容を検討する。その検討を踏まえて書き直したものを学期末レポートとして提出する。

【テキスト】
特に指定しない。授業中にプリントを配布する。

【参考書】
森田尚人・森田伸子・今井康雄編『教育と政治ー戦後教育史を読み直す』勁草書房、2003. 他
授業中に適宜紹介する。

【履修上の注意等】
授業の進度や内容は学生の興味や状況に応じて変更する場合がある。

授業科目名： 教育思想演習	専攻･領域：教育学
担当教員名：矢田 訓子	534102／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
教育学における他者論の受容の背景を踏まえて、大人―子ども関係を考察できるようになる。
多様な価値を尊重する社会的連帯の在り方を理論的に考察しその課題を論じられるようになる。

【授業の概要(目的)】
インクルーシブ教育に基づいて学級経営を行う教師にとって、近代社会における権力性と教師の位置づけを自覚し、子どもの主体的な学びをサポートしていくことは最も重要な課題の一つである。そこで本演習では、教員の権力性批判の論理として受容された他者論の展開を概観し、大人―子ども関係の再検討を行う。

【ディプロマ・ポリシー番号】1・2

【授業計画】

第1回	事前学修	事前に配布した資料を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	オリエンテーション
	事後学修	追加の資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第2回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。
	授業内容	規律と訓練①『監獄の誕生』
	事後学修	追加の資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第3回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。
	授業内容	規律と訓練②『監獄の誕生』
	事後学修	追加の資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第4回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。
	授業内容	しつけと文明化『もじゃぺーでしつけを学ぶ』
	事後学修	追加の資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第5回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	教育の危機①『過去と未来の間』
	事後学修	追加の資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第6回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	教育の危機②新教育批判『過去と未来の間』
	事後学修	追加の資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第7回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	リトルロックについて考える①『責任と判断』
	事後学修	追加の資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第8回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	リトルロックについて考える②家庭の権利『責任と判断』
	事後学修	追加の資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第9回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	公共圏について考える『ハーバーマスと教育』
	事後学修	追加の資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第10回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	社会的排除について考える①『社会的排除』
	事後学修	追加の資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第11回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	社会的排除について考える②社会的包摂の在り方『社会的排除』
	事後学修	追加の資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第12回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	他者の承認について考える①「承認をめぐる政治」
	事後学修	追加の資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第13回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	他者の承認について考える②承認とアイデンティティ形成「承認をめぐる政治」
	事後学修	追加の資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第14	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	他者の承認について考える③アイデンティティ・ポリティクス「承認をめぐる政治」

回	事後学修	追加の資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまでの内容を整理し、新しい課題を見つけ出す。〔2 時間〕 まとめ これまでの資料の整理し、論文作成の計画を立てる。〔2 時間〕

【成績評価の方法】
授業への貢献度 20%　学期内のレポート 30 パーセント　学期末のレポート 50 パーセント

【フィードバック】
学期内のレポートは提出後、授業中にその内容を検討する。その検討を踏まえて書き直したものを学期末レポートとして提出する。

【テキスト】
指定しない。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【履修上の注意等】
授業の進度や内容は学生の興味や状況に応じて変更する場合がある。

授業科目名： 教育思想特論	専攻･領域：教育学
担当教員名：矢田 訓子	534101／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
近代公教育の理念を踏まえて、現在の教育制度の組織や運営の在り方を説明することができる。
シティズンシップ教育の内容を検討しその課題を分析することができる。
シティズンシップ教育における学習と教授の関係を整理し、その具体的な在り方を提案できるようになる。

【授業の概要(目的)】
小学校教員としての資質を真に高めるためには、近代公教育制度の理念や思想について学ぶことが不可欠である。そこで本講義では、インクルーシブ教育を支えるシティズンシップやシティズンシップ教育の理念に注目し、教育理念の理解を深めていく。

【ディプロマ・ポリシー番号】1・2

【授業計画】

第1回	事前学修	著者について調べる。〔2 時間〕
	授業内容	オリエンテーション
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第2回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	学校と社会の中で学習する民主主義
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第3回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	シティズンシップの教授から民主主義の学習へ
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第4回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	カリキュラム・シティズンシップ・民主主義
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第5回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	ヨーロッパのシティズンシップと高等教育
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第6回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	知識・民主主義・高等教育
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第7回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	知識経済における生涯学習
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第8回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	学習する民主主義に向けて
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第9回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	市民としての学習を理論化する
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第10回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	民主主義・シティズンシップ・公共圏
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第11回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	測定の時代におけるよい教育とは何か
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第12回	事前学修	指定された論文を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	学校の役割：資格化、社会化、主体化
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第13回	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕
	授業内容	教師の判断、教育的専門性について①
	事後学修	関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第	事前学修	指定された範囲を精読し、論点を整理する。〔2 時間〕

14 回	授業内容 事後学修	教師の判断、教育的専門性について② 関係する資料の収集・整理・分析〔2 時間〕
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまでの授業のまとめと問題の整理〔2 時間〕 まとめ 収集した資料の整理、今後の論文執筆計画の作成〔2 時間〕

【成績評価の方法】
授業に取り組む姿勢・態度…20%、学期内のレポート…30%　学期末のレポート…50%

【フィードバック】
学期内のレポートは提出後、授業中にその内容を検討する。その検討を踏まえて書き直したものを学期末レポートとして提出する。

【テキスト】
G.ビースタ『民主主義を学習する：教育・生涯学習・シティズンシップ』勁草書房、2014.

【参考書】
J.デューイ『民主主義と教育』(上)(下)、岩波文庫、1975 ほか、授業内で適宜紹介する。

【履修上の注意等】
授業の進度・内容は学生の興味や状況に応じて変更する場合がある。

３．比　較　文　化　専　攻
（博士前期課程）

比較文化専攻（博士前期課程）の概要

比較文化専攻（博士前期課程）の教育目的

現代は、国家・民族・宗教間の対立が激化している一方、国際化・グローバリゼーションによって異文化交流が身近なものになっています。このような時代においては、これまでのような分断された専門分野での研究を超えた枠組みが必要になっています。

このため、比較文化専攻では、人文学系の大学院として、諸地域の文化、社会、宗教、教育、言語、ジェンダーに関する高度な知識を身につけ、現代社会の諸問題を解決できる人材を育成します。

【地域文化研究分野】

文化は、地域・環境・気候風土によって大いに異なります。また、背景が異なるにもかかわらず、共通点も見出せます。そこで、日本文化、アジア・オセアニアの文化、ヨーロッパ・アメリカの文化を学際的な視野から研究します。それまでに学んだ文学・歴史・地理・芸術・民俗などの領域を基軸に、新しい視点を開拓し、発展させます。

【社会・文化コミュニケーション分野】

世界の各地域をグローバルな視点から横断的・学際的にとらえ、宗教、言語、教育、情報、表象文化、地域活動など現代社会の課題にせまるグローバル・スタディーズをめざします。

【女性学分野】

本分野は、21世紀の大きな学問領域であり、男女共同参画社会の実現という社会的責務を負っています。ジェンダーの視点から人文社会諸科学を統合する新しい超領域的な研究を行います。

比較文化専攻（博士前期課程）修了後の進路等について

本専攻では、3つの分野のいずれを選択しても、他の2分野への知的目配りをするように、履修指導を行っています。これによって、自己の専門分野を探求すると同時に、幅広い知識の獲得へ向き合う姿勢を身に着けることができます。

修了後は、博士後期課程への進学の他、高度な知識と教養を有して地方自治体や企業への就職、あるいはNPO/NGOでの活動、学芸員の資格を生かし美術館・博物館への就職、また、専修免許(中学英語、高校英語、中学社会、高校地理・歴史)を取得し教育機関で次世代育成への貢献、さらに研究機関での研究等の進路があります。

比較文化専攻（博士前期課程） 開講科目

分野	授業科目名	学習方法	単位	期間	年次	必選	備考
地域文化研究	比較日本文化研究Ⅰ(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	比較日本文化研究Ⅰ(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	比較日本文化研究Ⅱ(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	比較日本文化研究Ⅱ(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	比較日本文化研究Ⅲ(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	比較日本文化研究Ⅲ(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	比較日本文化研究演習Ⅰ(1)	演習	2	半期	1・2	選必	
	比較日本文化研究演習Ⅰ(2)	演習	2	半期	1・2	選必	
	比較日本文化研究演習Ⅱ(1)	演習	2	半期	1・2	選必	
	比較日本文化研究演習Ⅱ(2)	演習	2	半期	1・2	選必	
	比較日本文化研究演習Ⅲ(1)	演習	2	半期	1・2	選必	
	比較日本文化研究演習Ⅲ(2)	演習	2	半期	1・2	選必	
	ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究Ⅰ(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究Ⅰ(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究Ⅱ(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究Ⅱ(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究演習Ⅰ(1)	演習	2	半期	1・2	選必	
	ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究演習Ⅰ(2)	演習	2	半期	1・2	選必	
	ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究演習Ⅱ(1)	演習	2	半期	1・2	選必	
	ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究演習Ⅱ(2)	演習	2	半期	1・2	選必	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化研究Ⅰ(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化研究Ⅰ(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化研究Ⅱ(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化研究Ⅱ(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化研究演習(1)	演習	2	半期	1・2	選必	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化研究演習(2)	演習	2	半期	1・2	選必	
	ｲｷﾞﾘｽ･ｱﾒﾘｶ文化研究Ⅰ(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ｲｷﾞﾘｽ･ｱﾒﾘｶ文化研究Ⅰ(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ｲｷﾞﾘｽ･ｱﾒﾘｶ文化研究Ⅱ(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ｲｷﾞﾘｽ･ｱﾒﾘｶ文化研究Ⅱ(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ｲｷﾞﾘｽ･ｱﾒﾘｶ文化研究Ⅲ(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ｲｷﾞﾘｽ･ｱﾒﾘｶ文化研究Ⅲ(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ｲｷﾞﾘｽ･ｱﾒﾘｶ文化研究演習(1)	演習	2	半期	1・2	選必	
	ｲｷﾞﾘｽ･ｱﾒﾘｶ文化研究演習(2)	演習	2	半期	1・2	選必	
	地理学特論Ⅰ(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	地理学特論Ⅰ(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	地理学特論Ⅱ(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	地理学特論Ⅱ(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	地理学演習(1)	演習	2	半期	1・2	選必	
	地理学演習(2)	演習	2	半期	1・2	選必	

社会・文化コミュニケーション	比較文化論基礎論(1)	講義	2	半期	1・2	選必
	比較文化論基礎論(2)	講義	2	半期	1・2	選必
	比較文化論特論(1)	講義	2	半期	1・2	選必
	比較文化論特論(2)	講義	2	半期	1・2	選必
	比較文学演習(1)	演習	2	半期	1・2	選必
	比較文学演習(2)	演習	2	半期	1・2	選必
	表象文化論基礎論(1)	講義	2	半期	1・2	選必
	表象文化論基礎論(2)	講義	2	半期	1・2	選必
	比較宗教学(1)	講義	2	半期	1・2	選必
	比較宗教学(2)	講義	2	半期	1・2	選必
	比較教育学(1)	講義	2	半期	1・2	選必
	比較教育学(2)	講義	2	半期	1・2	選必
	比較教育学演習(1)	演習	2	半期	1・2	選必
	比較教育学演習(2)	演習	2	半期	1・2	選必
	ﾒﾃﾞｨｱ研究Ⅰ(1)	講義	2	半期	1・2	選必
	ﾒﾃﾞｨｱ研究Ⅰ(2)	講義	2	半期	1・2	選必
	ﾒﾃﾞｨｱ研究Ⅱ(1)	講義	2	半期	1・2	選必
	ﾒﾃﾞｨｱ研究Ⅱ(2)	講義	2	半期	1・2	選必
	ﾒﾃﾞｨｱ研究Ⅲ(1)	講義	2	半期	1・2	選必
	ﾒﾃﾞｨｱ研究Ⅲ(2)	講義	2	半期	1・2	選必
	情報ﾋﾞｼﾞﾈｽ論(1)	講義	2	半期	1・2	選必
	情報ﾋﾞｼﾞﾈｽ論(2)	講義	2	半期	1・2	選必
	情報ﾋﾞｼﾞﾈｽ演習(1)	演習	2	半期	1・2	選必
	情報ﾋﾞｼﾞﾈｽ演習(2)	演習	2	半期	1・2	選必
	比較言語研究Ⅰ(1)	講義	2	半期	1・2	選必
	比較言語研究Ⅰ(2)	講義	2	半期	1・2	選必
	比較言語研究Ⅱ(1)	講義	2	半期	1・2	選必
	比較言語研究Ⅱ(2)	講義	2	半期	1・2	選必
	比較言語研究Ⅲ(1)	講義	2	半期	1・2	選必
	比較言語研究Ⅲ(2)	講義	2	半期	1・2	選必
	比較言語研究Ⅳ(1)	講義	2	半期	1・2	選必
	比較言語研究Ⅳ(2)	講義	2	半期	1・2	選必
	文化人類学特論Ⅰ(1)	講義	2	半期	1・2	選必
	文化人類学特論Ⅰ(2)	講義	2	半期	1・2	選必
	文化人類学特論Ⅱ(1)	講義	2	半期	1・2	選必
	文化人類学特論Ⅱ(2)	講義	2	半期	1・2	選必
	地域活動研究	講義	2	半期	1・2	選必
女性学	女性学基礎論(1)	講義	2	半期	1・2	選必
	女性学基礎論(2)	講義	2	半期	1・2	選必
	ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ文化論演習(1)	演習	2	半期	1・2	選必
	ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ文化論演習(2)	演習	2	半期	1・2	選必
	ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ社会論基礎論(1)	講義	2	半期	1・2	選必
	ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ社会論基礎論(2)	講義	2	半期	1・2	選必
	ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ社会論特論(1)	講義	2	半期	1・2	選必
	ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ社会論特論(2)	講義	2	半期	1・2	選必
	ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ社会論演習(1)	演習	2	半期	1・2	選必

	ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ社会論演習(2)	演習	2	半期	1・2	選必	
	ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ教育学(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ教育学(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	女性史(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	女性史(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ﾌｪﾐﾆｽﾞﾑ批評Ⅰ(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ﾌｪﾐﾆｽﾞﾑ批評Ⅰ(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ﾌｪﾐﾆｽﾞﾑ批評Ⅱ(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ﾌｪﾐﾆｽﾞﾑ批評Ⅱ(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	女性衛生学基礎論(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	女性衛生学基礎論(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	女性衛生学特論(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	女性衛生学特論(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	女性衛生学演習(1)	演習	2	半期	1・2	選必	
	女性衛生学演習(2)	演習	2	半期	1・2	選必	
基礎科目	資料講読演習Ⅰ(1)	演習	2	半期	1・2	選必	
	資料講読演習Ⅰ(2)	演習	2	半期	1・2	選必	
	資料講読演習Ⅱ(1)	演習	2	半期	1・2	選必	
	資料講読演習Ⅱ(2)	演習	2	半期	1・2	選必	
	資料講読演習Ⅲ(1)	演習	2	半期	1・2	選必	
	資料講読演習Ⅲ(2)	演習	2	半期	1・2	選必	
	資料講読演習Ⅳ(1)	演習	2	半期	1・2	選必	
	資料講読演習Ⅳ(2)	演習	2	半期	1・2	選必	
	資料講読演習Ⅴ(1)	演習	2	半期	1・2	選必	
	資料講読演習Ⅴ(2)	演習	2	半期	1・2	選必	
	資料講読演習Ⅵ(1)	演習	2	半期	1・2	選必	
	資料講読演習Ⅵ(2)	演習	2	半期	1・2	選必	
	資料講読演習Ⅶ(1)	演習	2	半期	1・2	選必	
	資料講読演習Ⅶ(2)	演習	2	半期	1・2	選必	
	Academic Writing(1)	演習	2	半期	1・2	選必	
	Academic Writing(2)	演習	2	半期	1・2	選必	
	人文地理学調査法(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	人文地理学調査法(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ﾕｰﾗｼｱ文化論(1)	講義	2	半期	1・2	選必	
	ﾕｰﾗｼｱ文化論(2)	講義	2	半期	1・2	選必	
修士論文指導		演習	6	通年	1～2	必修	

＜履修上の注意＞

・専攻する分野から４科目８単位以上修得すること。
　基礎科目の中から２単位以上を修得すること。
　上記の単位と修士論文指導を含め、３０単位以上を修得すること。
・年次「1・2」は、１年次または２年次に履修することができる科目。
　年次「1～2」は、１年次及び２年次ともに履修しなければならない科目。

比較文化専攻 専修免許科目対応表

免許状の種類	免許法施行規則に定める科目区分	必要単位数	左記に対応する開設授業科目		備　考
			授業科目名	単位	
中専免 (英語) 高専免 (英語)	大学が独自に設定する科目	２４	ｲｷﾞﾘｽ･ｱﾒﾘｶ文化研究Ⅰ(1)	2	２４単位以上修得すること
			ｲｷﾞﾘｽ･ｱﾒﾘｶ文化研究Ⅰ(2)	2	
			ｲｷﾞﾘｽ･ｱﾒﾘｶ文化研究Ⅱ(1)	2	
			ｲｷﾞﾘｽ･ｱﾒﾘｶ文化研究Ⅱ(2)	2	
			ｲｷﾞﾘｽ･ｱﾒﾘｶ文化研究Ⅲ(1)	2	
			ｲｷﾞﾘｽ･ｱﾒﾘｶ文化研究Ⅲ(2)	2	
			比較文化論特論(1)	2	
			比較文化論特論(2)	2	
			比較言語研究Ⅱ(1)	2	
			比較言語研究Ⅱ(2)	2	
			比較言語研究Ⅲ(1)	2	
			比較言語研究Ⅲ(2)	2	
			比較言語研究Ⅳ(1)	2	
			比較言語研究Ⅳ(2)	2	
			Academic　Writing(1)	2	
			Academic　Writing(2)	2	
			計	３２	

免許状の種類	免許法施行規則に定める科目区分	必　要単位数	左記に対応する開設授業科目		備　考
			授業科目名	単位	
中専免（社会）	大学が独自に設定する科目	２４	比較日本文化研究Ⅰ(1)	2	２４単位以上修得すること
			比較日本文化研究Ⅰ(2)	2	
			比較日本文化研究演習Ⅱ(1)	2	
			比較日本文化研究演習Ⅱ(2)	2	
			ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究Ⅰ(1)	2	
			ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究Ⅰ(2)	2	
			ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究演習Ⅰ(1)	2	
			ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究演習Ⅰ(2)	2	
			ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究演習Ⅱ(1)	2	
			ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究演習Ⅱ(2)	2	
			ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化研究Ⅰ(1)	2	
			ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化研究Ⅰ(2)	2	
			ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化研究Ⅱ(1)	2	
			ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化研究Ⅱ(2)	2	
			文化人類学特論Ⅰ(1)	2	
			文化人類学特論Ⅰ(2)	2	
			文化人類学特論Ⅱ(1)	2	
			文化人類学特論Ⅱ(2)	2	
			ﾕｰﾗｼｱ文化論(1)	2	
			ﾕｰﾗｼｱ文化論(2)	2	
			比較教育学(1)	2	
			比較教育学(2)	2	
			ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ教育学(1)	2	
			ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ教育学(2)	2	
			計	４８	

免許状の種類	免許法施行規則に定める科目区分	必　要単位数	左記に対応する開設授業科目		備　考
			授業科目名	単位	
高専免（地理歴史）	大学が独自に設定する科目	２４	比較日本文化研究Ⅰ(1)	2	２４単位以上修得すること
			比較日本文化研究Ⅰ(2)	2	
			比較日本文化研究演習Ⅱ(1)	2	
			比較日本文化研究演習Ⅱ(2)	2	
			ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究Ⅰ(1)	2	
			ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究Ⅰ(2)	2	
			ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究演習Ⅰ(1)	2	
			ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究演習Ⅰ(2)	2	
			ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究演習Ⅱ(1)	2	
			ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究演習Ⅱ(2)	2	
			ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化研究Ⅰ(1)	2	
			ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化研究Ⅰ(2)	2	
			ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化研究Ⅱ(1)	2	
			ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化研究Ⅱ(2)	2	
			文化人類学特論Ⅰ(1)	2	
			文化人類学特論Ⅰ(2)	2	
			ﾕｰﾗｼｱ文化論(1)	2	
			ﾕｰﾗｼｱ文化論(2)	2	
			比較教育学(1)	2	
			比較教育学(2)	2	
			ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ教育学(1)	2	
			ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ教育学(2)	2	
			計	４４	

授業科目名： 文化人類学特論Ⅰ（1）	専攻･領域：比較文化
担当教員名：伊藤　純	521260／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
文化人類学とくに「もの研究」の理論と方法を説明できる。

【授業の概要(目的)】
『ものの人類学』をテキストとし、脱人間中心主義をめざす近年の文化人類学の考え方について解説する。

【ディプロマ・ポリシー番号】　2

【授業計画】

第1回	事前学修	民族誌としてどのようなものがあるか。【2 時間】
	授業内容	イントロダクション：本講義の進め方・内容についての説明
	事後学修	授業で提示された文献を収集する。【2 時間】
第2回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『ものの人類学』(序章　なぜ「もの」の人類学なのか？)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第3回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『ものの人類学』(１章　かたち・言葉・物質性の間)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第4回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『ものの人類学』(２章　潜むもの，退くもの，表立つもの)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第5回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『ものの人類学』(３章　「もの」の御し難さ)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第6回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『ものの人類学』(４章　土器文化の「生態」分析)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第7回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『ものの人類学』(５章　土器つくりを知っている)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第8回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『ものの人類学』(６章　男性身体と野生の技法)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第9回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『ものの人類学』(７章　仮面が芸能を育む)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第10回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『ものの人類学』(８章　「生きる」楽器)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第11回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『ものの人類学』(９章　ものが見せる・ものに魅せられる)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第12回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『ものの人類学』(10 章　道具使用行動の起源と人類進化)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第13回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『ものの人類学』(11 章　霊長類世界における「モノ」とその社会性の誕生)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第14回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『ものの人類学』(エピローグ：意志なき石のエージェント性)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまでの内容を振り返り、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】 総括 関連する文献を収集する。【2 時間】

【成績評価の方法】
授業態度、予習、発表を含む平常点 50%　レポート 50%

【フィードバック】
レポートはコメントを付けて返却する。

【テキスト】
床呂郁哉・河合香吏 編『ものの人類学』京都大学学術出版会、2011 年

【参考書】
講義中に指示する。

【履修上の注意等】
テキストは必ず入手し、授業前に読み進めること。学生との対話を重視するため、テキストに対する発言を求めます。

授業科目名： 文化人類学特論Ⅰ（2）	専攻･領域：比較文化
担当教員名：伊藤　純	521261／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
文化人類学、とくに歴史人類学の視座と方法について説明できる。

【授業の概要(目的)】
『水俣の記憶を紡ぐ―響き合うモノと語りの歴史人類学』をテキストとし、歴史人類学的方法について解説する。

【ディプロマ・ポリシー番号】　3

【授業計画】

第1回	事前学修	文化人類学に関する自分の知識を整理する。【2 時間】
	授業内容	イントロダクション：本講義の進め方・内容についての説明
	事後学修	授業で提示された文献を収集する。【2 時間】
第2回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『水俣の記憶を紡ぐ』(序章　第１節～第２節)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第3回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『水俣の記憶を紡ぐ』(序章　第３節～第５節)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第4回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『水俣の記憶を紡ぐ』(１章　第１節～第２節)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第5回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『水俣の記憶を紡ぐ』(１章　第３節)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第6回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『水俣の記憶を紡ぐ』(２章　第１節～３節)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第7回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『水俣の記憶を紡ぐ』(２章　第４節～５節)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第8回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『水俣の記憶を紡ぐ』(３章　第１節～２節)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第9回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『水俣の記憶を紡ぐ』(４章　第１節～２節)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第10回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『水俣の記憶を紡ぐ』(４章　第３節～５節)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第11回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『水俣の記憶を紡ぐ』(５章　第１節～２節)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第12回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『水俣の記憶を紡ぐ』(５章　第３節～４節)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第13回	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『水俣の記憶を紡ぐ』(終章　第１節～２節)
	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第14	事前学修	該当するテキストを読み、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】
	授業内容	『水俣の記憶を紡ぐ』(終章　第３節～４節)

回	事後学修	関連する文献を収集する。【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまでの内容を振り返り、疑問点や問題点をまとめる。【2 時間】 総括 関連する文献を収集する。【2 時間】

【成績評価の方法】
授業態度、予習、発表を含む平常点 50%　レポート 50%

【フィードバック】
レポートはコメントを付けて返却する。

【テキスト】
下田健太郎『水俣の記憶を紡ぐ―響き合うモノと語りの歴史人類学』慶応義塾大学出版会、2017 年

【参考書】
講義中に指示する。

【履修上の注意等】
テキストは必ず入手し、授業前に読み進めること。学生との対話を重視するため、テキストに対する発言を求めます。

授業科目名： ジェンダー教育学(2)	専攻･領域：比較文化
担当教員名： 内海﨑 貴子	521342／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
教育学研究におけるジェンダー視点について説明できる。
学校教育史研究におけるジェンダー視点の導入について説明できる。

【授業の概要(目的)】
本講義では、日本の教育学研究におけるジェンダーについて考察する。特に、学校教育史研究において、ジェンダーの視点が看過されてきた要因を探りたい。

【ディプロマ・ポリシー番号】2

【授業計画】

第1回	事前学修	テキスト①序説を熟読しておく（2 時間）
	授業内容	「良妻賢母とは何か」
	事後学修	授業を振り返り、課題をまとめる（2 時間）
第2回	事前学修	テキスト①第 1 章を熟読しておく（2 時間）
	授業内容	「二つの女性像と二つの教育」
	事後学修	授業を振り返り、課題をまとめる（2 時間）
第3回	事前学修	テキスト①第 2 章を熟読しておく（2 時間）
	授業内容	「学制の発布と男女共通教育の実施」
	事後学修	授業を振り返り、課題をまとめる（2 時間）
第4回	事前学修	テキスト①第 3 章を熟読しておく（2 時間）
	授業内容	「西欧志向的女性像の隆盛と衰退」
	事後学修	授業を振り返り、課題をまとめる（2 時間）
第5回	事前学修	テキスト①第 4 章を熟読しておく（2 時間）
	授業内容	「良妻賢母教育思想の台頭と女子中等教育の構想」
	事後学修	授業を振り返り、課題をまとめる（2 時間）
第6回	事前学修	テキスト①第 5 章を熟読しておく（2 時間）
	授業内容	「良妻賢母教育の浸透と女子中等教育制度の確立」
	事後学修	授業を振り返り、課題をまとめる（2 時間）
第7回	事前学修	テキスト①第 6 章を熟読しておく（2 時間）
	授業内容	「良妻賢母教育体制の強化と細分化」
	事後学修	授業を振り返り、課題をまとめる（2 時間）
第8回	事前学修	テキスト①補章を熟読しておく（2 時間）
	授業内容	「良妻賢母主義と現代社会」
	事後学修	授業を振り返り、課題をまとめる（2 時間）
第9回	事前学修	テキスト②問題視角と第 1 章を熟読しておく（2 時間）
	授業内容	「良妻賢母思想の成立」
	事後学修	授業を振り返り、課題をまとめる（2 時間）
第10回	事前学修	テキスト②第 2 章を熟読しておく（2 時間）
	授業内容	「良妻賢母思想と公教育体制」
	事後学修	授業を振り返り、課題をまとめる（2 時間）
第11回	事前学修	テキスト②第 3 章を熟読しておく（2 時間）
	授業内容	「転換をもたらすもの」
	事後学修	授業を振り返り、課題をまとめる（2 時間）
第12回	事前学修	テキスト②第 4 章を熟読しておく（2 時間）
	授業内容	「良妻賢母思想の再編」
	事後学修	授業を振り返り、課題をまとめる（2 時間）
第13回	事前学修	テキスト②第 5 章を熟読しておく（2 時間）
	授業内容	「修身教科書にみる良妻賢母像の変遷」
	事後学修	授業を振り返り、課題をまとめる（2 時間）
第14回	事前学修	テキスト②終章を熟読しておく（2 時間）
	授業内容	「良妻賢母思想とは何だったのか」
	事後学修	授業を振り返り、課題をまとめる（2 時間）

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまでの授業内容を整理しておく（2 時間） 現代社会と良妻賢母教育 授業内容をまとめる（2 時間）

【成績評価の方法】
課題ショートレポート（30%）　学期末レポート（70%）

【フィードバック】
レポートはすべて、コメントを記述して返却する。

【テキスト】
① 深谷昌志『教育名著選集　良妻賢母主義の教育』黎明書房　1998 年
② 小山静子『良妻賢母という規範』勁草書房
③
【参考書】
橋本紀子･逸見勝亮編『ジェンダーと教育の歴史』川島書店　2003 年
木村涼子『「主婦」の誕生ー婦人雑誌と女性たちの近代ー』吉川弘文館　2010 年

【履修上の注意等】
各章ごとに課題が出るので、参考書を熟読すること。

授業科目名： ヨーロッパ文化研究 I(2)	専攻･領域：比較文化・地域
担当教員名：大西　克典	521142／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
・イタリア語で書かれた様々な類型の史料を読解することができる
・読解した史料をもとに先行研究を批判的に読むことができる

【授業の概要(目的)】
イタリア語で書かれた様々な類型の史料を講読することで、欧語で書かれた一次史料の扱い方を体得していきます。

【ディプロマ・ポリシー番号】2

【授業計画】

第1回	事前学修	概説書等を読み、イタリア史の大まかな流れを予習しておく(1 時間)
	授業内容	ガイダンスと史料 A. Genovesi, *Delle Lezioni di commercio* に関する説明
	事後学修	授業内容を復習するとともに、配布された史料を読む(3 時間)
第2回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Delle Lezioni di commercio* 講読(1)-国家の成立について
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第3回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Delle Lezioni di commercio* 講読(2)-身分について
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第4回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Delle Lezioni di commercio* 講読(3)-農業について
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第5回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Delle Lezioni di commercio* 講読(4)-工業について
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第6回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Delle Lezioni di commercio* 講読(5)-商業について
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第7回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Delle Lezioni di commercio* 講読(6)-救貧について
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第8回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Delle Lezioni di commercio* 講読(7)-商業の規制について
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第9回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Delle Lezioni di commercio* 講読(8)-絹と製糸業について
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第10回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Delle Lezioni di commercio* 講読(9)-穀物の供給体制について
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第11回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Delle Lezioni di commercio* 講読(10)-税制について
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第12回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Delle Lezioni di commercio* 講読(11)-財政について
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第13回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Delle Lezioni di commercio* 講読(12)-立法について
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第14	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Delle Lezioni di commercio* 講読(13)-ナポリ王国の経済に関する省察について

回	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間) まとめと展望 授業内容を復習するとともに、これまでの授業内容全体をもう一度復習する(2 時間)

【成績評価の方法】
・授業内での発表(50 %)
・平常点(50 %)

【フィードバック】
授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う

【テキスト】
テキストは授業内で配布する

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【履修上の注意等】
特になし

授業科目名： ヨーロッパ文化研究 II(2)	専攻･領域：比較文化・地域
担当教員名：大西　克典	521144／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
・イタリア語で書かれた様々な類型の史料を読解することができる
・読解した史料をもとに先行研究を批判的に読むことができる

【授業の概要(目的)】
イタリア語で書かれた様々な類型の史料を講読することで、欧語で書かれた一次史料の扱い方を体得していきます。

【ディプロマ・ポリシー番号】2

【授業計画】

第1回	事前学修	概説書等を読み、イタリア史の大まかな流れを予習しておく(1 時間)
	授業内容	ガイダンスと史料 *Relazioni sul governo della Toscana* に関する説明
	事後学修	授業内容を復習するとともに、配布された史料を読む(3 時間)
第2回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Relazioni sul governo della Toscana* 講読(1)-行政機構の概要
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第3回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Relazioni sul governo della Toscana* 講読(2)-国務委員会
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第4回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Relazioni sul governo della Toscana* 講読(3)-外交制度
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第5回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Relazioni sul governo della Toscana* 講読(4)-軍事制度
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第6回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Relazioni sul governo della Toscana* 講読(5)-財務委員会
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第7回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Relazioni sul governo della Toscana* 講読(6)-土地税制度
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第8回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Relazioni sul governo della Toscana* 講読(7)-シエナ周辺の土地税制度
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第9回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Relazioni sul governo della Toscana* 講読(8)-関税制度
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第10回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Relazioni sul governo della Toscana* 講読(9)-塩税
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第11回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Relazioni sul governo della Toscana* 講読(10)-製粉税とその他の消費税
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第12回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Relazioni sul governo della Toscana* 講読(11)-地方行政制度
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第13回	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Relazioni sul governo della Toscana* 講読(12)-書記の役割と市町村の運営
	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第14	事前学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間)
	授業内容	*Relazioni sul governo della Toscana* 講読(13)-司法制度

回	事後学修	授業内容を復習するとともに、史料を読み進めておく(2 時間)
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	配布された史料を読み、理解できないところがないか確認しておく(2 時間) まとめと展望 授業内容を復習するとともに、これまでの授業内容全体をもう一度復習する(2 時間)

【成績評価の方法】
・授業内での発表(50 %)
・平常点(50 %)

【フィードバック】
授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【テキスト】
テキストは授業内で配布する

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【履修上の注意等】
特になし

授業科目名：ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化研究演習(1)	専攻・領域：比較文化
担当教員名：金尾 健美	521145／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
中世後期の高位貴族の領邦運営の実態を、史料を引用しながら具体的に説明できる。

【授業の概要（目的）】
近代主権国家成立以前の貴族の領邦運営が抱える諸問題を分析する。特にフランス同輩貴族ヴァロワ家ブルゴーニュ公を対象とし、関連史料（未刊行史料を含む）の講読を行う。

【ディプロマ・ポリシー番号】DP2

【授業計画】

第1回	事前学修	概説書によって、中世後期の英仏政治史の概略を把握する。2 時間
	授業内容	序:フランス中世後期の史料の現況説明と事・辞典類、参考書の解説
	事後学修	授業の目的と進め方を理解したか確認する。2 時間
第2回	事前学修	西フランク王国の王家と有力貴族の家系を調べてみる。2 時間
	授業内容	フランス王家とブルゴーニュ公家（カロリング末期からカペー初期）
	事後学修	ブルゴーニュ公家と王家の関係を理解したか確認する。2 時間
第3回	事前学修	14 世紀のフランス王家とイングランド王家の対立について調べてみる。2 時間
	授業内容	カペー・ブルゴーニュ公家の断絶と接収（1361 年）
	事後学修	ブルゴーニュ公領がフランス王家に接収された経緯を理解したか確認する。2 時間
第4回	事前学修	1350~60 年代の英仏政治関係史を調べてみる。2 時間
	授業内容	ヴァロワ・ブルゴーニュ公家の成立（1363 年）
	事後学修	フランス王家が親王領を相次いで設置した理由と経緯を理解したか確認する。2 時間
第5回	事前学修	14 世紀に形成される王国統治機構について調べてみる。2 時間
	授業内容	フランス王家の統治機構
	事後学修	王国統治機関それぞれが分掌した権限を確認する。2 時間
第6回	事前学修	貴族の領国統治について調べてみる。2 時間
	授業内容	ブルゴーニュ公家の統治機構（1）家政団の経営
	事後学修	家政団の社会的性格と機能を理解したか確認する。2 時間
第7回	事前学修	ブルゴーニュ公家とフランス王家の血縁の深さ（第 2 回授業）を確認する。2 時間
	授業内容	ブルゴーニュ公家の統治機構（2）ディジョン諮問会と会計院
	事後学修	王家の統治機構に比べて、貴族の統治機構はどのような特徴を持つか確認する。2 時間
第8回	事前学修	貴族の領邦経営について調べてみる。2 時間
	授業内容	ブルゴーニュ公家の統治機構（3）収入役のネット・ワーク
	事後学修	領邦の具体的な収益とその入手方法を理解したか確認する。2 時間
第9回	事前学修	貴族が領邦内で行使した司法権について調べてみる。2 時間
	授業内容	ブルゴーニュ公家の統治機構（4）ボーヌ高等法院とバイイ
	事後学修	領邦内部の司法制度を理解したか確認する。2 時間
第10回	事前学修	フランスの地方三部会について調べてみる。2 時間
	授業内容	ブルゴーニュ公家の統治機構（5）身分制議会の構成と機能。その実際
	事後学修	ブルゴーニュ三部会の実態を理解したか確認する。2 時間
第11回	事前学修	ブルゴーニュ公がフランドルを獲得した経緯を調べておく。2 時間
	授業内容	ブルゴーニュ公家の統治機構（6）北方領域（フランドル）の統治システム
	事後学修	南方領域との相違を理解したか確認する。2 時間
第12回	事前学修	中世ヨーロッパの貨幣について調べてみる。2 時間
	授業内容	フランス中世後期の貨幣について（その概要）
	事後学修	貨幣の名称、品位、勘定、それらの歴史的変化について理解したか確認する。2 時間
第13回	事前学修	カペー・ブルゴーニュ公の王国内の立場を再度確認する。2 時間
	授業内容	ブルゴーニュ公の貨幣発行権獲得とディジョン造幣所の帰趨
	事後学修	ヴァロワ・ブルゴーニュ公の造幣権再取得交渉を理解したか確認する。2 時間
第14回	事前学修	貨幣政策（ないし通貨政策）とは、何のために、何をすることか調べてみる。2 時間
	授業内容	貨幣発行令と両替規制令に見る通貨管理の実情

回	事後学修	貴族の貨幣政策と、その政策への両替の関与を理解したか確認する。2 時間
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまでの授業内容を確認する。3 時間 まとめ 到達目標を見て、自分の理解度を確認する。1 時間

【成績評価の方法】
平常点 70%（毎回のコメント・ペーパー）とレポート 1 回 30%

【フィードバック】
毎回のコメントペーパーについては次回にアドヴァイスをし、レポートについては評価を終え次第コメントをつけて受講者に返却する。

【ﾃｷｽﾄ】
コピーを配布。

【参考書】
随時紹介するが、邦語文献はほとんどない。

【履修上の注意等】
ヨーロッパ中世後期の政治史､国制史及び社会･経済史に関しては一通り理解していることを前提とする。

授業科目名：資料講読演習Ⅴ(1)	専攻・領域：比較文化
担当教員名：金尾 健美	521433／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
中世ヨーロッパの多様な史料を適切に分類し、それぞれを自分なりに説明できる。

【授業の概要（目的）】
ヨーロッパ中世社会の現実を知るために、様々なタイプの史料、特に司法と行政に関わる公文書、を講読する。現代フランス語に翻訳された下記の史料集から抜粋し、必要に応じて参考文献を併読する予定である。

【ディプロマ・ポリシー番号】DP2

【授業計画】

第1回	事前学修	中世ヨーロッパの史料をどのように分類するか調べてみる。3 時間。
	授業内容	（序論）史料の類型と形式について
	事後学修	一般的な史料類型を理解したか確認する。1 時間
第2回	事前学修	事前に配布するコピーを熟読し、読解する。3 時間
	授業内容	カロリング期の史料（その 1）カピトゥラリアから 808 年の軍事召集令
	事後学修	テキストの理解が正確であったか、史料成立の背景を理解したか確認する。1 時間
第3回	事前学修	事前に配布するコピーを熟読し、読解する。3 時間
	授業内容	カロリング期の史料（その 2）カピトゥラリアから 823 年の説諭
	事後学修	テキストの理解が正確であったか、史料成立の背景を理解したか確認する。1 時間
第4回	事前学修	事前に配布するコピーを熟読し、読解する。3 時間
	授業内容	カロリング期の史料（その 3）サン・ジェルマン・デ・プレ修道院の所領明細帳 820 年代
	事後学修	テキストの理解が正確であったか、史料成立の背景を理解したか確認する。1 時間
第5回	事前学修	事前に配布するコピーを熟読し、読解する。3 時間
	授業内容	教会史料（その 1）1095 年クレルモン公会議決議文
	事後学修	テキストの理解が正確であったか、史料成立の背景を理解したか確認する。1 時間
第6回	事前学修	事前に配布するコピーを熟読し、読解する。3 時間
	授業内容	教会史料（その 2）1098 年ウルバヌス 2 世のクリュニー特権の確認状
	事後学修	テキストの理解が正確であったか、史料成立の背景を理解したか確認する。1 時間
第7回	事前学修	事前に配布するコピーを熟読し、読解する。3 時間
	授業内容	教会史料（その 3）1160 年パリ司教選挙
	事後学修	テキストの理解が正確であったか、史料成立の背景を理解したか確認する。1 時間
第8回	事前学修	事前に配布するコピーを熟読し、読解する。3 時間
	授業内容	教会史料（その 4）ラウール・グラベル「神の平和運動について」1040 年代
	事後学修	テキストの理解が正確であったか、史料成立の背景を理解したか確認する。1 時間
第9回	事前学修	事前に配布するコピーを熟読し、読解する。3 時間
	授業内容	王令（その 1）1190 年フィリップ・オーギュストのバイイ規制
	事後学修	テキストの理解が正確であったか、史料成立の背景を理解したか確認する。1 時間
第10回	事前学修	事前に配布するコピーを熟読し、読解する。3 時間
	授業内容	王令（その 2）1210 年フィリップ・オーギュストのパリ市壁建設
	事後学修	テキストの理解が正確であったか、史料成立の背景を理解したか確認する。1 時間
第11回	事前学修	事前に配布するコピーを熟読し、読解する。3 時間
	授業内容	王令（その 3）1254 年聖ルイの行政改革令
	事後学修	テキストの理解が正確であったか、史料成立の背景を理解したか確認する。1 時間
第12回	事前学修	事前に配布するコピーを熟読し、読解する。3 時間
	授業内容	裁判記録（その 1）1100 年ころの神明裁判
	事後学修	テキストの理解が正確であったか、史料成立の背景を理解したか確認する。1 時間
第13回	事前学修	事前に配布するコピーを熟読し、読解する。3 時間
	授業内容	裁判記録（その 2）1319 年窃盗犯の自白
	事後学修	テキストの理解が正確であったか、史料成立の背景を理解したか確認する。1 時間
第14	事前学修	事前に配布するコピーを熟読し、読解する。3 時間
	授業内容	裁判記録（その 3）1331 年国王役人の訴追

回	事後学修	テキストの理解が正確であったか、史料成立の背景を理解したか確認する。1 時間
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまでの授業を振り返って、十分に理解したか確認する。3 時間 まとめ これまでの学修を通じて到達目標に達したか確認する。1 時間

【成績評価の方法】
平常点 70%（毎回のコメント・ペーパー）とレポート 1 回 30%

【フィードバック】
毎回のコメントペーパーについては次回にアドヴァイスをし、レポートについては評価を終え次第コメントをつけて受講者に返却する。

【ﾃｷｽﾄ】
BRUNEL, G & LALOU, E. éds：*Sources d'Histoire médiévale, IX°-Milieu du XIV° siècle,* Paris, 1992.
部分コピーを配布する。

【参考書】
GUYOTJEANNIN, Olivier et alt.；*Diplomatique médiévale. coll. L'Atelier du Médiéviste 2,* Turnhout, 1993.

【履修上の注意等】
特になし。

授業科目名： イギリス・アメリカ文化研究Ⅱ(1)	専攻･領域：比較文化・地域
担当教員名：倉林　直子	521149／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
アメリカの政治文化と映画の関係を理解できる。

【授業の概要(目的)】
本授業では、ハリウッド映画におけるアメリカ大統領の表象を扱った英語文献を読み、政治と文化の関係を考えていきます。

【ディプロマ・ポリシー番号】DP 1

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	テキスト p.1-11 を読む【1 時間 30 分】 Introduction･アメリカ大統領について 授業内容の復習【1 時間】
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	テキスト p.12-35 を読む【3 時間 30 分】 Chapter 1 “The Torments of Desire”(前半) 授業内容の復習【1 時間】
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	テキスト p.35-49 を読む【3 時間】 Chapter 1 “The Torments of Desire”(後半) 授業内容の復習【1 時間】
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	テキスト p.50-67 を読む【3 時間】 Chapter 2 The Studios’ Golden Age and the White House, 1929-1945(前半) 授業内容の復習【1 時間】
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	テキスト p.67-87 を読む【3 時間】 Chapter 2 The Studios’ Golden Age and the White House, 1929-1945(後半) 授業内容の復習【1 時間】
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	テキスト p.88-106 を読む【3 時間】 Chapter 3 The Old Man and TV, 1945-1960 (前半) 授業内容の復習【1 時間】
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	テキスト p.106-122 を読む【3 時間】 Chapter 3 The Old Man and TV, 1945-1960 (後半) 授業内容の復習【1 時間】
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	テキスト p.123-142 を読む【3 時間】 Chapter 4 Charisma’s Hour, 1960-1969 (前半) 授業内容の復習【1 時間】
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	テキスト p.142-161 を読む【3 時間】 Chapter 4 Charisma’s Hour, 1960-1969 (後半) 授業内容の復習【1 時間】
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	テキスト p.162-184 を読む【4 時間】 Chapter 5 Enter Stage Right, 1969-1989(前半) 授業内容の復習【1 時間】
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	テキスト p. 184-202 を読む【3 時間 30 分】 Chapter 5 Enter Stage Right, 1969-1989(後半) 授業内容の復習【1 時間】
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	テキスト p.203-224 を読む【4 時間】 Chapter 6 Hollywood Wags the Dog (前半) 授業内容の復習【1 時間】
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	テキスト p.224-242 を読む【3 時間 30 分】 Chapter 6 Hollywood Wags the Dog (後半) 授業内容の復習【1 時間】
第 14	事前学修 授業内容	テキスト p.243-269 を読む【4 時間 30 分】 Chapter 7 The Twin Towers, 2001-2009 (前半)

回	事後学修	授業内容の復習【1 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾃｷｽﾄ p.269-294 を読む【4 時間 30 分】 Chapter 7 The Twin Towers, 2001-2009 (後半)・Conclusion ﾚﾎﾟｰﾄ作成【10 時間】

【成績評価の方法】
授業態度、予習、発表を含む平常点 50%
ﾚﾎﾟｰﾄ 50%

【フィードバック】
レポートは返却の上、個々にコメントします。

【テキスト】
Burton W. Peretti, *The Leading Man: Hollywood and the Presidential Image* (Rutgers University Press, 2012)

【参考書】
授業内で指示します。

【履修上の注意等】
半期で 1 冊の原書を読みます。必ず予習をして授業に臨んでください。ｱﾒﾘｶ史、ｱﾒﾘｶ政治の知識が必要です。

授業科目名： イギリス・アメリカ文化研究演習(1)	専攻･領域：比較文化・地域
担当教員名： 倉林　直子	521153／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
ｱﾒﾘｶの政治､社会と文化の関係を理解できる。

【授業の概要(目的)】
第 37 代ｱﾒﾘｶ大統領 Richard Nixon がｱﾒﾘｶ文化でどのように表象されてきたかについての英語文献を読み､政治や社会と文化の関係性を考察する。

【ディプロマ・ポリシー番号】DP 1

【授業計画】

第1回	事前学修	ﾃｷｽﾄ p. 1-17 を読む。【2 時間 30 分】
	授業内容	Introduction
	事後学修	授業内容の復習【1 時間 30 分】
第2回	事前学修	ﾃｷｽﾄ p.18-32 を読む。【2 時間 30 分】
	授業内容	Chapter 1 “Ragged Dick” Nixon, American Missionary
	事後学修	授業内容の復習【1 時間 30 分】
第3回	事前学修	ﾃｷｽﾄ p.32-45 を読む。【2 時間 30 分】
	授業内容	Chapter 1 “Ragged Dick” Nixon, American Missionary
	事後学修	授業内容の復習【1 時間 30 分】
第4回	事前学修	ﾃｷｽﾄ p.46-63 を読む。【2 時間 30 分】
	授業内容	Chapter 2 Nixon and the Decline of the American Republic
	事後学修	授業内容の復習【1 時間 30 分】
第5回	事前学修	ﾃｷｽﾄ p.63-76 を読む。【2 時間 30 分】
	授業内容	Chapter 2 Nixon and the Decline of the American Republic
	事後学修	授業内容の復習【1 時間 30 分】
第6回	事前学修	ﾃｷｽﾄ p.77-92 を読む。【2 時間 30 分】
	授業内容	Chapter 3 Behind the Mask of Success
	事後学修	授業内容の復習【1 時間 30 分】
第7回	事前学修	ﾃｷｽﾄ p.92-105 を読む。【2 時間 30 分】
	授業内容	Chapter 3 Behind the Mask of Success
	事後学修	授業内容の復習【1 時間 30 分】
第8回	事前学修	ﾃｷｽﾄ p.106-118 を読む。【2 時間 30 分】
	授業内容	Chapter 4 America and the Myth of National Mission
	事後学修	授業内容の復習【1 時間 30 分】
第9回	事前学修	ﾃｷｽﾄ p.118-132 を読む。【2 時間 30 分】
	授業内容	Chapter 4 America and the Myth of National Mission
	事後学修	授業内容の復習【1 時間 30 分】
第10回	事前学修	ﾃｷｽﾄ p.133-151 を読む。【2 時間 30 分】
	授業内容	Chapter 5 Further Adventures in American Political Demonology
	事後学修	授業内容の復習【1 時間 30 分】
第11回	事前学修	ﾃｷｽﾄ p.151-170 を読む。【2 時間 30 分】
	授業内容	Chapter 5 Further Adventures in American Political Demonology
	事後学修	授業内容の復習【1 時間 30 分】
第12回	事前学修	ﾃｷｽﾄ p.171-187 を読む。【2 時間 30 分】
	授業内容	Chapter 6 American Orthodoxy, Revised Standard Version
	事後学修	授業内容の復習【1 時間 30 分】
第13回	事前学修	ﾃｷｽﾄ p.187-202 を読む。【2 時間 30 分】
	授業内容	Chapter 6 American Orthodoxy, Revised Standard Version
	事後学修	授業内容の復習【1 時間 30 分】
第14	事前学修	ﾃｷｽﾄ p.203-223 を読む。【2 時間 30 分】
	授業内容	Chapter 7 Nixon, Now More Than Ever

回	事後学修	授業内容の復習【1時間30分】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾃｷｽﾄp.223-238を読む。【2時間30分】 Chapter 7 Nixon, Now More Than Ever 授業内容の復習【1時間30分】

【成績評価の方法】
授業態度、予習、発表を含む平常点50%
ﾚﾎﾟｰﾄ50%

【フィードバック】
レポートは返却の上、個々にコメントします。

【テキスト】
Daniel Frick, *Reinventing Richard Nixon: A Cultural History of an American Obsession* (University Press of Kansas, 2008)

【参考書】
授業内で指示。

【履修上の注意等】
半期で1冊の原書を読みます。必ず予習をして授業に臨んでください。ｱﾒﾘｶ史、ｱﾒﾘｶ政治の知識が必要です。

授業科目名： Academic　Writing(1)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：小泉　朝子	521437／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
英語で論文の要旨が書けるようになる。
5-Paragraph-Essay の書き方を修得し、論理的な組み立てによる英文が書けるようになる。

【授業の概要(目的)】
英語による高度な Essay Writing の修得を目的とし、5-Paragraph-Essay の構成パターンである、Process, Compare, Classification, Causes & Effects, Problem Solution を使って論理的な英文を書いていきます。

【ディプロマ・ポリシー番号】DP: 3,4

【授業計画】

第1回	事前学修	各自、テキストの該当箇所を読み、不明な箇所は辞書で調べる。(3 時間)
	授業内容	ガイダンス、および Chapter 1, Chapter 2.　Essay の書き方①パラグラフ構成
	事後学修	授業の内容を各自復習する。(1 時間)
第2回	事前学修	各自、テキストの該当箇所を読み、不明な箇所は辞書で調べる。(3 時間)
	授業内容	Chapter 2, および Chapter 3.　Essay の書き方②　Thesis Statement とは何か
	事後学修	授業の内容を各自復習する。(1 時間)
第3回	事前学修	各自、テキストの該当箇所を読み、不明な箇所は辞書で調べる。(3 時間)
	授業内容	Chapter 3 および Chapter 4　Essay の書き方③　Thesis Statement と Body の関連づけ
	事後学修	授業の内容を各自復習する。(1 時間)
第4回	事前学修	各自、テキストの該当箇所を読み、不明な箇所は辞書で調べる。(3 時間)
	授業内容	Chapter 4 Essay の書き方④　5-Paragraph-Essay を書く
	事後学修	授業の内容を各自復習する。(1 時間)
第5回	事前学修	各自、テキストの該当箇所を読み、不明な箇所は辞書で調べる。(3 時間)
	授業内容	Chapter 5: Process Essays　Process の書き方① Thesis Statement の文例
	事後学修	授業の内容を各自復習する。(1 時間)
第6回	事前学修	各自、テキストの該当箇所を読み、不明な箇所は辞書で調べる。(3 時間)
	授業内容	Chapter 5: Process Essays　Process の書き方② Body 及び Conclusion の文例
	事後学修	授業の内容を各自復習する。(1 時間)
第7回	事前学修	各自、テキストの該当箇所を読み、不明な箇所は辞書で調べる。(3 時間)
	授業内容	Chapter 6: Division and Classification Essays　分類方式の Essay の書き方
	事後学修	授業の内容を各自復習する。(1 時間)
第8回	事前学修	各自、テキストの該当箇所を読み、不明な箇所は辞書で調べる。(3 時間)
	授業内容	Chapter 7: Cause and Effect Essays　Cause and Effect の書き方①Thesis Statement 文例
	事後学修	授業の内容を各自復習する。(1 時間)
第9回	事前学修	各自、テキストの該当箇所を読み、不明な箇所は辞書で調べる。(3 時間)
	授業内容	Chapter 7: Cause and Effect Essays　Cause and Effect の書き方②Body 及び Conclusion
	事後学修	授業の内容を各自復習する。(1 時間)
第10回	事前学修	各自、テキストの該当箇所を読み、不明な箇所は辞書で調べる。(3 時間)
	授業内容	Chapter 8: Comparison and Contrast Essays　比較・対象方式の Essay の書き方
	事後学修	授業の内容を各自復習する。(1 時間)
第11回	事前学修	各自、テキストの該当箇所を読み、不明な箇所は辞書で調べる。(3 時間)
	授業内容	Chapter 9: Problem-Solution Essays　問題解決型の Essay の書き方①　説得方式
	事後学修	授業の内容を各自復習する。(1 時間)
第12回	事前学修	各自、テキストの該当箇所を読み、不明な箇所は辞書で調べる。(3 時間)
	授業内容	Chapter 9: Problem-Solution Essays　問題解決型の Essay の書き方②　逆三角形方式
	事後学修	授業の内容を各自復習する。(1 時間)
第13回	事前学修	各自、テキストの該当箇所を読み、不明な箇所は辞書で調べる。(3 時間)
	授業内容	Chapter 10: Writing Summaries　要約の書き方①　短い記事の要約
	事後学修	授業の内容を各自復習する。(1 時間)
第14回	事前学修	各自、テキストの該当箇所を読み、不明な箇所は辞書で調べる。(3 時間)
	授業内容	Chapter 10: Writing Summaries　要約の書き方②　長い記事の要約
	事後学修	授業の内容を各自復習する。(1 時間)

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	各自、テキストの該当箇所を読み、不明な箇所は辞書で調べる。(3 時間) 学期末試験、およびフィードバック。Chapter 11: Expressing Your Opinions　意見を述べる 授業の内容を各自復習する。(1 時間)

【成績評価の方法】
平常点　20%　課題等提出物　50%　学期末試験　30%

【フィードバック】
提出物は授業時間中にコメントをつけて返却します。最終課題は、学期終了後にコメントをつけて返却しますので、各自取りにきてください。

【テキスト】
Blanchard, Karen & Christine Root. Ready to Write 3: From Paragraph to Essay, 4th Edition. Pearson, 2017.

【参考書】
授業中に適宜指示します。

【履修上の注意等】
受講時は必ず英和辞書および和英辞書を持参してください。

授業科目名： ｲｷﾞﾘｽ･ｱﾒﾘｶ文化研究Ⅰ(1)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：小泉　朝子	521147／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
19 世紀のイギリス文学、イギリス文化について、自分の言葉で論じることができる。

【授業の概要(目的)】
Jane Austen の *Pride and Prejudice* を精読しつつ、19 世紀初頭のイギリス文学、イギリス文化に関する論文を読んでいきます。また、各自、*Pride and Prejudice* について発表してもらいます。

【ディプロマ・ポリシー番号】DP: 2,4

【授業計画】

第1回	事前学修	Jane Austen について各自調べてくる。テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	ガイダンス、および *Pride and Prejudice*: Volume 1, Chapter 1
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第2回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	*Pride and Prejudice*: Volume 1, Chapter 2-4
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第3回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	*Pride and Prejudice*: Volume 1, Chapter 5-7
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第4回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	*Pride and Prejudice*: Volume 1, Chapter 8-10
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第5回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	*Pride and Prejudice*: Volume 1: Chapter 11-14
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第6回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	*Pride and Prejudice*: Volume 1: Chapter 15-18
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第7回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	*Pride and Prejudice*: Volume 2: Chapter 12-15
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第8回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	*Jane Austen*, pp.62-68 を読む。
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第9回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	*Jane Austen*, pp.125-147 を読む。
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第10回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	*Jane Austen*, pp.148-162 を読む。
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第11回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	*Jane Austen*, pp.163-171 を読む。
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第12回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	*Jane Austen*, pp.172-177 を読む。
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第13回	事前学修	発表の準備をする。(3 時間)
	授業内容	*Pride and Prejudice* について発表①および講評
	事後学修	授業の内容を復習する。発表者は発表内容をレポートにまとめる。(2 時間)
第14回	事前学修	発表の準備をする。(3 時間)
	授業内容	*Pride and Prejudice* について発表②および講評
	事後学修	授業の内容を復習する。発表者は発表内容をレポートにまとめる。(2 時間)

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	発表の準備をする。(3 時間) *Pride and Prejudice* について発表③および講評 授業の内容を復習する。発表者は発表内容をレポートにまとめる。(2 時間)

【成績評価の方法】
平常点　20%　発表　40%　課題レポート　40%

【フィードバック】
発表後に、講評を行います。課題レポートは、学期内にコメントを付して返却します。学期内に返却でき何場合は、学期終了後に返却しますので、各自取りに来てください。

【テキスト】
Austen, Jane. *Pride and Prejudice*, Oxford UP, 2008.
Irvine, Robert P. *Jane Austen (Routledge Guides to Literature)*, Routledge, 2005.

【参考書】
授業中に適宜指示します。

【履修上の注意等】
必ず予習を十分にして授業に出席してください。

授業科目名： 比較文学演習(1)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：小泉　朝子	521226／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
文学批評理論を自分の言葉で説明できる。
文学批評理論を用いて、論文を書けるようになる。

【授業の概要(目的)】
Charlotte Bronte の *Jane Eyre* を読んだうえで、同テクストに関する英語論文を精読します。フェミニズム批評やニューヒストリシズム、ポストコロニアル理論等の文学批評理論について学びつつ、発表します。

【ディプロマ・ポリシー番号】DP:2,4

【授業計画】

第1回	事前学修	*Jane Eyre* について各自調べてくる。テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	ガイダンス、および *Jane Eyre*: Volume 1, Chapter 1-2 を読む。
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第2回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	*Jane Eyre*: Volume 1, Chapter 3-6 を読む。
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第3回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	*Jane Eyre*: Volume 1, Chapter 7-10 を読む。
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第4回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	*Jane Eyre*: Volume 1, Chapter 11-13 を読む。
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第5回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	*Jane Eyre*: Volume 1, Chapter 14-15 を読む。
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第6回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	*Jane Eyre*:　Volume 2, Chapter 4-6 を読む。
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第7回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	*Jane Eyre*: Volume 2, Chapter 10-11 を読む。
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第8回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	*Jane Eyre*: Volume 3, Chapter 8 を読む。
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第9回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	"A Critical History of *Jane Eyre*" を読む。
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第10回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	"Feminist and Gender Criticism and *Jane Eyre*"を読む。
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第11回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	"Plain Jane's Progress"を読む。
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第12回	事前学修	テキストの該当箇所を読む。(3 時間)
	授業内容	"Postcolonial Criticism and *Jane Eyre*" を読む。
	事後学修	授業内容を復習する。(1 時間)
第13回	事前学修	発表の準備をする。(3 時間)
	授業内容	*Jane Eyre* について発表①
	事後学修	授業内容を復習する。発表者は発表内容をレポートにまとめる。(2時間)
第	事前学修	発表の準備をする。(3 時間)

14 回	授業内容 事後学修	*Jane Eyre* について発表② 授業内容を復習する。発表者は発表内容をレポートにまとめる。（２時間）
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	発表の準備をする。（3 時間） *Jane Eyre* について発表③ 授業内容を復習する。発表者は発表内容をレポートにまとめる。（２時間）

【成績評価の方法】
平常点　20%　発表　40%　課題レポート　40%

【フィードバック】
発表後に、講評を行います。課題レポートは、学期内にコメントを付して返却します。学期内に返却でき何場合は、学期終了後に返却しますので、各自取りに来てください。

【テキスト】
Bronte, Charlotte. *Jane Eyre*. Oxford UP, 2008. Newman, Beth, ed. *Case Studies in Contemporary Criticism: Jane Eyre, Second Edition*. Bedford /St. Martin's, 2015.

【参考書】
授業中に適宜指示します。

【履修上の注意等】
必ず予習を十分にして授業に出席してください。

授業科目名：地理学演習(1)	専攻･領域：比較文化専攻
担当教員名：小堀　貴亮	521159／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
地理学的研究の理解と論文作成を目指す。具体的には、文献として取り上げる系統地理学分野や、地理学全般に関わる学術用語および学術研究内容を正しく理解できるようにする。さらに、地理学的研究方法の把握、地域調査に基づくオリジナルデータの収集・分析等、地理学論文の作成に不可欠な知識とスキルを修得する。

【授業の概要(目的)】
地理学論文の講読を行い、学術用語の使い方、論文構成、研究手法などを確認しながら、受講者のレジュメに基づき報告・討論する。同時に、自身の研究テーマを確立し、論文作成を進めていく。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・３

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	地理学的アプローチによる論文を読んでくる【2 時間】 地理学的研究論文の類型と最近の研究動向 地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	地理学的アプローチによる論文構成を考えてくる【2 時間】 地理学的研究論文の構造 地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	地理学文献を熟読し、発表準備（レジュメ作成）をする【2 時間】 地理学文献に関する発表・討論―観光地理学を題材として― 発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	地理学文献を熟読し、発表準備（レジュメ作成）をする【2 時間】 地理学文献に関する発表・討論―歴史地理学を題材として― 発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	地理学文献を熟読し、発表準備（レジュメ作成）をする【2 時間】 地理学文献に関する発表・討論―経済地理学を題材として― 発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	地理学文献を熟読し、発表準備（レジュメ作成）をする【2 時間】 地理学文献に関する発表・討論―工業地理学を題材として― 発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	地理学文献を熟読し、発表準備（レジュメ作成）をする【2 時間】 地理学文献に関する発表・討論―農業地理学を題材として― 発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	地理学文献を熟読し、発表準備（レジュメ作成）をする【2 時間】 地理学文献に関する発表・討論―都市地理学を題材として― 発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	地理学文献を熟読し、発表準備（レジュメ作成）をする【2 時間】 地理学文献に関する発表・討論―交通地理学を題材として― 発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	地理学文献を熟読し、発表準備（レジュメ作成）をする【2 時間】 地理学文献に関する発表・討論―宗教地理学を題材として― 発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	地理学文献を熟読し、発表準備（レジュメ作成）をする【2 時間】 地理学文献に関する発表・討論―文化地理学を題材として― 発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	地理学的研究論文の執筆を進めてくる【2 時間】 地理学的研究論文の作成―研究の背景・目的・方法― 発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	地理学的研究論文の執筆を進めてくる【2 時間】 地理学的研究論文の作成―対象地域・事象の形成過程― 発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第 14	事前学修 授業内容	地理学的研究論文の執筆を進めてくる【2 時間】 地理学的研究論文の作成―対象地域・事象の現状分析―

回	事後学修	発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	地理学的研究論文の執筆を進めてくる【2 時間】 地理学的研究論文の作成―対象地域・事象の課題と展望― 授業の総括として論文を作成する【2 時間】

【成績評価の方法】
『課題 50%』『発表 30%』『平常点 20%』を基準に、総合的に判断・評価する。

【フィードバック】
課題提出や発表後、コメントシートにフィードバックを記入し、返却する。

【テキスト】
特になし。

【参考書】
山村順次編著（2012）:『観光地理学―観光地域の形成と課題―』同文舘出版
水野一晴（2016）:『人間の営みがわかる地理学入門』ベレ出版

【履修上の注意等】
日頃の生活の中や各種メディア等における日本や世界のトピックを意識的に注視し、地理学的な見方や考え方を意識しながら、地理的な視野を広げて、自身の研究に活かしてほしい。

授業科目名：地理学特論Ⅰ(1)	専攻･領域：比較文化専攻
担当教員名：小堀　貴亮	521155／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
地理学に関する知識、思考力、解決能力の修得を目指す。具体的には地理学の研究内容を適切に理解すること、論文の内容を適切に発表すること、先行研究を通じてより広く地理学の専門内容を理解すること、そして、自らの研究テーマに関連づけて、それをより深めることを目指していく。

【授業の概要(目的)】
地理学の基本的な方法論、先行研究の文献を読み、議論を重ねていく。具体的には観光地理学を事例として、研究史、方法論、研究アプローチ等を把握した上で、自らの研究と関連付けた研究成果を発表する。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・３

【授業計画】

第1回	事前学修	国内外の地理的トピック（環境問題、観光地域、地域社会等）を把握しておく【2 時間】
	授業内容	地理学の概念と体系について
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第2回	事前学修	海外における地理学の歴史について事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	海外における地理学の歴史と研究史
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第3回	事前学修	日本における地理学の歴史について事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	日本における地理学の歴史と研究史
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第4回	事前学修	国内外の温泉観光地域を把握しておく【2 時間】
	授業内容	地理学的研究の方法論―温泉観光地域研究―
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第5回	事前学修	国内外の歴史文化観光地域を把握しておく【2 時間】
	授業内容	地理学的研究の方法論―歴史文化観光地域研究―
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第6回	事前学修	国内外の自然観光地域を把握しておく【2 時間】
	授業内容	地理学的研究の方法論―自然観光地域研究―
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第7回	事前学修	国内外の農山村観光地域を把握しておく【2 時間】
	授業内容	地理学的研究の方法論―農山村観光地域研究―
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第8回	事前学修	国内外の都市観光地域を把握しておく【2 時間】
	授業内容	地理学的研究の方法論―都市観光地域研究―
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】】
第9回	事前学修	地理学の先行研究を収集する【2 時間】
	授業内容	地理学における論文の類型と研究の動向―観光地理学を事例として―
	事後学修	地理学における先行研究を各類型毎に整理する【2 時間】
第10回	事前学修	地理学の先行研究を調べ、発表準備（レジュメ作成）をする【2 時間】
	授業内容	地理学における論文講読と発表―温泉観光地域研究―
	事後学修	発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第11回	事前学修	地理学の先行研究を調べ、発表準備（レジュメ作成）をする【2 時間】
	授業内容	地理学における論文講読と発表―歴史文化観光地域研究―
	事後学修	発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第12回	事前学修	地理学の先行研究を調べ、発表準備（レジュメ作成）をする【2 時間】
	授業内容	地理学における論文講読と発表―自然観光地域研究―
	事後学修	発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第13回	事前学修	地理学の先行研究を調べ、発表準備（レジュメ作成）をする【2 時間】
	授業内容	地理学における論文講読と発表―農山村観光地域研究―
	事後学修	発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第14	事前学修	地理学の先行研究を調べ、発表準備（レジュメ作成）をする【2 時間】
	授業内容	地理学における論文講読と発表―都市観光地域研究―

回	事後学修	発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	自身の研究分野と地理学的研究との関連性を把握する【2 時間】 地理学的研究の学際性と有効性 授業の総括として課題を作成する【2 時間】

【成績評価の方法】
『課題 50%』『発表 30%』『平常点 20%』を基準に、総合的に判断・評価する。

【フィードバック】
課題提出や発表後、コメントシートにフィードバックを記入し、返却する。

【テキスト】
特になし。

【参考書】
山村順次編著（2012）:『観光地理学―観光地域の形成と課題―』同文舘出版
水野一晴（2016）:『人間の営みがわかる地理学入門』ベレ出版

【履修上の注意等】
日頃の生活の中や各種メディア等における日本や世界のトピックを意識的に注視し、地理学的な見方や考え方を意識しながら、地理的な視野を広げて、自身の研究に活かしてほしい。

授業科目名：地理学特論Ⅰ(2)	専攻･領域：比較文化専攻
担当教員名：小堀　貴亮	521156／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
地理学に関する研究方法、特に地域調査法の修得を目指す。具体的には研究対象地域を設定し、関連論文の内容を適切に理解すること、地域調査を実践することで、個別地域を深く理解すること、そして、自らの研究テーマに関連づけて、地理学的研究の学際性・有効性を把握することを目標とする。

【授業の概要(目的)】
地理学的研究において不可欠な地域調査法を概説した上で、実際に地域調査を実践する。具体的には、関心がある地理的事象および事例地域を選定し、自らの研究と関連付けた研究成果を発表する。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・３

【授業計画】

第1回	事前学修	関心がある調査対象地域を選んでおく【2 時間】
	授業内容	地域研究・調査法
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第2回	事前学修	関心がある調査対象地域を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	地域調査の方法と地図作成法（GIS）
	事後学修	事例地域の地図を作成する【2 時間】
第3回	事前学修	関心がある調査対象地域を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	観光地理学における地域調査法・分析法
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第4回	事前学修	関心がある調査対象地域を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	歴史地理学における地域調査法・分析法
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第5回	事前学修	関心がある調査対象地域を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	経済地理学における地域調査法・分析法
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第6回	事前学修	関心がある調査対象地域を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	工業地理学における地域調査法・分析法
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第7回	事前学修	関心がある調査対象地域を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	農業地理学における地域調査法・分析法
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第8回	事前学修	関心がある調査対象地域を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	都市地理学における地域調査法・分析法
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】】
第9回	事前学修	関心がある調査対象地域を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	交通地理学における地域調査法・分析法
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第10回	事前学修	関心がある調査対象地域を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	宗教地理学における地域調査法・分析法
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第11回	事前学修	関心がある調査対象地域を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	文化地理学における地域調査法・分析法
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第12回	事前学修	関心がある調査対象地域を事前に調べておく【2 時間】
	授業内容	自然地理学における地域調査法・分析法
	事後学修	地理学的研究の中で、関心がある地域や分野を考える【2 時間】
第13回	事前学修	地域調査を実施し、発表準備（レジュメ作成）をする【2 時間】
	授業内容	地域調査結果の整理法と地図化
	事後学修	発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第14	事前学修	地域調査結果の発表準備（レジュメ作成）をする【2 時間】
	授業内容	地域調査結果の発表と考察

回	事後学修	発表に対するフィードバックの内容を整理する【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	自身の研究分野と地理学的研究との関連性を把握する【2 時間】 これまでの地域調査・研究成果をまとめ、論文を作成する 授業の総括として論文を作成する【2 時間】

【成績評価の方法】
『課題 50%』『発表 30%』『平常点 20%』を基準に、総合的に判断・評価する。

【フィードバック】
課題提出や発表後、コメントシートにフィードバックを記入し、返却する。

【テキスト】
特になし。

【参考書】
山村順次編著（2012）:『観光地理学―観光地域の形成と課題―』同文舘出版
水野一晴（2016）:『人間の営みがわかる地理学入門』ベレ出版

【履修上の注意等】
日頃の生活の中や各種メディア等における日本や世界のトピックを意識的に注視し、地理学的な見方や考え方を意識しながら、地理的な視野を広げて、自身の研究に活かしてほしい。

授業科目名： 比較言語研究Ⅱ(1)	専攻･領域：比較文化
担当教員名： 小山　久美子	521254／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
英語の各種構文の統語的・意味的特徴について説明することができる。

【授業の概要(目的)】
英語の有標的語順である存在文, 倒置文, 前置文に関する書籍・論文を講読し, その特徴を知り, 実際の言語資料を調べ検証する。授業内では発表, ディスカッションを行う。

【ディプロマ・ポリシー番号】 2

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	存在文について調べる【2 時間】 存在文(1) there 存在文, はだか存在文,　have 構文 授業及びプリントを参考にして there 存在文, はだか存在文についてまとめる【2 時間】
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	プリントを読み, 要約する【2 時間】 存在文(2) 統語的特徴 授業及びプリントを参考にして存在文の統語的特徴をまとめる【2 時間】
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	プリントを読み, 要約する【2 時間】 存在文(3) 意味的特徴 授業及びプリントを参考にして存在文の意味的特徴をまとめる【2 時間】
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	言語資料（小説）を用い, 存在文の事例を調べる【2 時間】 存在文(4) 事例研究（イギリス小説） 小説における存在文についてまとめる【2 時間】
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	言語資料(小説)を用い, 存在文の事例を調べる【2 時間】 存在文(5) 事例研究（アメリカ小説） 小説における存在文についてまとめる【2 時間】
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	言語資料（新聞）を用い, 存在文の事例を調べる【2 時間】 存在文(6) 事例研究（新聞） 新聞における存在文についてまとめる【2 時間】
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	プリントを読み, 要約する【2 時間】 倒置文(1) 統語的特徴 授業及びプリントを参考にして倒置文の統語的特徴をまとめる【2 時間】
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	プリントを読み, 要約する【2 時間】 倒置文(2) 意味的特徴 授業及びプリントを参考にして倒置文の意味的特徴をまとめる【2 時間】
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	言語資料(小説)を用い, 倒置文の事例を調べる【2 時間】 倒置文(3) 事例研究（小説） 小説における倒置文についてまとめる【2 時間】
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	言語資料（新聞）を用い, 倒置文の事例を調べる【2 時間】 倒置文(4) 事例研究（新聞） 新聞における倒置文についてまとめる【2 時間】
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	プリントを読み, 要約する【2 時間】 前置文(1) 統語的特徴 授業及びプリントを参考にして前置文の統語的特徴をまとめる【2 時間】
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	プリントを読み, 要約する【2 時間】 前置文(2) 意味的特徴 授業及びプリントを参考にして前置文の意味的特徴をまとめる【2 時間】
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	言語資料（小説）を用い, 前置文の事例を調べる【2 時間】 前置文(3) 事例研究（小説） 小説における前置文についてまとめる【2 時間】
第 14	事前学修 授業内容	言語資料（新聞）を用い, 前置文の事例を調べる【2 時間】 前置文(4) 事例研究（新聞）

回	事後学修	新聞における前置文についてまとめる【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	存在文, 倒置文, 前置文について復習する【1 時間】 有標的語順（存在文, 倒置文, 前置文）のまとめ レポートを書く【3 時間】

【成績評価の方法】
授業内の発表及びディスカッション 50%, レポート 50%で評価する。

【フィードバック】
レポートはコメントを付して返却する。

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考書】
授業内で指示する。

【履修上の注意等】
積極的に意見を述べ, ディスカッションする。

授業科目名： 比較言語研究Ⅲ(1)	専攻・領域：比較文化
担当教員名： 小山　久美子	521256／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
英語の文の意味について意味論的立場から説明できる。

【授業の概要(目的)】英語の構造，意味，情報構造を含めた言語学的特徴を知る。特に，意味論的観点を中心に考察しながら，語用論的観点からも見ていく。また，英語教育に深く関係のあるコミュニケーション能力も考察する。授業内で発表，ディスカッションをする。

【ディプロマ・ポリシー番号】 2

【授業計画】

第1回	事前学修	認知科学について調べる【2 時間】
	授業内容	Linguistics and Cognitive Science
	事後学修	授業及び教科書を参考にして notion of meaning についてまとめる【2 時間】
第2回	事前学修	Truth condition について調べる【2 時間】
	授業内容	Linguistic Meaning as an Autonomous Structure:　Truth Conditional Semantics
	事後学修	授業及び教科書を参考にして truth conditional semantics についてまとめる【2 時間】
第3回	事前学修	*The Meaning of the Sentence in Its Semantic and Pragmatic Aspects* 1.3 を読み，要約する【2 時間】
	授業内容	Linguistic Meaning as an Autonomous Structure:　Semantics and Pragmatics
	事後学修	授業及び教科書を参考にして意味論と語用論における意味をまとめる【2 時間】
第4回	事前学修	*The Meaning of the Sentence in Its Semantic and Pragmatic Aspects* 1.4 を読み，要約する【2 時間】
	授業内容	Linguistic Meaning as an Autonomous Structure: Criterion for the Identity of Meaning
	事後学修	授業及び教科書を参考にして The Identity of Meaning についてまとめる【2 時間】
第5回	事前学修	*The Meaning of the Sentence in Its Semantic and Pragmatic Aspects* 1.5 を読み，要約する【2 時間】
	授業内容	On the Meaning and Sense of Belief Sentences
	事後学修	授業及び教科書を参考にして Belief Sentences についてまとめる【2 時間】
第6回	事前学修	*The Meaning of the Sentence in Its Semantic and Pragmatic Aspects* 1.6 を読み，要約する【2 時間】
	授業内容	Presupposition, Allegation, and Communicative Competence
	事後学修	Presupposition, Allegation, Communicative Competence についてまとめる【2 時間】
第7回	事前学修	Lexicon について調べる【2 時間】
	授業内容	The Level of Meaning with a Dependency Structure: Remarks on the Lexicon
	事後学修	授業及び教科書を参考にして lexical meaning についてまとめる【2 時間】
第8回	事前学修	*The Meaning of the Sentence in Its Semantic and Pragmatic Aspects* 2.4 を読み，要約する【2 時間】
	授業内容	The Level of Meaning with a Dependency Structure: the Framework, and the Units
	事後学修	授業の復習。動詞・名詞・形容詞の morphological meanings についてまとめる【2 時間】
第9回	事前学修	*The Meaning of the Sentence in Its Semantic and Pragmatic Aspects* 3.1 を読み，要約する【2 時間】
	授業内容	Focus and the Recursive Properties of the Sentence
	事後学修	授業及び教科書を参考にして focus についてまとめる【2 時間】
第10回	事前学修	Communicative Dynamism について調べる【2 時間】
	授業内容	Operational Criteria for Topic, Focus, and Communicative Dynamism
	事後学修	授業及び教科書を参考にして、communicative dynamism についてまとめる【2 時間】
第11回	事前学修	Topic and focus についてさらに調べる【2 時間】
	授業内容	Formal Treatment of Topic and Focus
	事後学修	授業及び教科書を参考にして formal treatment of topic & focus についてまとめる【2 時間】
第12回	事前学修	Pragmatics について調べる【2 時間】
	授業内容	The Pragmatic Background of the Semantics Relevance of Topic, Focus, and CD
	事後学修	Topic, focus and Communicative Dynamism についてまとめる【2 時間】
第13回	事前学修	否定について調べる【2 時間】
	授業内容	Negation and Its Scope
	事後学修	授業及び教科書を参考にして否定とその作用域についてまとめる【2 時間】
第14回	事前学修	Shared knowledge について調べる【2 時間】
	授業内容	Focus and the Structure of Text
	事後学修	授業及び教科書を参考にして structure of text についてまとめる【2 時間】
第	事前学修	これまでの授業を復習する【1 時間】

15 回	授業内容 事後学修	文についての意味論的立場，語用論的立場 レポートを書く【3 時間】

【成績評価の方法】
発表・ディスカッション 50%，レポート 50%で評価する。

【フィードバック】
レポートはコメントを付して返却する。

【テキスト】
J. Mey (ed.), P. Sgall, E. Hajicova, & J. Panevova, *The Meaning of the Sentence in Its Semantic and Pragmatic Aspects,* D. Reidel Publishing Company.

【参考書】
澤田治美編『ひつじ意味論講座 1 語・文と文法ｶﾃｺﾞﾘｰの意味』ひつじ書房.

【履修上の注意等】
積極的に意見を述べ，ディスカッションする。

授業科目名： 比較言語研究Ⅳ(1)	専攻・領域：比較文化
担当教員名： 小山　久美子	521258／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
語用論について用語も含め説明できる。

【授業の概要(目的)】
文や語の文字通りの意味と話し手の本当に意図する意味を聞き手がどのように解釈するかについて，これまでの研究理論を概観し，日本語と英語の実例を考察する。授業内で発表・ディスカッションをする。

【ディプロマ・ポリシー番号】 2

【授業計画】

第1回	事前学修	*Pragmatics: Multidisciplinary Perspective* 1.1, 1.2 を読み，要約する【2 時間】
	授業内容	The Multidisciplinary Nature of Pragmatics: A Standard Definition
	事後学修	授業及び教科書を参考にして，語句の定義についてまとめる【2 時間】
第2回	事前学修	Speech Act について調べる【2 時間】
	授業内容	The Multidisciplinary Nature of Pragmatics: Speech Act Theory
	事後学修	授業及び教科書を参考にして Speech Act についてまとめる【2 時間】
第3回	事前学修	Implicature について調べる【2 時間】
	授業内容	The Multidisciplinary Nature of Pragmatics: Implicature Theory
	事後学修	授業及び教科書を参考にして Implicature についてまとめる【2 時間】
第4回	事前学修	Relevance Theory について調べる【2 時間】
	授業内容	The Multidisciplinary Nature of Pragmatics: Relevance Theory
	事後学修	授業及び教科書を参考にして Relevance Theory についてまとめる【2 時間】
第5回	事前学修	*Pragmatics: Multidisciplinary Perspective* 2.1, 2.2, 2.3 を読み，要約する【2 時間】
	授業内容	Theories of Meaning: A Referential Approach to Meaning
	事後学修	授業及び教科書を参考にして A Referential Approach to Meaning をまとめる【2 時間】
第6回	事前学修	*Pragmatics: Multidisciplinary Perspective* 2.4 を読み，要約する【2 時間】
	授業内容	A Psychologistic Approach to Meaning
	事後学修	授業及び教科書を参考にして A Psychologistic Approach to Meaning をまとめる【2 時間】
第7回	事前学修	*Pragmatics: Multidisciplinary Perspective* 2.5 を読み，要約する【2 時間】
	授業内容	A Social Approach to Meaning
	事後学修	授業及び教科書を参考にして A Social Approach to Meaning をまとめる【2 時間】
第8回	事前学修	*Pragmatics: Multidisciplinary Perspective* 3.1, 3.2, 3.3 を読み，要約する【2 時間】
	授業内容	Inferences: Deductive Inferences, Elaborative Inferences
	事後学修	授業及び教科書を参考にして Deductive & Elaborative Inferences をまとめる【2 時間】
第9回	事前学修	Conversational Implicature について調べる【2 時間】
	授業内容	Inferences: Conversational Inferences
	事後学修	授業及び教科書を参考して Conversational Implicature についてまとめる【2 時間】
第10回	事前学修	*Pragmatics: Multidisciplinary Perspective* 4.1, 4.2 を読み，要約する【2 時間】
	授業内容	Relevance Theory: Relevance and Communication
	事後学修	授業及び教科書を参考にして Relevance & Communication についてまとめる【2 時間】
第11回	事前学修	*Pragmatics: Multidisciplinary Perspective* 4.3 を読み，要約する【2 時間】
	授業内容	Relevance Theory: Relevance and Cognition
	事後学修	授業及び教科書を参考にして Relevance and Cognition についてまとめる【2 時間】
第12回	事前学修	*Pragmatics: Multidisciplinary Perspective* 4.4 を読み，要約する【2 時間】
	授業内容	Relevance Theory: Philosophical Criticism of Relevance Theory
	事後学修	授業及び教科書を参考にして関連性理論を総括する【2 時間】
第13回	事前学修	*Pragmatics: Multidisciplinary Perspective* Chapter 5 を読み，要約する【2 時間】
	授業内容	Pragmatics and Mind
	事後学修	授業及び教科書を参考にして Pragmatics and Mind についてまとめる【2 時間】
第14回	事前学修	日本語の言語資料(広告，新聞，小説等)を用い，事例を集める【2 時間】
	授業内容	日英比較 事例研究(1):日本語
	事後学修	授業を参考にして事例についてのレポートを書く【2 時間】
第	事前学修	英語の言語資料(広告，新聞，小説等)を用い，事例を集める【2 時間】

15 回	授業内容 事後学修	日英比較 事例研究(2):英語 授業を参考にして日英比較についてのレポートを書く【2 時間】

【成績評価の方法】
発表・ディスカッション 50%, レポート 50%で評価する。

【フィードバック】
レポートはコメントを付して返却する。

【テキスト】
Louise Cummings, *Pragmatics: Multidisciplinary Perspective*, Edinburgh University Press.

【参考書】
L. R. Horn and G. Ward (eds.), *The Handbook of Pragmatics*, Blackwell.
L. Cummings (ed.), *The Pragmatics Encyclopedia*, Routledge.
他は授業中に提示する。

【履修上の注意等】
積極的に意見を述べ, ディスカッションする。

授業科目名： 資料講読演習Ⅵ(１)	専攻･領域：比較文化
担当教員名： 佐々木　唯	521435／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】

・地域の活性化について、健全な生活環境・コミュニティーの形成の視点から、現代生活の問題と課題解決の取り組みを説明することができる.

・健康をサポートする住環境・まちづくりの課題に対して、専門的知識と豊かな感性を持って社会に貢献するための新しいアクティビティの企画・提案ができる.

【授業の概要(目的)】

現代社会において、主体的に人生をデザインするため、地域活性化に関わる専門的技能と人間性に富む総合的能力の習得・実践を目的とします. 地域公共人材・社会教育・児童福祉・生活環境の整備を例に、研究テーマの設定、仮説、検証の技法を学びます.

【ディプロマ・ポリシー番号】DP1,2,3

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域・まちづくりに関する知識の整理【１時間】 ガイダンス：住生活の課題からみた地域・まちづくり 地域研究に関する文献・資料の収集【３時間】
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域・まちづくりに関する文献・資料の要約【２時間】 資料講読①問題の所在：地域活性化と現代社会 地域活性化に関する文献・資料の収集【２時間】
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域・まちづくりに関する文献・資料の要約【２時間】 資料講読②現状と課題：地域コミュニティーの再構築 地域コミュニティーの再構築に関する文献・資料の収集【２時間】
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域・まちづくりに関する文献・資料の要約【２時間】 資料講読③現状と課題：公共施設の整備 施設整備・空間・場づくりに関する文献・資料の収集【２時間】
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域・まちづくりに関する文献・資料の要約【２時間】 資料講読④仮説の検証：持続可能な活動 持続可能な活動に関する文献・資料の収集【２時間】
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域・まちづくりに関する文献・資料の要約【３時間】 資料講読⑤課題に対する取り組み：地域公共人材の育成 人材育成・社会教育に関する文献・資料の収集【１時間】
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域・まちづくりに関する文献・資料の要約【３時間】 資料講読⑥課題解決の提案：社会教育の実践 社会教育に関する文献・資料の収集【１時間】
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域・まちづくりに関する文献・資料の要約【３時間】 資料講読⑦中間演習：地域の活性化 地域協働・まちづくりに関する既往研究の整理【１時間】
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域・まちづくりに関する文献・資料の要約【２時間】 アクティビティの開発①現状把握 文献・資料収集と既往研究の整理【２時間】
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域・まちづくりに関する文献・資料の要約【２時間】 アクティビティの開発②課題の抽出 文献・資料収集と既往研究の整理【２時間】
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域・まちづくりに関する文献・資料の要約【２時間】 アクティビティの開発③課題に対する自治体の取り組み 文献・資料収集と既往研究の整理【２時間】
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域・まちづくりに関する文献・資料の要約【２時間】 アクティビティの開発④課題に対する制度・政策 制度・政策の変遷に関する資料整理【２時間】
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域・まちづくりに関する文献・資料の要約【２時間】 アクティビティの開発⑤課題に対するＮＰＯの取り組み まちづくりの動向に関するレポート提出【２時間】

第 14 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域・まちづくりに関するレポート作成【３時間】 アクティビティの開発⑥課題解決の提案 まちづくりの動向に関するレポート提出【１時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域・まちづくりに関するレポート作成【３時間】 アクティビティの開発⑦期末演習 まちづくりの動向に関するレポート提出【１時間】

【成績評価の方法】
発表（50%）、中間演習（20%）、期末演習（30%）による総合評価

【フィードバック】
レポートは必要に応じて添削し返却する．発表・プレゼンテーションに対して講評する．

【テキスト】
特になし．

【参考書】
地域公共人材をつくる～まちづくりを担う人たち～、2013、法律文化社

【履修上の注意等】
学術誌、専門書から文献を収集し、最先端の動向を把握すること．実践・フィールドワークの機会を提供しますので、積極的に参画してください．

授業科目名： 資料購読Ⅳ(1)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：真田　尊光	521432／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
日本の古代・中世の仏教とその美術に関する資料を解読し、説明することができる。

【授業の概要(目的)】
日本の古代・中世の仏教史および美術を理解するために、代表的な文献史料を講読を行う。
今年度は大江親通『七大寺巡礼私記』を取り扱う。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・３

【授業計画】

第1回	事前学修	『七大寺巡礼私記』の作者と内容について調べてくる。(2 時間)
	授業内容	『七大寺巡礼私記』の概要確認
	事後学修	配布資料とテキストを読み、授業内容を整理する。(2 時間)
第2回	事前学修	前回の授業で指定された箇所を読解する。(3 時間)
	授業内容	史料の解読と問題点の指摘
	事後学修	配布資料とテキストを読み直し、授業内容を整理する。(1 時間)
第3回	事前学修	前回の授業で指定された箇所を読解する。(3 時間)
	授業内容	史料の解読と問題点の指摘
	事後学修	配布資料とテキストを読み直し、授業内容を整理する。(1 時間)
第4回	事前学修	前回の授業で指定された箇所を読解する。(3 時間)
	授業内容	史料の解読と問題点の指摘
	事後学修	配布資料とテキストを読み直し、授業内容を整理する。(1 時間)
第5回	事前学修	前回の授業で指定された箇所を読解する。(3 時間)
	授業内容	史料の解読と問題点の指摘
	事後学修	配布資料とテキストを読み直し、授業内容を整理する。(1 時間)
第6回	事前学修	前回の授業で指定された箇所を読解する。(3 時間)
	授業内容	史料の解読と問題点の指摘
	事後学修	配布資料とテキストを読み直し、授業内容を整理する。(1 時間)
第7回	事前学修	前回の授業で指定された箇所を読解する。(3 時間)
	授業内容	史料の解読と問題点の指摘
	事後学修	配布資料とテキストを読み直し、授業内容を整理する。(1 時間)
第8回	事前学修	前回の授業で指定された箇所を読解する。(3 時間)
	授業内容	史料の解読と問題点の指摘
	事後学修	配布資料とテキストを読み直し、授業内容を整理する。(1 時間)
第9回	事前学修	前回の授業で指定された箇所を読解する。(3 時間)
	授業内容	史料の解読と問題点の指摘
	事後学修	配布資料とテキストを読み直し、授業内容を整理する。(1 時間)
第10回	事前学修	前回の授業で指定された箇所を読解する。(3 時間)
	授業内容	史料の解読と問題点の指摘
	事後学修	配布資料とテキストを読み直し、授業内容を整理する。(1 時間)
第11回	事前学修	前回の授業で指定された箇所を読解する。(3 時間)
	授業内容	史料の解読と問題点の指摘
	事後学修	配布資料とテキストを読み直し、授業内容を整理する。(1 時間)
第12回	事前学修	前回の授業で指定された箇所を読解する。(3 時間)
	授業内容	史料の解読と問題点の指摘
	事後学修	配布資料とテキストを読み直し、授業内容を整理する。(1 時間)
第13回	事前学修	前回の授業で指定された箇所を読解する。(3 時間)
	授業内容	史料の解読と問題点の指摘
	事後学修	配布資料とテキストを読み直し、授業内容を整理する。(1 時間)
第14回	事前学修	前回の授業で指定された箇所を読解する。(3 時間)
	授業内容	史料の解読と問題点の指摘
	事後学修	配布資料とテキストを読み直し、授業内容を整理する。(1 時間)

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまでの授業内容を整理しておく（2 時間） まとめと試験 授業でとくに関心を持ったテーマについて調べる。（2 時間）

【成績評価の方法】
平常点 70%、試験 30%

【フィードバック】
試験答案にコメントを記入のうえ返却する

【テキスト】
『七大寺巡礼私記』(藤田經世編『公刊美術資料・寺院編』上巻、中央公論美術出版)

【参考書】
授業で適宜紹介する。

【履修上の注意等】
最低でも１回は通読してから授業に臨むこと

授業科目名： 比較宗教学(1)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：真田　尊光	521233／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
日本の仏教と世界の諸宗教を比較して、その特徴や違いを説明することができる。

【授業の概要(目的)】
世界の諸宗教について、その特徴や他宗教との違いを客観的な視点で研究することを目的とする。
比較の際に基盤とするのは日本の仏教である。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・３

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	比較宗教学とはどのような学問が調べてくる。(2 時間) 比較宗教学について 配布資料をもとに授業内容を整理する。(2 時間)
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	日本の仏教の特徴について調べてくる。(2 時間) 日本の仏教の成立と展開１　古代～中世 配布資料をもとに授業内容を整理する。(2 時間)
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	前回の授業を踏まえて仏教の特徴について調べてくる。(2 時間) 日本の仏教の成立と展開２　近世～近代 配布資料をもとに授業内容を整理する。(2 時間)
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	前回の授業を踏まえて仏教の問題について調べてくる。(2 時間) 日本の仏教と現代的な問題 配布資料をもとに授業内容を整理する。(2 時間)
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	前回の授業を踏まえて日本の宗教問題について調べてくる。(2 時間) 日本の宗教と現代的な問題 配布資料をもとに授業内容を整理する。(2 時間)
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	前回の授業を踏まえて世界の宗教問題について調べてくる。(2 時間) 世界の宗教と現代的な問題 配布資料をもとに授業内容を整理する。(2 時間)
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	授業内容をもとに課題に取り組む（3 時間） 課題発表 発表した内容の問題点の整理と改善（1 時間）
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	授業内容をもとに課題に取り組む（3 時間） 課題発表 発表した内容の問題点の整理と改善（1 時間）
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	授業内容をもとに課題に取り組む（3 時間） 課題発表 発表した内容の問題点の整理と改善（1 時間）
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	授業内容をもとに課題に取り組む（3 時間） 課題発表 発表した内容の問題点の整理と改善（1 時間）
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	授業内容をもとに課題に取り組む（3 時間） 課題発表 発表した内容の問題点の整理と改善（1 時間）
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	授業内容をもとに課題に取り組む（3 時間） 課題発表 発表した内容の問題点の整理と改善（1 時間）
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	授業内容をもとに課題に取り組む（3 時間） 課題発表 発表した内容の問題点の整理と改善（1 時間）
第 14	事前学修 授業内容	授業内容をもとに課題に取り組む（3 時間） 課題発表

回	事後学修	発表した内容の問題点の整理と改善（1 時間）
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまでの授業内容および発表内容をまとめる。（3 時間） まとめと試験 今後の課題について整理する（1 時間）

【成績評価の方法】
平常点 20%、課題 50%、試験 30%

【フィードバック】
課題として提出したレポートおよび試験について、コメントを記入のうえ返却する

【テキスト】
授業で適宜配布。

【参考書】
授業で適宜紹介。

【履修上の注意等】
積極的な発言を求めます。

授業科目名： ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究演習Ⅰ(1)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：高津　純也	521137／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
・文献史料を読解し、史料批判を行うことができる。
・史料と先行研究の分析から、自説を展開することができる。

【授業の概要(目的)】
中国古代の歴史における諸問題について、さまざまな文献を読みながら考察を行う。その作業を通じて、各参加者が修了まで専門に取り組む課題について問題意識を絞り込むことを目的とする。

【ディプロマ・ポリシー番号】 2

【授業計画】

第1回	事前学修	清朝考証学に関する概要を確認しておく。【2 時間】
	授業内容	趙翼『廿二史劄記』の紹介
	事後学修	配布漢文史料を読解する。引用文献について調査する。【2 時間】
第2回	事前学修	配布漢文史料を読解する。引用文献について調査する。【2 時間】
	授業内容	趙翼『廿二史劄記』巻一-1 を読む
	事後学修	本日の内容を復習する。予習時の欠を補う。【2 時間】
第3回	事前学修	配布漢文史料を読解する。引用文献について調査する。【2 時間】
	授業内容	趙翼『廿二史劄記』巻一-2 を読む
	事後学修	本日の内容を復習する。予習時の欠を補う。【2 時間】
第4回	事前学修	配布漢文史料を読解する。引用文献について調査する。【2 時間】
	授業内容	趙翼『廿二史劄記』巻一-3 を読む
	事後学修	本日の内容を復習する。予習時の欠を補う。【2 時間】
第5回	事前学修	配布漢文史料を読解する。引用文献について調査する。【2 時間】
	授業内容	趙翼『廿二史劄記』巻一-4 を読む
	事後学修	本日の内容を復習する。予習時の欠を補う。【2 時間】
第6回	事前学修	配布漢文史料を読解する。引用文献について調査する。【2 時間】
	授業内容	趙翼『廿二史劄記』巻一-5 を読む
	事後学修	本日の内容を復習する。予習時の欠を補う。【2 時間】
第7回	事前学修	配布漢文史料を読解する。引用文献について調査する。【2 時間】
	授業内容	趙翼『廿二史劄記』巻一-6 を読む
	事後学修	本日の内容を復習する。予習時の欠を補う。【2 時間】
第8回	事前学修	配布漢文史料を読解する。引用文献について調査する。【2 時間】
	授業内容	趙翼『廿二史劄記』巻一-7 を読む
	事後学修	本日の内容を復習する。予習時の欠を補う。【2 時間】
第9回	事前学修	配布漢文史料を読解する。引用文献について調査する。【2 時間】
	授業内容	趙翼『廿二史劄記』巻一-8 を読む
	事後学修	本日の内容を復習する。予習時の欠を補う。【2 時間】
第10回	事前学修	配布漢文史料を読解する。引用文献について調査する。【2 時間】
	授業内容	趙翼『廿二史劄記』巻一-9 を読む
	事後学修	本日の内容を復習する。予習時の欠を補う。【2 時間】
第11回	事前学修	配布漢文史料を読解する。引用文献について調査する。【2 時間】
	授業内容	趙翼『廿二史劄記』巻一-10 を読む
	事後学修	本日の内容を復習する。予習時の欠を補う。【2 時間】
第12回	事前学修	配布漢文史料を読解する。引用文献について調査する。【2 時間】
	授業内容	趙翼『廿二史劄記』巻一-11 を読む
	事後学修	本日の内容を復習する。予習時の欠を補う。【2 時間】
第13回	事前学修	配布漢文史料を読解する。引用文献について調査する。【2 時間】
	授業内容	趙翼『廿二史劄記』巻一-12 を読む
	事後学修	本日の内容を復習する。予習時の欠を補う。【2 時間】
第14回	事前学修	配布漢文史料を読解する。引用文献について調査する。【2 時間】
	授業内容	趙翼『廿二史劄記』巻一-13 を読む
	事後学修	本日の内容を復習する。予習時の欠を補う。【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	配布漢文史料を読解する。引用文献について調査する。【2 時間】 趙翼『廿二史劄記』巻一-14 を読む 本日の内容を復習する。予習時の欠を補う。【2 時間】

【成績評価の方法】
・授業内での発表 50%
・平常点 50%

【フィードバック】
・受講者より提示された発表内容に対し、適切な指導を施す。

【テキスト】
趙翼『廿二史劄記』巻一-1~14 をコピーにて配布する。その他、受講者の状況により決定する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【履修上の注意等】
特になし

授業科目名： 資料購読演習Ⅲ(1)	専攻・領域：比較文化
担当教員名：高津　純也	521429／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
・伝世文献史料を適切に利用することができる。
・出土文献史料の利用を経験することができる。

【授業の概要(目的)】
中国古代の史料を読みながら考察を行う。具体的には、東ｱｼﾞｱ諸国のあり方を強く規定することとなった秦漢帝国、およびその前段階である戦国時代諸国の史料を取り上げることとする。

【ディプロマ・ポリシー番号】 2

第1回	事前学修	中国戦国時代~漢代の出土資料について、概要を確認しておく。【2 時間】
	授業内容	中国の新出土資料に関する概説
	事後学修	本日の授業内容を復習する。【2 時間】
第2回	事前学修	前回内容のうち、睡虎地秦墓竹簡について、概要を確認しておく。【2 時間】
	授業内容	睡虎地秦墓竹簡に関する概説
	事後学修	本日の授業内容を復習する。【2 時間】
第3回	事前学修	前回内容のうち、「法律答問」について、概要を確認しておく。【2 時間】
	授業内容	睡虎地秦簡「法律答問」に関する概説
	事後学修	本日の授業内容を復習する。【2 時間】
第4回	事前学修	配付資料を読解するとともに、先行研究を確認しておく。【2 時間】
	授業内容	睡虎地秦簡「法律答問」第 1 条を読む
	事後学修	本日の授業内容を復習する。【2 時間】
第5回	事前学修	配付資料を読解するとともに、先行研究を確認しておく。【2 時間】
	授業内容	睡虎地秦簡「法律答問」第 1 条を読む
	事後学修	本日の授業内容を復習する。【2 時間】
第6回	事前学修	配付資料を読解するとともに、先行研究を確認しておく。【2 時間】
	授業内容	睡虎地秦簡「法律答問」第 2 条を読む
	事後学修	本日の授業内容を復習する。【2 時間】
第7回	事前学修	配付資料を読解するとともに、先行研究を確認しておく。【2 時間】
	授業内容	睡虎地秦簡「法律答問」第 3 条を読む
	事後学修	本日の授業内容を復習する。【2 時間】
第8回	事前学修	配付資料を読解するとともに、先行研究を確認しておく。【2 時間】
	授業内容	睡虎地秦簡「法律答問」第 4 条を読む
	事後学修	本日の授業内容を復習する。【2 時間】
第9回	事前学修	配付資料を読解するとともに、先行研究を確認しておく。【2 時間】
	授業内容	睡虎地秦簡「法律答問」第 5 条を読む
	事後学修	本日の授業内容を復習する。【2 時間】
第10回	事前学修	配付資料を読解するとともに、先行研究を確認しておく。【2 時間】
	授業内容	睡虎地秦簡「法律答問」第 6 条を読む
	事後学修	本日の授業内容を復習する。【2 時間】
第11回	事前学修	配付資料を読解するとともに、先行研究を確認しておく。【2 時間】
	授業内容	睡虎地秦簡「法律答問」第 7 条を読む
	事後学修	本日の授業内容を復習する。【2 時間】
第12回	事前学修	配付資料を読解するとともに、先行研究を確認しておく。【2 時間】
	授業内容	睡虎地秦簡「法律答問」第 8 条を読む
	事後学修	本日の授業内容を復習する。【2 時間】
第13回	事前学修	配付資料を読解するとともに、先行研究を確認しておく。【2 時間】
	授業内容	睡虎地秦簡「法律答問」第 9 条を読む
	事後学修	本日の授業内容を復習する。【2 時間】
第14回	事前学修	配付資料を読解するとともに、先行研究を確認しておく。【2 時間】
	授業内容	睡虎地秦簡「法律答問」第 10 条を読む
	事後学修	本日の授業内容を復習する。【2 時間】
第	事前学修	配付資料を読解するとともに、先行研究を確認しておく。【2 時間】

15 回	授業内容 事後学修	睡虎地秦簡「法律答問」第 11 条を読む 本日の授業内容を復習する。【2 時間】

【成績評価の方法】
・授業内での発表 50%
・平常点 50%

【フィードバック】
・提示された発表内容に対し、随時適切な指導を行う。

【テキスト】
睡虎地秦墓竹簡「法律答問」の各条文を、ｺﾋﾟｰにて配布する。その他、受講者の状況により決定する。

【参考書】
中国出土資料学会編『地下からの贈り物』(東方書店、2014 年)。その他、授業内で適宜紹介する。

【履修上の注意等】
特になし

授業科目名：ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ社会論演習(1)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：高山　啓子	521339／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
ジェンダーに関わる社会現象を分析するさまざまな社会理論を理解し、各自がそうした現象の具体的事例を分析できるようになる。

【授業の概要(目的)】
ジェンダーに関わる社会現象を分析するさまざまな社会理論の研究アプローチと方法を理解し、具体的なジェンダーに関わる社会現象の事例を分析する。発表とディスカッションを行う。

【ディプロマ・ポリシー番号】1・2・3

【授業計画】

第1回	事前学修	現代社会におけるジェンダーについて考えをまとめてくる【2 時間】
	授業内容	授業概要とガイダンス
	事後学修	研究計画を立てる【2 時間】
第2回	事前学修	ジェンダー概念について予習【2 時間】
	授業内容	ジェンダー概念
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第3回	事前学修	レジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	ジェンダー研究の方法
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第4回	事前学修	レジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	現代社会におけるジェンダーに関わる現象
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第5回	事前学修	レジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	事例研究発表とディスカッション 1
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第6回	事前学修	レジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	事例研究発表とディスカッション 2
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第7回	事前学修	レジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	事例研究発表とディスカッション 3
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第8回	事前学修	レジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	事例研究発表とディスカッション 4
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第9回	事前学修	レジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	事例研究発表とディスカッション 5
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第10回	事前学修	レジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	事例研究発表とディスカッション 6
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第11回	事前学修	レジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	事例研究発表とディスカッション 7
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第12回	事前学修	レポート下書き作成【2 時間】
	授業内容	レポートの検討 1
	事後学修	レポートの修正【2 時間】
第13回	事前学修	レポート下書き作成【2 時間】
	授業内容	レポートの検討 2
	事後学修	レポートの修正【2 時間】
第14	事前学修	レポート下書き作成【2 時間】
	授業内容	レポートの検討 3

回	事後学修	レポートの修正【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	授業全体について考えをまとめる【2 時間】 まとめ 授業全体の復習【2 時間】

【成績評価の方法】
平常点（発表、ディスカッション）50%　期末レポート 50%

【フィードバック】
レポート評価については口頭で伝える。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考書】
随時紹介する。

【履修上の注意等】
主体的に取り組むこと。

授業科目名：ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ社会論基礎論(1)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：高山　啓子	521335／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題とそれらに対する研究方法を理解し、ジェンダーをめぐる具体的な問題を分析できるようになる。

【授業の概要(目的)】
テキスト（『ジェンダーで学ぶ社会学』）を読み、ジェンダーに関わる社会現象を分析するさまざまな社会理論の研究アプローチと方法を理解する。発表とディスカッションを行う。

【ディプロマ・ポリシー番号】1・2・3

【授業計画】

第1回	事前学修	ジェンダー概念について調べる【2 時間】
	授業内容	授業概要、ジェンダー概念
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第2回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	子どもの社会化とジェンダー
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第3回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	ことばが開く新しい社会
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第4回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	恋愛を〈救う〉ために
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第5回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	労働におけるジェンダー格差
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第6回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	現実が変える「家族」
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第7回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	共同生活とジェンダー役割
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第8回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	男らしさの快楽とそのゆくえ
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第9回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	移りゆくジェンダー観のはざまで
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第10回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	ファッションと社会
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第11回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	友人関係とジェンダー
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第12回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	戦争・軍隊とフェミニズム
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第13回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	グローバリゼーションがもたらす新しい世界
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第14	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	ケアはジェンダーから自由になれるか

回	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	授業全体について考えをまとめる【2 時間】 まとめ 授業全体の復習【2 時間】

【成績評価の方法】
平常点（発表、ディスカッション）50%　期末レポート 50%

【フィードバック】
レポート課題の評価については口頭で伝える。

【テキスト】
伊藤公雄、牟田和恵『ジェンダーで学ぶ社会学＜全訂新版＞』世界思想社

【参考書】
随時紹介する。

【履修上の注意等】
テキスト発表とディスカッションを行うので、主体的に取り組むこと。

授業科目名：ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ社会論特論(1)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：高山　啓子	521337／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
ジェンダー概念とさまざまなジェンダー論を理解し、社会的に構築された性差と権力によるその形成の諸相を捉えることができる。

【授業の概要(目的)】
テキスト（『ジェンダー・トラブル』）を読み、ジェンダー概念とジェンダーの社会性について理解する。発表とディスカッションを行う。

【ディプロマ・ポリシー番号】1・2・3

【授業計画】

第1回	事前学修	ジェンダー概念について調べる【2 時間】
	授業内容	授業概要とジェンダー概念について
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第2回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	フェミニズムの主体としての「女」
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第3回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	〈セックス／ジェンダー／欲望〉の強制的秩序
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第4回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	ジェンダー――現代の論争の不毛な循環
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第5回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	アイデンティティ、セックス、実体の形而上学
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第6回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	言語、権力、置換戦略
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第7回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	構造主義の危うい交換
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第8回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	フロイトおよびジェンダーのメランコリー
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第9回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	ジェンダーの複合性、同一化の限界
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第10回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	権力としての禁止の再考
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第11回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	ジュリア・クリステヴァの身体の政治
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第12回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	フーコー、エルキュリーヌ、セックスの不連続の政治
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第13回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	モニク・ウィティッグ――身体の解体と架空のセックス
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第14	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	身体への書き込み、パフォーマティヴな攪乱

回	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	授業全体について考えをまとめる【2 時間】 まとめ 授業全体の復習【2 時間】

【成績評価の方法】
平常点（発表、ディスカッション）50%　期末レポート 50%

【フィードバック】
レポート評価については口頭で伝える。

【テキスト】
ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル　新装版』青土社

【参考書】
随時紹介する。

【履修上の注意等】
テキスト発表とディスカッションを行うので、主体的に取り組むこと。

授業科目名： ﾒﾃﾞｨｱ研究Ⅲ(1)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：高山　啓子	521242／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
社会におけるメディアと情報のあり方および変化とそれにともなう社会の変化、人間のコミュニケーションの変化について理解する。

【授業の概要(目的)】
テキスト（W.J.オング『声の文化と文字の文化』）を読み、メディアの変化と社会、人間のコミュニケーションの変化について理解する。発表とディスカッションを行う。

【ディプロマ・ポリシー番号】1・2・3

【授業計画】

第1回	事前学修	メディアと情報概念について調べる【2 時間】
	授業内容	授業概要とメディア・情報概念について
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第2回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	声としてのことば
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第3回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	近代における一次的な声の文化の発見
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第4回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	声の文化の心理的力学
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第5回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	ことばに支えられた生活様式
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第6回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	書くことは意識の構造を変える
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第7回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	記憶から書かれた記録へ
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第8回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	印刷、 空間、 閉じられたテクスト
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第9回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	活字以後 ――エレクトロニクス
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第10回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	声の文化に特有な記憶
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第11回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	物語と声の文化
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第12回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	ニュー・クリティシズムとフォルマリズム
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第13回	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	言語行為説と読者反応説
	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第14	事前学修	テキスト該当箇所のレジュメ作成と予習【2 時間】
	授業内容	「メディア」 対人間的なコミュニケーション

回	事後学修	授業内容の復習【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	授業全体について考えをまとめる【2 時間】 まとめ 授業全体の復習【2 時間】

【成績評価の方法】
平常点（発表、ディスカッション）50%　期末レポート 50%

【フィードバック】
レポート課題の評価については口頭で伝える。

【テキスト】
W.J.オング『声の文化と文字の文化』藤原書店

【参考書】
随時紹介する。

【履修上の注意等】
テキスト発表とディスカッションを行うので、主体的に取り組むこと。

授業科目名： 比較日本文化研究Ⅱ(1)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：千野　裕子	521123／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
『狭衣物語』の本文研究の状況を理解し、自らの考えを持つことができる。
本文研究の方法を身につけ、口頭発表や論文の執筆ができるようになる。

【授業の概要(目的)】
『狭衣物語』は複雑な諸本状況を抱える作品です。代表的ないくつかの諸本を比較することで、それぞれの個性を分析するとともに、本文研究の方法を身につけていきましょう。

【ディプロマ・ポリシー番号】２

【授業計画】

第1回	事前学修	『狭衣物語』について調べる。【2 時間】
	授業内容	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ：この授業の進め方について
	事後学修	今日のﾉｰﾄをまとめなおす。【2 時間】
第2回	事前学修	『狭衣物語』を読み進める。【2 時間】
	授業内容	『狭衣物語』概説
	事後学修	授業をふまえて『狭衣物語』を精読する。【2 時間】
第3回	事前学修	『狭衣物語』の諸本について調べる。【2 時間】
	授業内容	『狭衣物語』の諸本について
	事後学修	今日のﾉｰﾄをまとめなおす。【2 時間】
第4回	事前学修	配布された論文を読んでくる。【2時間】
	授業内容	『狭衣物語』の本文系統に関する論文の紹介①中田剛直の伝本整理
	事後学修	今日のﾉｰﾄをまとめなおす。【2 時間】
第5回	事前学修	配布された論文を読んでくる。【2時間】
	授業内容	『狭衣物語』の本文系統に関する論文の紹介②三谷榮一の伝本整理
	事後学修	今日のﾉｰﾄをまとめなおす。【2 時間】
第6回	事前学修	配布された論文を読んでくる。【2時間】
	授業内容	『狭衣物語』の本文系統に関する論文の紹介③近年の研究状況
	事後学修	今日のﾉｰﾄをまとめなおす。【2 時間】
第7回	事前学修	校本の凡例を確認して使い方を理解する。【2時間】
	授業内容	発表の進め方と順番の決定
	事後学修	今日のﾉｰﾄをまとめなおす。【2 時間】
第8回	事前学修	今日扱う箇所の本文を読み、自分の意見をまとめる。【2時間】
	授業内容	教員による発表のﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ
	事後学修	今日の発表に関して考えたことをﾉｰﾄにまとめる。【2 時間】
第9回	事前学修	今日扱う箇所の本文を読み、自分の意見をまとめる。【2時間】
	授業内容	受講生の発表①深川本について
	事後学修	今日の発表に関して考えたことをﾉｰﾄにまとめる。【2 時間】
第10回	事前学修	今日扱う箇所の本文を読み、自分の意見をまとめる。【2時間】
	授業内容	受講生の発表②内閣文庫本について
	事後学修	今日の発表に関して考えたことをﾉｰﾄにまとめる。【2 時間】
第11回	事前学修	今日扱う箇所の本文を読み、自分の意見をまとめる。【2時間】
	授業内容	受講生の発表③為家本について
	事後学修	今日の発表に関して考えたことをﾉｰﾄにまとめる。【2 時間】
第12回	事前学修	今日扱う箇所の本文を読み、自分の意見をまとめる。【2時間】
	授業内容	受講生の発表④三条西家本について
	事後学修	今日の発表に関して考えたことをﾉｰﾄにまとめる。【2 時間】
第13回	事前学修	今日扱う箇所の本文を読み、自分の意見をまとめる。【2時間】
	授業内容	受講生の発表⑤元和古活字本について
	事後学修	今日の発表に関して考えたことをﾉｰﾄにまとめる。【2 時間】
第14回	事前学修	今日扱う箇所の本文を読み、自分の意見をまとめる。【2 時間】
	授業内容	受講生の発表⑥承応版本について
	事後学修	今日の発表に関して考えたことをﾉｰﾄにまとめる。【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	半期の授業を総復習し、期末ﾚﾎﾟｰﾄを執筆する。【2 時間】 ﾚﾎﾟｰﾄの提出と半期のまとめ 今日のﾉｰﾄをまとめなおす。【2 時間】

【成績評価の方法】
平常点30% 口頭発表30% ﾚﾎﾟｰﾄ40%

【フィードバック】
ﾚﾎﾟｰﾄはｺﾒﾝﾄをつけて返却する。

【テキスト】
ﾌﾟﾘﾝﾄを配布する。

【参考書】
適宜指示する。

【履修上の注意等】
他の受講生の発表に関しては積極的に質問･発言をすること。

授業科目名： ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究Ⅰ(1)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：辻　明日香	521134／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
西アジアの歴史と文化に関する知識を身につける。

【授業の概要(目的)】本講義では、中東のキリスト教徒が歩んだ歴史、とりわけイスラーム文明との歴史的関わりを概観する。ユーラシア大陸の重層的で豊潤なキリスト教文化／イスラーム文化と、彼らの現状に関する理解を深めることを目標とする。

【ディプロマ・ポリシー番号】1

【授業計画】

第1回	事前学修	西アジア史に関する自分の知識を整理する　[2 時間]
	授業内容	イントロダクション
	事後学修	授業で提示された文献を収集する　[2 時間]
第2回	事前学修	初期イスラーム史の知識を整理する　[2 時間]
	授業内容	イスラーム支配下のキリスト教徒
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする
第3回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	アラブの征服活動とキリスト教徒
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第4回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	ウマイヤ朝下のキリスト教徒
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第5回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	アッバース朝下のキリスト教徒
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第6回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	改宗の進展と各教会の反応
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第7回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	アッバース朝下の翻訳活動:科学
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第8回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	アッバース朝下の翻訳活動：哲学
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第9回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	十字軍時代の西アジア
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第10回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	モンゴルの支配とキリスト教徒
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第11回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	ヨーロッパとの交流
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第12回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	オスマン朝下のキリスト教徒
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第13回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	アラブナショナリズムとキリスト教徒
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第14	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	現代におけるディアスポラ

回	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	今までの講義の復習をする　[2 時間] 総括 レポートの準備をする　[2 時間]

【成績評価の方法】
レポート　100%
【フィードバック】
レポートを評価のうえ、返却します

【テキスト】
各回に指示します

【参考書】
各回に指示します

【履修上の注意等】
日本語文献の少ない分野であるため、英語やフランス語で文献を読めることが望ましい。

授業科目名： ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ文化研究演習Ⅱ(1)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：辻　明日香	521140／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
歴史資料の読解を通して資料批判の方法を身につける。

【授業の概要(目的)】
マムルーク期エジプトに関する史料（年代記、旅行記など）を原典（アラビア語）と英語訳・フランス語訳と併せて読みながら、歴史資料としての活用方法やマムルーク朝史の諸問題について検討する。

【ディプロマ・ポリシー番号】2

【授業計画】

第1回	事前学修	マムルーク朝に関する知識を整理する　[2 時間]
	授業内容	イントロダクション
	事後学修	授業で提示された文献を収集する　[2 時間]
第2回	事前学修	史料の読解をする　[2 時間]
	授業内容	年代記
	事後学修	史料読解の復習をする　[2 時間]
第3回	事前学修	史料の読解をする　[2 時間]
	授業内容	年代記
	事後学修	史料読解の復習をする　[2 時間]
第4回	事前学修	史料の読解をする　[2 時間]
	授業内容	年代記
	事後学修	史料読解の復習をする　[2 時間]
第5回	事前学修	史料の読解をする　[2 時間]
	授業内容	年代記
	事後学修	史料読解の復習をする　[2 時間]
第6回	事前学修	史料の読解をする　[2 時間]
	授業内容	旅行記
	事後学修	史料読解の復習をする　[2 時間]
第7回	事前学修	史料の読解をする　[2 時間]
	授業内容	旅行記
	事後学修	史料読解の復習をする　[2 時間]
第8回	事前学修	史料の読解をする　[2 時間]
	授業内容	旅行記
	事後学修	史料読解の復習をする　[2 時間]
第9回	事前学修	史料の読解をする　[2 時間]
	授業内容	旅行記
	事後学修	史料読解の復習をする　[2 時間]
第10回	事前学修	史料の読解をする　[2 時間]
	授業内容	旅行記
	事後学修	史料読解の復習をする　[2 時間]
第11回	事前学修	史料の読解をする　[2 時間]
	授業内容	人名録
	事後学修	史料読解の復習をする　[2 時間]
第12回	事前学修	史料の読解をする　[2 時間]
	授業内容	人名録
	事後学修	史料読解の復習をする　[2 時間]
第13回	事前学修	史料の読解をする　[2 時間]
	授業内容	人名録
	事後学修	史料読解の復習をする　[2 時間]
第14	事前学修	史料の読解をする　[2 時間]
	授業内容	人名録

回	事後学修	史料読解の復習をする　[2 時間]
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	いままでの演習の復習をする [2 時間] 総括 レポートを作成する　[６時間]

【成績評価の方法】
各回の予習、演習時の質疑応答など、平常点：50%
レポート：50%

【フィードバック】
各回指導する

【テキスト】
演習時に配布します

【参考書】
適宜指示します

【履修上の注意等】
アラビア語初習者に配慮するが、難しい言語であることは念頭に置いておくことがのぞましい。

授業科目名： ﾕｰﾗｼｱ文化論(1)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：辻　明日香	521424／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
イスラーム史の研究や史料の扱いに関する知識を身につける
イスラーム史と自らの研究分野の課題を比較することで、自らの問題意識を深化させる

【授業の概要(目的)】
イスラーム史の各時代における研究状況や研究課題について概観する

【ディプロマ・ポリシー番号】1

【授業計画】

第1回	事前学修	イスラーム史に関する知識を整理する　[2 時間]
	授業内容	イントロダクション
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第2回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	イスラーム史の史料の状況
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第3回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	イスラーム史における史料の扱い方(1)：年代記史料
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第4回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	イスラーム史における史料の扱い方(2)：文学作品
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第5回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	イスラーム史における史料の扱い方(3)：非文献資料
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第6回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	初期イスラーム史の諸問題
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第7回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	アッバース朝革命史
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第8回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	年代記編纂の歴史(1)：タバリー
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第9回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	年代記編纂の歴史 (2) ：タバリー以降
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第10回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	地方政権とアッバース朝
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第11回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	セルジューク朝における国家と宗教
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第12回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	マムルーク朝の財政政策
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第13回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	イスラーム政権下のウラマー
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]
第14回	事前学修	講義の内容の予習をする　[2 時間]
	授業内容	イスラーム政権下の女性
	事後学修	文献を収集し、授業の内容の復習をする　[2 時間]

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	今までの講義の復習をし、疑問点を整理する　[2 時間] 総括 レポートの準備をする　[3 時間]

【成績評価の方法】
各回の予習、演習時の質疑応答など、平常点：50%
レポート：50%

【フィードバック】
レポートは評価のうえ返却します

【テキスト】
授業時に配布します

【参考書】
R.S. Humphreys, *Islamic History: A Framework for Inquiry*, revised edition, Princeton, NJ: Princeton University Press, 1991.

【履修上の注意等】
英文の読解に慣れていることが望ましい

授業科目名： 比較日本文化研究Ⅲ(1)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：長崎　靖子	521126／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
日本語の歴史を辿る上で、必要な資料を知り、それを活用できる。

【授業の概要(目的)】
中世末から近世の口語資料を取り上げ、これらの資料から日本語の語彙･文法･文字等の変遷を読み取る方法を学ぶ。

【ディプロマ・ポリシー番号】 1

【授業計画】

第1回	事前学修	中世末から近世前期の口語資料について調べておく。【2 時間】
	授業内容	日本語の歴史を学ぶとは
	事後学修	配付したﾌﾟﾘﾝﾄを復習する。【2 時間】
第2回	事前学修	紹介した資料を調べておく。【2 時間】
	授業内容	中世末の言語資料(天草版平家物語)
	事後学修	配付したﾌﾟﾘﾝﾄを復習する。【2 時間】
第3回	事前学修	紹介した資料の内容を調べておく。【2 時間】
	授業内容	中世末の言語資料 天草版平家物語
	事後学修	配付したﾌﾟﾘﾝﾄを復習する。【2 時間】
第4回	事前学修	紹介した資料を調べておく。【2 時間】
	授業内容	中世末の言語資料 天草版伊曽保物語
	事後学修	配付したﾌﾟﾘﾝﾄを復習する。【2 時間】
第5回	事前学修	紹介した資料を調べておく。【2 時間】
	授業内容	中世末の言語資料 日本大文典･日葡辞書
	事後学修	配付したﾌﾟﾘﾝﾄを復習する。【2 時間】
第6回	事前学修	紹介した資料を調べておく。【2 時間】
	授業内容	近世の言語資料 雑兵物語(東国語の語彙)
	事後学修	配付したﾌﾟﾘﾝﾄを復習する。【2 時間】
第7回	事前学修	紹介した資料を調べておく。【2 時間】
	授業内容	近世の言語資料 雑兵物語(東国語の文法)
	事後学修	配付したﾌﾟﾘﾝﾄを復習する。【2 時間】
第8回	事前学修	紹介した資料を調べておく。【2 時間】
	授業内容	近世の言語資料 噺本(上方語と東国語)
	事後学修	配付したﾌﾟﾘﾝﾄを復習する。【2 時間】
第9回	事前学修	紹介した資料を調べておく。【2 時間】
	授業内容	近世の言語資料 噺本(上方語から江戸語へ)
	事後学修	配付したﾌﾟﾘﾝﾄを復習する。【2 時間】
第10回	事前学修	紹介した資料を調べておく。【2 時間】
	授業内容	近世の言語資料 洒落本(上方語)
	事後学修	配付したﾌﾟﾘﾝﾄを復習する。【2 時間】
第11回	事前学修	紹介した資料を調べておく。【2 時間】
	授業内容	近世の言語資料 洒落本(江戸語)
	事後学修	配付したﾌﾟﾘﾝﾄを復習する。【2 時間】
第12回	事前学修	紹介した資料を調べておく。【2 時間】
	授業内容	近世の言語資料 方言辞書(庄内浜荻他)
	事後学修	配付したﾌﾟﾘﾝﾄを復習する。【2 時間】
第13回	事前学修	紹介した資料を調べておく。【2 時間】
	授業内容	近世の言語資料 方言辞書(物類称呼)
	事後学修	配付したﾌﾟﾘﾝﾄを復習する。【2 時間】
第14回	事前学修	紹介した資料を調べておく。【2 時間】
	授業内容	近世の言語資料 歌舞伎台帳(男伊達初買曽我他)
	事後学修	配付したﾌﾟﾘﾝﾄを復習する。【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	紹介した資料を調べておく。【2 時間】 中世末から近世の言語資料のまとめ 授業で学んだことをもとに言語資料に関するﾚﾎﾟｰﾄをまとめておく。【2 時間】

【成績評価の方法】
平常点 30%　課題提出 40%　学期末レポート 30%

【フィードバック】
レポートは採点後返却する。

【ﾃｷｽﾄ】
授業時に指示。

【参考書】
授業時に指示。

【履修上の注意等】
調査課題を出すことが多いので、自ら様々な問題に取り組む意欲的な人を望む。

授業科目名： 比較日本文化研究演習Ⅲ(１)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：長崎　靖子	521132／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
日本語の言語資料(ｺｰﾊﾟｽ)を使い、調査分析を行い、それを発表することができる。

【授業の概要(目的)】
江戸時代の言語資料(主に江戸語の資料)を取り上げ、当時の口語の様相を探る。江戸後期の滑稽本、人情本を取り上げ、標準語の前身となる言語についての知識を学ぶ。

【ディプロマ・ポリシー番号】１、２

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	江戸語の資料について調べておく。【2 時間】 江戸時代の言語資料について 配付したﾌﾟﾘﾝﾄを復習する。【2 時間】
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	言語資料の扱い方に関し注意事項を読んでおく。【2 時間】 言語資料の扱い方 配付したﾌﾟﾘﾝﾄを復習する。【2 時間】
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	電子化されたｺｰﾊﾟｽの種類を調べておく。【2 時間】 電子化されたｺｰﾊﾟｽの利用と注意事項(少納言･中納言･青空文庫等) 配付したﾌﾟﾘﾝﾄを復習する。【2 時間】
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	語彙の調査発表例として指定した資料を読んでおく。【2 時間】 調査発表例の紹介(語彙) 資料から、個々に選んだ語彙について調査を進める。【2 時間】
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	資料から、個々に選んだ語彙について調査を進める。【2 時間】 調査発表(語彙) 発表で指摘された問題点を修正する。【2 時間】
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	文法の調査発表例として指定した資料を読んでおく。【2 時間】 調査発表例の紹介(文法) 資料から、個々に選んだ文法事項について調査を進める。【2 時間】
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	資料から、個々に選んだ文法事項について調査を進める。【2 時間】 調査発表(文法) 発表で指摘された問題点を修正する。【2 時間】
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	表記の調査発表例として指定した資料を読んでおく。【2 時間】 調査発表例の紹介(表記) 資料から、個々に選んだ表記事項について調査を進める。【2 時間】
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	資料から、個々に選んだ表記事項について調査を進める。【2 時間】 調査発表(表記) 発表で指摘された問題点を修正する。【2 時間】
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	言語変化の歴史的研究の例として指定した論文を読んでおく。【2 時間】 言語変化の歴史的研究の論文の要約と解説 個々に選んだ論文を読み解き、要約する。【2 時間】
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	個々に選んだ論文を読み解き、要約する。【2 時間】 言語の歴史的変化に関わる論文の読み解きの発表 発表で指摘された問題点を修正する。【2 時間】
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	同時代の語彙の比較に関する例として指定した論文を読んでおく。【2 時間】 同時代の語彙の比較に関する論文の要約と解説 個々に選んだ論文を読み解き、要約する。【2 時間】
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	個々に選んだ論文を読み解き、要約する。【2 時間】 同時代の語彙の比較に関する論文の読み解き 発表で指摘された問題点を修正する。【2 時間】
第 14 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾚﾎﾟｰﾄとしてまとめる題材を考えておく。【2 時間】 ﾚﾎﾟｰﾄ例を紹介 ﾚﾎﾟｰﾄをまとめる準備をする。【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	ﾚﾎﾟｰﾄをまとめる準備をする。【2 時間】 授業の総括とまとめ ﾚﾎﾟｰﾄをまとめる。【2 時間】

【成績評価の方法】
平常点（発表含む）70%　レポート 30%

【フィードバック】
レポートは採点後返却。

【ﾃｷｽﾄ】
授業時に指示

【参考書】
授業時に指示

【履修上の注意等】
発表の課題に関し、意欲的に取り組む人を望む。

授業科目名： 比較教育学（1）	専攻･領域：比較文化専攻
担当教員名：中園　有希	521234／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
①コンピテンシー・ベースのカリキュラムの特徴や系譜について理解する。
②現代ドイツの学校教育改革について、カリキュラムの側面から理解する。

【授業の概要(目的)】
本授業では、世界的に広がりつつあるコンピテンシー・ベースのカリキュラムについて、ドイツの事例を中心にその影響の検討を行う。2000 年以降のドイツのカリキュラムや教科書を参照しつつ考察を進める。

【ディプロマ・ポリシー番号】１、２

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	シラバスを熟読し、授業の内容について事前に理解を深める。【2 時間】 授業の概要説明と内容の導入 配布資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2 時間】
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	コンピテンシーの定義について調べてくる。【2 時間】 コンピテンシーの定義 配布資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2 時間】
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	キーコンピテンシーについて定義や特徴を調べてくる。【2 時間】 キーコンピテンシーとは何か 配布資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2 時間】
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定文献を読み、ポイントをまとめる【2 時間】 コンピテンシー・ベースのカリキュラム① 定義 配布資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2 時間】
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定文献を読み、ポイントをまとめる【2 時間】 コンピテンシー・ベースのカリキュラム② アメリカおよび日本の事例 配布資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2 時間】
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定文献を読み、ポイントをまとめる。【2 時間】 コンピテンシー・ベースのカリキュラム③ 教育スタンダード 配布資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2 時間】
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定文献を読み、ポイントをまとめる。【2 時間】 ドイツの教育と PISA ショック① PISA とドイツ 配布資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2 時間】
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定文献を読み、ポイントをまとめる。【2 時間】 ドイツの教育と PISA ショック② 教育改革の概要 配布資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2 時間】
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定文献を読み、ポイントをまとめる【2 時間】 ドイツの教育と PISA ショック③ 教育スタンダード（国語） 配布資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2 時間】
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定文献を読み、ポイントをまとめる【2 時間】 ドイツの教育と PISA ショック④ 教育スタンダード（算数・数学） 配布資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2 時間】
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定文献を読み、ポイントをまとめる【2 時間】 教科書の変化① 国語 配布資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2 時間】
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定文献を読み、ポイントをまとめる【2 時間】 教科書の変化② 算数・数学 配布資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2 時間】
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定文献を読み、ポイントをまとめる【2 時間】 コンピテンシー・ベースのカリキュラムによる包摂と排除① 包摂 配布資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2 時間】
第 14 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定文献を読み、ポイントをまとめる【2 時間】 コンピテンシー・ベースのカリキュラムによる包摂と排除② 排除 配布資料を読み返し、授業内容を振り返る。【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	今までの配布資料を読み返し、授業全体を振り返る。【2 時間】 授業全体のまとめと全体の振り返り 授業全体を再度振り返り、期末レポートの作成につなげていく。【2 時間】

【成績評価の方法】
発表及びコメントペーパー　50%
期末レポート　50%

【フィードバック】
授業における担当箇所の発表についてはその場でフィードバックを行う。レポートは添削の上返却する。

【テキスト】
特になし。

【参考書】
授業中に適宜指示する。

【履修上の注意等】
特になし。

授業科目名： 比較教育学演習（1）	専攻･領域：比較文化専攻
担当教員名：中園　有希	521236／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
①日本とドイツの歴史教育及び歴史教科書の特徴や歴史的変遷を理解する。
②国際歴史教科書対話の意義と課題について事例の検討を通して考察する。

【授業の概要(目的)】
本授業では、日本とドイツの歴史教育と歴史教科書を具体的に比較した後、両国が第二次世界大戦後に様々な次元で遂行してきた国際歴史教科書対話について各事例の特徴に注目しつつ現代的意義と課題を考察する。

【ディプロマ・ポリシー番号】１、２

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	シラバスを熟読し、演習の概要について理解を深める。【2 時間】 授業の概要の説明と内容の導入 指定された文献を読み、ポイントをまとめる。【2 時間】
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定された文献について、要約とコメントを発表する準備を行う。【2 時間】 日本の歴史教育の特徴① カリキュラムの歴史的変遷 指定された文献を読み、ポイントをまとめる。【2 時間】
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定された文献について、要約とコメントを発表する準備を行う。【2 時間】 日本の歴史教育の特徴② 現代的課題 指定された文献を読み、ポイントをまとめる。【2 時間】
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定された文献について、要約とコメントを発表する準備を行う。【2 時間】 日本の歴史教科書の変遷① 叙述内容の変遷 指定された文献を読み、ポイントをまとめる。【2 時間】
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定された文献について、要約とコメントを発表する準備を行う。【2 時間】 日本の歴史教科書の変遷② 教育学的・教授学的特徴 指定された文献を読み、ポイントをまとめる。【2 時間】
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定された文献について、要約とコメントを発表する準備を行う。【2 時間】 ドイツの歴史教育の特徴① カリキュラムの歴史的変遷 指定された文献を読み、ポイントをまとめる。【2 時間】
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定された文献について、要約とコメントを発表する準備を行う。【2 時間】 ドイツの歴史教育の特徴② 現代的課題 指定された文献を読み、ポイントをまとめる。【2 時間】
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定された文献について、要約とコメントを発表する準備を行う。【2 時間】 ドイツの歴史教科書の変遷① 叙述内容の変遷 指定された文献を読み、ポイントをまとめる。【2 時間】
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定された文献について、要約とコメントを発表する準備を行う。【2 時間】 ドイツの歴史教科書の変遷② 教育学的・教授学的特徴 指定された文献を読み、ポイントをまとめる。【2 時間】
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定された文献について、要約とコメントを発表する準備を行う。【2 時間】 国際歴史教科書対話①：国際歴史教科書対話とは何か 指定された文献を読み、ポイントをまとめる。【2 時間】
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定された文献について、要約とコメントを発表する準備を行う。【2 時間】 国際歴史教科書対話②：ドイツ・ポーランド 指定された文献を読み、ポイントをまとめる。【2 時間】
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定された文献について、要約とコメントを発表する準備を行う。【2 時間】 国際歴史教科書対話③：ドイツ・フランス 指定された文献を読み、ポイントをまとめる。【2 時間】
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定された文献について、要約とコメントを発表する準備を行う。【2 時間】 国際歴史教科書対話④：日本・中国 指定された文献を読み、ポイントをまとめる。【2 時間】
第 14 回	事前学修 授業内容 事後学修	指定された文献について、要約とコメントを発表する準備を行う。【2 時間】 国際歴史教科書対話⑤：日本・韓国 指定された文献を読み、ポイントをまとめる。【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	今までの配布資料やレジュメを読み返し、演習を振り返る。【2 時間】 授業内容のまとめと全体の振り返り 演習全体を再度振り返り、期末レポートの作成につなげる。【2 時間】

【成績評価の方法】
個人発表　50%
期末レポート　50%

【フィードバック】
授業における担当箇所の発表についてはその場でフィードバックを行う。レポートは添削の上返却する。

【テキスト】
特になし。

【参考書】
授業中に適宜指示する。

【履修上の注意等】
特になし

授業科目名：資料講読演習Ⅱ(1)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：西川　誠	521427／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
近代政治史の史料が読める。
明治期の史料が読め、解説できる。

【授業の概要(目的)】
歴史研究において、基礎をなす史料読解能力の養成を行う

【ディプロマ・ポリシー番号】　２

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	史料を読み下し、報告の準備をする。【2 時間】 孝明天皇紀　嘉永四年 読み下し方を見直し、また史料から読み取れる情報を確認する。【2 時間】
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	史料を読み下し、報告の準備をする。【2 時間】 孝明天皇紀　嘉永五年 読み下し方を見直し、また史料から読み取れる情報を確認する。【2 時間】
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	史料を読み下し、報告の準備をする。【2 時間】 孝明天皇紀　嘉永六年上半期 読み下し方を見直し、また史料から読み取れる情報を確認する。【2 時間】
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	史料を読み下し、報告の準備をする。【2 時間】 孝明天皇紀　嘉永六年下半期 読み下し方を見直し、また史料から読み取れる情報を確認する。【2 時間】
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	史料を読み下し、報告の準備をする。【2 時間】 孝明天皇紀　安政元年正月～３月 読み下し方を見直し、また史料から読み取れる情報を確認する。【2 時間】
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	史料を読み下し、報告の準備をする。【2 時間】 孝明天皇紀　安政元年４月～７月 読み下し方を見直し、また史料から読み取れる情報を確認する。【2 時間】
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	史料を読み下し、報告の準備をする。【2 時間】 孝明天皇紀　安政元年閏７月～１０月 読み下し方を見直し、また史料から読み取れる情報を確認する。【2 時間】
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	史料を読み下し、報告の準備をする。【2 時間】 孝明天皇紀　安政元年１１月～１２月明治６年の木戸孝允宛井上馨書簡 読み下し方を見直し、また史料から読み取れる情報を確認する。【2 時間】
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	史料を読み下し、報告の準備をする。【2 時間】 孝明天皇紀　安政二年正月～３月 読み下し方を見直し、また史料から読み取れる情報を確認する。【2 時間】
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	史料を読み下し、報告の準備をする。【2 時間】 孝明天皇紀　安政二年４月～７月 読み下し方を見直し、また史料から読み取れる情報を確認する。【2 時間】
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	史料を読み下し、報告の準備をする。【2 時間】 孝明天皇紀　安政二年７月～９月 読み下し方を見直し、また史料から読み取れる情報を確認する。【2 時間】
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	史料を読み下し、報告の準備をする。【2 時間】 孝明天皇紀　安政二年１０月～１２月 読み下し方を見直し、また史料から読み取れる情報を確認する。【2 時間】
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	史料を読み下し、報告の準備をする。【2 時間】 孝明天皇紀　安政三年正月～４月 読み下し方を見直し、また史料から読み取れる情報を確認する。【2 時間】
第 14 回	事前学修 授業内容 事後学修	史料を読み下し、報告の準備をする。【2 時間】 孝明天皇紀　安政三年五月～八月 読み下し方を見直し、また史料から読み取れる情報を確認する。【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	史料を読み下し、報告の準備をする。【2 時間】 孝明天皇紀　安政三年九月～一二月 読み下し方を見直し、また史料から読み取れる情報を確認する。【2 時間】

【成績評価の方法】
授業の準備３０％、報告の完成度４０％、議論への参加度３０％を総合した平常点。

【フィードバック】
報告レジメに改善点を朱書して返却する。

【テキスト】
プリントで配布する。

【参考書】
『くずし字解読辞典』は準備して下さい。他は講義中に指示します。

【履修上の注意等】
特になし。

授業科目名：比較日本文化研究演習Ⅱ(1)	専攻・領域：比較文化・地域
担当教員名：西川　誠	521129／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
日本近代政治史の基本問題について概括的に説明できる。
幕末維新期の政治変動について説明できる。

【授業の概要(目的)】
日本における近代化・西欧化について、政治的分野において、幕末維新期を対象として考察する。

【ディプロマ・ポリシー番号】１・２

【授業計画】

第1回	事前学修	ﾃｷｽﾄ 1 の第 1 章から第 3 章まで読み、考察する。【2 時間】
	授業内容	日本近世社会の政治的特質
	事後学修	講義中に示す論文を読み理解を深める。【2 時間】
第2回	事前学修	ﾃｷｽﾄ 2 の第 5 章を読み、考察する。【2 時間】
	授業内容	朝議の復興運動
	事後学修	講義中に示す論文を読み理解を深める。【2 時間】
第3回	事前学修	ﾃｷｽﾄ 2 の第 3 章を読む。【2 時間】
	授業内容	攘夷論の形成
	事後学修	講義中に示す論文を読み理解を深める。【2 時間】
第4回	事前学修	テキスト 1 の第 5 章、第 6 章を読み、考察する。【2 時間】
	授業内容	鎖国と海防
	事後学修	講義中に示す論文を読み理解を深める。【2 時間】
第5回	事前学修	テキスト 2 の第 8 章から第 10 章を読み、考察する。【2 時間】
	授業内容	ﾍﾟﾘｰ来航と阿部政権
	事後学修	講義中に示す論文を読み理解を深める。【2 時間】
第6回	事前学修	テキスト 2 の第 13 章、テキスト 1 の第 7 章を読み、考察する。【2 時間】
	授業内容	条約勅許問題
	事後学修	講義中に示す論文を読み理解を深める。【2 時間】
第7回	事前学修	テキスト 2 の第 14 章、第 15 章を読み、考察する。【2 時間】
	授業内容	朝幕の対立
	事後学修	講義中に示す論文を読み理解を深める。【2 時間】
第8回	事前学修	テキスト 2 の第 6 章、第 11 章、第 16 章、第 17 章、第 20 章を読み、考察する。【3 時間】
	授業内容	長州藩と尊攘派
	事後学修	テキスト 1 の第 7 章を再読し、考察する。【1 時間】
第9回	事前学修	テキスト 2 の第 18 章、第 22 章から第 26 章を読み、考察する。【3 時間】
	授業内容	薩摩藩と一会桑政権
	事後学修	テキスト 1 の第 7 章を再読し、考察する。【1 時間】
第10回	事前学修	テキスト 2 の第 27 章から第 29 章を読み、考察する。【3 時間】
	授業内容	王政復古
	事後学修	小レポートを作成する。【1 時間】
第11回	事前学修	テキスト 1 の第 10 章を読み、考察する。【2 時間】
	授業内容	維新政権と公議
	事後学修	講義中に示す論文を読み理解を深める。【2 時間】
第12回	事前学修	テキスト 2 の第 36 章から第 38 章を読み、考察する。【2 時間】
	授業内容	維新政権の政治的対立
	事後学修	講義中に示す論文を読み理解を深める。【2 時間】
第13回	事前学修	テキスト 2 の第 40 章を読み、考察する。【2 時間】
	授業内容	維新官僚と集権化構想
	事後学修	講義中に示す論文を読み理解を深める。【2 時間】
第14回	事前学修	テキスト 2 の第 41 章を読み、考察する。【2 時間】
	授業内容	廃藩置県の政治過程
	事後学修	講義中に示す論文を読み理解を深める。【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまでの講義を概観し、論点・疑問点をまとめる。【3 時間】 維新の変動について討議 事前学修を充実させる。【1 時間】

【成績評価の方法】
平常点 30%　レポート 30%　試験 40%

【フィードバック】
レポート・試験は採点の上返却する。

【テキスト】
1 宮地正人『幕末維新変革史』上下

【参考書】
1 西川誠『明治天皇の大日本帝国』
ほかは講義中に指摘する。

【履修上の注意等】
特になし。

授業科目名： ｲｷﾞﾘｽ･ｱﾒﾘｶ文化研究Ⅲ(２)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：菱田　信彦	521152／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
英語の概説書を読める程度の読解力を身につけ、イギリスの歴史や文化・社会について理解し、自分の意見を述べる力を養う。

【授業の概要(目的)】
イギリスの文化､およびその背景となる歴史や社会構造について概観し､イギリス文化の特色をよく表すと思われる文学作品や映画等をとりあげて分析を加える。

【ディプロマ・ポリシー番号】１

【授業計画】

第1回	事前学修	英国の社会や文化についてインターネット等を利用して調べておく。【2 時間】
	授業内容	Introduction: What is British culture?
	事後学修	講義ノートもとに授業の復讐をする。【2 時間】
第2回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Religion (1)
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第3回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Religion (2)
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第4回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Education (1)
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第5回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Education (2)
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第6回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	The economy and everyday life
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第7回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	The media
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第8回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Transport
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第9回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Welfare
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第10回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Housing
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第11回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Food and drink
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第12回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Sport and competition
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第13回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	The arts
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第14	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Holidays and special occasions

回	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	ここまでの授業内容をまとめる。【2 時間】 Review of the course レポートの準備をする。【2 時間】

【成績評価の方法】
平常点(授業中の発表、課題等) 50%
期末レポート 50%

【フィードバック】
発表、課題等については授業内で講評を加える。

【テキスト】
James O'Driscoll. *Britain Pack (with Workbook): An up-to-date guide to Britain*. Oxford: Oxford UP, 2009.

【参考書】
必要に応じてハンドアウトを配布する。

【履修上の注意等】
主として英文資料の講読になるので、準備を十分にし、授業に英和・英英辞典を持参すること。

授業科目名： ﾌｪﾐﾆｽﾞﾑ批評Ⅱ(2)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：菱田　信彦	521348／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
英語の概説書を読める程度の読解力を身につけ、feminism や feminist criticism について理解し、自分の意見を述べる力を養う。

【授業の概要(目的)】
女性参政権運動から現代までの feminism の歴史、および feminist criticism の理論と実践を概観しつつ、関連する文学作品、映画などについて分析を加える。

【ディプロマ・ポリシー番号】１、３

【授業計画】

第1回	事前学修	feminism についてインターネット等を利用して調べておく。【2 時間】
	授業内容	Introduction: What is feminist criticism?
	事後学修	講義ノートもとに授業の復讐をする。【2 時間】
第2回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Fighting for the vote: suffragists
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第3回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Fighting for the vote: suffragettes
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第4回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Early 20th-century feminism
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第5回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Second-wave feminism: the late 20th century
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第6回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Feminists across the world
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第7回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	The Construction of gender (1)
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第8回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	The Construction of gender (2)
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第9回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Writing as a woman (1)
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第10回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Writing as a woman (2)
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第11回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Identities in process (1)
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第12回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Identities in process (2)
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第13回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	A return to women in history (1)
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第14	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	A return to women in history (2)

回	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	ここまでの授業内容をまとめる。【2 時間】 Review of the course レポートの準備をする。【2 時間】

【成績評価の方法】
平常点(授業中の発表、課題等) 50%
期末レポート 50%

【フィードバック】
発表、課題等は授業内で講評する。

【テキスト】
Margaret Walters. *Feminism: A Very Short Introduction*. Oxford; Oxford UP, 2006.

【参考書】
Pam Morris. *Literature and Feminism: An Introduction*. Oxford: Blackwell, 1993.
必要に応じてﾊﾝﾄﾞｱｳﾄを配布する。

【履修上の注意等】
主として英文資料の講読になるので、準備を十分にし、授業に英和・英英辞典を持参すること。

授業科目名： 比較文化論特論(1)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：菱田　信彦	521224／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
英語の概説書を読める程度の読解力を身につけ、現代のグローバル社会の問題を理解し、自分の意見を述べる力を養う。

【授業の概要(目的)】
現代のグローバル社会におけるさまざまな問題を概観し、それらを比較文化研究の視点から分析する。

【ディプロマ・ポリシー番号】2

【授業計画】

第1回	事前学修	グローバル社会の問題についてインターネット等を利用して調べる。【2 時間】
	授業内容	Introduction: What are cross-cultural studies?
	事後学修	講義ノートもとに授業の復讐をする。【2 時間】
第2回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Chapter 1: *Purdah*
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第3回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Chapter 2: Female Circumcision
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第4回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Chapter 3: International Aid
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第5回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Chapter 4: Population Growth
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第6回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Chapter 5: Heritage Languages
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第7回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Chapter 6: Body Image
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第8回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Chapter 7: Same-Sex Marriage
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第9回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Chapter 8: Social Media
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第10回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Chapter 9: Global Nomads
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第11回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Chapter 10: Food Security
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第12回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Chapter 11: Ethnic Conflicts
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第13回	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Chapter 12: Human Migration
	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第14	事前学修	テキストの指定された範囲を読んでおく。【2 時間】
	授業内容	Chapter 13: Global Conflicts

回	事後学修	講義ノートを整理し、テキストを参照して必要なことを付記する。【2 時間】
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	ここまでの授業内容をまとめる。【2 時間】 Review of the course レポートの準備をする。【2 時間】

【成績評価の方法】
平常点(授業中の発表、課題等) 50%
期末レポート 50%

【フィードバック】
発表、課題等については授業内で講評する。

【テキスト】
Shirley A. Fedorak. *Global Issues: A Cross-Cultural Perspective*. Ontario: University of Toronto Press, 2014.

【参考書】
必要に応じてハンドアウトを配布する。

【履修上の注意等】
主として英文資料の講読になるので、準備を十分にし、授業に英和・英英辞典を持参すること。

授業科目名： 資料購読演習Ⅶ(１)	専攻･領域：比較文化
担当教員名：藤原　昌樹	521439／半期／選必／2 単位／演習

【到達目標】
剣道(術)に関するさまざまな伝書の講読から，武道における「道」とは何かを自分のことばで説明できる。

【授業の概要(目的)】
武道における「道」の探求をテーマに，剣道(術)に関するさまざまな伝書を講読する。

【ディプロマ・ポリシー番号】１，２

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	「武術」が「武道」へと発展する過程を調べる。【2 時間】 『風姿花伝』を読む⑴「守･破･離」の理解 授業を振り返り，課題をまとめる。【2 時間】
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	配付資料を読解するとともに，報告の準備をする。【3 時間】 『風姿花伝』を読む⑵「道」の理解 授業を振り返り，課題をまとめる。【1 時間】
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	配付資料を読解するとともに，報告の準備をする。【3 時間】 『不動智神妙録』を読む⑴無明住地煩悩 授業を振り返り，課題をまとめる。【1 時間】
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	配付資料を読解するとともに，報告の準備をする。【3 時間】 『不動智神妙録』を読む⑵諸仏不動智 授業を振り返り，課題をまとめる。【1 時間】
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	配付資料を読解するとともに，報告の準備をする。【3 時間】 『兵法家伝書』を読む⑴殺人刀 授業を振り返り，課題をまとめる。【1 時間】
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	配付資料を読解するとともに，報告の準備をする。【3 時間】 『兵法家伝書』を読む⑵活人剣 授業を振り返り，課題をまとめる。【1 時間】
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	配付資料を読解するとともに，報告の準備をする。【3 時間】 『五輪書』を読む⑴地之巻 授業を振り返り，課題をまとめる。【1 時間】
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	配付資料を読解するとともに，報告の準備をする。【3 時間】 『五輪書』を読む⑵空之巻 授業を振り返り，課題をまとめる。【1 時間】
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	配付資料を読解するとともに，報告の準備をする。【3 時間】 『一刀斎先生剣法書』を読む 授業を振り返り，課題をまとめる。【1 時間】
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	配付資料を読解するとともに，報告の準備をする。【3 時間】 『猫之妙術』を読む 授業を振り返り，課題をまとめる。【1 時間】
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	配付資料を読解するとともに，報告の準備をする。【3 時間】 『天狗藝術論』を読む 授業を振り返り，課題をまとめる。【1 時間】
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	配付資料を読解するとともに，報告の準備をする。【3 時間】 『剣術諸流評論』を読む 授業を振り返り，課題をまとめる。【1 時間】
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	配付資料を読解するとともに，報告の準備をする。【3 時間】 『初学須知』を読む 授業を振り返り，課題をまとめる。【2 時間】
第 14 回	事前学修 授業内容 事後学修	配付資料を読解するとともに，報告の準備をする。【3 時間】 『免兵法之記』を読む 授業を振り返り，課題をまとめる。【1 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまでの授業内容を整理する。【2 時間】 「道」を考える すべての授業内容をまとめる。【2 時間】

【成績評価の方法】
平常点(授業中の発表，課題等)50%，期末レポート 50%

【フィードバック】
提出された課題およびレポートは，コメントを入れて返却する。

【テキスト】
なし。
毎時間，資料とレジュメを配付する。

【参考書】
授業のなかで随時紹介する。

【履修上の注意等】
特になし。

授業科目名： 地域活動研究	専攻･領域：比較文化
担当教員名：藤原　昌樹	521264／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
地域で活動することの意義を理解したうえで，地域活動の実践者として，その活動や組織の健全な発展に貢献することができる。

【授業の概要(目的)】
地域活動や NPO･NGO について，それぞれの理解と現状を把握しながら，活動事例をとおして今日的課題を明らかにし，その解決方策を検討する。

【ディプロマ・ポリシー番号】１，３

【授業計画】

第 1 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域活動とは何かを調べる。【2 時間】 地域と地域活動の理解 授業を振り返り，課題をまとめる。【2 時間】
第 2 回	事前学修 授業内容 事後学修	市民活動団体について調べる。【2 時間】 地域活動の現状 授業を振り返り，課題をまとめる。【2 時間】
第 3 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域の地縁関係の活動事例を調べる。【2 時間】 地域活動の活動事例⑴地縁関係の事例 授業を振り返り，課題をまとめる。【2 時間】
第 4 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域の環境問題に関する活動事例を調べる。【2 時間】 地域活動の活動事例⑵環境問題に関する事例 授業を振り返り，課題をまとめる。【2 時間】
第 5 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域の子育て支援に関する活動事例を調べる。【2 時間】 地域活動の活動事例⑶子育て支援に関する活動 授業を振り返り，課題をまとめる。【2 時間】
第 6 回	事前学修 授業内容 事後学修	地域活動を支える制度にはどのようなものがあるか調べる。【2 時間】 地域活動を支える制度 授業を振り返り，課題をまとめる。【2 時間】
第 7 回	事前学修 授業内容 事後学修	NPO について調べる。【2 時間】 NPO の理解 授業を振り返り，課題をまとめる。【2 時間】
第 8 回	事前学修 授業内容 事後学修	NPO 団体へのフィールドワーク。【2 時間】 NPO の活動事例 授業を振り返り，課題をまとめる。【2 時間】
第 9 回	事前学修 授業内容 事後学修	NGO について調べる。【2 時間】 NGO の理解 授業を振り返り，課題をまとめる。【2 時間】
第 10 回	事前学修 授業内容 事後学修	NGO 団体へのフィールドワーク。【2 時間】 NGO の活動事例 授業を振り返り，課題をまとめる。【2 時間】
第 11 回	事前学修 授業内容 事後学修	配付された各団体の約款を読む。【2 時間】 地域活動(NPO･NGO)のマネジメント 授業を振り返り，課題をまとめる。【2 時間】
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	各団体の年間活動計画を調べる。【2 時間】 地域活動の課題⑴組織の運営 授業を振り返り，課題をまとめる。【2 時間】
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	市民活動団体へのフィールドワーク。【2 時間】 地域活動の課題⑵課題の把握 授業を振り返り，課題をまとめる。【2 時間】
第 14 回	事前学修 授業内容 事後学修	課題の解決方策を考える。【2 時間】 地域活動の課題⑶解決方策の検討 授業を振り返り，課題をまとめる。【2 時間】

第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	これまでの授業内容を整理する。【2 時間】 授業のまとめと今後の地域活動の方向性 すべての授業内容をまとめる。【2 時間】

【成績評価の方法】
平常点(授業中の発表，課題等)50%，期末レポート 50%

【フィードバック】
提出された課題およびレポートは，コメントを入れて返却する。

【テキスト】
なし。
必要に応じてレジュメを配付し，印刷資料，映像資料も使用する。

【参考書】
授業のなかで随時紹介する。

【履修上の注意等】
市民活動団体や NPO･NGO へのフィールドワークを行う。

授業科目名： 比較言語研究Ⅰ(1)	専攻･領域：社会・文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
担当教員名：松本　修	521252／半期／選必／2 単位／講義

【到達目標】
・第二言語習得研究、外国語教育研究における基本的な概念を説明することができる。
・第二言語習得研究、外国語教育研究の分野における研究事例の結果を英語教育・指導に取り入れ、実践することができる。

【授業の概要(目的)】
・第二言語習得研究、外国語教育研究を概観する。
・第二言語習得研究、外国語教育研究の最新の研究事例、研究手法について学ぶ。

【ディプロマ・ポリシー番号】DP:3

【授業計画】

第1回	事前学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 1 章の精読（2 時間）
	授業内容	ガイダンス：授業内容、評価方法、課題等の説明 『はじめての第二言語習得論講義』第 1 章：第二言語習得研究とは何か
	事後学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 1 章の通読および基本用語の確認（2 時間）
第2回	事前学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 2 章および配布プリントの精読（2 時間）
	授業内容	『はじめての第二言語習得論講義』第 2 章：なぜ人は言語を習得するのか(1)－チョムスキーの言語習得理論
	事後学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 2 章の通読および基本用語の確認（2 時間）
第3回	事前学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 2 章および配布プリントの精読（2 時間）
	授業内容	『はじめての第二言語習得論講義』第 2 章：なぜ人は言語を習得するのか(2)－トマセロの言語習得理論
	事後学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 2 章の通読および基本用語の確認（2 時間）
第4回	事前学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 3 章および配布プリントの精読（2 時間）
	授業内容	『はじめての第二言語習得論講義』第 3 章：母語は第二言語習得にどのように影響を与えるのか
	事後学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 3 章の通読および基本用語の確認（2 時間）
第5回	事前学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 4 章および配布プリントの精読（2 時間）
	授業内容	『はじめての第二言語習得論講義』第 4 章：第二言語習得研究はどのように始まったのか
	事後学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 4 章の通読および基本用語の確認（2 時間）
第6回	事前学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 5 章および配布プリントの精読（2 時間）
	授業内容	『はじめての第二言語習得論講義』第 5 章：第二言語学習についての 2 つの見方(1)－認知的アプローチ
	事後学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 5 章の通読および基本用語の確認：(2 時間)
第7回	事前学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 5 章および配布プリントの精読（2 時間）
	授業内容	『はじめての第二言語習得論講義』第 5 章：第二言語学習についての 2 つの見方(2)－社会的アプローチ
	事後学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 5 章の通読および基本用語の確認（2 時間）
第8回	事前学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 6 章および配布プリントの精読（2 時間）
	授業内容	『はじめての第二言語習得論講義』第 6 章：第二言語習得研究と外国語教育
	事後学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 6 章の通読および基本用語の確認（2 時間）
第9回	事前学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 7 章および配布プリントの精読（2 時間）
	授業内容	『はじめての第二言語習得論講義』第 7 章：どのような人が第二言語学習に向いているのか
	事後学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 7 章の通読および基本用語の確認（2 時間）
第10回	事前学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 8 章および配布プリントの精読（2 時間）
	授業内容	『はじめての第二言語習得論講義』第 8 章：どうやればやる気を持ち続けることができるのか
	事後学修	『はじめての第二言語習得論講義』第 8 章の通読および基本用語の確認（2 時間）
第11回	事前学修	『英語指導法－理論と実践』第 5 章の精読（2 時間）
	授業内容	『英語指導法－理論と実践』第 5 章：文法の指導
	事後学修	

		『英語指導法－理論と実践』第 5 章の精読および基本用語の確認（2 時間）
第 12 回	事前学修 授業内容 事後学修	『英語指導法－理論と実践』第 6 章の精読（2 時間） 『英語指導法－理論と実践』第 6 章：語彙の指導 『英語指導法－理論と実践』第 6 章の精読および基本用語の確認（2 時間）
第 13 回	事前学修 授業内容 事後学修	『英語指導法－理論と実践』第 7、8 章の精読（2 時間） 『英語指導法－理論と実践』第 7、8 章：リスニング、スピーキングの指導 『英語指導法－理論と実践』第 7、8 章の精読および基本用語の確認（2 時間）
第 14 回	事前学修 授業内容 事後学修	『英語指導法－理論と実践』第 9、10 章の精読（2 時間） 『英語指導法－理論と実践』第 9、10 章：リーディング、ライティングの指導 『英語指導法－理論と実践』第 9、10 章の精読および基本用語の確認（2 時間）
第 15 回	事前学修 授業内容 事後学修	『英語指導法－理論と実践』第 11 章の精読（2 時間） 『英語指導法－理論と実践』第 11 章：テスティングと評価 『英語指導法－理論と実践』第 11 章の精読および基本用語の確認（2 時間）

【成績評価の方法】
「レポート 40%」「発表課題 40%」「平常点 20%」

【フィードバック】
提出物はコメントを付して返却する。

【テキスト】
『はじめての第二言語習得論講義』　馬場今日子/新多 了 大修館書店
『英語指導法－理論と実践』 赤松　信彦　英宝社

【参考書】
『英語教員のための応用言語学』　大喜多善夫　昭和堂、

【履修上の注意等】
授業内で配布される資料、プリント等は必ずファイリングし、毎回授業に持参すること。

４．比　較　文　化　専　攻
（博士後期課程）

比較文化専攻（博士後期課程）の概要

比較文化専攻（博士後期課程）は、比較文化領域の研究者・教育者の養成を第一の目的とするとともに、すでに修士号を取得して国際機関等で活動している人々に、これらの機関のオフィサーとして、諸外国のリーダーと伍して活動しうる人材の養成を目的としている。

本研究科を修了して博士の学位を取得するには、3年以上在学し、14単位以上を履修し、必要な研究指導を受けたうえ、学位請求論文の審査および最終試験に合格しなければならない。
ただし特に優れた研究業績をあげた者は、１年以上３年未満の在学をもって修了することができる。
本研究科における教育研究指導は次のように行われる。

①本研究科に入学した者は、自分の研究テーマに基づき、主たる研究指導教員（以下、指導主任教員）１名を選び、その指導主任教員のもとで研究テーマの細目を決定する。
②研究科生は、入学時に提出した「研究計画書」をもとに「長期研究計画書」（年次計画書）を作成し、入学年度の４月に指導主任教員に提出する。
③研究科生は、指導主任教員ならびに他の教員らの指導・助言を得ながら、統合的な視点から研究活動を進め、年２回の研究成果報告会で研究成果等を口頭で発表する。
④1年次後期開始時に、第１回研究成果報告会での報告を踏まえ、博士論文構想を指導主任教員に提出する。
研究テーマ、執筆構想、年次計画等A4(40字×40行、約3000字)
⑤研究科生は、研究成果を『川村学園女子大学大学院研究年報』（以下、『研究年報』）に1編以上掲載する。さらに、学会誌等の査読付の学術専門誌に2編以上の論文を掲載する。
⑥研究科生は、『研究年報』掲載論文1編以上と2編以上の学術誌掲載論文をもって学位請求論文提出資格審査を、研究科長に任命された教員によって構成される資格審査委員会に請求する。
⑦資格審査委員会によって学位請求論文提出資格ありと認定された場合には、博士論文を提出期限（１月）までに提出する。
⑧提出された学位請求論文は、指導主任教員ならびに研究科長に任命された他領域の教員によって構成される論文審査委員会によって審査される。
⑨最終試験は審査委員会による口述試験とする。

比較文化専攻（博士後期課程）　開講科目

分野	授業科目名	単位	期間	年次	必選	備　　考
地域文化研究	日本文化専門研究演習Ⅰ	2	通年	1・2・3	選必	４科目８単位以上 博士論文指導６単位 計１４単位以上修得し、 かつ必要な論文を提出し、 その審査及び試験に合格すること
	日本文化専門研究演習Ⅱ	2	通年	1・2・3	選必	
	ｱｼﾞｱ文化専門研究演習Ⅰ	2	通年	1・2・3	選必	
	ｱｼﾞｱ文化専門研究演習Ⅱ	2	通年	1・2・3	選必	
	欧米文化専門研究演習Ⅰ	2	通年	1・2・3	選必	
	欧米文化専門研究演習Ⅱ	2	通年	1・2・3	選必	
	地理学専門研究演習Ⅰ	2	通年	1・2・3	選必	
	地理学専門研究演習Ⅱ	2	通年	1・2・3	選必	
社会・文化コミュニケーション	比較文化専門研究演習Ⅰ	2	通年	1・2・3	選必	
	比較文化専門研究演習Ⅱ	2	通年	1・2・3	選必	
	比較教育学専門研究演習	2	通年	1・2・3	選必	
女性学	女性学専門研究演習Ⅰ	2	通年	1・2・3	選必	
	女性学専門研究演習Ⅱ	2	通年	1・2・3	選必	
博士論文指導		6	通年	1～3	必修	

研究指導の流れ

項　目	第１年次		第２年次		第３年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
研究計画	提出・検討・指導					
専門研究演習	○	○	○	○		
補完・関連分野演習	○					
文献等のアサインメント	○	○	○	○	○	
調査実施指導	○	○	○	○	○	
研究報告	３回	３回	３回	３回		
学位論文の執筆		論文計画 （目次・章）	論文執筆 （前半）		論文執筆 （後半）	改訂 補正
学位論文中間報告				中間報告	中間報告	
学位論文審査					予備審査	口述試験 本審査

１．川村学園女子大学大学院学則

第１章 総 則

第１節　目 的

第１条　川村学園女子大学大学院（以下「本大学院」という。）は、教育基本法、学校教育法及び川村学園創立の精神に則り、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、精深な学識と研究能力を養うことによって、広く文化の向上進展に寄与することを目的とする。

2　前各項の目的のため、学長を教学上の責任者とし、教育課程の編成に関する全学的な方針の策定を目的として学長の下に教学マネジメント会議を置く。

3　教学マネジメント会議については、別に定める。

4　本大学院は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

第２節　組 織

第２条　本大学院に人文科学研究科（修士課程、博士前期課程及び博士後期課程）を置く。

2　前項の研究科に置く専攻及びその学生定員は次のとおりとする。

人文科学研究科

心理学専攻（修士課程）	入学定員 10名	収容定員 20名
教育学専攻（修士課程）	入学定員 5名	収容定員 10名
比較文化専攻（博士前期課程）	入学定員 5名	収容定員 10名
比較文化専攻（博士後期課程）	入学定員 3名	収容定員 9名

3　博士課程は、前期課程と後期課程に区分し、前期課程を修士課程として取り扱うものとする。

第２条の2　専攻ごとの人材養成の目的は、別表Ⅶのとおりとする。

第３節　教 員 組 織

第３条　本大学院の教員組織は、学部等の教員をもって構成する。

2　本大学院の授業は、教授、准教授、又は講師が担当するものとする。

3　本大学院における学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）は、教授が担当するものとし、研究科において必要と認めるときは、当該研究科の定めるところにより、准教授が担当し、又は講師に分担させることができる。

第４節　研究科長及び運営組織

第４条　本大学院人文科学研究科に研究科長を置く。

2　研究科長は、当該研究科に関する事項を掌理する。

第５条　（削除）

第６条　本大学院に、重要事項を審議するため、人文科学研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）を置く。

2　研究科委員会は、学長、副学長、研究科長、学部長、附属図書館長及び大学院担当専任教員をもって組織する。ただし、学長は研究科委員会の運営として必要と認めた場合は、他の教職員を研究科委員会に出席させることができる。

3　学長は、研究科委員会を招集し、副学長がその議長となる。ただし副学長に事故あるとき、又は欠けたときは、学長が指名した者がその職務を代行する。

4　研究科委員会は、次の事項を審議し学長に意見を述べるものとする。

(1) 大学院生の入学及び修了に関する事項

(2) 学位授与に関する事項

(3) 前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

5　研究科委員会は、前項に規定するもののほか、学長及び研究科長その他の研究科員会が置かれる組織の長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

第５節　学年、学期及び休業日

第７条　学年は、 4月 1日に始まり、翌年 3月31日に終わる。

第８条　学年を次の 2学期に分ける。

前学期　4月 1日から9月15日まで

後学期　9月16日から3月31日まで

2　授業時間数確保のため必要がある場合には、学長は、前項における授業開始日を変更することができる。

第９条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に定める休日

(3) 学園創立記念日 4月12日

(4) 夏期休業 7月28日から 9月15日まで

(5) 冬期休業 12月21日から 1月10日まで

(6) 春期休業 3月23日から 3月31日まで

2　必要がある場合は、前項の休業日に実習等の授業を行うことができる。

3　必要がある場合は、学長は、第１項の休業日を臨時に変更することができる。

4　第 1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第２章 大 学 院 通 則

第１節　標準修業年限及び在学期間

第10条　修士課程の標準修業年限は、 2年とする。

2　博士課程は、これを前期 2年、後期 3年の課程に区分する。

第11条　修士課程及び博士前期課程の学生は、4年を超えて在学することはできない。

2　博士後期課程の学生は、 6年を超えて在学することはできない。

3　前 2 項の規定にかかわらず、第16条又は、第17条の規定により入学した学生は、第18条により定められた在学すべき年数の 2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第２節　入 学

第12条　入学の時期は、学年の始めとする。

2　前項の規定にかかわらず、特別の必要があり、かつ、教育上支障がないときは、学期の始めとすることができる。

第13条　本大学院に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

修士課程及び博士前期課程

(1) 大学を卒業した者

(2) 大学評価・学位授与機構により学士の学位を授与された者

(3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者

(4) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者

(5) 文部科学大臣の指定した者

(6) その他大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したもの

博士後期課程

(1) 修士の学位を有する者
(2) 専門職学位を有する者
(3) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
(4) 文部科学大臣の指定した者
(5) その他本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの

第14条　本大学院へ入学を志願する者は、入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて願い出なければならない。
2　納付した入学検定料は返付しない。

第15条　前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

第16条　前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、保証人連署の誓約保証書その他必要な入学書類に、所定の学費を添えて手続きしなければならない。
2　学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

第17条　博士の学位を授与したときは、本学は、授与した日から 3か月以内に、論文内容の要旨及び審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

第18条　博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から 1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。
ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りではない。
2　前項の規定に係わらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、研究科委員会の了承を受けて、当該博士の学位に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、研究科委員会は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
3　博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、研究科委員会の了承を受けて、インターネットの利用により行うものとする。

第19条　前 2条の規定により、入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、学長が決定する。

第20条　保証人は、独立して生計をたてている身元確実な成年者で、本大学院において適当と認めた者とする。
2　保証人は、学生に係わる一切の事項について責任を負わなければならない。
3　保証人が死亡又は辞任したときは、これにかわる者を保証人とし、すみやかに変更届を提出しなければならない。
4　保証人に改姓、改名、転籍、転居及び改印があったときは、すみやかに届け出なければならない。

第３節 教育課程及び履修方法等

第21条　本大学院の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行う。

第22条　授業科目、その単位数及び履修方法については、別表Ｉのとおりとする。

第23条　各授業科目の単位数は、 1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本大学院が定める時間の授業をもって1単位とする。
(2) 実習については、30時間から45時間までの範囲で本大学院が定める時間の授業をもって1単位とする。

(3)一の授業科目について、講義、演習又は実習のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ､前2号に規定する基準を考慮して本大学院が定める時間の授業をもって1単位とする。

2　前項の規定にかかわらず、学位論文の作成に関する特別研究等の授業科目を設定する場合において、これらの学修の成果を評価して単位を与えることが適切と認められるときは､別に単位数を定めることができる。

第24条　一年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

第25条　授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を授与する。ただし、第23条第 2項に規定する授業科目については、適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えることができる。

第26条　授業科目の試験の成績は、AA(100点～90点）、A(89点～80点）、B(79点～70点）、C(69点～60点）、D(59点～0点）の５段階をもって表示し、AA、A、B、C を合格とする。

第27条 本大学院において教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、学生が当該大学院の授業科目を履修することを認めることができる。

2　前項の規定により修得した単位は、10単位を超えない範囲で、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3　第 1項の規定により他の大学院において授業科目を履修した期間は、本大学院の在学期間に算入する。

4　他の大学院における授業科目の履修に関し必要な事項は、研究科委員会において定める。

第27条の2 教育職員免許状及び資格取得を目的とし、教育上有益と認めるときは、本学学部において開設している科目を履修することができる。ただし、教育職員免許状及び資格取得に関する履修費等については、学部学生と同様に納付するものとする。

2　前項の規定により修得した単位は、10単位を超えない範囲で、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3　教育職員免許状及び資格取得の取扱いに関し必要な事項は、研究科委員会において定める。

第28条　本大学院において教育上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等（以下「他大学院等」という。）との協議に基づき、学生が他大学院等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。

2　前項の規定により他大学院等における研究指導を認めるときには、修士課程及び博士前期課程の学生が当該研究指導を受ける期間は、 1年を超えないものとする。

3　第 1 項の規定により他大学院等において必要な研究指導を受けた期間は、本大学院の在学期間に算入する。

4　他大学院等における研究指導に関し必要な事項は、学長が定める。

第29条　本大学院において教育上有益と認めるときは、学生が入学前に大学院（外国の大学院を含む。）において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本大学院における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

2　前項の規定により修得した単位数は、本大学院において修得した単位以外のものについては、10単位を超えないものとする。

3　入学前の既修得単位の取扱いに関し必要な事項は、研究科委員会において定める。

第30条　教育上特別の必要があると認められる場合には、研究科委員会において定めるところにより、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

第31条　修士課程及び博士前期課程の修了の要件は、当該課程に 2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた業績を上げたと認める者については、当該課程に 1年以上在学すれば足りるものとする。

2　前項の場合において、当該研究科が修士課程又は博士前期課程の目的に応じ適当と認めるときは、特定

の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

3　博士後期課程の修了の要件は、当該課程に 5年（修士課程又は博士前期課程に 2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における 2年以上の在学期間を含む。）以上在学し、14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた業績を上げたと認める者については、当該課程に 1年以上在学すれば足りるものとする。

第32条　本大学院は、修士論文及び博士論文の審査、最終試験等を行うため、研究科委員会で選出する 2人以上の教授（研究科委員会において必要と認めるときは、准教授をもって代えることができる。）及び研究指導を担当した教授又は准教授をもって組織する審査委員会を設ける。

2　研究科において必要と認めるときは、前項に定める審査委員会に研究指導を分担した講師を加えることができる。

3　最終試験は、研究科所定の単位を修得した者で、学位論文の審査を経た者について、学位論文を中心として、これに関連ある授業科目について行うものとする。

4　学位論文及び最終試験の合格又は不合格は、審査委員会の報告に基づいて研究科委員会において審査し、決定する。

第33条　前条の決定に基づき、学長が課程修了の認定を行う。

第34条　本大学院の課程を修了した者に対し、課程に応じ次の区分に従って学位を授与する。

人文科学研究科

心理学専攻（修士課程）　修士（心理学）

教育学専攻（修士課程）　修士（教育学）

比較文化専攻（博士前期課程）　修士（文学）

比較文化専攻（博士後期課程）　博士（文学）

第35条　教育職員免許状の資格取得を希望する者は、教育職員免許法及び同法施行規則に則り別表Ⅱのとおり修得するものとする。

2 本大学院において取得できる教育職員免許状は次表の通りとする。

専 攻	免許教科	免許状の種類
心理学専攻	公 民	高等学校教諭専修免許状
教育学専攻	－	小学校教諭専修免許状
比較文化専攻	英 語	中学校教諭専修免許状
		高等学校教諭専修免許状
	社 会	中学校教諭専修免許状
	地理歴史	高等学校教諭専修免許状

第４節 休学・転学・留学及び退学

第36条　疾病その他やむを得ない理由により、2 ヶ月以上修学することができない者は、保証人連署で休学願を提出し、学長の許可を得なければならない。

2　疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

第37条　休学期間は、 1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、 1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

2　休学期間は、通算して 2年を超えることができない。

3　休学期間は第 11条に定める在学年限に算入しない。

4　休学期間中は、在籍料として授業料の半額を納付しなければならない。

第38条　休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

第39条　他の大学院へ入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を得なければならない。

第40条　外国の大学院で学修することを志願する者は、保証人連署で留学願を提出し、学長の許可を得なければならない。
2　留学に関し必要な事項は、別に定める。

第41条　退学しようとする者は、保証人連署の退学願を提出し、学長の許可を受けなければならない。

第42条　次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。
(1) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
(2) 第10条に定める在学年限を超えた者
(3) 第36条 2項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
2　前項により除籍となった者は、原則として再入学を許可しない。

第５節 賞 罰

第43条　学生として表彰に価する行為があった者は、学長が表彰することができる。

第44条 本大学院の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、学長が懲戒する。
2　懲戒は、退学、停学及び訓告とする。
3　退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。
(1) 性行不良で改善の見込みのないと認められる者
(2) 学業を怠り、成業の見込みのないと認められる者
(3) 正当な理由がなくて出席常でない者
(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者
4　前項により退学となった者は、原則として再入学を許可しない。

第６節 聴講生、科目等履修生、研究生及び外国人留学生

第45条　本大学院において、特定の授業科目を受講しようとする者があるときは、研究科の教育に支障のない場合に限り、選考のうえ聴講生又は科目等履修生として入学を許可することがある。
2　聴講生又は科目等履修生の資格は、第12条に定める者とする。
3　聴講又は履修期間は、 1年間とする。
4　聴講生の聴講料は、別表Ⅳのとおりとし、科目等履修生の履修料は、別表Ｖのとおりとする。
5　科目等履修生は、単位修得証明書及び成績証明書を請求することができる。

第45条の２ 本大学院において、特定の専門事項について研究しようとする者があるときは、研究科の教育に支障がない場合に限り、選考のうえ研究生として入学を許可することがある。
2　研究生の研究料は別表Ⅵのとおりとする。
3　研究生に関し、必要な事項は別に定める。

第46条　学長は、第12条第 3号に定める入学資格を有する外国人で入学を志願する者については、選考のうえ許可することができる。

第７節 学 費

第47条　学費は、入学金、授業料、施設費、設備資金及び実験実習費等とし、別表Ⅲのとおりとする。
2　学費の徴収方法及び期日等については、別に定める。

第48条　納付した学費は返付しない。

第49条　在学中の学費について変更があった場合には、新たに定められた金額を納付するものとする。

第８節 改　廃

第50条　この学則の改廃は、学長が研究科委員会の意見を聴き、理事会の承認を得て行う。

第９節 雑 則

第51条　この学則に定めがあるもののほか、必要な事項は学長が定める。

附 則

この学則は、平成31年 4月 1日から施行し、平成31年度の入学を許可された者から適用する。

別表Ⅰ～Ⅵ　省略

別表Ⅶ　人材養成の目的

専攻	人材養成の目的
心理学専攻 （修士課程）	心理学諸領域における高度な知識に精通すると共に、専門的研究・臨床に従事でき得る技能を修得し、社会の場での指導的役割を担う、あるいは臨床・教育の場での実践的能力を発揮できる人材の養成を目的とする。
教育学専攻 （修士課程）	小学校教師としての使命と責任をもち、愛情をもって児童を理解し、21世紀を生き抜く力を育てる高度な教職専門性と教育実践力を備えた小学校教員の養成を目的とする。
比較文化専攻 （博士前期課程）	地域文化研究、社会・文化コミュニケーション、女性学の分野における、文化、社会、宗教、教育、言語、ジェンダーに関する高度な知識を横断的に身につけ、現代社会における諸問題解決に貢献できる人材の養成を目的とする。
比較文化専攻 （博士後期課程）	人文科学諸分野における研究者・教育者として高度な専門性を身につけ、各組織の中核的存在として活躍できる人材の養成を目的とする。

２．人文科学研究科委員会規程

第１条　川村学園女子大学大学院（ 以下「大学院」という。） に、人文科学研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）を置く。

第２条　研究科委員会は、学長、副学長、研究科長、学部長、附属図書館長及び大学院担当専任教員をもって組織する。

2　理事長及び学園長は、研究科委員会に出席して意見を述べることができる。

3　事務局長は、学長が必要と認めたときは、研究科委員会に出席して意見を述べることができる。

4　学長が特に必要と認めたときは、他の教職員を研究科委員会に出席させることができる。

第３条　研究科委員会は、学長が召集し、副学長がその議長となる。

2　副学長に事故あるとき、又は欠けたときは、学長が指名した者がその職務を代行する。

第４条　学長は、次の場合研究科委員会を召集する。

(1) 原則として、毎月１回の定例会議のとき

(2) 学長が必要と認めたとき

(3) 研究科委員会構成員の 3分の 1以上から要請があるとき

第５条　研究科委員会は、その構成員の 3分の 2以上の出席をもって成立する。

2　前項の定足数の算定には、休職者及び2か月以上の長期欠勤者を加えない。

第６条　研究科委員会は、次の事項を審議し、学長に意見を述べるものとする。

(1) 大学院生の入学及び修了に関する事項

(2) 学位授与に関する事項

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2　研究科委員会は、前項に規定するもののほか、学長及び研究科長その他の研究科委員会が置かれる組織の長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

第７条　研究科委員会の議事は、出席研究科委員会構成員の過半数の賛成をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第８条　研究科委員会に書記を置き、書記は議事録の作成及び保管に当たる。

2　研究科委員会の事務は、修学支援室がこれに当たる。

第９条　研究科委員会の諮問機関として、各種委員会を置くことができる。

2　各種委員会は、研究科委員会の諮問事項を審議する。

第10条　この規程の改廃は、学長が研究科委員会の意見を聴き、理事会の承認を得て行う。

附 則

この規程は、平成27年 4月 1日から施行する。

３．川村学園女子大学学位規程

第１条　この規程は、学位規則（昭和28年文部省令第 9号）第13条並びに川村学園女子大学学則第39条及び川村学園女子大学大学院学則第33条の規定に基づき、川村学園女子大学（以下「本学」という。）において授与する学位に関し必要な事項を定める。

第２条　本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。
2　学位を授与するに当たっては、専攻分野の名称を付記する。
3　学士に付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。
文 学
心理学
教育学
社会学
4　修士に付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。
文 学
心理学
教育学
5　博士に付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。
文 学

第３条　学士の学位の授与は、川村学園女子大学学則の規定により、本学学部を卒業した者に対し行う。

第４条　修士の学位の授与は、大学院学則の規定により、本大学院の修士課程又は博士前期課程を修了した者に対し行う。

第５条　博士の学位の授与は、大学院学則の規定により、本大学院の博士後期課程を修了した者に対し行う。
2　前項に規定するもののほか、博士の学位は、本大学院の博士後期課程を経ない者が、学位論文を提出して、その審査及び試験に合格し、かつ、専攻学術に関し、本大学院の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認（以下「学力の確認」という。）された場合には、授与することができる。
3　本大学院の博士後期課程に所定の年限以上在学し、所定の単位を修得して退学した者が、再入学しないで、博士の学位の授与を申請するときも、前項の規定を準用する。

第６条　修士及び博士の学位論文は、学長に提出しなければならない。
2　学位論文は、 1篇 3通とする。ただし、参考として、他の論文を添付することができる。
3　審査のため必要があるときは、関係資料を提出させることがある。

第７条　第 5条第 1項、第 2項及び第 3項に規定する者が博士の学位の授与を申請するときは、学位申請書に学位論文、論文要旨、論文目録、履歴書並びに所定の学位論文審査手数料を添えるものとする。学位論文審査手数料については別に定める。
2　学位論文の提出先、論文の部数等については、前条各項の規定を準用する。

第８条　受理した学位論文及び学位論文審査手数料は、返付しない。

第９条　学長は、学位論文を受理したときは、研究科委員会にその審査を付託する。
2　研究科委員会は、前項の審査を行うための審査委員会を設ける。

第10条　第 5条第 2項の規定による、博士の学位授与の申請があったときは、審査委員会は、当該申請者の学力の確認を行う。
2　学力の確認は、博士の学位論文に関連のある分野の科目及び外国語について、筆答又は口述の試問により行う。ただし、学位申請者の学歴、業績等に基づいて学力の確認を行いうる場合は、試問を行わないこ

とができる。

第11条　第 5条第 3項に規定する者が、退学後 3年以内に博士の学位論文を提出した場合には、学力の確認を行わないことができる。

第12条　修士の学位論文の審査及び最終試験は、在学期間中に行わなければならない。

2　博士の学位論文の審査、最終試験及び学力の確認は、次の各号に掲げる期間内に行わなければならない。

(1) 本大学院の博士後期課程修了予定者にあっては、当該年度末までとする。

(2) 第 5条第 2項及び第 3項に規定する者にあっては、学位論文を受理した日から 1年以内とする。

第13条　審査委員会は、学位論文の審査、最終試験及び学力の確認を終了したときは、直ちに、学位論文の内容の要旨、審査結果の要旨及び最終試験の結果の要旨に学位を授与できるか否かの意見を添えて、研究科委員会に文書で報告しなければならない。ただし、第 5条第 2項に規定する者については、学力の確認の結果の要旨も併せて添付する。

第14条　研究科委員会は、前条の報告に基づいて学位を授与すべきか否かについて審議する。

2　前項の審議には、研究科委員会構成員の 3分の 2以上が出席し、その 3分の 2以上の賛成があることを要する。ただし、長期出張中及び休職中の委員は委員の総数に算入しない。

第15条　研究科委員会が前条の審議をしたときは、副学長はその結果を文書で学長に報告しなければならない。

2　前項の場合において、博士の学位にあっては、学位論文の内容の要旨、審査の結果の要旨、最終試験の結果の要旨及び学力の確認の要旨を添付する。

第16条　学長は、前条の報告により、学位を授与すべきものと決定した者には学位を授与し、学位を授与できないと決定した者については、その旨を通知する。

第17条　学長は、博士の学位を授与したときは、授与した日から 3か月以内に、論文内容の要旨及び審査の結果の要旨を、インターネットの利用により公表する。

第18条　博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表しなければならない。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りではない。

2　前項の規定に係わらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、学長の承認を得て、当該博士の学位に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合、学長は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供する。

3　博士の学位を授与された者が行う前 2項の規定による公表は、学長の承認を得て、インターネットの利用により行わなければならない。

第19条　学位を授与された者は、学位の名称を用いるときは、学位に本学名を付記しなければならない。

第20条　本学において博士の学位授与をしたときは、学長は、学位簿に登録の上、当該学位を授与した日から 3か月以内に、所定の学位授与報告書を文部科学大臣に提出する。

第21条　学位を授与された者が、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、又はその名誉を汚辱する行為があったときは、学長は、学位の授与を取り消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表する。

第22条　学位記の様式は、別記様式１、２、３及び４のとおりとする。

第23条　この規程に定めがあるものを除くほか、必要な事項は学長が定める。

第24条　この規程の改廃は、教授会及び研究科委員会の意見を聴いて学長が行う。

附 則
この規程は、平成27年 4月 1日から施行する。

４．川村学園女子大学大学院修士論文審査及び最終試験取扱内規

第１条　修士論文（以下「論文」という。）の題目について、学生は指導教員の承認を得たうえ、論文提出の年度の5月末日までに、論文題目届を修学支援室に提出するものとする。

2　論文題目を変更するときは、指導教員の承認を得たうえ、速やかに論文題目変更届を修学支援室に提出するものとする。論文題目変更届の提出期限は、論文提出の年度の9月末日までとする。

第２条　論文の審査を受けようとする者は、論文審査の申請に先だち、論文中間報告として論文概要（400字程度）を修学支援室に提出するものとする。

2　論文概要の提出期限は、10月末日とする。

3　論文概要の提出があった者に対して、指導教員は、提出者にその説明を求め、あるいは論文説明会の日を定めて発表させることがある。

第３条　論文を提出するときは、論文１篇３通（正本１通・副本２通）及び論文審査申請書を修学支援室に提出する。

2　論文提出の日時は、学長が定める。

3　指定された日時に提出しない者の論文は、原則として受理しない。ただし、特別の理由があるときは、受理することがある。

4　論文審査のため必要があるときは、論文の訳文、その他関係資料を提出させることがある。

第４条　研究科委員会は、論文審査の申請があった論文について、指導教員を含めて3名以上の論文審査委員（以下「審査委員」という。）を選定する。

2　審査委員は、審査委員会を構成し、主査1名を定める。

第５条　審査委員会は、提出された論文について論文発表会を開催することがある。この場合論文発表者は、論文内容を説明し、出席者との間に質疑応答を行う。

第６条　審査委員会は、論文審査及び最終試験を行う。

2　審査委員会は、論文審査の結果、その内容が不適当と認めたときは、最終試験を行わないことがある。

3　論文及び最終試験の成績評価は、合格又は不合格の評価をもって表す。

第７条　審査委員会は、論文審査及び最終試験が終了したときは、審査及び試験の結果に、学位授与の可否についての意見を添えて、研究科委員会に文書で報告しなければならない。

第８条　研究科委員会は、審査委員会の報告に基づいて学位論文及び最終試験の合否の決定、並びに課程修了についての認定を行い、学位を授与できるか否かを審議する。

第９条　研究科委員会が前条の審議をしたときは、副学長は、その結果を文書をもって学長に報告しなければならない。

第10条　学長は、前条の報告に基づき、学位授与を決定する。

第11条　学長は、学位を授与すべき者には学位記を授与し、学位を授与できない者にはその旨を通知する。

第12条　論文審査等に要する書式の様式は、別表のとおりとする。

第13条　この内規の改廃は、研究科委員会の意見を聴いて学長が行う。

附 則

この内規は、平成27年4月１日から施行する。

５．川村学園女子大学大学院博士の学位審査に関する細則

（目的）

第１条　この細則は、川村学園女子大学学位規程（以下「学位規程」という。）に定めるもののほか、博士の学位審査に関する必要な事項を定める。

（学位論文審査の申請）

第２条　学位規程第 5条第 1項の規定に係わる学位論文の審査を受けようとする者は、指導教員の承認を得て、学位申請書に次の書類を添え、研究科長を経て学長に提出するものとする。

(1) 学位論文　1篇3部

(2) 論文要旨　3部

(3) 履歴書　3部

(4) 論文目録　3部

2　前項の学位申請書等の提出時期は、原則として毎年1月15日及び7月15日とする。

3　学位規程第 5条第 2項及び第 3項の規定に係わる学位論文の審査を申請する者についても、前 2項の規定を準用する。

（学位論文審査手数料）

第３条　学位規程第 5条第 1項及び第 3項に規定する学位論文審査手数料は、100,000円とする。

2　学位規程第 5条第 2項に規定する学位論文審査手数料は、150,000円とする。

（審査委員会）

第４条　学位規程第 9条第 1項の規定に基づき、学長は 3名以上の審査委員で組織する審査委員会を設けるものとする。

2　学長は、前項の審査委員のうちから、主査 １名及び副査 2名を指名する。

3　審査委員の任期は、当該審査委員会において論文審査の合格又は不合格が判定された日までとする。

（審査委員会の特例）

第５条　審査委員会は、論文審査の結果、その内容が著しく不適当と認めるときは、最終試験及び学力の確認を行わないことができる。この場合、審査委員会は、学位規程第13条の規定に係わらず、最終試験の結果の要旨及び学力確認の結果の要旨を添付することを要しないものとする。

（学位授与の議決）

第６条　学位規程第14条第 1項の規定による審議は、投票によるものとする。

（書類等の様式）

第７条　学位論文審査に関する書類の様式は、別に定める。

（改廃）

第８条　この細則の改廃は、研究科委員会の意見を聴いて学長が行う。

附 則

この細則は、平成27年 4月 1日から施行する。